

千提寺西遺跡

日奈戸遺跡

千提寺市阪遺跡

千提寺クルス山遺跡

茨木市

千 提 寺 西 遺 跡
日 奈 戸 遺 跡
千 提 寺 市 阪 遺 跡
千 提 寺 クルス山 遺 跡

—高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

二〇一五年六月

2015年6月

公益財団法人 大阪府文化財センター

公益財団法人
大阪府文化財センター

茨木市

千 提 寺 西 遺 跡
日 奈 戸 遺 跡
千 提 寺 市 阪 遺 跡
千提寺クルス山遺跡

—高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



1. 千提寺西遺跡 3区第1面 67 石組（東から）



2. 千提寺西遺跡 3区第1面 69 石組（南から）



3. 千提寺西遺跡 3区第2面土壙群（南西から）



4. 千提寺西遺跡 3区第2面長方形墓（キリストン墓）（北東から）



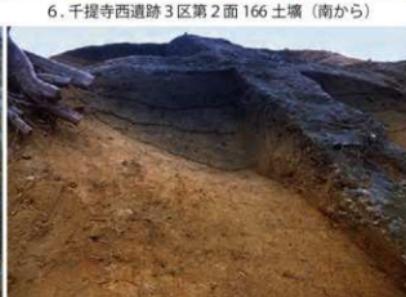
5. 千提寺西遺跡 3区第1面 166 石組（南から）



6. 千提寺西遺跡 3区第2面 166 土壙（南から）



7. 千提寺西遺跡 3区第2面 70 土壙羽釜内火葬骨（東から）



8. 千提寺西遺跡 3区第1・2面 22 土坑（火葬場）（南西から）



1. 千提寺西遺跡 5区 4 土壙（キリスト教墓）上部施設（東から）



2. 千提寺西遺跡 5区 4・5・6 土壙（キリスト教墓）（東から）



3. 千提寺西遺跡 5区 4 土壙（キリスト教墓）三次元合成写真



4. 千提寺西遺跡 5区 中央の墓域（南西から）



5. 千提寺西遺跡 5区 38 土壙木製品出土状況（北から）



6. 千提寺西遺跡 5区 38 土壙人骨出土状況（南から）



7. 千提寺西遺跡 5区 64 土壙彩色棺痕跡（南から）



8. 千提寺西遺跡 5区 64 土壙人骨出土状況（西から）



1. 千提寺西遺跡6区25土壤群（南西から）



2. 千提寺西遺跡6区20（上部）土壤人骨・遺物出土状況（北東から）



3. 千提寺西遺跡6区25土壤人骨出土状況（南西から）



4. 千提寺西遺跡6区36土壤板材出土状況（南東から）



5. 千提寺西遺跡6区36土壤人骨出土状況（北西から）



6. 千提寺西遺跡6区106土壤板材・人骨出土状況（北から）



7. 千提寺西遺跡6区1土坑（火葬場）（北から）



8. 千提寺西遺跡6区14土坑（火葬場）（東から）



1. 千提寺市阪遺跡 2区 土壌群（南東から）



2. 千提寺市阪遺跡 2区 58 土壌遺物出土状況（北から）



3. 千提寺市阪遺跡 2区 72 土壌遺物出土状況（南から）



4. 千提寺市阪遺跡 2区 64 土壌土人形出土状況（東から）



5. 千提寺クレス山遺跡 1区 土壌群（北から）



6. 千提寺クレス山遺跡 1区 14 土壌上部施設出土状況（東から）



7. 千提寺クレス山遺跡 1区 14 土壌完掘状況（東から）



8. 千提寺クレス山遺跡 1区 35・43 土壌重複状況（東から）



1. 千提寺西遺跡 3区 土壤出土遺物



2. 千提寺西遺跡 3区 22土坑(火葬場)出土遺物



3. 千提寺西遺跡 5区 土壤出土遺物



4. 千提寺西遺跡 5区 土壤出土土人形



5. 千提寺西遺跡 5区 38土壤出土遺物



6. 千提寺西遺跡 5区 38土壤出土天蓋?



7. 千提寺西遺跡 5区 87土壤出土遺物



8. 千提寺西遺跡 5区 87土壤出土ガラス玉

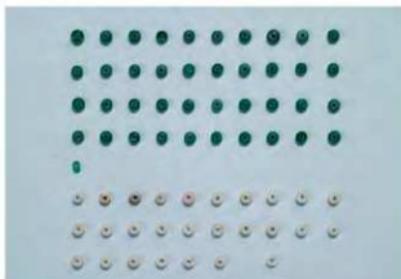
6



1. 千提寺西遺跡 6区 土壌出土遺物



2. 千提寺西遺跡 6区 20(上部) 土壌出土入歯



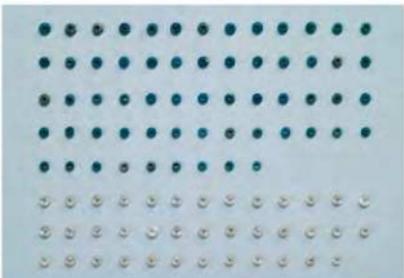
3. 千提寺市阪遺跡 2区 17 土壌出土ガラス小玉



4. 千提寺市阪遺跡 2区 58 土壌出土遺物



5. 千提寺市阪遺跡 2区 64 土壌出土土人形



6. 千提寺市阪遺跡 2区 66 土壌出土ガラス小玉



7. 千提寺西遺跡 7区出土土器



8. 千提寺市阪遺跡 1区出土土器

序 文

千提寺西遺跡、日奈戸遺跡、千提寺市阪遺跡、千提寺クルス山遺跡は、大阪府の北東部、茨木市の北側に広がる標高 250 m 前後の山間部に所在する遺跡です。大阪市内からは車で 1 時間以上を要し、地理的には京都府亀岡市や大阪府豊能町に接しており、あと 15 分も走れば京都府との境である清阪峠を越えて亀岡市へ行くことができます。今も緑豊かな山々にかこまれて棚田が連なる、大阪府下ではめずらしい自然豊かな風景のひろがる地域として知られています。

この周辺は、戦国時代の著名なキリスト教大名である高山右近の所領地として栄え、大正時代には藤波大超氏によってキリスト教墓碑や聖フランシスコ・ザヴィエル像など様々なキリスト教遺物が発見されたことから、地理的な要因も相まって、隠れキリスト教の里として知られていました。

今回の調査は、高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線（道路名：新名神高速道路）の建設に伴うもので、高槻第一ジャンクションと神戸ジャンクションを結ぶ区間のうち、茨木北インターチェンジ、茨木北パーキングエリア建設予定地にあたります。今まで埋蔵文化財調査の手が入っていなかった地域に大規模な調査が行われたことによって、この地域の歴史の内容や時代を追っての変遷解明に大きな足跡を残すこととなりました。

山間部であるため、調査は丘陵上からその間の谷部へ及び、千提寺西遺跡、千提寺市阪遺跡、千提寺クルス山遺跡の丘陵上では中世から近世の墓域が発見され、また、千提寺西遺跡、日奈戸遺跡、千提寺市阪遺跡、千提寺クルス山遺跡の谷部では古代末から中世の集落が発見されました。千提寺市阪遺跡では、縄文時代の土器や石器も発見されており、今回の調査では縄文時代から近世に及ぶ資料の存在が明らかとなりました。

なかでも、千提寺西遺跡、千提寺市阪遺跡、千提寺クルス山遺跡では、長方形墓に伸展葬で葬られ、一部に石組の上部施設が残る「キリスト教墓」が発見され、大きな話題となりました。この地におけるキリスト教受容の様相を探る上で、貴重な資料を提供することとなりました。また、中世墓から近世墓への流れのなかに、「キリスト教墓」を位置付けることができる点も、今回の調査における大きな成果の一つです。

最後になりましたが、今回の調査にあたっては、地元関係各位をはじめ、大阪府教育委員会、茨木市教育委員会、茨木市立キリスト教博物館、西日本高速道路株式会社関西支社新名神大阪西事務所から多大な御協力や御尽力を賜りました。記してここに感謝いたします。

平成 27 年 6 月

公益財団法人 大阪府文化財センター
理 事 長 田邊 征夫

例 言

- 本書は茨本市千提寺地内に所在する千提寺西遺跡（調査名：千提寺西遺跡 11-1 千提寺西遺跡 12-1）、日奈戸遺跡（調査名：日奈戸遺跡 12-1）、千提寺市阪遺跡（調査名：千提寺市阪遺跡 12-1）、千提寺ケルス山遺跡（調査名：千提寺ケルス山遺跡 12-1）の発掘調査報告書である。
- 調査は、西日本高速道路株式会社関西支社（遺物整理は、同支社新名神大阪西事務所）の委託を受け、大阪府教育委員会の指導のもと公益財団法人大阪府文化財センターが実施した。
- 受託契約名、受託期間、調査及び整理体制は以下の通りである。

受託契約名：高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（茨木市域）その2

受託期間：平成23年6月1日～平成24年1月31日

調査体制：（平成23年度）	調査課長	江浦 洋	調整グループ長	岡本茂史
	調査グループ長	岡戸哲紀	主幹	金光正裕
	主査	合田幸美	技師	河本純一
	専門調査員	入江正則		

受託契約名：高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（茨木市域）その3

受託期間：平成23年11月1日～平成24年5月31日

調査体制：（平成23年度）	調査課長	江浦 洋	調整グループ長	岡本茂史
	調査グループ長	岡戸哲紀	主幹	金光正裕
	主査	合田幸美	技師	河本純一
	専門調査員	入江正則		
（平成24年度）	調査部長	江浦 洋	調整課長	岡本茂史
	調査課長	岡戸哲紀	主幹	金光正裕
	主査（新名神第二総括）	亀井 聰	主査	合田幸美
	専門調査員	入江正則	専門調査員	小野久隆

受託契約名：高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（茨木市域）その5

受託期間：平成24年5月1日～平成25年9月25日

調査体制：（平成24年度）	調査部長	江浦 洋	調整課長	岡本茂史
	調査課長	岡戸哲紀	主幹	金光正裕
	主査（新名神第二総括）	亀井 聰		
	主査	森屋美佐子（平成25年1～3月）		
	主査	中村淳穂（平成25年1～3月）	主査	合田幸美

副主査 若林幸子（平成 24 年 7 月～平成 25 年 3 月）

技師 永野 仁（平成 24 年 5・6 月、平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月）

専門調査員 入江正則 専門調査員 小野久隆

（平成 25 年度）事務局次長 江浦 洋 調整課長 岡本茂史

調査課長 岡戸哲紀 調査第一課長補佐 金光正裕

主査 亀井 聰 主査 合田幸美

副主査 若林幸子 専門調査員 小野久隆

受託契約名：高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査遺物整理（千提寺西他）

受託期間：平成 25 年 8 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日

整理体制：（平成 25 年度）事務局次長 江浦 洋 調整課長 岡本茂史

調査課長 岡戸哲紀 調査第一課長補佐 金光正裕

主査 亀井 聰 主査 合田幸美

副主査 若林幸子

（平成 26 年度）事務局次長 江浦 洋 調整課長 岡本茂史

調査課長 岡戸哲紀 調査第二課長補佐 金光正裕

主査 合田幸美

専門員 片山彰一（写真室） 専門員 山口誠治（保存室）

試掘調査は平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 1 月 31 日、発掘調査は平成 23 年 11 月 1 日～平成 25 年 8 月 30 日まで行った。本格的な整理作業は平成 25 年 8 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日までを行い、平成 27 年 6 月 30 日に本書を刊行して全ての業務を完了した。

4. 調査にあたっては、下記の方々のご指導、ご協力を賜った。記して謝意を表する。（五十音順、敬称略）
安部みき子（公立大学法人 大阪市立大学）、井藤暁子、今野春樹（日本考古学協会）、大石一久（元長崎歴史文化博物館）、川村紀子（公益財団法人 大阪市博物館協会 大阪文化財研究所）、神田高士（白井市教育委員会）、神田宏大（野崎キリスト教会）、黒須靖之（茨木市教育委員会）、小林義孝（大阪府教育委員会）、狭川真一（公益財団法人 元興寺文化財研究所）、佐藤 隆（大阪市教育委員会）、白石太一郎（大阪府立近つ飛鳥博物館）、高木博志（京都大学人文科学研究所）、田中裕介（別府大学）、長岡朋人（聖マリアンナ医科大学）、中谷早苗（茨木市立キリスト教博物館）、中西武尚（大分市歴史資料館）、中西裕樹（高槻市教育委員会）、永野智子（同志社女子大学）、橋本久和（高槻市教育委員会）、濱田國秀（天草市立天草ロザリオ館）、東満理亞（茨木市立キリスト教博物館）、降幡順子（独立行政法人 奈良文化財研究所）、松尾信裕（大阪歴史博物館）、松本博幸（天草市天草キリスト教博物館）、村上 始（四条畷市教育委員会）

5. 本書の執筆は亀井・合田・若林、編集は合田が行った。執筆分担は目次の通りである。

6. 本調査に関わる写真、実測図、出土遺物等は公益財団法人大阪府文化財センターにおいて保管している。広く活用されることを希望する。

凡 例

1. 基準高は東京湾平均海面（T.P.）+を使用している。使用単位はmを基準とする。
2. 遺構平面図の使用測地系は、平面直角座標系「世界測地系（測地成果 2000）」第VI座標系を基準とする。単位はすべてmで表記した。
3. 本書の遺構図に付与された方位は、すべて平面直角座標系に基づく座標北を標準とする。磁北は西に $6^{\circ} 18'$ 、真北は東に $0^{\circ} 12'$ 振っている。
4. 発掘調査及び遺物整理は『財團法人大阪府文化財センター 遺跡調査基本マニュアル』2010 の内容に準拠して行った。
5. 本書の土色は小山正忠・竹原秀雄編『新版 標準土色帖』2006 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色表監修に基づいて行った。記述は記号、土色名、土質名の順である。
6. 遺構番号は遺構種類にかかわらず各調査区において1からの連番を付しており、遺構名は番号-遺構種類となる。ただし、挿図において繁雑になる場合は番号のみ付した。
7. 遺構平面図の縮尺は、多種存在するため各挿図に縮尺を示してある。
遺物実測図の縮尺は土器が4分の1と3分の1、石器が3分の2と原寸、銭貨・金属製品・石製品・木製品が2分の1としている。土器断面と拓本はそれぞれ残りがよいところでとった。そのため実測図上、必ずしも一致していない。遺物写真の縮尺は任意である。
8. 遺物番号は通し番号であり、写真図版に関しては挿図と同一の番号を付与している。
9. 遺物の年代観については、主に下記の資料に依拠した。
石井清司 2001『篠窯の実年代』『京都府埋蔵文化財論集第4集—創立二十周年記念誌—』
大阪大学考古学研究室篠窯調査団 2012『大阪大学文学研究科考古学研究報告第5冊 篠窯跡群大谷3号窯の研究』
小森俊寛 2005『京から出土する土器の編年研究—日本律令的土器様式の成立と展開、7~19世紀—』
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター 2003『企画展図録 江戸時代の美濃窯』
佐藤亜聖 2006『瓦質土器の需要一大和における出土傾向とその背景—』『吉岡康暢先生古希記念論集 陶磁器の社会史』吉岡康暢先生古希記念論集刊行会
佐藤浩司 2006『スタンプ文を有する瓦質土器の展開—旧豊前国大興善寺の莊巣具・調度品として—』『吉岡康暢先生古希記念論集 陶磁器の社会史』吉岡康暢先生古希記念論集刊行会
菅原正明 1982『畿内における土釜の製作と流通』『奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集』
鈴柄俊夫 1988『畿内における古代末から中世の土器—模倣系土器生産の展開—』『中近世土器の基礎研究』IV
積山 洋 1999『大坂の土師質土器』『関西近世考古学研究』VII
瀬戸市教育委員会 1990『尾呂一愛知県瀬戸市定光寺カントリークラブ増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』
中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』

中井淳史 1999 「室町・戦国期における近畿地方の土師器皿」『中近世土器の基礎研究』 XIV

日本貨幣商協同組合 1997 『日本貨幣カタログ』

橋本久和 2012 『増補版 わたしの中世土器研究』

兵庫県教育委員会 1983 『魚住古窯跡群』

兵庫埋蔵銭調査会 1996 『日本出土銭総覧』

10. 地山と石については、下記のトーンを用いた。

 地山

 石

11. 墓の個別報告は、以下の点を共通とした。

- ・人骨の顔面方位は復原可能なものについて記し、復原不可能なものは頭蓋骨の出土地点を記し（頭位）を付した。
- ・釘は長さ 4 cm以下を短小、4 cm以上を長大と記した。
- ・銭貨は兵庫県埋蔵銭調査会 1996 『日本出土銭総覧』に依拠した。寛永通寶については、1期寛永（1636～1659 年鑄銭）、2期新寛永（文錢）（1668～1683 年同）、3期新寛永（1697～1747 年、1767～1781 年同）、鉄一文錢（1739 年～同）、四文錢（1768 年～同）、十文銭（1708 年～同）を用いた。
- ・釘は基本的に実測したものを個別写真で、その他を集合写真で掲載した。
- ・土壤のオルソ画像は基本的に底部の遺物・人骨出土状況を掲載したものであり、土壤の深さについては表を参照されたい。

12. 「隠れキリストン」の用語については、徳川幕府の禁教令（慶長 17（1612）年）や寺請制度の設置（寛永 12（1635）年）、島原・天草乱（寛永 14（1637）年）以降信仰を隠さざるを得なかつた時代や人を「潜伏キリストン」、明治政府によるキリスト教解禁（明治 6（1873）年）以降も潜伏時代の信仰を守り続けた時代や人を「カクレキリストン」と呼称し、両者を合わせて「隠れキリストン」と総称する。

目 次

カラー図版

序 文

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査にあたって.....	(亀井 聰・合田幸美)	1
第1節 調査に至る経緯と経過.....	1
第2節 調査の方法.....	3
第2章 位置と環境.....	(合田)	10
第1節 地理的環境.....	10
第2節 歴史的環境.....	11
第3節 高山右近と千提寺・下音羽のキリストン遺物.....	15
第4節 近代以降の千提寺地区.....	17
第3章 調査成果.....	19
第1節 概要と基本層序.....	(合田)	19
第2節 墓域の調査.....	43
(1) 千提寺西遺跡3・4区	(合田)	43
(2) 千提寺西遺跡5区	(亀井)	122
(3) 千提寺西遺跡6区	(合田)	209
(4) 千提寺市阪遺跡2区	(亀井)	290
(5) 千提寺クルス山遺跡1区	(若林幸子)	343
第3節 集落域の調査.....	382
(1) 千提寺西遺跡11-1-1~4区	(合田)	382
(2) 千提寺西遺跡1区	(若林)	390
(3) 千提寺西遺跡2区	(若林)	399
(4) 千提寺西遺跡7区	(若林)	403
(5) 千提寺西遺跡8区	(合田)	413
(6) 千提寺西遺跡9区	(合田)	413
(7) 千提寺西遺跡10区	(合田)	414
(8) 日奈戸遺跡	(亀井)	417
(9) 千提寺市阪遺跡1・3区	(合田)	428
(10) 千提寺クルス山遺跡2区	(若林)	439
第4節 石造物.....	(合田)	450
第4章 分析.....	452

第1節	分析の概要	(合田)	452
第2節	放射性炭素年代測定	(パレオ・ラボ・AMS年代測定グループ)	454
第3節	花粉分析	(文化財調査コンサルタント(株) 渡辺正巳)	459
第4節	千提寺西遺跡・千提寺市阪遺跡出土ガラスの調査		
		(独立行政法人 奈良文化財研究所 降幡順子)	463
第5節	千提寺地区出土の人骨	(大阪市立大学大学院医学研究科 安部みき子 聖マリアンナ医科大学医学部 長岡朋人)	472
第5章	総括	(合田)	477
第1節	調査の成果		477
第2節	遺構の変遷とその背景		482
第3節	キリスト教について		489

挿 図 目 次

図1	調査地の位置	1	図25	千提寺西遺跡3・4区 第1面 全体平面図	45～46
図2	新名神高速道路建設計画図	2	図26	千提寺西遺跡3・4区 第1面 墓域 平面図	47～48
図3	調査区配置図	3	図27	千提寺西遺跡3・4区 第1面 谷 平面図	49
図4	地区別図と調査区名図	5	図28	千提寺西遺跡3・4区 第2面 全体平面図	51～52
図5	周辺遺跡図	11	図29	千提寺西遺跡3・4区 第2面 墓域 平面図	53～54
図6	兵庫県指定文化財「慶長十年折津国絵図」西宮市立郷土資料館蔵(部分)にみる千提寺の位置(一部加筆)	12	図30	千提寺西遺跡3区 第1・2面 22土坑 平・断面図	116
図7	茨木千提寺民俗地図	14	図31	千提寺西遺跡3区 第2面 1塁 断面図	117
図8	千提寺地区のキリスト教墓碑	16	図32	千提寺西遺跡3区 第1面 67・68、69、126石碑 遺構 平面図	118
図9	各遺跡の墓と集落	20	図33	千提寺西遺跡3区 出土遺物	119
図10	千提寺西遺跡3・4区 断面図	21～22	図34	千提寺西遺跡5区 全体平面図	123～124
図11	千提寺西遺跡5区 東西断面図	23～24	図35	千提寺西遺跡5区 キリスト教墓 平面図	126
図12	千提寺西遺跡5区 南北断面図	25	図36	千提寺西遺跡5区 近世墓 平面図	127
図13	千提寺西遺跡6区 断面図	26	図37	千提寺西遺跡5区 南側 平面図	128
図14	千提寺市阪遺跡2区 断面図	27	図38	千提寺西遺跡5区 遺物別平面図(1)	129
図15	千提寺クルス山遺跡1区 断面図	28	図39	千提寺西遺跡5区 遺物別平面図(2)	130
図16	千提寺西遺跡11-1-1-2区 断面図	29～30	図40	千提寺西遺跡5区 遺物別平面図(3)	131
図17	千提寺西遺跡1・2-1・2-2区 断面図	31	図41	千提寺西遺跡5区 遺物別平面図(4)	132
図18	千提寺西遺跡7区 断面図	32	図42	千提寺西遺跡5区 3溝 断面図	201
図19	千提寺西遺跡8区 断面図	33	図43	千提寺西遺跡5区 2集石遺構 平・断面図	202
図20	千提寺西遺跡10区 断面図	34	図44	千提寺西遺跡5区 1焼土坑 平・断面図	203
図21	千提寺西遺跡9区 断面図	35～36	図45	千提寺西遺跡5区 25焼土坑 平・断面図	204
図22	日奈戸遺跡1～3区 断面図	37～38	図46	千提寺西遺跡5区 西側 平面図	205
図23	千提寺市阪遺跡1・3区 断面図	39～40	図47	千提寺西遺跡5区 断面図	206
図24	千提寺クルス山遺跡2区 断面図	41	図48	千提寺西遺跡5区 遺構 断面図	207

図 49	千提寺西遺跡6区 第1面 全体平面図	…	211～212	図 86	千提寺西遺跡8・10区 全体平面図	…	415
図 50	千提寺西遺跡6区 第2面 全体平面図	…	213～214	図 87	千提寺西遺跡9区 全体平面図	…	416
図 51	千提寺西遺跡6区 1土坑 平・断面図	…	286	図 88	日奈戸遺跡 全体平面図	…	419～420
図 52	千提寺西遺跡6区 14土坑 平・断面図	…	287	図 89	日奈戸遺跡 平面図(1)	…	421
図 53	千提寺西遺跡6区 1・14土坑 出土遺物	…	288	図 90	日奈戸遺跡 平面図(2)	…	422
図 54	千提寺市阪遺跡2区 全体平面図	…	291	図 91	日奈戸遺跡 15燒土坑 出土状況図	…	423
図 55	千提寺市阪遺跡2区 平面図	…	292	図 92	日奈戸遺跡 2・3土坑 断面図	…	424
図 56	千提寺市阪遺跡2区 出土遺物別平面図(1)	…	293	図 93	日奈戸遺跡 平面図(3)	…	425
図 57	千提寺市阪遺跡2区 出土遺物別平面図(2)	…	294	図 94	日奈戸遺跡 平面図(4)	…	426
図 58	千提寺市阪遺跡2区 土坑・小穴群 平面図	…	341	図 95	日奈戸遺跡 3トレンチ谷部 断面図	…	427
図 59	千提寺市阪遺跡2区 道構断面図	…	342	図 96	日奈戸遺跡 27土坑 断面図	…	427
図 60	千提寺クルス山遺跡1区 全体平面図	…	344	図 97	千提寺市阪遺跡1・3区 第2・3面 全体平面図	…	431～432
図 61	千提寺クルス山遺跡1区 26・28土坑 平・断面図	…	377	図 98	千提寺市阪遺跡1区 第2面 居住域北半部 平面図	…	433～434
図 62	千提寺クルス山遺跡1区 土壤深度分布	…	380	図 99	千提寺市阪遺跡1区 第2面 居住域南半部 平面図	…	435
図 63	千提寺クルス山遺跡1区 土壤規模分布(深さ1m以上)	…	380	図 100	千提寺市阪遺跡1区 出土遺物(1)	…	436
図 64	千提寺クルス山遺跡 土壤規模分布(深さ1m未満)	…	380	図 101	千提寺市阪遺跡1区 出土遺物(2)	…	437
図 65	千提寺西遺跡11-1-1-1～4区 第2・3面 全体平面図	…	384～385	図 102	千提寺クルス山遺跡2区 第1面・第2面 全体平面図	…	441
図 66	千提寺西遺跡11-1-1区 ピット・土坑 平・断面図	…	386	図 103	千提寺クルス山遺跡2区 第1面 土坑 平・断面図	…	443
図 67	千提寺西遺跡11-1-1区 溝 断面図	…	387	図 104	千提寺クルス山遺跡2区 第3面・第4面 全体平面図	…	446
図 68	千提寺西遺跡11-1-1-2区 ピット・土坑・溝 断面図	…	388	図 105	千提寺クルス山遺跡2区 第5面 全体平面図	…	447
図 69	千提寺西遺跡11-1-3-4区 ピット・落込み・溝・ 土坑 断面図	…	389	図 106	千提寺クルス山遺跡2区 第2面～第5面 土坑・ ピット 断面図	…	448
図 70	千提寺西遺跡1区 第2面 全体平面図	…	391	図 107	石造物計測位置	…	450
図 71	千提寺西遺跡1区 第2面 建物 平面図	…	394	図 108	AMS試料分析土壤	…	454
図 72	千提寺西遺跡1区 第2面 建物1 平・断面図	…	395	図 109	暦年較正結果	…	457
図 73	千提寺西遺跡1区 第2面 建物2 平・断面図	…	396	図 110	軟X線写真観察結果	…	459
図 74	千提寺西遺跡1区 第2面 建物3 平・断面図	…	397	図 111	花粉ダイアグラム	…	461
図 75	千提寺西遺跡1区 第2面 建物4 平・断面図	…	398	図 112	粒数花粉ダイアグラム	…	462
図 76	千提寺西遺跡2区 第2面 全体平面図	…	400	図 113	分析資料の一例	…	464
図 77	千提寺西遺跡2区 第2面 平面図	…	401	図 114	顯微鏡観察	…	465
図 78	千提寺西遺跡2区 第2面 道構 断面図	…	402	図 115	各道構から出土した資料の主成分元素の分布	…	470
図 79	千提寺西遺跡7区 第1面 全体平面図	…	404	図 116	色調別でみた主成分の分布	…	471
図 80	千提寺西遺跡7区 第2面 全体平面図	…	406	図 117	道構及び色調でみた亜鉛含有量の有無	…	471
図 81	千提寺西遺跡7区 第2面 建物 平面図	…	408	図 118	千提寺遺跡における年齢構成	…	474
図 82	千提寺西遺跡7区 第2面 建物1 平・断面図	…	409	図 119	各墓域の中世墓	…	480
図 83	千提寺西遺跡7区 第2面 建物2 平・断面図	…	410	図 120	墓域の変遷	…	486
図 84	千提寺西遺跡7区 第2面 建物3 平・断面図	…	411				
図 85	千提寺西遺跡7区 出土遺物	…	412				

表 目 次

表1 調査の概要	19	表10 放射性炭素年代測定及び歴年較正の結果	456
表2 千提寺西遺跡3・4区土壤一覧	56	表11 微化石概査結果	460
表3 千提寺西遺跡5区土壤一覧	134	表12 分析資料の化学組織	467
表4 千提寺西遺跡6区土壤一覧	215	表13 各遺構から出土した色調別の化学組織の平均値	471
表5 千提寺市阪遺跡2区土壤一覧	297	表14 長骨最大長から推定した身長	474
表6 千提寺クルス山遺跡1区土壤一覧	345	表15 変形性脊椎間節症と肘関節症の病変の割合	474
表7 石造物一覧	451	表16 墓域の概要	479
表8 測定試料及び処理	455	表17 遺構の変遷	485
表9 コラーゲンのC/N比	456		

写 真 目 次

写真1 丘陵部の伐採作業	7	写真14 遺物実測	9
写真2 丘陵部の表土掘削	7	写真15 レーザー測量の図化	9
写真3 丘陵部の人力掘削	7	写真16 編集作業	9
写真4 石仏の写真撮影	7	写真17 忍頂寺（寿命院）	13
写真5 ヘリコプターを用いた空中写真撮影	7	写真18 忍頂寺（寿命院）五輪塔	13
写真6 遺構図面の作成	7	写真19 茨木市来栖山南墳墓群 石組	13
写真7 レーザー測量	7	写真20 茨木市来栖山南墳墓群 墓壙	13
写真8 大阪府教育委員会による立会	7	写真21 千提寺クルス山周辺の窓（南から）	17
写真9 現地説明会パンフレット	8	写真22 千提寺西遺跡11-1-1区 第1面	
写真10 現地説明会風景	8	2土坑（南西から）	17
写真11 シンポジウム資料	8	写真23 千提寺西遺跡11-1-2区 第1面	
写真12 シンポジウム風景	8	43土坑（北東から）	17
写真13 遺物撮影	9	写真24 庚甲塚と石五輪塔	17

写 真 図 版 目 次

図版1・2 遠景		図版13~79 遺構	
図版3~12 基本層序		図版80~95 石造物	

第1章 調査にあたって

第1節 調査に至る経緯と経過

今回の調査は、高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設に伴うものである。この建設工事は昭和62年の第四次全国総合開発計画において閣議決定され、平成元年には基本計画が公示された。平成19年には、第二名神自動車道から新名神自動車道へと変更した名称が公表されている。道路建設に先立って、平成5年度に高槻から箕面までの大阪工区内の計画路線内の分布調査が実施された。

実際に工事が着手されたようになったのは近年のことで、まず神戸ジャンクションから高槻ジャンクションまでの全長40.5kmの区間が、平成30年の開通を目指して事業が進められることとなった。工事は兵庫工事区域と大阪工事区域とに分けられる。そのうち、大阪府内の工事区域は、北摂地域と呼ばれる大阪の最北部、山間地域を東西に横断することとなる。距離にして、西は箕面市から東は高槻市までの全長19.5kmに及ぶ(図2)。それに伴い、平成23年度には当センターが、茨木市、高槻市にわたりて埋蔵文化財の有無を調査する広範囲な試掘調査を実施した。

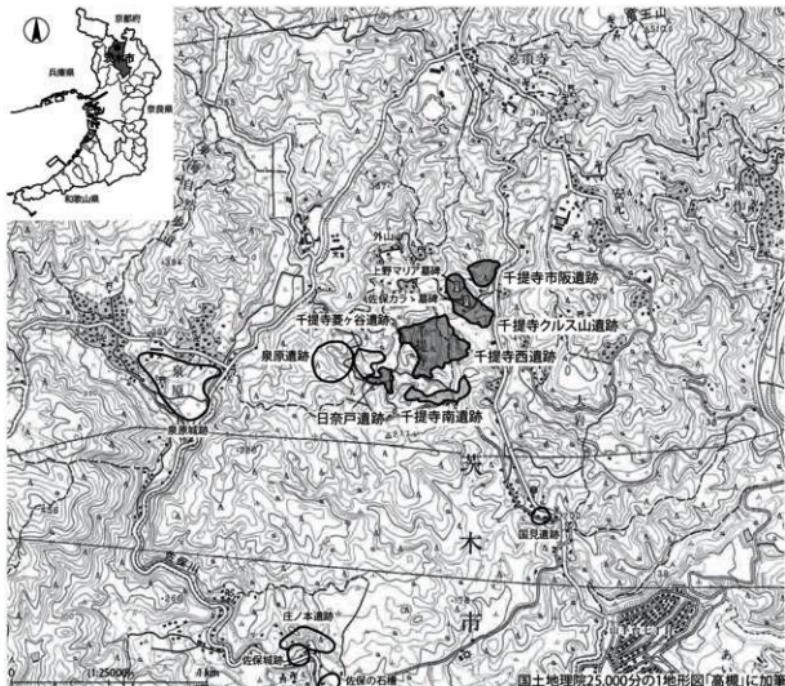


図1 調査地の位置

茨木市域については、平成 23 年 6 月より実施した「高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（茨木市域）その 2」として、東西約 600 m、南北約 700 m の範囲を試掘調査した結果、包含層や遺構のひろがりから千提寺西遺跡・日奈戸遺跡を発見することとなった。

試掘調査をふまえ、西日本高速道路株式会社と大阪府教育委員会によって遺跡の取り扱いについて協議が行われた結果、大阪府教育委員会は西日本高速道路株式会社関西支社に対して、調査を実施するよう指示した。

先の発見のうち、千提寺西遺跡については、平成 23 年 11 月より「高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（茨木市域）その 3」として、一部発掘調査を開始した。その後、千提寺西遺跡・日奈戸遺跡について、「高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（茨木市域）その 5」として、西日本高速道路株式会社関西支社の委託を受けたセンターが、平成 24 年 5 月 1 日から平成 25 年 8 月 30 日までの期間に現地調査を実施した。

また本事業内では、前年度に着手できなかった試掘調査を東西南北約 2 km の範囲において合わせて実施した結果、新たに千提寺市阪遺跡・千提寺クルス山遺跡の発見と、千提寺西遺跡の範囲拡大を確認した。これによって追加・拡大した調査範囲については、本事業において継続して調査を実施した。

以上のとおり、今回の調査は、千提寺西遺跡・日奈戸遺跡・千提寺市阪遺跡・千提寺クルス山遺跡の 4 遺跡に及び、調査総面積は 33,926 m² である。なお、今回の調査地の南側には千提寺南遺跡が隣接

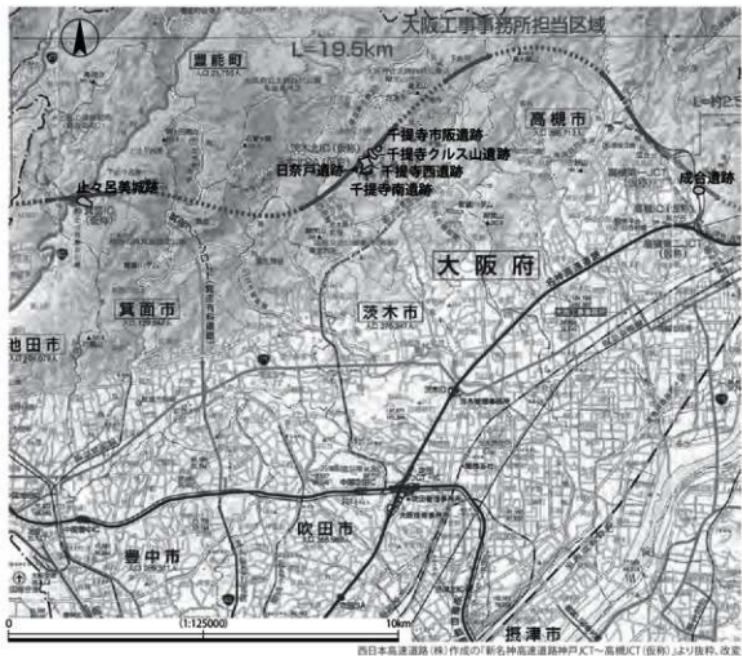


図 2 新名神高速道路建設設計図

しており、「高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（茨木市域）その4」として調査及び成果報告が終了している。これら5遺跡を合わせた範囲が茨木北インターチェンジ、茨木北パーキングエリア建設予定地に相当する。

調査区は、丘陵部、谷部等の地形を考慮し、千提寺西遺跡は10区、日奈戸遺跡は3区、千提寺市阪遺跡は3区、千提寺クルス山遺跡は2区に分けた（図3）。調査は本体工事の撤去工や樹木の伐採などが済み、準備が整った調査区から順次行い、平成25年8月に全ての調査を終了した。

発掘調査の合間には、現地にて遺構実測図面や写真の整理、遺物の洗浄・注記などの基礎整理作業を行い、記録の保存に努めた。全調査の終了後、平成25年8月から平成27年3月、中部調査事務所にて報告書作成のための遺物整理作業を行った。平成27年6月、本書を刊行してすべての事業を完了した。

第2節 調査の方法

（1）調査区名・地区割・遺構名

センターが発掘調査他を実施するにあたっては、遺跡毎に契約年度と次数を付して調査名称を決定しており、それぞれ「千提寺西遺跡11-1」「千提寺西遺跡12-1」「日奈戸遺跡12-1」「千提寺市阪遺跡12-1」「千提寺クルス山遺跡12-1」とした。同名称は図面・写真・遺物・台帳等のすべて

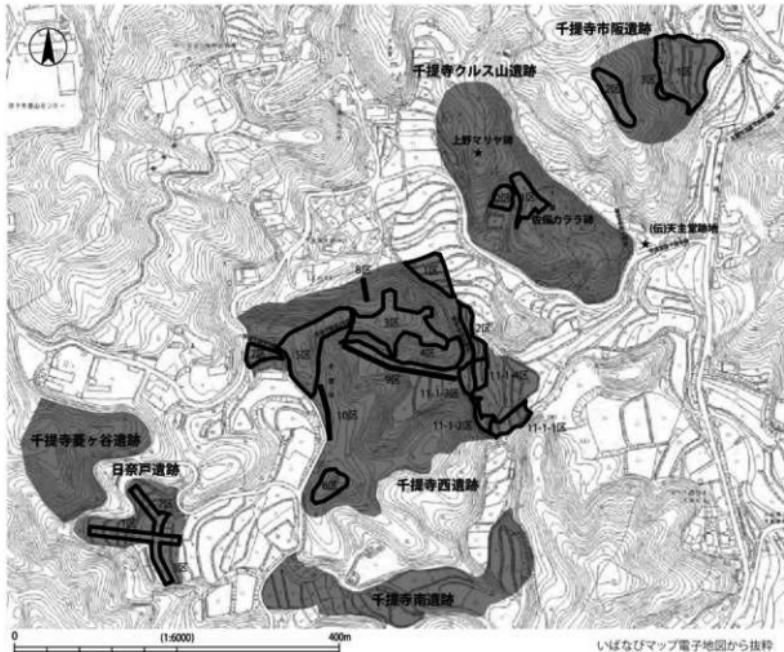


図3 調査区配置図

の成果物に記載している。

また、各遺跡における各調査区を示す場合には、例えば、千提寺西遺跡 11-1 の 1 区は千提寺西遺跡 11-1-1 区に、千提寺西遺跡 12-1 の 1 区は千提寺西遺跡 12-1-1 区となる。しかし、本書では、「12-1」は、各遺跡に共通し、煩雑になるため省略し、例えば「千提寺西遺跡 12-1-1 区」は「千提寺西遺跡 1 区」と表現する。千提寺西遺跡 11-1 の調査区のみ、千提寺西遺跡 11-1-1 区～千提寺西遺跡 11-1-4 区と表現する。

調査区割は世界測地系に基づく平面直角座標系に準拠している。大阪府は第 VI 座標系に相当し、この座標系に基づく数値を利用する。区割りは大（第 I 区画）から小（第 IV 区画）へと 4 段階で行う。

第 I 区画とは、大阪府の南西端 X = -192,000, Y = -88,000 の交点を基準として、南北 6 km、東西 8 km の範囲を 62 分割した区域をいう。このうちの 1 区画である南北 1.5 km、東西 2 km の範囲を各 4 分割、計 16 分割したものが第 II 区画である。さらに、この第 II 区画を南北に 15 分割、東西に 20 分割した一辺 100 m の範囲を第 III 区画とする。第 III 区画を東西南北それぞれ 10 分割した一辺 10 m の範囲を第 IV 区画とする（図 4）。

以上より、当遺跡の所在地は第 I・II 区画が L 5-7 と L 5-8 となる。第 III 区画は L 5-8 では 20 B・20 C であり、L 5-7 では図 4 のとおりである。

遺構名は遺構番号と種類の組み合わせで表現しており、遺構番号は調査区毎に 1 からの通し番号を割り当て、遺構の種類をその番号の後に付与した。「1 土坑」「2 溝」「3 ピット」が一例である。ただし、本書では「墓」に特定される上坑の遺構名称についてのみ、「土壤」の表記を使用する。一般的な他の土坑と区別するためであり、名称以外の文中はこの限りではない。

このような調査の方法・遺物の取り上げ・遺構図面の作成・写真撮影等の作業については、センターが平成 22 年に作成した『遺跡調査基本マニュアル』に準拠して行っている。

（2）発掘調査

丘陵部の調査区には樹木が生い茂っていたため、まずはそれらの伐採作業を行い（写真 1）、続いて表土層を丘陵部では人力（写真 2）、谷部では機械により掘削した。その後はスコップ・鋤簾・ツルハシ等を利用した人力により遺物包含層や自然堆積層等を慎重に掘削し（写真 3）、旧地表面の精査を行って遺構等を検出した。調査区内には樹木の根が数多く残っていたことから、掘削に際しては遺構や遺構面を傷めないよう、鋸・根切り鉄等で除根作業も随時行った。検出した遺構は、移植ゴテ等を用いて注意深く掘り下げ、必要に応じて遺物出土状況や平面・埋土堆積状況等の図面作成と写真撮影を行った。

場所によっては急勾配の斜面があり、非常に滑りやすくなっていたことから、このような調査では、転落防止のために安全帯を装着しての作業となった。

谷部の調査区は、バックホウを用いて近代の耕作土や盛土を機械にて掘削後、包含層を人力により掘削し、各遺構面の精査を行って遺構等を検出した。遺構については丘陵部と同様の作業を行った。

断面観察用のアゼは基本的に、丘陵部では尾根に沿って、谷部では谷を横断する方向に設けた。

また、全調査区とも必要に応じて随時、大阪府教育委員会文化財保護課による現地立会を実施し、調査に関する確認や指示を受けた（写真 8）。

（3）現地記録

遺構の写真撮影は、35 mm カメラ・6 × 7 カメラ・デジタルカメラを併用して行った。調査区の全景を撮影するような場合には、高所作業車あるいは 5 段（3 段）の写真撮影用足場を利用して高い位置か

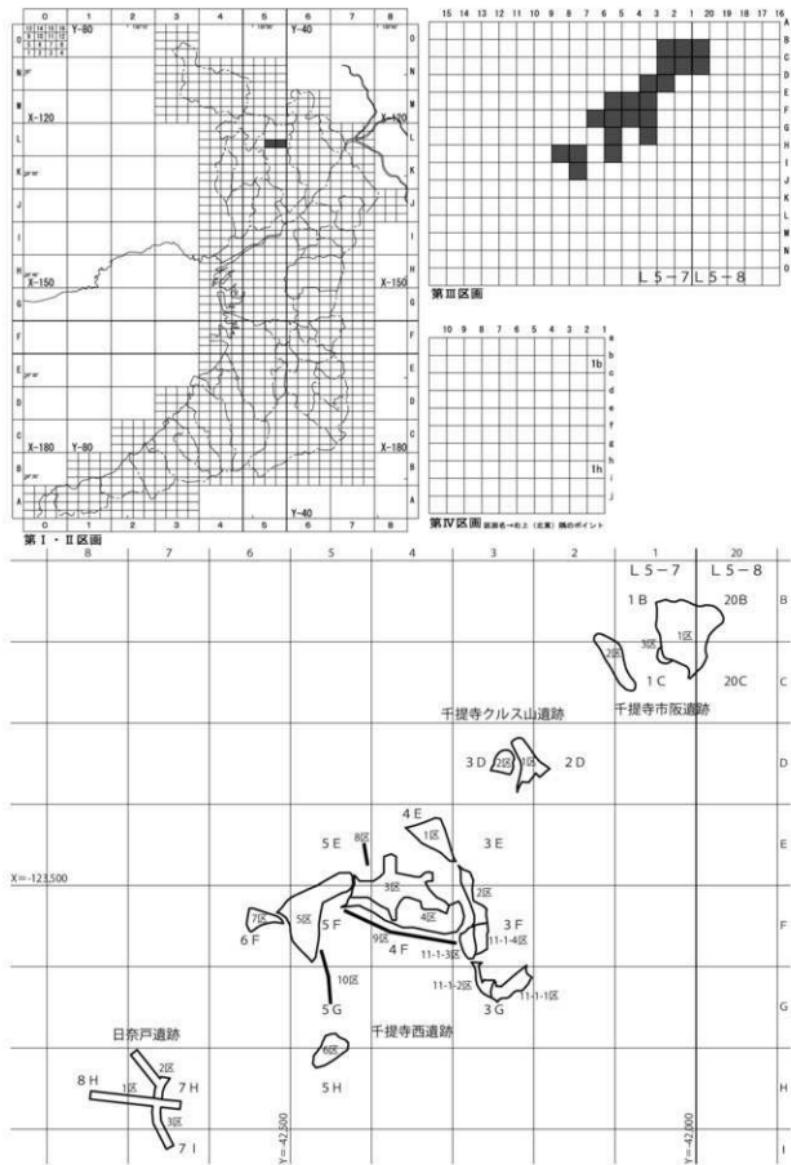


図4 地区割図と調査区名図

らの撮影を行った。撮影後は現像したフィルムと紙焼きをアルバムに収納し、同時に撮影したデジタル画像を用いて写真台帳データベースを作成し、撮影対象・場所・日付・方向等の情報を入力した。

調査区全体の平面測量は、主にヘリコプターによる空中写真測量を行い(写真5)、50分の1の平面図・遺構図を作成した。それ以外にも電子アリダートを用いた平板測量を併用し、部分的な平面図や略測図の作成も行った。さらに遺物出土状況等の各遺構における詳細図面や土の堆積状況を示す地層断面図等については、オートレベルや巻尺・コンベックス等を用いて、随時20分の1・10分の1の図面を作成した(写真6)。また今回の調査では、平成24年度に当センターが初導入した三次元計測機器(FARO® Laser Scanner Focus3D)を用い、レーザー計測による3次元化を併せて行った(写真7)。これらの図面はすべて世界測地系に準拠して作成し、方位は座標北、水準はすべて東京湾平均海面(T.P.)である。

(4) 基礎整理

現地調査期間中は、現場詰所において出土遺物や諸記録の基礎的な整理作業を平行して実施した。

出土した遺物は縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・灰釉陶器・綠釉陶器・磁器・石器・剥片・石仏・五輪塔・鉄釘・鉄鍼・煙管・錢貨・土人形・漆器・玉類・人骨等があり、55×35×15cmの収納コンテナで227箱にのぼる。

遺物はブラシ・刷毛を用いて真水で洗浄し、乾燥した後に出自が判別できるように面相筆やスタンプによる注記作業を行った。遺物への注記は、前述の調査名称を基本として判別し易いようカタカナを用いて「センダイジニシ 12-1-△-□」(△は調査区番号、□は遺物登録番号)、「ヒナト 12-1-△-□」、「イチサカ 12-1-△-□」、「クルスヤマ 12-1-△-□」とした。出土遺物は登録番号毎にデジタルカメラで撮影し、画像を用いた遺物登録台帳データベースに出土地点・日付等の情報を入力した。写真については前述のとおりであり、図面についても調査区毎に台帳を作成して整理収納した。

(5) その他

詳細は後述するが、本事業の発掘調査では国内でもあまり例を見ないキリスト教伝来の前後を示す墓域が発見され、研究者等の注目を集めることとなった。「キリストン」関連資料に関しては、宗教的な制度や慣習以外に近世の弾圧と迫害による特異な変化を遂げたことが知られており、専門性が高いことから同分野の研究者である長崎歴史文化博物館の大石一久氏に現地を実見していただき、成果に関する意見聴取と調査指導をお願いした。また、中近世の墓からは100体以上の人骨が出土しており、これらの年齢・性別・身体的特徴等を知ることにより、当時の集落や家族構成等を検討する手掛かりが得られることから、同分野の研究者である大阪市立大学医学部の安部みき子氏に調査指導をお願いした。

なお事業期間中においては、これらの貴重な調査成果を一般に公開するため平成25年3月23日(土)に現地説明会を実施した。当日は千提寺西遺跡3区の中世墓、5区のキリストン墓ならびに近世墓、7区の中世集落を実地見学していただき、上記に加えて千提寺南遺跡・千提寺市坂遺跡・千提寺クルス山遺跡の写真パネルと遺物展示を行った。大々的な報道もあり、572名の参加を得ることができた。

また、当センターは、平成26年1月26日(日)に、平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした地域活性化事業)による「シンポジウム 発掘! 検証! キリストン墓—高山右近とキリストン」を実施し、312名の参加を得た。

(6) 整理作業

平成25年9月からはセンター中部調査事務所にて本格的に遺物整理作業を開始した。

遺構については、実測図や空測図の整理から挿図レイアウト、トレース、版下作成、原稿作成等を



写真1 丘陵部の伐採作業



写真2 丘陵部の表土掘削



写真3 丘陵部の人力掘削



写真4 石仏の写真撮影



写真5 ヘリコプターを用いた空中写真撮影



写真6 遺構図面の作成

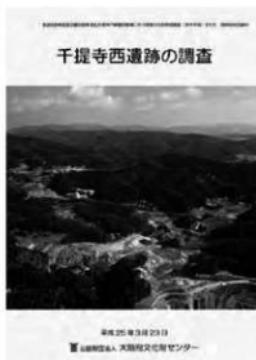


写真7 レーザー測量



写真8 大阪府教育委員会による立会

行った。遺構はデジタルトレースを行った。デジタルトレースについては ADOBE PHOTOSHOP CS 5 を用いて図面を取り込み、ADOBE ILLUSTRATOR CS 5 でトレース作業を行った。また、レーザー計測による 3 次元データについては、FARO SCENE5.1 を用いて現場で採取したデータを取り込み、世界測地系に基づいた絶対座標をえた後に、基点となるターゲットに座標をもたせ、点群とオルソ画像を作成した。この段階では座標のメッシュ並びに T.P. の高さを画像上に表示できないため、データを .RND のファイルにいったん変換したうえで、FUKUICOMPUTER 3D-Z 並びに LandTrace で読み取ることで座標のメッシュ並びに T.P. の高さをもった画像とし、掲載に適した平面図、立面図の下図を作成した。遺構図をオルソ画像で掲載する場合には、FUKUICOMPUTER 3D-Z 並びに LandTrace で作成した画像は粗く、条線が入るため、これを下図とし、これに FARO SCENE5.1 で作成したオルソ画像を ADOBE ILLUSTRATOR CS 5 上で重ねることで、図面を仕上げた。仕上げに際しては、適宜 ADOBE PHOTOSHOP CS 5 を用いて画像を調整した。なお、データ採取時の状況が悪く画像が暗い場合や他の図面との合成が必要な場合は、下図をもとに ADOBE ILLUSTRATOR CS 5 でトレース作業を行って図を



仕上げた。

遺物については、掲載遺物のピックアップから接合、実測、拓本、トレース、版下作成、原稿作成などを行った。トレースは遺構と同様の方法でデジタルトレースを行った。挿図や写真図版の掲載番号が確定した後は、個々の個体に掲載遺物ラベルを記入し、掲載順にコンテナに収納した。

写真図版は、遺構は現場で撮影した6×7版モノクロ写真を中心に写真を選択し、ADOBE INDESIGN CS5.5を用いてレイアウトを行い、写真室でネガをスキャニング後、データを取り込み、キャプション等を作成して完成した。遺物は写真掲載遺物を決定して、必要に応じて接合・復原を行った。ADOBE INDESIGN CS5.5を用いてレイアウトの後、撮影、スキャニングは写真室に依頼した。その後、データを取り込みキャプション等を作成して完成した。

原稿、挿図、写真図版を個々に作成し、ADOBE INDESIGN CS5.5を用いての編集作業を経て報告書の体裁を整えた。入稿後校正を経て、平成27年6月本書の刊行をもって完了した。

遺物は将来的に報告書の遺物番号や写真番号からすぐに検索できるよう、報告書掲載順に整理して収納している。また、デジタル上における各種記録類や遺物の検索が行えるよう、FileMaker Pro 8を用いてデータベースを作成している。データベースには写真台帳、遺物登録台帳、ピックアップ台帳があり、それらの台帳にも掲載番号等を付与し、報告書からの検索を可能としている。



写真13 遺物撮影



写真14 遺物実測



写真15 レーザー測量の図化



写真16 編集作業

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

今回報告する千提寺西遺跡、日奈戸遺跡、千提寺市阪遺跡、千提寺クルス山遺跡は、大阪府の北部に連なる北摂山地の山間部、茨木市千提寺に位置する。千提寺は、安威川の支流である大岩川と佐保川にはさまれた標高 250 m 前後の山間の集落であり、その北東には北摂の靈峰として崇拜を集める標高 510 m の竜王山を望むことができる。竜王山の南麓には忍頂寺が位置し、勝尾寺や神峯山寺とともに山岳信仰の聖地としてかつては栄えた。千提寺の東側を流れる大岩川沿いには、京都府亀岡市へとぬける清阪街道がはしり、茨木市と亀岡市を結ぶ幹線道となっている。千提寺は、山間の地ではあるが、信仰の中心地と街道に近接する場ということができる（図5）。

後述するように、千提寺は、聖フランシスコ・ザヴィエル像をはじめとするキリストン遺物がまとまって発見された地として著名であり、キリストン大名、高山右近の旧領であることから、戦国時代にキリストン信仰が本地域にもたらされたと考えられている。この年代に近い地図として西宮市立郷土資料館蔵「慶長十年摂津国絵図」（以下、「絵図」）があり、この年代の地理観をうかがい知ることができる（図6）。『絵図』では右側に「東」と表記されており、「絵図」の上が北、下が南、左が西とみることができる。高山右近が城主であった高槻城が位置する「高槻」は「絵図」の右下にあり、ここから「絵図」の左側中央にある「千提寺村」への道筋をみると、「高槻」から北へ向かい「芥川村」へ出た後、後の西国街道とみられる太い線に沿って西へ進み、「十日市村」と「箕原村」との間で北へ折れ、安威川を遡上する。「安威村」で安威川から離れ、西の山間部へ入り、「国見村」を通過して「千提寺村」へ入ることができる。「絵図」では、「千提寺村」は隣接して 2箇所にその名前が描かれており、これは千提寺村の北に位置する「下音羽」でも同様であることが興味深い。この点はさておき、「千提寺村」から西へ、「東村」、「西村」をぬけるとその先に高山氏の本拠地であり右近生誕の地である「高山村」へと至る。すなわち、この「絵図」において、「高山村」と高槻城との交通を考える場合、その最短経路上に「千提寺村」が位置することになる。また、「高山村」から東へは「上音羽」、「下音羽」へ向かう道もあり、ここも、高槻城と「高山村」を結ぶ経路のひとつであったことがうかがえる。数ある北摂山地の山間の村々のなかで、現在キリストン遺物が発見されているところは千提寺と下音羽に限られる。今後、近隣におけるキリストン遺物の発見も期待されることではあるが、なぜ千提寺と下音羽にキリストン遺物が集中するのか、という疑問について、「絵図」は解明の糸口を与えてくれる。

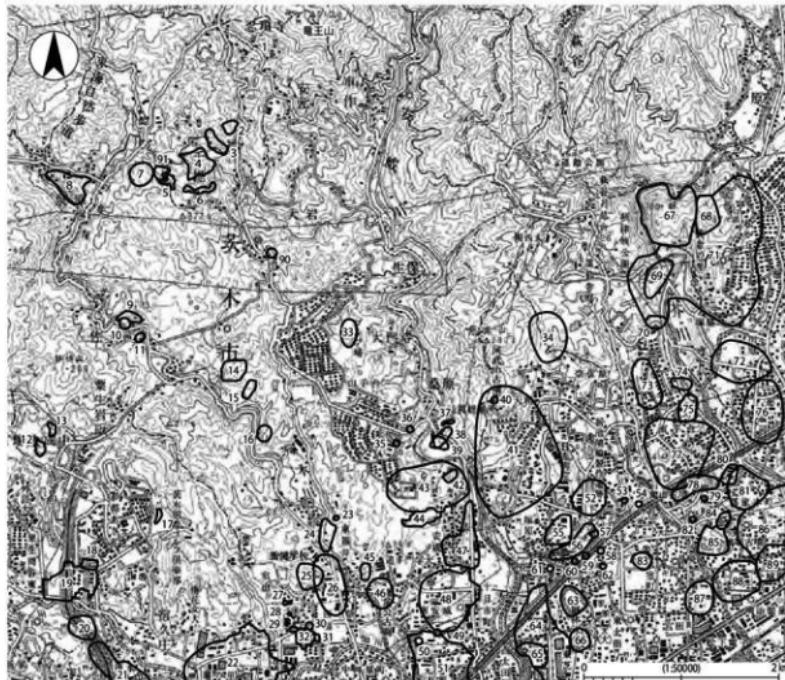
また、千提寺の字名については、平成 11 年に分布調査や民俗調査を含めた総合調査が実施されている（図7）。これと対照すると、今回報告する千提寺西遺跡は 3・4 区が字名「墓の丸」、5 区が「マエノヤマ」、6 区が「浄土墓」、7 区が「スケノ畑」、日奈戸遺跡は「日名戸」、千提寺市阪遺跡 1 区、2 区は「市坂」、千提寺クルス山遺跡 1 区、2 区は「クルス山」に相当する。

なお、千提寺という地名は、忍頂寺の塔頭である千提寺に由来するといわれており、千提寺はその後淨土真宗の寺院となり、明治時代ごろに廃寺となった。

第2節 歴史的環境

(1) 旧石器・縄文・弥生・古墳時代

千提寺周辺の山間部では、この時代の遺跡はこれまで発見されておらず、地元の郷土史家である免山



1 忽頭寺	2 千提寺市坂遺跡	3 千提寺クレス山遺跡	4 千提寺西遺跡	5 日參戸遺跡	6 千提寺南遺跡
7 皇原遺跡	8 泉原畠跡	9 庄ノ本遺跡	10 佐保城跡	11 佐保の石槽	12 莪生岩佐伝遺跡
13 莪生岩佐伝遺跡	14 佐保城跡山遺跡	15 莩生山南塙墳群	16 福井北古墳跡	17 畠井庄北通路	18 律大寺道跡
19 莩生閑谷通跡	20 庄田遺跡	21 畠久庄西通跡	22 畠久庄道跡	23 鹿ヶ谷古墳	24 福井城跡
25 新屋古墳群	26 西福井通跡	27 索原山古墳	28 青松塙古墳	29 南寧古墳	30 海北塙北方通路
31 海北塙古墳	32 福井通跡	33 大門寺古墳群	34 片ヶ谷古墳群	35 初田2号墳	36 初田1号墳
37 索原古墳群	38 桑原西古墳群	39 索原通跡	40 阿武山古墳	41 塚原古墳群	42 長ヶ瀬古墳群
43 安威古墳群	44 安威寺跡	45 真福寺古墳群	46 芬薙山古墳群	47 安威城跡	48 安威道路
49 豆原古墳	50 鼻塙古墳	51 豆原通跡	52 新池通跡	53 間鷲山古墳	54 間鷲山古墳群
55 上土室通跡	56 土室通跡	57 善山谷塙	58 石寺古墳	59 土保山古墳	60 二子山古墳
61 石山古墳	62 高穂古墳	63 太田熊臼山古墳	64 太田通跡	65 太田城跡	66 太田肩寺跡
67 齐川山城跡	68 斯仕山山城跡	69 下ノ口古墳群	70 塚山古墳群	71 塚山古墳群	72 宮之川通跡
73 畠谷古墳群	74 唐井谷古墳群	75 尼ヶ谷古墳群	76 大藏町通跡	77 井山古墳群	78 井本山古墳群
79 郡家車塙古墳	80 上野通跡	81 郡家本町通跡	82 前森古墳	83 ツグノ古墳群	84 狐塙古墳群
85 今堀塙古墳	86 郡家川西通跡	87 宮田通跡	88 郡家今城通跡	89 川西古墳群	90 国見通跡
91 千提寺峯+谷通跡					

(国土地理院50,000分の1地図「京都西南部」を使用)

図5 周辺遺跡図

篤氏が千提寺の西に位置する泉原や、その南側にある佐保で、ナイフ形石器、楔形石器、尖頭器、石鏃などの石器のほか、高山寺式、神宮寺式、穗谷式など早期の押型文や北白川C式、中津式など中期末～後期の縄文土器を採取されているにすぎなかった。しかし、近年千提寺南遺跡では早期から晩期の縄文土器が出土し、なかでも中期末である北白川C式の縄文土器が土坑からまとまって出土したことで縄文時代遺跡の存在が明らかとなった。弥生時代の遺跡としては、千提寺から約3km西に位置する石堂ヶ岡遺跡が瀬戸内の海岸線を一望できる眺望から高地性集落として著名であるが、出土した彫形土器の所属時期や遺構の様相が不明であり、遺跡としての評価は定まらない。古墳時代の遺跡は、千提寺から約2km南東の、安威川右岸、山手台に位置する大門寺古墳群がある。そのやや下流には初田1号墳、同2号墳が立地し、安威川が三島平野へとそそぐ出口には、右岸に安威古墳群が、左岸に塚原古墳群がひろがる。いずれも古墳時代後期以降の古墳であり、この年代に墓域が山間部へとひろがったようである。

(2) 古代、平安～鎌倉時代

千提寺の北東、竜王山南麓にある忍頂寺が史上に姿を現すのは、9世紀中頃、『日本三大実録』貞觀2（860）年の記述であり、この時修驗僧山澄が國家のための經典講説をして、忍頂寺の寺号を清和天皇から賜り、勅願寺となつた（写真17）。当時は勝尾寺、神峰山寺などとともに23もの僧坊をもつ山岳寺院として栄え、10世紀後半には国の保護を受けたことが仁和寺文書からうかがえる。周辺では、佐保で10世紀の黒色土器B類椀、窯窓縁釉陶器皿、青磁、白磁などの中国陶磁器がみつかっているが、明確な遺跡の存在は認められない。

古代末から中世に入ると、平野部はもとより、山間部においても荘園支配が行われる。

竜王山からその南麓にかけての地域は寺辺村とよばれ、千提寺もこの寺辺村に属する。寺辺村と泉原、佐保、音羽、錢原の諸村は、当初忍頂寺の支配下にあり、忍頂寺五箇莊とよばれたが、単独では存続で

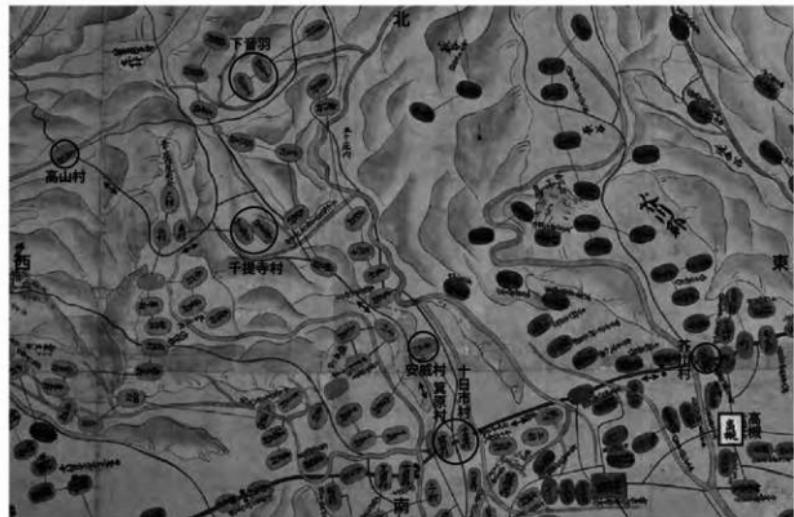


図6 兵庫県指定文化財『慶長十年摂津国絵図』西宮市立郷土資料館蔵（部分）にみる千提寺の位置（一部加筆）

きず、仁和寺の末寺になることにより存続した。時期は不明だが、仁和寺文書に鎌倉時代中期の仁治2年（1241年）に忍頂寺五箇荘の記述があり、このときには末寺になっていたとみられる。忍頂寺は、その後衰え今は寿命院が残るにすぎないが、忍頂寺（寿命院）本堂の北側斜面には地輪に「元亨辛酉（1321年）七月十五日金剛佛子定盛」の銘が残る五輪塔があり、大阪府の指定文化財に指定されている（写真18）。

（3）室町～戦国時代

応仁の乱を経て、中世後半に入ると、荘園支配は崩れ、在地の土豪が領主として各地に台頭する。千提寺周辺では、高山氏、茨木氏、中川氏、乾氏などが割拠する。こうした土豪が居館としたものが山城であり、千提寺の西を南流する佐保川沿いに泉原城跡、佐保城跡、佐保栗栖山砦跡、福井城跡が築かれている。佐保栗栖山砦跡は全山発掘調査がなされ、人工的に造りだされた平坦地である曲輪のほか、堀、土塁、建物跡、石積など、中世山城の構造が明らかにされた貴重な例である。その南側には栗栖山南墳墓群がひろがり、多数の中世墓が検出されている（写真19・20）。

千提寺には中ノ谷の旧小字土居山に山城があった。近代初頭まで中世名主の系譜を引くとみられる乾氏の居館跡であり、急峻な尾根を利用して築かれた居館跡からは、千提寺の家々のすべてを見渡すことができる。

また、千提寺の西6km、豊能郡豊能町大字高山の通称城山に高山城がある。キリストン大名として著名な高山右近を輩出した高山氏の城と考えられている。



写真17 忍頂寺（寿命院）



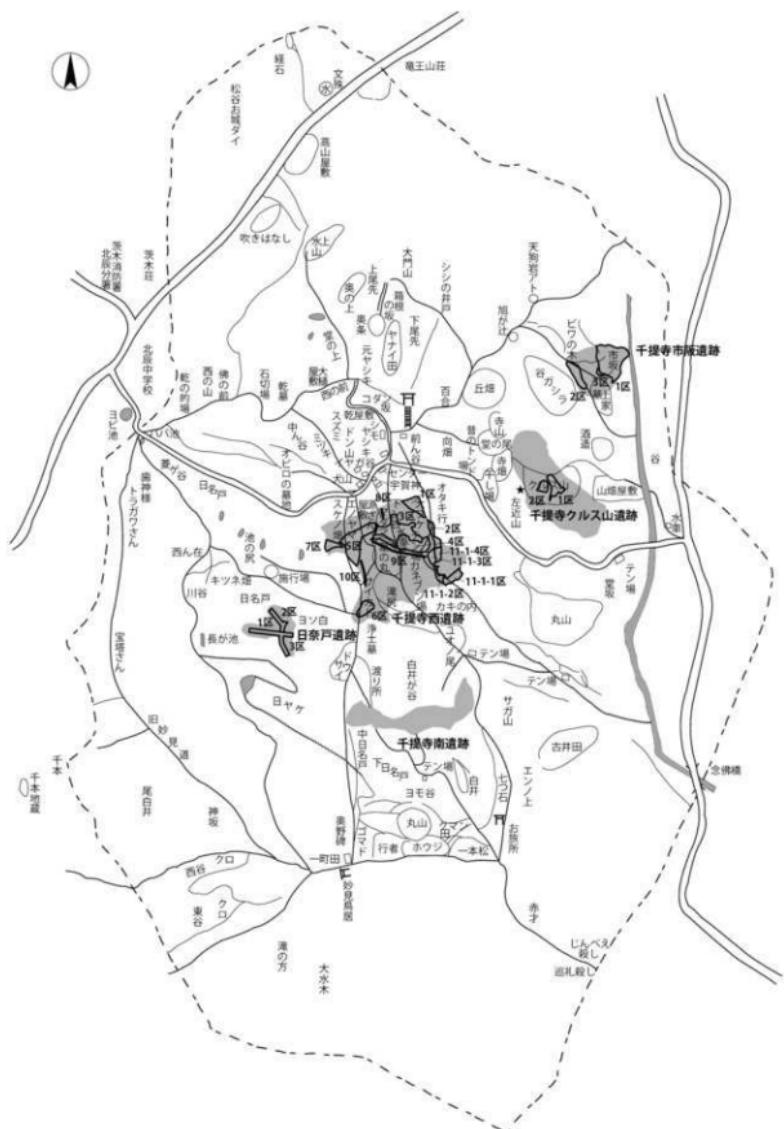
写真18 忍頂寺（寿命院）五輪塔



写真19 茨木市栗栖山南墳墓群 石組



写真20 茨木市栗栖山南墳墓群 墓壙



(財) 大阪府文化財調査研究センター調査報告書第40集「彩都(国際文化公園都市)周辺地域の歴史・文化総合調査報告書」より抜粋・改変
※各遺跡、調査区を民俗地図の該当箇所においてしたものであり、縮尺や道跡間の距離は任意

図7 茨木千提寺民俗地図

第3節 高山右近と千提寺・下音羽のキリスト教遺物

高山右近は、松永久秀の配下であった高山飛騨守の長男として勝尾寺の荘園のひとつである高山莊で天文21（1552）年に誕生した。飛騨守は、主君久秀の命により、奈良県宇陀市権原にある沢城の城番となり、一族は飛騨守の母を残して高山を離れた。この地で飛騨守は日本人修道士ロレンソの教えに信服し洗礼を受け、教名ダリオとなり、父とともに右近も11歳のころ洗礼を受け教名ジュストとなった。永禄8（1565）年、飛騨守は三好長慶との戦いで敗れ、故郷高山に難を避けた。永禄11（1568）年、織田信長が足利義昭を奉じて入京し、摂津国は和田惟政をはじめとする三人の守護が治めることとなつた。飛騨守は和田惟政のもとに参じ、摂津高槻城主となった惟政のもと、芥川城番、次いで高槻城家老職となる。元亀2（1571）年、惟政は白井河原合戦で戦死し、惟政の息子惟長は、高山親子とともに高槻城に戻り守りを固めるが、その後和田家中の争いから惟長は追われ、天正元（1573）年には飛騨守が、翌年には右近が高槻城主となる。このとき、高槻城に教会が建立され、キリスト教墓地が建設された。天正9（1581）年には、高槻で巡察師ヴァリニャーノのもと復活祭が行われ1万5千人が参加したと「イエズス会日本年報」に伝えられている。天正10（1582）年、本能寺の変で織田信長が死去した後、豊臣秀吉が後継者となるなか、秀吉の大名配置換えにより、天正13（1585）年、右近は明石へ移封となる。天正15（1587）年には秀吉によりバテレン追放令が発せられ、右近は改易となり、長く加賀、前田家で預かりとなった。慶長17（1612）年及び翌年には徳川幕府によりキリスト教禁教令が発せられ、翌年、右近はマニラへ追放され、慶長20（1615）年この地で没した。

千提寺が高山右近と関係をもつのは、高槻城主となった天正元（1573）年から明石へ移封される天正13（1585）年までの10数年間である。忍頂寺が五箇莊について織田信長から安堵状を得ていたことから、天正10（1582）年、本能寺の変による信長の死後、天正11（1583）年～天正13（1585）年にかけてが、千提寺周辺における本格的な布教の時期とみられ、このとき忍頂寺がキリスト教の教会堂に改造され伝道の中心になったと考えられている。とくに、天正13（1585）年には、高槻の主任司祭である、ヴェネツィア出身のイエズス会士ジョゼッペ・フォルナレッティが忍頂寺を拠点として、集中的な伝道を進め、同年中に千提寺を含む山間部のほとんどを改宗したとされる。また、忍頂寺の東側に位置する清水寺は、ルイス・フロイス著『日本史』で、清水寺の元仏僧でキリスト教に改宗した「ロケ」という名前の老人が北摂山間部のキリスト教の指導にあたったと紹介される記事でその名を確認することができる。

このように、高山右近の影響下にあって、キリスト教信仰が根付いた千提寺周辺では、後述するようになに大正年間に至って、多くのキリスト教遺物が伝えられていることが明らかとなった。千提寺ならびに千提寺の北に接する下音羽で発見されたキリスト教遺物のうち、時期が推察できるものは次のとおりである。

○教皇グレゴリオ14世のメダイ

→教皇の在位は1590～1591年であることから1591年以降にもたらされたものか

○『とちりいなきりしたん』写本

→1591年の初版の写しだることから1592～1600年の間にできた写本か

○教皇クレメンス8世の聖年記念メダイ→1600年銘

○「佐保カラ」墓碑→慶長6（1601）年（図8）

- 「上野マリヤ」墓碑→慶長8（1603）年（図8）
 - 「銭原マルタ」墓碑（高雲寺境内）→慶長15（1610）年
 - 「□源左衛門」墓碑（高雲寺境内）→慶長18（1613）年
 - 聖フランシスコ・ザヴィエル列福記念メダイ
→ザヴィエル列福が元和5（1619）年であることから、元和5（1619）年以降にもたらされたものか
 - 聖フランシスコ・ザヴィエル像、マリア十五玄義図（原田家本、東家本）
→ザヴィエル列聖が元和8（1622）年であることから、元和8（1622）年以降にもたらされたものか
- 以上のように、千提寺、下音羽のキリスト教関係資料は、1590年代から1620年代に位置付けられることから、この地にキリスト教信仰が根付いた時期は、高山右近の領地となった1570年代から、寛永年間のはじめである1620年代までの約60年間であることがうかがえる。

千提寺周辺は、右近が明石へ移封となった後、秀吉の部下でキリスト教である安威了佐が代官をつとめるが、慶長5（1600）年にはイエズス会年報に「異教徒の領主の支配下にある」とあり、安威了佐は代官ではなかったようである。元和5（1619）年頃には板倉周防守重宗の知行地となり、板倉氏はキリスト教に対し寛容な態度をとったらしい。しかし、寛永14（1637）年の島原の乱以降、大目付井上筑後守によるキリスト教取締りは厳しさを増し、潜伏キリスト教の時代へと移行する。千提寺周辺のキリスト教遺物の時期は、こうした社会情勢を反映するものであろう。

大正8（1919）年から昭和5（1930）年にかけて、千提寺安元地区の藤波大超氏が東藤次郎氏の協力を得て、「上野マリヤ」と書かれた墓碑をみつけたのを皮切りに、数々のキリスト教遺物が周辺の民



大石一久編 2012 『南島原市世界遺産地区調査報告書 日本キリスト教墓碑総覧』より転載

図8 千提寺地区的キリスト教墓碑

家から発見された。その後、下音羽でも「マリア十五玄義図」「象牙彫キリスト磔刑像」などが発見された。これらのキリスト教遺物の一部は、神戸市立博物館や京都大学総合博物館に保管されている。千提寺には昭和62（1987）年に茨木市立キリスト教遺物史料館が設置され、平成24（2012）年には創立25周年を迎えた。今回報告する千提寺クルス山遺跡は、まさにこの「上野マリヤ」墓碑がみつかった場所である。

第4節 近代以降の千提寺地区

千提寺は、大阪近郊でありながら、山間部に棚田が整然とひろがる風景で知られ、これまで多くの人々を魅了してきた。調査に入る前の踏査においても、棚田には谷奥に湧き出た清水が流れ、千提寺の米が近代において、周辺他村に比べ格付けが高いとされてきたことも理解できた。

また、千提寺では酒造米の生産も盛んであり、伊丹、池田、灘といった大酒造地へ売却されていた。近代の一時期には、千提寺のクルス山周辺において酒造が試験的に行われていたということを地元でうかがった。千提寺市阪遺跡2区と千提寺クルス山遺跡1区の間に入る谷奥で試掘調査を行った際、近代に位置付けられる石組の円形の窯が検出された（写真21）。近代における地元での酒造と関連しないものか、検討を要する遺構である。



写真21 千提寺クルス山周辺の窯（南から）



写真22 千提寺西遺跡 11-1-1区
第1面 2土坑（南西から）



写真23 千提寺西遺跡 11-1-2区
第1面 43土坑（北東から）



写真24 庚甲塚と一石五輪塔

千提寺は、米作りのほか、ウドの栽培でも知られる。「三島ウド」と称される茨木市特産のウドは、江戸時代天保年間から茨木市の山間部を中心に栽培されており、千提寺においても近年までウドの販売所があったことが地図からうかがえる。

また、北摂では高槻市を中心に寒天製造が盛んであった。これは、摂津国島上郡原村の宮田半兵衛が、農閑期の副業にと天明元（1781）年寒天の製法を学び、試作に成功したことに始まる。明治維新後、政府の貿易重要品として寒天製造は大きく伸長した。下音羽では昭和41年まで操業されており、寒天小屋が釜やフェなどの製造道具とともに残っていた。千提寺においても千提寺西遺跡11-1-1区に隣接して寒天小屋が残っていた。千提寺西遺跡11-1-1区では第1面において、緩斜面を利用した明治時代の窯跡を検出した（写真22）。寒天製造に関連する遺構となる可能性が考えられる。

近代の窯は、千提寺西遺跡11-1-2区においても検出した。天満宮と天満宮御旅所をつなぐ道に沿った高台で検出したものである（写真23）。遺物は無く、性格は不明であるが、炭焼窯であろうか。これも検討を要する遺構である。

天満宮と天満宮御旅所をつなぐ道は、千提寺西遺跡11-1-1区の南西隅部にあたる箇所で小さな広場となり、崖面には庚申塚が祀られる（写真24）。庚申塚には「明治元年□十二月十日」、台石に「講中」と刻まれ、改修の際、背後から一石五輪塔が発見された。この広場からは千提寺の中心となる谷を一望することができる。長く村中の信仰の場であったことがうかがわれる。

千提寺周辺の地質は、安威川上流から中流、京都府亀岡市までは古・中生界の丹波層群から構成されるが、千提寺が位置する童王山より南側は中生代白亜紀の花崗岩類で構成される。今回の調査で地山とした花崗岩は、阪神間の御影石と呼称される花崗岩に比べ、脆く加工しやすい石質であり、風化してマサとなりやすい岩質である。千提寺では、矢穴をもつ花崗岩が多くみられ、国見墓地に隣接する石切場の存在も明らかにされている。近代以降、この花崗岩が石材として多く売却されたことを地元の方にうかがった。千提寺ではこうした石材の採取も、村を支える産業のひとつであった。

なお、平成26年12月に千提寺菱ヶ谷遺跡が新規の遺跡として周知された。同遺跡は、日奈戸遺跡の北西に隣接し、中世～近世の墓域が検出されている。

〈参考文献〉

- 浅野ひとみ他 2014『千提寺・下音羽のキリストン遺物研究』
茨木市教育委員会 1988『わがまち茨木 地名編』
茨木市史編纂委員会編 2012『新修 茨木市史 第一巻 通史1』
大石一久編 2012『南島原市世界遺産地域調査報告書 日本キリストン墓碑総覧』
公益財團法人大阪府文化財センター 2013『千提寺西遺跡の調査 現地説明会資料』
公益財團法人大阪府文化財センター 2014『発掘！検証！キリストン墓—高山右近とキリストン』
公益財團法人大阪府文化財センター 2014『公益財團法人大阪府文化財センター調査報告書第245集 千提寺南遺跡』
(財)大阪府文化財調査研究センター 1999『(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第40集 彩都(国際文化公園都市)周辺地域の歴史・文化総合調査報告書』
(財)大阪府文化財調査研究センター 2000『(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第56集 佐保栗柄山塙跡』
(財)大阪府文化財調査研究センター 2000『(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第57集 栗柄山南墳墓群』

第3章 調査成果

第1節 概要と基本層序

全体の調査を概観すると、表1のとおり、丘陵部における調査では墓域を5箇所、谷部における調査では集落域を8箇所検出した。そのため、報告についても、墓域と集落域に分割して行う。なお、集落域は居住域と生産域を含めて考えている。千提寺西遺跡8区と同10区については、顕著な遺構が検出されなかっただため、表には含めていない。

墓域では中世墓、長方形墓（キリストン墓）、近世墓を検出した。以下、墓域各区の概要を記す。

千提寺西遺跡3・4区は、丘陵尾根上から南側斜面にひろがる中世墓を検出した。また、これに後出する長方形墓（キリストン墓）を10基検出した。ほかに近世墓が2基ある。中世墓が主となる墓域であり、中世墓と長方形墓（キリストン墓）との関連をうかがうことができる。また、中世から近世初頭にかけての焼土坑（火葬場）を1箇所検出した。

千提寺西遺跡5区は、千提寺西遺跡3・4区の西に道を隔てて隣接する。丘陵の山頂から南へのびる尾根上で近世墓の一群を、山頂から東へのびる尾根上で長方形墓（キリストン墓）を含む9基の土壙を検出した。なお、東へのびる尾根の延長上は千提寺西遺跡3・4区へと連なり、両区は南北に通る道で分断される。

千提寺西遺跡6区は、千提寺西遺跡5区の南側に位置する。千提寺西遺跡5区の山頂から南へのびる尾根がいったん下降し、旧道の入口であった広場をはさんで南側の独立丘陵状の尾根に千提寺西遺跡6区は立地する。近世墓が尾根頂部から南へ下降する尾根上にひろがり、その南端裾部で焼土坑（火葬場）を検出した。焼土坑（火葬場）は、近世と中世末～近世初頭の2箇所がある。

千提寺市阪遺跡2区は、大岩川沿いをはるる清阪街道の西側丘陵尾根上に位置する。中世墓1基と近世墓が集中する一群があり、これらとやや離れた位置で長方形墓（キリストン墓）を2基検出した。

千提寺クルス山遺跡1区は、千提寺市阪遺跡2区が立地する丘陵から西側へ狹溢な谷をはさんだ丘陵尾根上に位置する。尾根上で列状に並ぶ長方形墓（キリストン墓）とともに中世墓と近世墓を検出した。尾根の西側斜面には小さな平坦面が2箇所あり、それぞれ中世墓と近世墓を検出した。この墓域は、

表1 調査の概要

遺構の性格と立地	調査区	字名	墓の総数	中世墓	長方形墓 (キリストン墓)	近世墓	焼土坑 (火葬場)	掘立柱建物	棚田
墓域(丘陵部)	千提寺西遺跡3・4区	墓の丸	86	74	10	2	1		
	千提寺西遺跡5区	マエノヤマ	71	0	9	62	0		
	千提寺西遺跡6区	淨土墓	66	0		66	2		
	千提寺市阪遺跡2区	市坂	86	1	2	83	0		
集落域(谷部)	千提寺クルス山遺跡1区	クルス山	37	6	8	23	3		
	千提寺西遺跡11-1-1-1~4区	カネブン場						○	
	千提寺西遺跡1区	カネブン場						○	○
	千提寺西遺跡2区	カネブン場						○	
	千提寺西遺跡7区	スケノ畑						○	○
	千提寺西遺跡9区	滝尻						○	
	日奈戸遺跡1~3区	日名戸						○	
	千提寺市阪遺跡1・3区	市坂						○	○
	千提寺クルス山遺跡2区	クルス山						○	

*字名は図7参照

他の墓域と異なり、中世墓、長方形墓（キリシタン墓）、近世墓が混在する様相を示す。

集落域は、棚田を検出した生産域と掘立柱建物を検出した居住域がある。以下、各区の概要を記す。

千提寺西遺跡11-1-1～4区は、千提寺西遺跡3・4区の墓域がひろがる丘陵の南東側に位置する。ここでは、谷部に設営された中世、13世紀前後の棚田を検出した。耕土出土遺物から、棚田の開発は古代末、10世紀前後にさかのぼる可能性がある。

千提寺西遺跡1区は、千提寺西遺跡3・4区の墓域がひろがる丘陵の北東側に位置する。掘立柱建物と棚田を検出した。中世、13世紀前半の棚田の開発と、これに従事した人々の居住をうかがうことができる。

千提寺西遺跡2区は、千提寺西遺跡3・4区の墓が立地する丘陵の東側で、千提寺西遺跡1区の南側に位置する。古代末から中世、10世紀後半を上限とし14世紀前葉を下限とする時期の、旧流路部分を利用した棚田の開発をみることができる。

千提寺西遺跡7区は、千提寺西遺跡5区の墓域がひろがる丘陵の西側に位置する谷部である。古代末、10世紀後葉から11世紀前葉の掘立柱建物からなる居住域を検出した。出土遺物は、8世紀末から11世紀後葉に及び、この間、居住域が展開した可能性がある。

千提寺西遺跡9区は、千提寺西遺跡3・4区の墓域がひろがる丘陵の南側に位置する。西が高く東へ

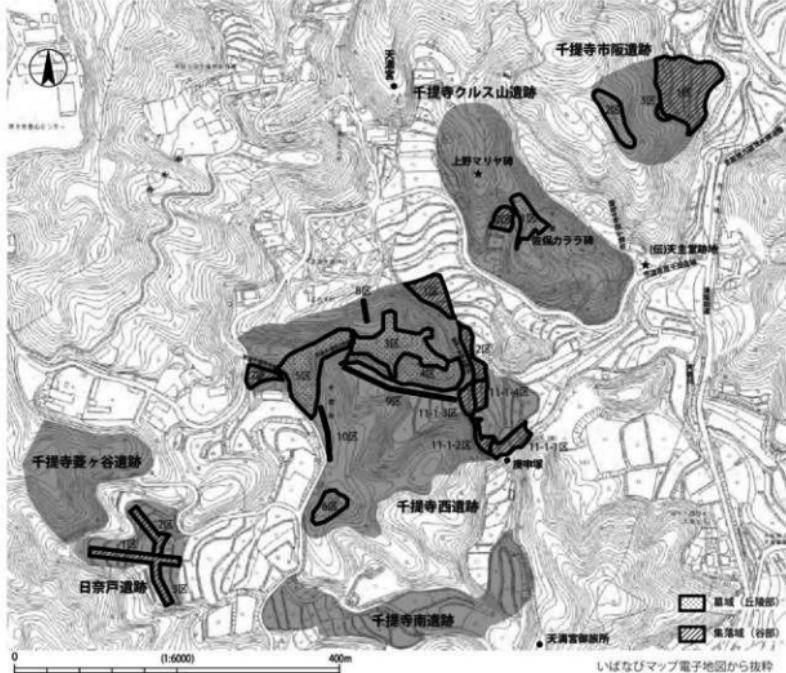


図9 各遺跡の墓と集落

【千提寺西遺跡 5区南北断面】

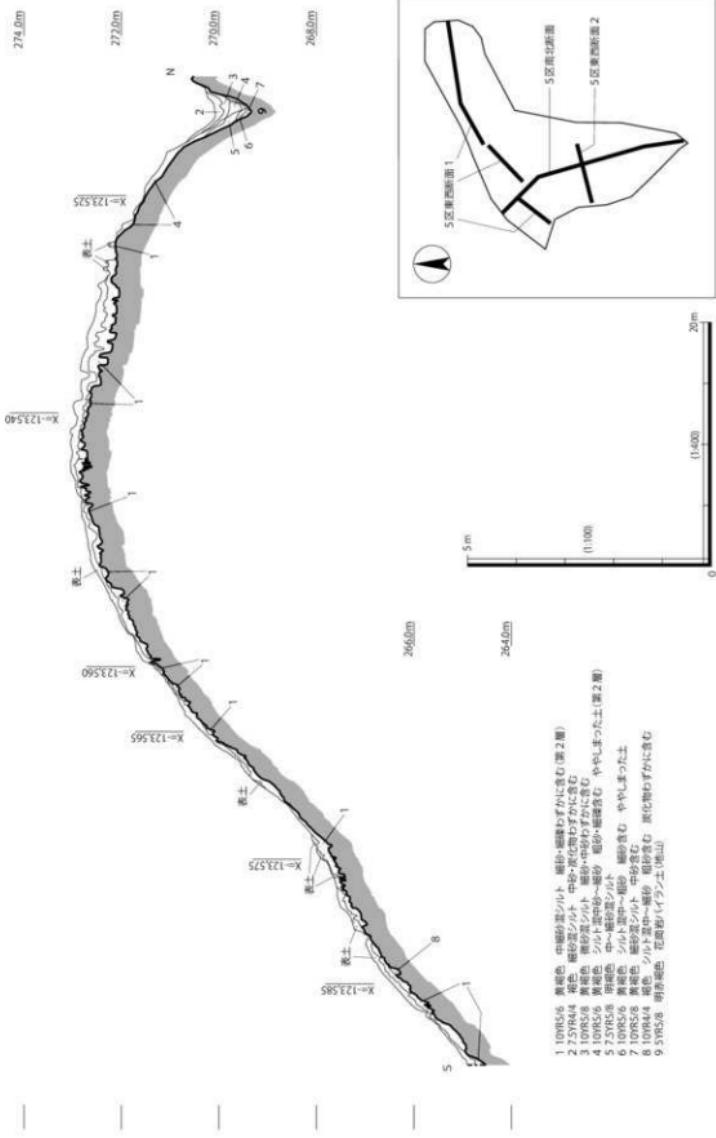
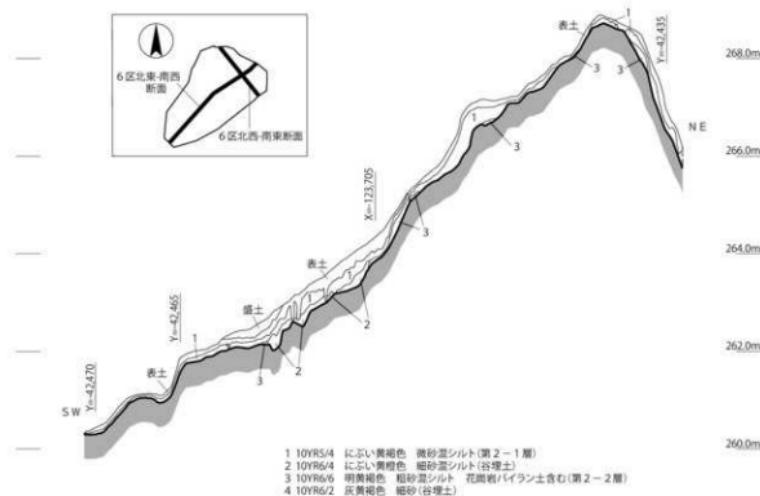


図 12 千提寺西遺跡 5区 南北断面図

【千提寺西遺跡 6 区北東—南西断面】



【千提寺西遺跡 6 区北西—南東断面】

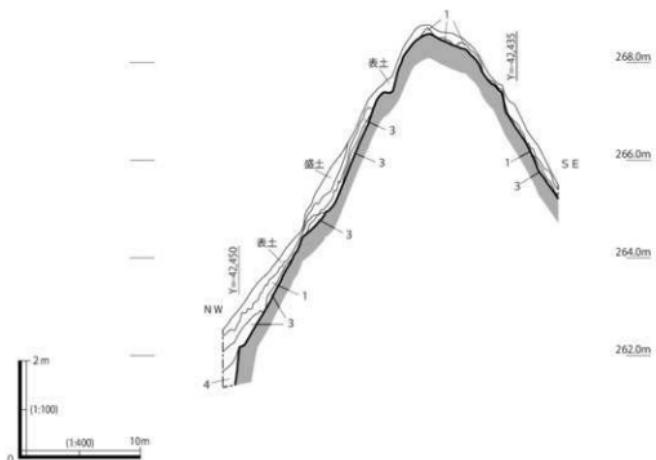


図 13 千提寺西遺跡 6 区 断面図

【千提寺市阪遺跡 2 区東北断面】

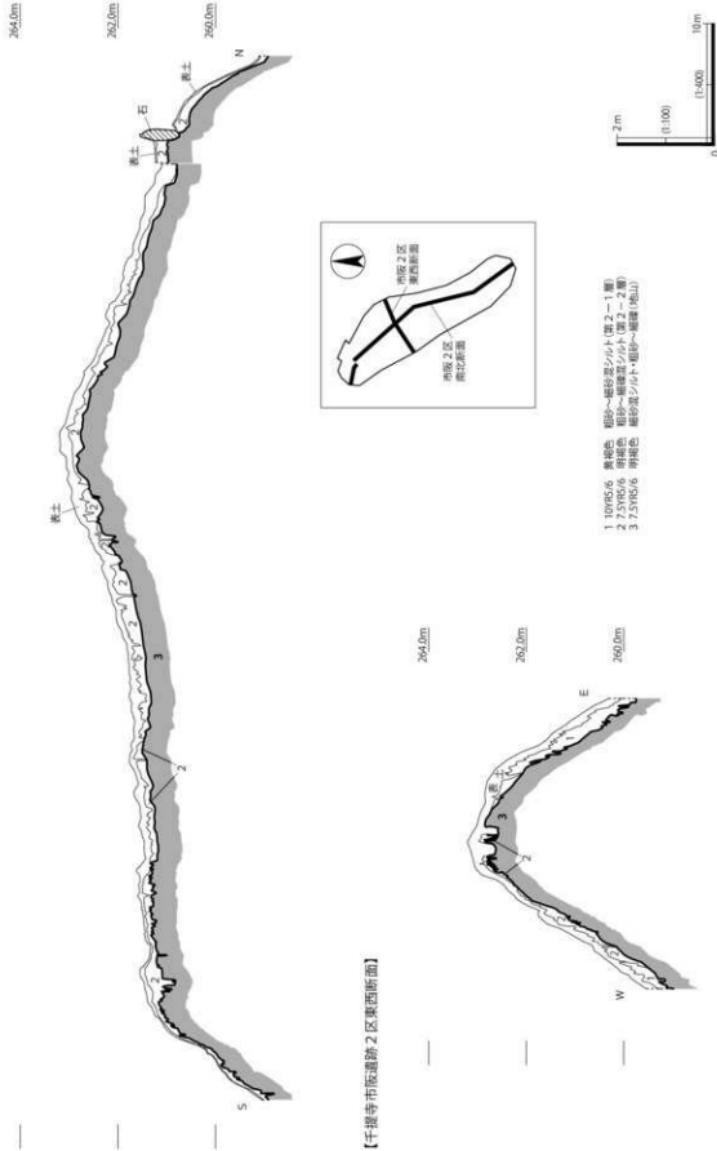
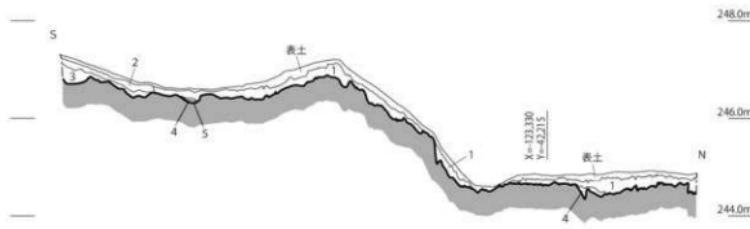


図 14 千提寺市阪遺跡 2 区 断面図

【千提寺クレス山遺跡 1区南北断面】



- 1 7.SYR6/6 棕色 細砂～粗砂混砂質土 直径2～5mmの花崗岩礫含む(第2層)
 2 7.SYR6/3 棕色 細砂～粗砂混砂質土
 3 7.SYR5/6 明褐色 細砂～中砂混粗砂 直径2～5mmの花崗岩礫含む
 4 10YR6/4 に近い黄褐色 細砂～中砂混粗砂 一边1～3cmの各種含む(道構理土)
 5 10YR5/3 に近い黄褐色 細砂～粗砂混砂質土(道構理土)

【千提寺クレス山遺跡 1区東西断面】

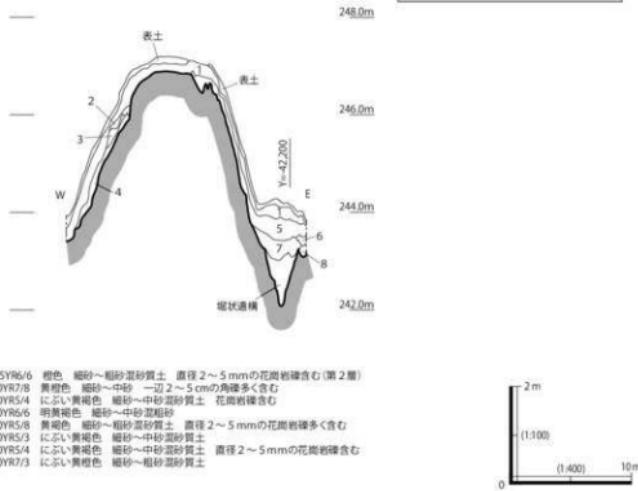
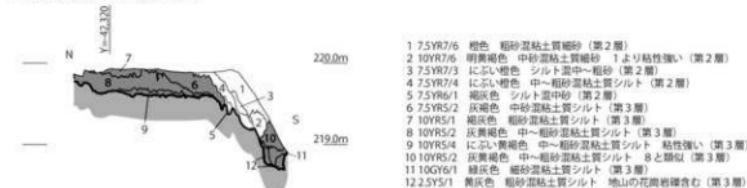
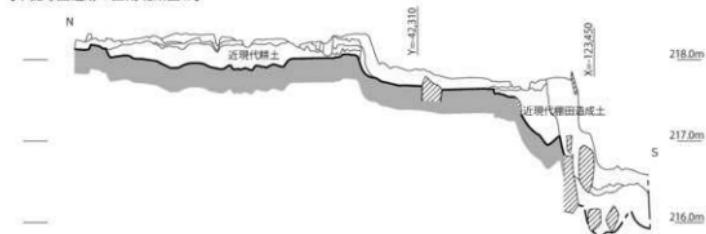


図 15 千提寺クレス山遺跡 1区 断面図

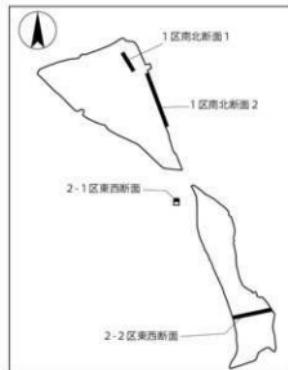
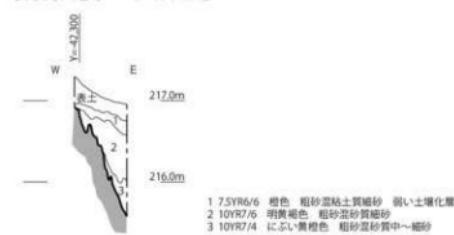
【千提寺西遺跡 1区南北断面 1】



【千提寺西遺跡 1区南北断面 2】



【千提寺西遺跡 2-1区東西断面】



【千提寺西遺跡 2-2区東西断面】

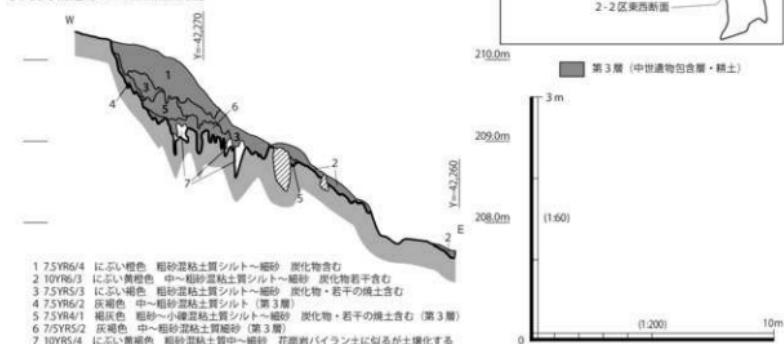


図17 千提寺西遺跡 1・2-1・2-2区 断面図

【千提寺西遺跡7区北西-南東断面】

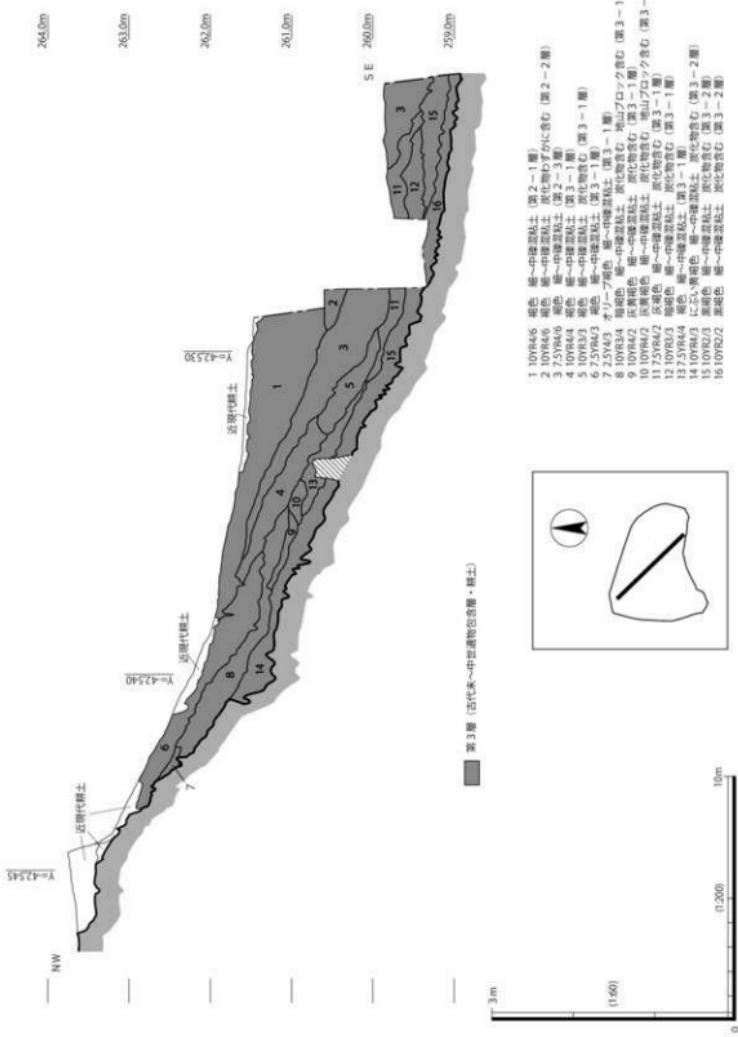


図18 千提寺西遺跡7区 断面図

【千提寺西遺跡8区南北断面】

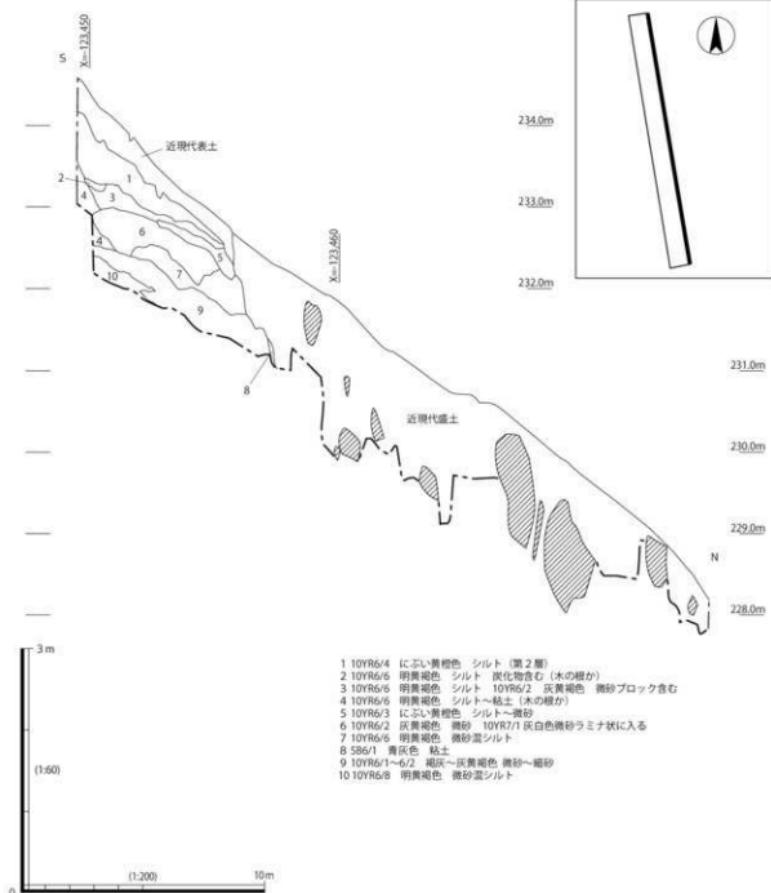


図19 千提寺西遺跡8区 断面図

【千提寺西遺跡10区南北断面】

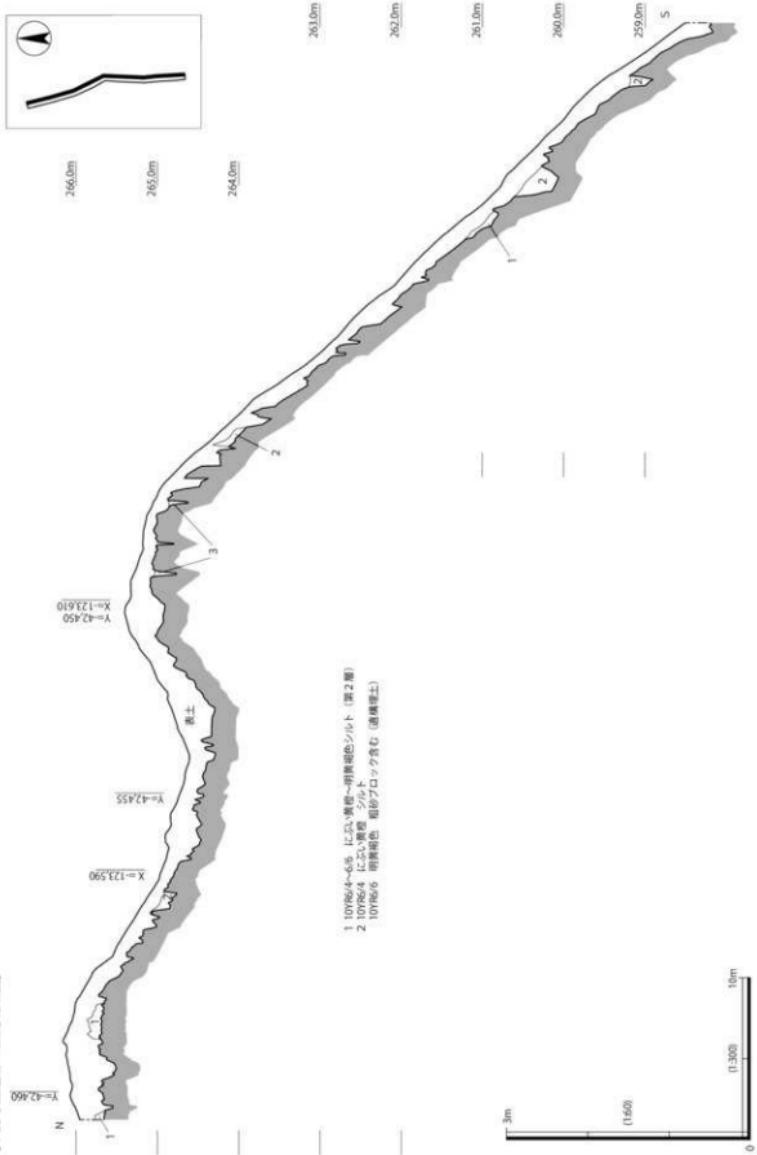
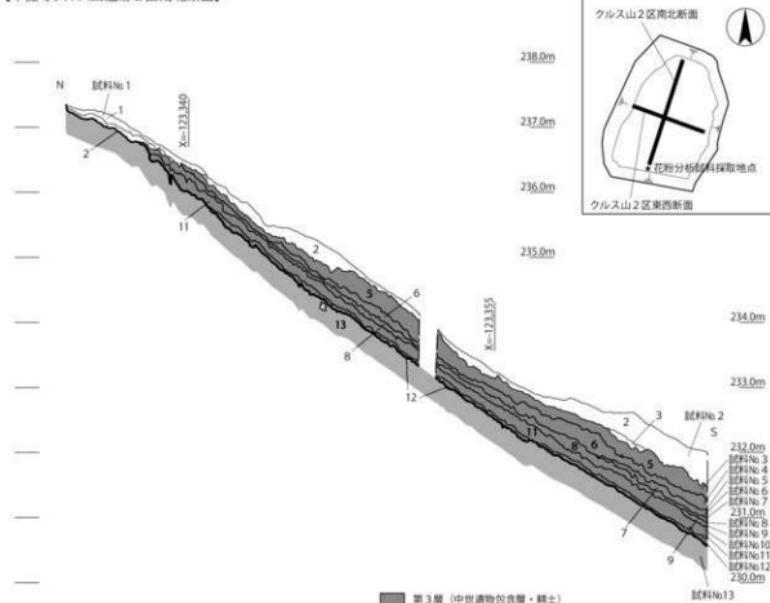


図 20 千提寺西遺跡 10 区 断面図

【千提寺クルス山遺跡 2区南北断面】



【千提寺クルス山遺跡 2区東西断面】

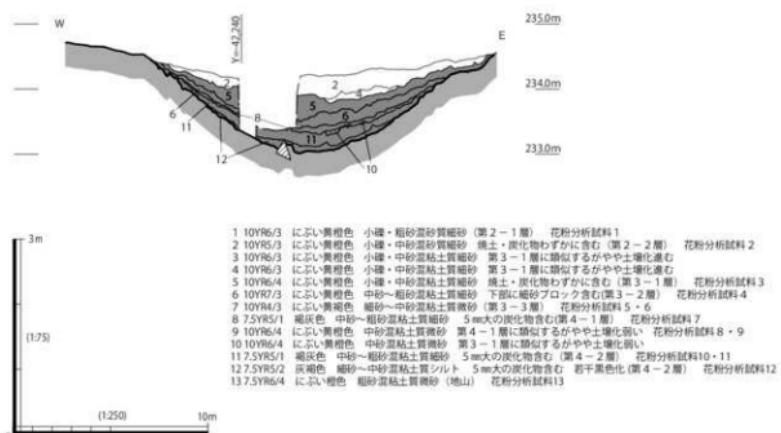


図24 千提寺クルス山遺跡 2区 断面図

下降する狭い谷部であり、東側は千提寺西遺跡 11-1-3・4 区の棚田へつづく。13 世紀以降の棚田を検出しておる、近世には谷頭まで棚田の開発が及ぶ。

日奈戸遺跡は、千提寺西遺跡 6 区の墓域がひろがる丘陵の西側に位置する。周囲を丘陵で囲まれ、西から東へ下降する独立した谷部である。棚田を検出し、開発は 11 世紀にさかのぼる可能性がある。下層では、弥生土器、縄文土器が出土した。

千提寺市阪遺跡 1 区は、千提寺市阪遺跡 2 区の墓域がひろがる丘陵の東側に位置し、大岩川へ向かって東へ下降する谷部の斜面に立地し、清阪街道に面する。掘立柱建物とピット群を検出し、古代末～中世、10・11 世紀～13 世紀の居住域が丘陵裾部にひろがる。その下方では 13 世紀を中心とする棚田を検出した。下層では、縄文土器、石器が出土した。

千提寺クルス山遺跡 2 区は、千提寺クルス山遺跡 1 区の墓域がひろがる丘陵の西側に位置する、小規模な谷部である。12 世紀前後から耕作痕が認められ、棚田の造成は近世中頃以降である。

以上の墓域と集落域について、地形を加味し各遺跡を概観すると次のとおりである。

千提寺地区は大岩川沿いにはしる清阪街道を地区の東端とし、その西側にひろがる丘陵部と谷部からなる。

大岩川から西へ順にみると、千提寺市阪遺跡、千提寺クルス山遺跡、千提寺西遺跡が立地する丘陵が北西から南東方向へとのびる。千提寺市阪遺跡では、丘陵上に墓域である 2 区が、丘陵の東側裾部に集落域である 1 区が立地する。千提寺クルス山遺跡では、丘陵上に墓域である 1 区が、その西側の谷部に集落域である 2 区が立地する。千提寺市阪遺跡と千提寺クルス山遺跡では、墓域と集落域がひとつのまとまりとして捉えることができる。千提寺クルス山遺跡と千提寺西遺跡の間には、谷頭に天満宮が位置する幅広い谷が南東へ向かって下降する。天満宮の西側丘陵上は、現在の千提寺地区的集落の中心であり、人々が集中する。千提寺西遺跡は、こうした人々が集中する丘陵の南側に位置する。千提寺西遺跡では、丘陵上に墓域である 3・4 区とその西側に 5 区がひろがり、3・4 区の東側裾部に集落域である 1 区、2 区、11-1-1～4 区が、5 区の西側谷部に集落域である 7 区が立地する。これらの墓域と集落域はひとつのまとまりとして把握できる。一方、千提寺西遺跡 6 区の墓域と日奈戸遺跡の生産域は、このまとまりとは距離をおいた丘陵部と谷部であり、それぞれ独立して捉えられる。

層序は、主に墓域が立地する丘陵部と集落域が立地する谷部について、基本的に下記のことを共通とした。なお、丘陵部では花崗岩を、谷部では礫層または青灰色シルト層を地山とした。各区の層序ならびに遺構面の詳細については、必要に応じて各区の報告のなかで記す。

墓域（丘陵部）

第 1 層 表土

第 2 層 黄褐色シルト～微砂混シルト。いわゆる山上であり、上位がシルト、下位には微砂が混じり、下位は地山である花崗岩類を母材とする表層風化土（バイラン土）である。中近世の遺物が出土する。

集落域（谷部）

第 1 層 近現代耕土ならびに棚田造成土。

第 2 层 灰黄褐色シルト～細砂混シルト。主に中世の遺物が出土するが、わずかに近世磁器を含む。中近世耕土。

第 3 層 灰褐色シルト～粘土。中世の遺物が出土する。中世耕土。

第2節 墓域の調査

(1) 千提寺西遺跡3・4区

千提寺西遺跡3・4区は、千提寺西遺跡の中央やや北寄りに位置する。千提寺西遺跡のなかで最も標高が高い箇所は5区の近世墓が検出された地点である。3・4区はここから東へのびる丘陵部の東側にあたり、5区とは南北方向に通る道を境とする。地形からみて、この道は東へのびる尾根を分断して設けられたものと考えられる。

調査地はこの道から東にひろがる丘陵部であり、尾根上の平坦面を経て山頂に至り、山頂からは東と北に尾根があり、北の尾根は急な傾斜をもって、東の尾根はなだらかに谷部へ向かって下降する。この東へのびる尾根筋の北側ならびに南側は、急な斜面であり、それぞれ谷部へ向かって下降する。3・4区が立地する丘陵部は、その東側の谷部地形が幅広く、清阪街道に向けて開いているため、清阪街道からは、調査地を直接西に望むことができる。また、丘陵部の北側、東側、南側が谷部でへだてられていることから、調査地は、周辺から望むと山容のなだらかな独立した丘陵状にみえる。調査は、丘陵部のほぼ中腹で調査地を区分し、上部、山頂側を3区、下部、山裾側を4区とし、3区、4区の順で実施した。

調査地は、「墓の丸」の字名があり、調査前より石仏、五輪塔の部材が分布することから、中世墓の存在が予測された。山頂では石仏が据えられた状態で、山腹や山裾ではその多くが横位または裏面を向いた状態で埋もれており、山頂の墓域から石造物が転落したものと考えられた。この丘陵部は、現在、墓は營まれておらず、地元では古い墓の存在が伝えられてきた場所である。

層序は上層から、表土（第1層）、山土であるにぶい黄褐色微砂混シルト（第2-1層）、地山の風化層である花崗岩バイラン土を含む明黄褐色粗砂混シルト（第2-2層）であり、地山は花崗岩である（図10・写真図版3-1～6）。3区では、尾根上から中腹の3・4区境にかけて表土（第1層）を除去後、第2-1層除去後面を第1面、第2-2層除去後面、すなわち地山上面を第2面とした。平坦地が狭溢で急峻な地形であるため、すべて人力による掘削、調査を実施した。4区においても基本的に3区同様の調査を実施した。

3・4区の調査では、主に3区で墓域を検出した。墓域は山頂尾根部からその南側緩斜面にひろがり、微視的にみると、山頂南側緩斜面の墓群と山頂西側平坦面の墓群がある（図25・28・写真図版16-1～3・17-1・2）。

こうした墓域のあり方を念頭におき、以下、各面の概要を記す。

第1面では、墓域において、焼土坑（火葬場）、道路状遺構のほか石組を含む石のひろがりを検出し、墓域以外の区域では土坑を検出した（図25・26・写真図版14）。

焼土坑（火葬場）は、山頂西側平坦面からその南側斜面にかけて検出したもので、墓域の西端に位置する。後述する道路状遺構からみると、墓域の入口付近に位置することになる。詳細については、その他の遺構で後述する。

道路状遺構は、尾根上に沿って検出された。道路状遺構（40、41溝）は、幅約50～80cm、深さ約5cmの浅い溝状の窪みである（写真図版25-1・2）。溝状の窪みは山頂付近のみで検出されたが、窪みはないものの、尾根上は幅1～2mの平坦な空閑地が山頂までつづくことから、本来、尾根上全体が道として機能したと考える。尾根上の道の西端は、やや北にふれて、調査地

西側を南北に通る現在の道につながるものであろう。この道は、調査区北側にある現在の千提寺地区集落につながっており、現在の集落域と当区の墓域との関連がうかがえる。尾根上の道の東端は、尾根が東と北に分岐する山頂付近、山頂にひろがる墓群の手前と考える。なお、道路状遺構は第2面においても共通する。

石組を含む石のひろがりは、墓域全面で検出した。石組の多くは拳大から人頭大の自然石であり、これに石仏、五輪塔の部材が含まれる。一石五輪塔は一点、単独で出土したのみである。石仏、五輪塔は正立するものは数少なく、横位、平置きのものが大半である。また、自然石の多くは組まれた状態ではなく、散在する状態である。石組はとくに山頂南側緩斜面の西側（67・68・69石組）と東側（126石組）で広範囲に重層するものが認められ、二次的な移動とまとめて置かれた可能性が考えられる。これらの石組の詳細については、その他の遺構で後述する。

墓域以外の区域では、土坑を検出した。50土坑は北へのびる尾根の先端、64土坑は東へのびる尾根の先端、57土坑、61・62土坑は南東へのびる尾根の北側斜面で検出した（図25・写真図版19-1~6）。50土坑、64土坑、61・62土坑は一辺3~4m前後の方形または長方形であり、深さは30~50cm前後である。炭化物が厚さ10~20cm前後堆積し、除去後面は被熱のため赤色を呈する。遺物は出土せず、時期や性格は不明であるが、立地や規模などが類似することから、これらの土坑は同様の性格のものと考える。人骨片は出土せず、火葬場や火葬墓となる可能性は低い。周辺の環境からは、炭焼きの可能性が考えられるが、断定するには至らない。

4区の南側裾部、中央よりやや東側には小規模な谷部があり、二段に落ちる段を検出した（図25・27・写真図版23-8）。また、ここから谷頭にかけて石造物がまとまって出土しており、山頂の墓域から転落したものであろう（図25~27・写真図版24-2~5）。二段に落ちる段では耕土が認められ、小規模な棚田が営まれていたと考えられる。段の周辺では、石仏が横に並んだ状態（250~252石仏）で出土することから、水田の段の造成時に石造物が石組として転用されたものと考えられる。

第1面の遺構の時期は、中世から近世である。

第2面では、墓域において、86基の墓とともに焼土坑（火葬場）である22土坑、道とみられる1堀を検出した。22土坑と1堀については、その他の遺構で後述する。その他、東側裾部では焼土坑、落込み、溝を検出した（写真図版26）。

a. 墓域

3・4区で検出した墓は、86基である。墓の形態は土壙が基本であり、出土状況からは土葬、火葬のほか、いずれか判断できないものを含む多様な埋葬形態が認められる。出土遺物は中世のものが大半であり、近世のものは3基を数えるにすぎない。3・4区は主に中世墓を中心とする墓域である。

墓域は先述したとおり、山頂尾根部からその南側緩斜面にひろがり、微視的にみると、山頂南側緩斜面の墓群と山頂西側平坦面の墓群がある。その他、調査区西端の1堀上面から尾根上にかけて数基の墓がひろがる。北側斜面では墓はみられない。

墓は、第1面で上部施設の石組を、第2面で土壙を検出した。第1面において石組に伴う土壙の存在が明らかなものは石組と土壙と同じ番号としたが、第1面において石組はあるものの下部土壙の存在が不明であり、第2面に至ってから土壙を確認したものは、第1面の石組の番号と第

2面の土壤の番号が異なっている。個々の墓における上部施設の石組と土壤の対応については、墓の個別報告のなかで明記した。

墓の上部施設は、山頂東側に広がる墓群で顕著である(166、167、179①～③、182石組)。179①～②土壤の上部施設である179①～②石組は、自然石を円形または方形にめぐらせ、内側を充填し、複数段の自然石からなる石組であり、本来の形状がうかがえる(写真図版23-7)。

上部施設のなかで注意されるものは、166 土壙の上部施設である 166 石組である。166 石組は大小の自然石を面的に長方形に敷くものであり、今回の墓域の調査では他に例が無い。5 区 5 土壙のキリストン墓の可能性をもつ長方形墓の上部施設は、長方形の枠状に自然石がめぐるものであり、やや異なるものの、長方形という点では一致する。ただし、下部の 166 土壙は典型的な長方形ではなく、やや長辺が短い長方形であり、人骨が出土せず伸展葬か否かは不明である。166 土壙は、上部施設からはキリストン墓の可能性が考えられるが、下部土壙の形状や出土状況からはキリストン墓と断定するには至らない。

その他、尾根に縦列する墓（154～156、159 土壙）のうち 156 土壙の上部施設である 156 石組は、方形の台石の周囲に拳大の自然石がめぐり、台石上面では同様の自然石が数個まとめて置かれた状態で検出した。このような上部施設も、今回の墓域の調査では他に例がない。多くの土壙上面の上部施設は、単独あるいは数個体の自然石が残存するのみであり、石組の様相を呈するものは数少ない。本来存在した上部施設は後世の二次的な移動により大半が失われたものと推察する。74 土壙と 204 土壙は、土壙上面に隣接した箇所で前者は 73・74 石組が、後者は 160 石組があり、このような出土状況からは、本来存在した上部施設の自然石が脇に寄せられた可能性が考えられる。なお、石仏や五輪塔部材などの石造物が上部施設となる墓は認められなかった。しかし、散在する扁平な自然石（写真図版 20-4・5、21-2）は石造物の基礎石と想定できる。また、本区では、キリストン墓の可能性がある長方形墓において、明確な上部施設は確認できなかつた。

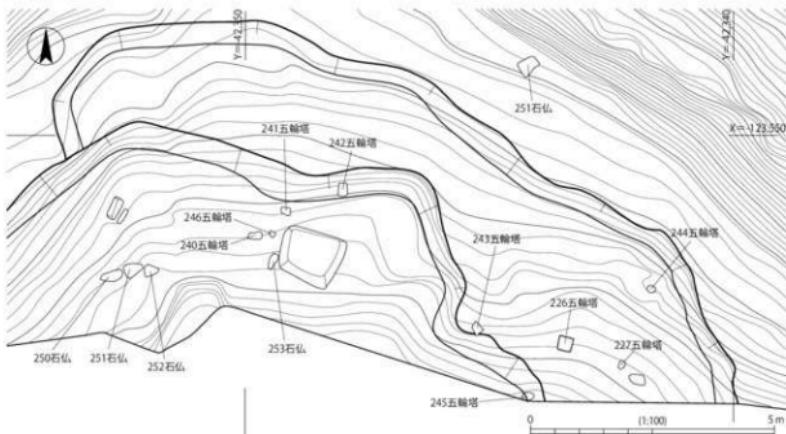


図27 千提寺西遺跡3・4区 第1面 谷 平面図

墓の形は、検出面、底面ともに円形、方形のものが多く、その他長方形の一群がある。円形、方形の墓は近接するが、重複するものは少ないとから、本来は上部施設が存在していた可能性が高い。長方形墓は円形、方形の墓を切っていることから、円形、方形の墓が設けられた後、長方形墓が設けられたと考えられる。

円形、方形の墓は、直径あるいは一辺が約1m、深さ約20～40cmのものが大半であり、断面形は浅い皿状のものが多い。これらの墓には釘が出土するものがあり、棺の使用が想定されるが、釘の出土状況や断面観察からは、棺の形状を知ることはできなかった。方形の墓には、やや長方形に近い形状を示すものが含まれ、こうした墓の断面形は壁がやや内傾するU字形である。山頂の尾根上に東西に並ぶ墓はこの形状のものが多い(31、155、156、165～167、93、94、177、179①、179③、180土壤)。また、ここに挙げた土壤は、隣接する土壤の形状、大きさが類似しており、何らかの関連がうかがえる。

本区の墓で、確実な土葬墓は、キリストン墓の可能性がある長方形墓の一群のほかは円形の墓であり、頭蓋骨が残存する(13、110、126①、126②、205土壤)。方形の墓でやや長方形に近い形状を示す墓は、確実な土葬墓が見当たらないことから、円形の墓と土葬との関連がうかがえる。

長方形墓は、山頂周辺の墓群(42、164、81・83、161、204土壤)と山頂西側平坦面の墓群(18、146、142、143、206土壤)があり、前者は尾根の方向に沿ってほぼ東西方向に、後者はほぼ南北方向に軸をそろえる。断面形は壁がほぼ垂直の「コ」字形で、整った形状を示し、深さは50～80cmと深い。長方形墓は、人骨や釘の出土状態から、長方形木棺に伸展位で葬られた埋葬方法が考えられる。副葬品は出土しない。長方形墓は、上部施設については自然石が1～3点残るのみであり、上部施設の有無や本来の形状は不明である。しかし、本区の長方形墓は、軸をそろえた配列が顕著であり、また長方形木棺に伸展位で葬られた埋葬方法が明らかであることからキリストン墓の可能性が考えられる。

人骨は、先述したとおりその多くが円形または長方形墓で出土する。円形の墓では頭蓋骨が残存するものの他の骨はほとんど残存せず、埋葬の姿勢は判然としないが、土坑の形状からは横臥屈葬の可能性が考えられる。頭位については、西または北西が多い(13、24、110、126①、126②土壤)。長方形墓では、9基中7基で人骨が出土しており、山頂周辺の墓群では頭位を東に(81・83、161土壤)、山頂西側平坦面の墓群では頭位を北に(143、146土壤)置く。頭蓋骨と大腿骨が認められ、伸展位での埋葬が明らかである。

本区の墓では、火葬骨が多く出土する。火葬骨は長さ3～5cmの骨片で、やや白化する。火葬骨は土壤に直接埋葬される場合と蔵骨器に入れて埋葬される場合があり、蔵骨器に入れて埋葬されるものは、他所での火葬が考えられる。蔵骨器には羽釜(70、118、179②土壤)と鍋(137土壤)がある。土壤に直接埋葬される場合は、土壤に被熱が認められ炭化物が堆積することから、その場での火葬と埋葬が推定される場合(4、5、6、7、10、19、51、90、152、182土壤)と、少量の炭化物と火葬骨が出土することから、他所での火葬、拾骨後の埋葬が推定される場合(16、33、82、93、95、154、177、179①、183、216土壤)がある。他所での火葬は、焼土坑(火葬場)である22土坑でなされた可能性が高い。埋葬される火葬骨は、頭蓋骨片や大腿骨片を含む骨片であり、被熱によりヒビが入る骨片もみられる。

副葬品は、土師器皿、瓦器椀、銭貨、金属製品が出土した。その他、釘が出土しているが、これは木棺に使用されたものと考えられる。

土師器皿は、1～2点出土する墓が大半であるが、3～6点まとめて出土する墓もある（10、20、150、184、201土壙）。土師器皿がまとまって出土する墓のうち、20、150土壙は浅く、小さな円形土坑であり、人骨が出土しないことから、墓ではない可能性もまた考えられる。土師器皿は、破片が多く、時期の特定が困難であるが、13世紀から16世紀の幅に含まれるものとみられる。直径が約4cmと小さく口縁部がゆがんだ形状の土師器皿や、直径が約8～9cmで口縁部が直線的に斜めに立ち上がる土師器皿は16世紀の可能性が考えられる。

瓦器椀は、少数の破片が出土したのみである。時期が比定できるものは、33、96土壙から出土した瓦器椀片であり、13世紀後半から14世紀前半とみられる。

銭貨は、7基の土壙から北宋銭30点、開元通寶1点が出土した。1基の墓から出土する銭貨の点数は1～6点であり、7基のうち3基（132、208、216土壙）で6点の銭貨が出土する。132、208土壙はいずれも他の土壙に先行することから、墓群のなかでも時期がさかのぼる可能性がある。また、152土壙では底部で4点の北宋銭が連なった状態で出土していることから、6点に限らず4点の副葬もあったことがうかがえる。208土壙では開元通寶と北宋銭が共に出土している。銭貨は火葬、土葬の双方で出土しており、埋葬方法による差異は認められない。後述する焼土坑（火葬場）である22土坑では、116点の銭貨が出土していることから、火葬場における火葬の段階で銭貨の副葬が多くなされていたようである。

寛永通寶は、本区の墓からは出土していない。本区では、後述する焼土坑（火葬場）である22土坑において、炭化物層の上層で古寛永が3点出土したのみである。

他に金属製品では、毛垂（剃刀）（94土壙）、煙管（11土壙）が出土した。煙管は近世のものであり、毛垂（剃刀）も中世の事例を知らないことから近世の可能性が考えられる。中世墓が多くをしめる本区において、これら金属製品の出土からは、少數ながら近世墓が混在することが明らかとなった。これら近世墓は、調査区西端から尾根上の道に入つてすぐの地点（11土壙）と道の突き当たりにあたる山頂部（94土壙）にあり、他の墓との重複も認められないことから、これらの近世墓が設営されたときには、中世墓のひろがりが認識されており、これを避けた可能性がある。

本区の中世墓出土の釘は、他区の近世墓出土の釘に比べ、比較的長く、太いものが混在する傾向が認められる。長方形墓出土の釘は、中世墓の釘よりも近世墓出土の釘に類似する。長方形墓のうち143土壙からは20本の釘が出土しており、長方形の棺の製作には20本以上の釘が使用されたことが推定できる。釘に残存する木質からは、棺材の厚さが推定できる。中世墓では木質が良好に残存する釘がみられないため推定は困難であるが、長方形墓では、81・83土壙、143土壙出土釘から棺材の厚さは約2cmと推定できる。

副葬品ではないが、藏骨器として羽釜（70、118、179②土壙）と鍋（137土壙）が使用されており、14世紀後半から15世紀に位置付けられる。

墓の全容は表2のとおりである。うち遺構や遺物の出土が顕著である34基について、次頁より個別に報告する。

表2 千堤寺西遺跡3・4区土壤一覧

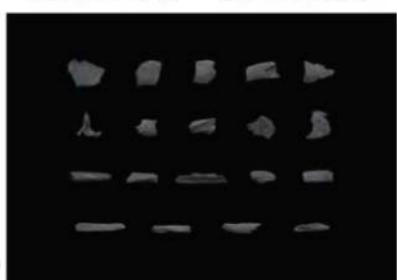
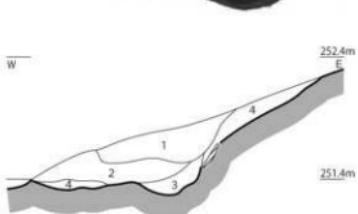
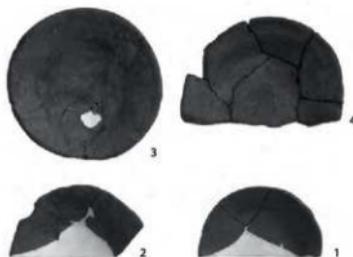
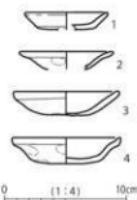
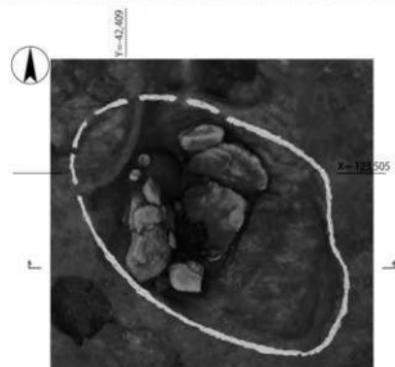
個別報告の土壤

土壌番	標示面形態	表面用語	標示面形態	表面用語	標示面形態	表面用語	標示面形態	表面用語	上部地盤	下部地盤	堆積方法	堆積の形態	土質	鉱物品		
1土壌	不整円形	不整円形	110	80	80	55	34	無	無	無	無	不規則	無	有	無	
4土壌	不整円形	不整円形	173	139	136	99	24	無	無	無	無	不規則	無	有	土壁被石-砂	
5土壌	不整円形	不整円形	230	173	195	145	18	無	無	無	無	不規則	無	有	火葬	
6土壌	不整円形	不整円形	85	80	60	65	19	無	無	無	無	不規則	無	有	火葬	
7土壌	不整円形	不整円形	207	148	162	56	21	無	無	無	無	不規則	無	有	火葬	
10土壌	不整円形	不整円形	270	170	230	140	34	無	無	無	無	不規則	無	有	土壁被石-砂	
11土壌	不整円形	不整円形	95	87	71	32	27	無	無	無	無	不規則	無	有	土壁被石-砂	
13土壌	不整円形	不整円形	145	90	99	69	57	無	無	無	無	不規則	無	有	火葬	
14土壌	不整円形	不整円形	184	142	131	111	34	無	無	無	無	不規則	無	有	土葬	
16土壌	円形	円形	30	33	23	20	21	無	無	無	無	確定火葬	不明	有	無	
18土壌	圓方形	圓方形	214	143	95	70	73	無	無	無	無	確定火葬	無	有	土壁被石-砂	
20土壌	不整円形	不整円形	125	110	150	85	30	無	無	無	無	不規則	無	有	土壁被石	
21土壌	不整円形	不整円形	100	77	67	62	25	無	無	無	無	不規則	無	有	土壁被石	
22土壌	不整円形	不整円形	100	77	67	62	25	無	無	無	無	不規則	無	有	土壁被石	
23土壌	不整円形	不整円形	98	76	73	55	25	無	無	無	無	确定火葬	無	有	無	
30土壌	長方形	長方形	184	99	156	67	27	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	無	
31土壌	長方形	長方形	187	118	160	92	24	無	無	無	無	确定火葬	その他の	無	無	
32土壌	不整円形	不整円形	117	84	94	61	40	無	無	無	無	确定火葬	不明	無	土壁被石-砂	
33土壌	不整円形	不整円形	138	93	115	74	33	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	無	
34土壌	不整円形	不整円形	120	80	100	65	35	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
42土壌	長方形	長方形	211	88	181	68	63	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石	
51土壌	不整円形	不整円形	130	74	113	53	10	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石	
53土壌	不整円形	不整円形	161	100	153	81	29	無	有	土壁被石-側面に人頭大の自然石2点出土。	不規則	不明	有	無	無	
54土壌	長方形	長方形-不規則形	174	95	134	50	24	無	無	無	無	确定火葬	不明	無	無	
55土壌	長方形	長方形	174	101	211	21	15	無	無	無	無	确定火葬	不明	無	無	
56土壌	長方形	長方形	173	121	126	72	22	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
57土壌	不整円形	不整円形	235	99	191	60	25	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石	
58土壌	不整円形	不整円形	195	90	175	71	40	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石	
59土壌	不整円形	不整円形	130	77	125	65	42	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石	
60土壌	不整円形	不整円形	96	62	77	56	25	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石	
61土壌	不整円形	不整円形	154	90	140	74	19	無	無	無	無	火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
93土壌	不要方型	不要方型	118	81	106	65	29	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	砂	
94土壌	斜方形-不規則形	斜方形-不規則形	133	86	120	58	51	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
95土壌	斜方形	斜方形	113	101	109	65	35	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	砂	
96土壌	不要方型	不要方型	120	62	115	41	31	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石	
97土壌	不要方型	不要方型	91	51	81	44	27	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石	
110土壌	不要方型	不要方型	137	105	107	87	44	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石	
111土壌	不要方型	不要方型	145	100	165	83	19	有	自然石複数	元	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
119土壌	不整円形	不整円形	103	78	83	62	25	有	自然石複数	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	
126土壌	円形	円形	102	82	85	51	25	無	無	無	無	土壁被石	有	有	砂	
129土壌	円形	円形	65	73	54	48	22	有	自然石複数	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	
130土壌	不整円形	不整円形	169	138	147	127	10	有	自然石複数	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	
131土壌	不整円形	不整円形	114	74	104	75	25	有	自然石複数	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	
132土壌	不整円形	不整円形	284	233	198	195	19	有	自然石複数	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	
142土壌	長方形	長方形	200	116	154	66	68	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
143土壌	長方形	長方形	256	118	193	85	70	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
144土壌	不整形	不整形	147	93	130	77	30	無	無	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	
145土壌	長方形	長方形	198	116	174	91	21	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
146土壌	長方形	長方形	166	65	60	61	1	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
147土壌	長方形	長方形	125	72	102	62	27	有	自然石複数	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	
149土壌	圓方形	圓方形	44	36	35	25	13	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石	
150土壌	圓方形	圓方形	75	58	55	45	23	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石	
151土壌	圓方形	圓方形	98	63	73	54	20	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石	
152土壌	不整円形	不整円形	119	85	100	64	30	無	無	無	無	火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
153土壌	不整円形	不整円形	126	93	90	75	25	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	砂	
155土壌	不整円形	不整円形	109	87	75	54	25	有	自然石複数	無	無	不規則	不明	無	土壁被石-瓦砾-砂	
156土壌	不整円形	不整円形	126	98	114	63	45	有	自然石複数	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	
157土壌	圓方形	圓方形	79	72	62	67	27	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
158土壌	圓方形	圓方形	213	107	183	76	62	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
159土壌	圓方形	圓方形	241	109	209	73	57	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
165土壌	不整円形	不整円形	132	76	118	58	16	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	砂	
167土壌	不整円形	不整円形	148	97	133	66	60	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	砂	
174土壌	不整円形	不整円形	178	64	101	71	18	無	無	無	無	不規則	不明	無	土壁被石-瓦砾-砂	
177土壌	圓方形	圓方形	173	132	115	92	71	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	砂	
178土壌	不整円形	不整円形	175	120	120	80	64	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
179土壌	不整円形	不整円形	140	119	116	90	47	有	自然石複数	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
180土壌	圓方形	圓方形	119	80	106	64	20	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石	
181土壌	圓方形	圓方形	144	124	128	98	92	13	有	自然石複数	無	無	火葬	不明	有	土壁被石
182土壌	圓方形	圓方形	105	59	83	63	17	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石	
184土壌	不整形	不整形	不規則	不明	不明	不明	不明	不明	無	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	
186土壌	圓方形	圓方形	97	44	57	57	62	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
203土壌	不整円形	不整円形	140	87	116	72	21	無	無	無	無	不規則	不明	無	土壁被石-瓦砾-砂	
204土壌	圓方形	圓方形	113	59	130	66	21	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	砂	
205土壌	圓方形	圓方形	157	126	134	104	8	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石	
208土壌	不整円形	不整円形	76	49	56	40	22	無	無	無	無	不規則	不明	無	土壁被石-瓦砾-砂	
210土壌	不整円形	不整円形	155	123	141	102	56	無	無	無	無	不規則	不明	無	土壁被石-瓦砾-砂	
211土壌	不整円形	不整円形	91	61	75	76	29	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	砂	
214土壌	圓方形	圓方形	125	101	96	83	39	無	無	無	無	火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
216土壌	圓方形	圓方形	125	100	98	80	30	無	無	無	無	确定火葬	不明	有	土壁被石-瓦砾-砂	
228土壌	不整円形	不整円形	159	79	138	68	12	無	無	無	無	不規則	不明	無	土壁被石	

千提寺西遺跡3区

10 土壙 地区割 5Fla

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 270 × 170 cm 底面直径・一边 230 × 140 cm 深さ 54 cm 軸方向 不明
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	
	底面		
上部施設	○ 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	所見
	● 無		
下部施設	● 有	構造・所見 不整円形土壙の底部と壁に沿って、比較的平らな石が花びら状にめぐる。底部の石上には人骨片が混じる炭化物層があり、石の内面には被熱痕跡が認められる。	
	○ 無		
埋葬方法	● 火葬	○ 推定火葬 <input type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明	藏骨器 ○ 有 ● 無
	骨	○ 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	所見	土壙底部で人骨片が混じる炭化物層を検出し、壁面にめぐる石の内面に被熱による赤変が認められる。人骨は碎片で白化しており、火葬による埋葬が行なわれている。	
棺の形態	<input type="checkbox"/> 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	釘が出土しないため、棺は用いられなかつた可能性がある。 所見	
人骨	性別 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	顔面方位 不明	疾病 ○ 有 ● 無 備考
	年齢 不明	歯	
	所見		
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 釘		
	名 称 皿	材質 土師器	数量 4 所見
備考	調査区西端の尾根上南側斜面に位置する。東側に11土壙、12土壙が近接する。土壙埋土上面西端、土壙壁面にめぐる石の上端で土師器皿が並置された状態で出土した。供物を置いたものであろうか。土壙東側には石が認められず、小さな平坦面がある。本来存在した壁面の石が、後世に崩落した可能性もあるが、底面の石と壁面の石の東辺が一直線に並ぶため、当初から存在しなかつた可能性がある。この場合、土壙東側の小さな平坦面は、埋葬に際しての作業場であった可能性が考えられる。土師器皿のみの出土であり、時期の確定は困難であるが、16世紀の可能性が考えられる。		

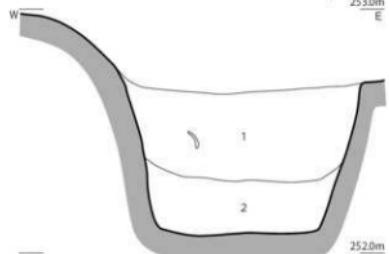
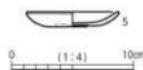
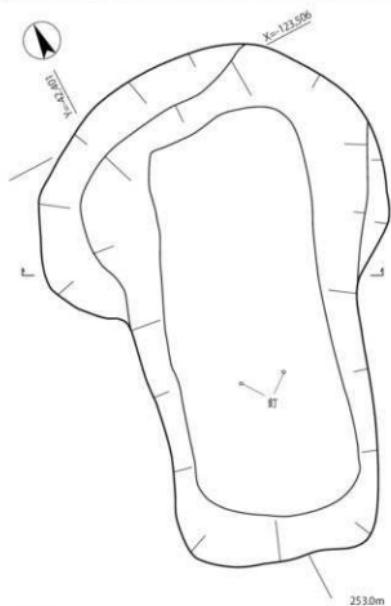
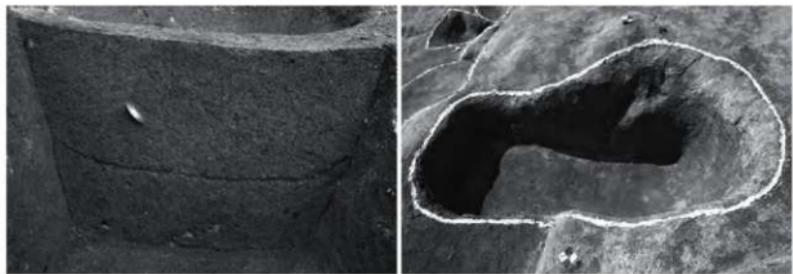


- 1 10YR6/4 にぶい黄褐色～10YR6/6 明黄褐色 細砂混シルト 燐骨片含む
 2 10YR5/3 にぶい黄褐色 腐化物・焼骨片含む
 3 10YR5/2 広黄褐色 微砂混シルト 燐骨片含む
 4 10YR6/4 にぶい黄褐色 細砂混シルト

千提寺西遺跡3区

18 土壙 地区割 5F1a

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 214 × 143 cm
					底面直径・一边 195 × 70 cm
上部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造 所見			深さ 73 cm 輪方向 N-20° -E
					<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地
下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造・所見			
埋葬方法		<input type="radio"/> 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input type="radio"/> 土葬 <input checked="" type="radio"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	所見	底面近くで骨片と釘が出土したのみであるが、土壙形状から伸展位による土葬と推測する。	藏骨器 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無
棺の形態		<input type="radio"/> 桶形木棺 <input type="radio"/> 長方形木棺 <input type="radio"/> 推定桶形木棺 <input checked="" type="radio"/> 推定長方形木棺 <input type="radio"/> 箱形木棺 <input type="radio"/> その他 <input type="radio"/> 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明		土壙の形状と釘の出土から推測する。 所見	
人骨	性別	<input type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性 <input checked="" type="radio"/> 不明	顔面方位	不明	疾病 <input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="radio"/> 無
	年齢	不明	歯		
副葬品	所見				
備考	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 鉄貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘				
	名 称 皿 釘	材質 土師器 鉄	数 量 1 4	所 見 土壙埋土上面から出土。17世紀以降か。	



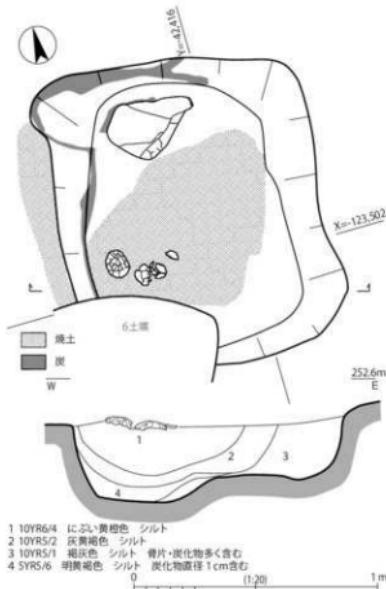
1 10YR6/3~6/4 にぶい黄褐色 シルト
2 10YR6/4 にぶい黄褐色 滅砂混シルト 骨片、鉄钉出土

0 (1:20) 1m

千提寺西遺跡 3区

19 土壙 地区割 5F2a

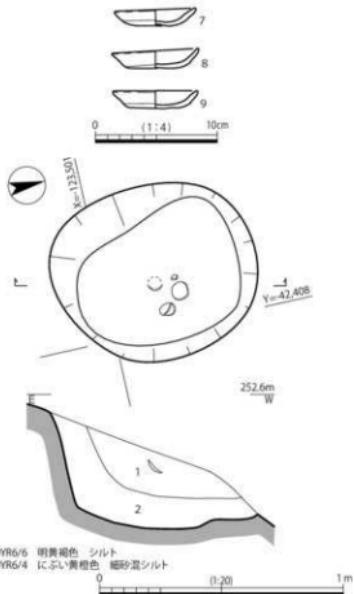
土壤の形態	検出面			底面	検出面直径・一边			
	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				125~ × 112 cm			
	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				底面直径・一边 110 × 85 cm			
深さ 30 cm 輪方向 NS			上部施設				土壙底面北側で人骨大の自然石が1点出土。上面に被熱痕跡があり、上面が平らであることから、棺台の可能性が考えられる。	
埋葬方法	<input type="radio"/> 有構造 <input checked="" type="radio"/> 無所見			<input type="radio"/> 有下部施設 <input type="radio"/> 無				
	火葬		所見		底部で人骨片が混じる炭化物層を検出。壁面に被熱痕跡がある。火葬後、土師器皿を人為的に置いたものか。			
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 釘							
	名 称 皿		材質 土師器		数 量 2		所 見	
備考	調査区西端の尾根上南側、1壙上面にかけて位置する。南側に6、7土壙が隣接する。本土壙は6土壙に先行する。土師器皿から16世紀と考えられる。							



千提寺西遺跡3区

20 土壙 地区割 5F1a

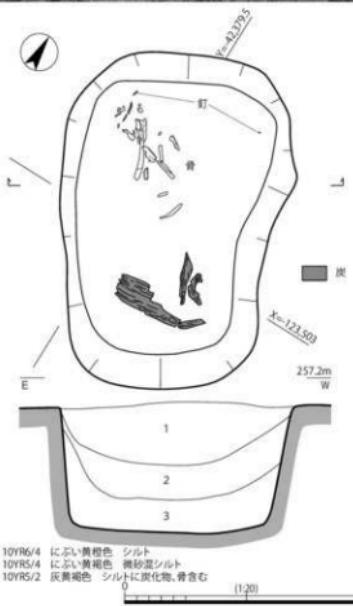
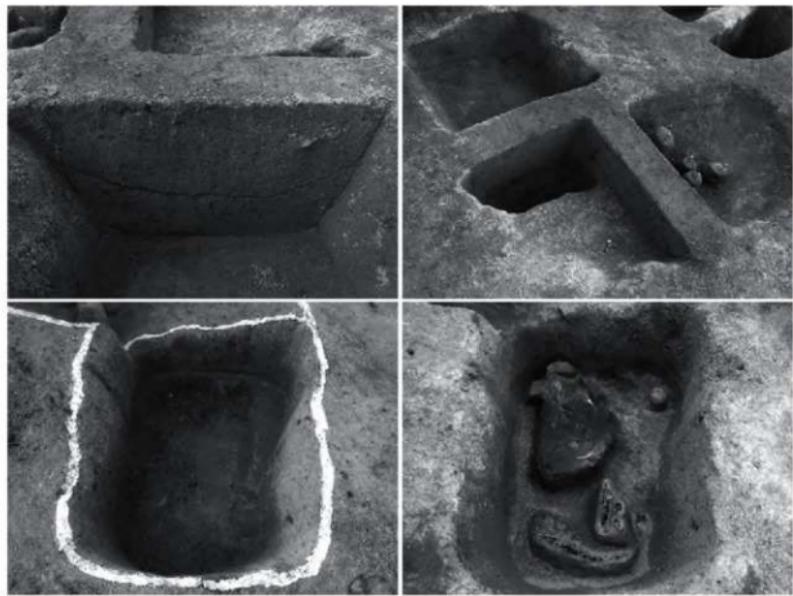
土壤の形態	検出面			□ 方形	□ 不整形	□ 長方形	検出面直径・一边 底面直径・一边 深さ	85 × 72 cm 68 × 52 cm 23 cm
	▣ 円形	□ 不整円形	□ 不整形					
	底面	□ 方形	□ 不整形	□ 長方形	▣ 円形	□ 不整円形		
上部施設	○ 有 ● 無	構造・所見		下部施設	○ 有 ● 無	構造・所見		
埋葬方法	不明	所見		土師器皿がまとめて出土。土壙が浅く、人骨も出土しないことから、墓ではない可能性もある。		棺の形態	不明	
副葬品	器種	▣ 土器	□ 錢貨	□ 鉄製品	□ 土製品	□ 銅製品	□ 石製品	□ 木製品
	名 称	土師器	材質	数量	3	所 見		
備考	調査区西端の尾根上北側に単独で位置する。土師器皿のみの出土であり、時期の確定は困難であるが、16世紀の可能性が考えられる。							



千提寺西遺跡3区

33 土壙 地区割 4F8a

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形	検出面直径・一边 138 × 93 cm		
		<input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 115 × 74 cm		
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形	深さ 53 cm	軸方向 N-30° -E	
上部施設	○ 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏			
	● 無	<input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	所見		
下部施設	○ 有	構造・所見			
	● 無				
埋葬方法	● 火葬 ○ 推定火葬 ○ 土葬 ○ 推定土葬 ○ 不明	藏骨器 ○ 有 ● 無			
	骨 ● 有 ○ 無 被熱痕 ○ 有 ● 無 炭化物 ○ 有 ○ 無				
	所見 埋土上層は、シルト層であり、炭化物、人骨片は含まない。これを除去後、土壙底面まで厚さ12cmにわたり炭化物、人骨片が堆積する。壁面に被熱痕跡が無いため、他所での火葬も考えられるが、判然としない。				
棺の形態	○ 桶形木棺 ○ 長方形木棺 ○ 推定桶形木棺 ○ 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 ○ その他 ○ 推定箱形木棺 ○ 不明	土壙南側で板材とみられる炭化物が出土。釘が出土している。板材とみられる炭化物は木棺の可能性があり、この出土からは本土壙での火葬もまた考えられる。			
人骨	性別 ○ 男性 ○ 女性 ● 不明	顔面方位 不明			疾病 ○ 有 ● 無 備考
	年齢 不明	歯			
	所見				
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘				
	名 称 梶 不明 釘	材 質 瓦器 土師器 鉄	數 量 1 不明 4~	所 見 表面磨滅のため調整不明。 破片 短小	
	山頂部の南側斜面に位置する。直交する34土壙に先行する。埋土上層のシルト層から瓦器梶の体部片が出土しており、14世紀前半の可能性が考えられる。				
備考					



千提寺西遺跡 3区

34 土壙 地区割 4F8・9a

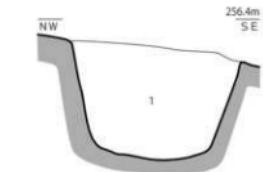
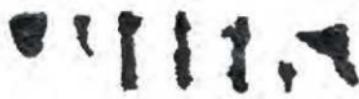
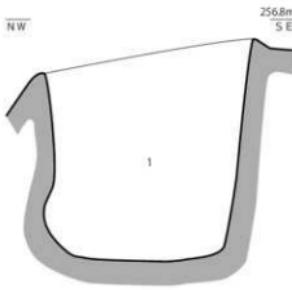
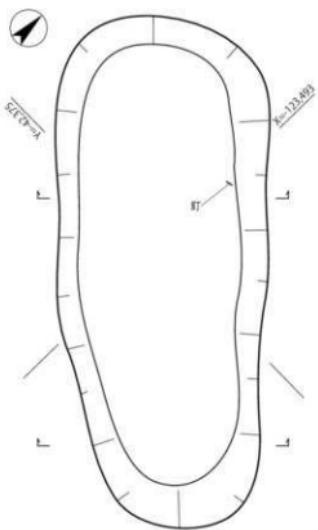
土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	120~	x	80	cm
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	100~	x	65	cm
			深さ	37	cm	軸方向	N-75°-E
上部施設	構造	自然石複数	下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見		
	所見	土壤上面で人頭大の自然石が4点(34石組)出土。標石の可能性が考えられる。					
埋葬方法	不明		所見				
	骨	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無					
棺の形態	不明	所見					
人骨	性別	年齢	顔面方位	不明	疾病	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考
	歯		所見	出土なし			
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	材質	数量	所見		
	皿 椀 釘	土師器 瓦器 鉄					
備考	山頂南側斜面に位置する。西側の87、86土壙と並列する。33土壙より後出し、33土壙が14世紀前半と考えられるため、本土壙はこれ以降の時期が考えられる。						



千提寺西遺跡3区

42 土壙 地区割 4E8j

土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	211	×	88	cm
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	181	×	68	cm
		深さ 83 cm	軸方向	N-50° -E			
上部施設	○ 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏					
	● 無	所見					
下部施設	○ 有	構造・所見					
	● 無						
埋葬方法	○ 火葬 ○ 推定火葬 ○ 土葬 ○ 推定土葬 ○ 不明		藏骨器 ○ 有 ● 無				
	骨 ○ 有 ● 無 被熱痕 ○ 有 ● 無 炭化物 ○ 有 ● 無						
	所見 人骨は残存しないが、土壤形状から伸展位による土葬と推測する。						
棺の形態	○ 楠形木棺 ○ 長方形木棺 ○ 推定楠形木棺 ○ 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 ○ その他 ○ 推定箱形木棺 ○ 不明	所見 土壙の形状と釘の出土から推測する。					
人骨	性別 ○ 男性 ○ 女性 ○ 不明	顔面方位 不明	疾病 ○ 有 ● 無 ○ 無考				
	年齢	歯					
	所見 出土なし						
副葬品	器種 ○ 土器 ○ 錢貨 ○ 鉄製品 ○ 土製品 ○ 銅製品 ○ 石製品 ○ 木製品 ○ 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	所見					
	名称 釘	材質 鉄	数量 3~	所見 短小 木質付着			
備考	山頂部の尾根上北側に位置する。尾根と同じ方向に主軸をもつ。本土壙の南側には96、167、166、165土壙が並び、山頂部にあるこれらの土壙を避けて、すぐ北側に設けられたようにみえる。尾根上南西側のやや離れたところに同様の主軸をもつ長方形墓である164、161、81・83土壙が並列または直列する。人骨は残存しないが、長方形墓で伸展位による木棺直葬とみられ、キリストン墓と考えられる。						



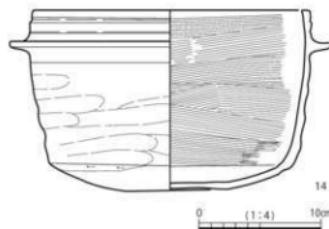
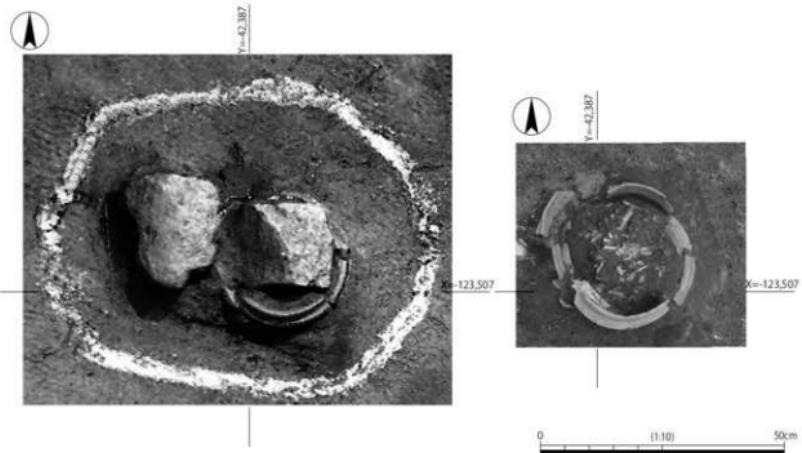
1 10YR6/3～5/3 にぶい黄褐色～にぶい黄褐色 細砂混シルト
10YR6/6 明黄褐色 シルトブロック直径3～5cm含む

0 (120) 1m

千提寺西遺跡3区

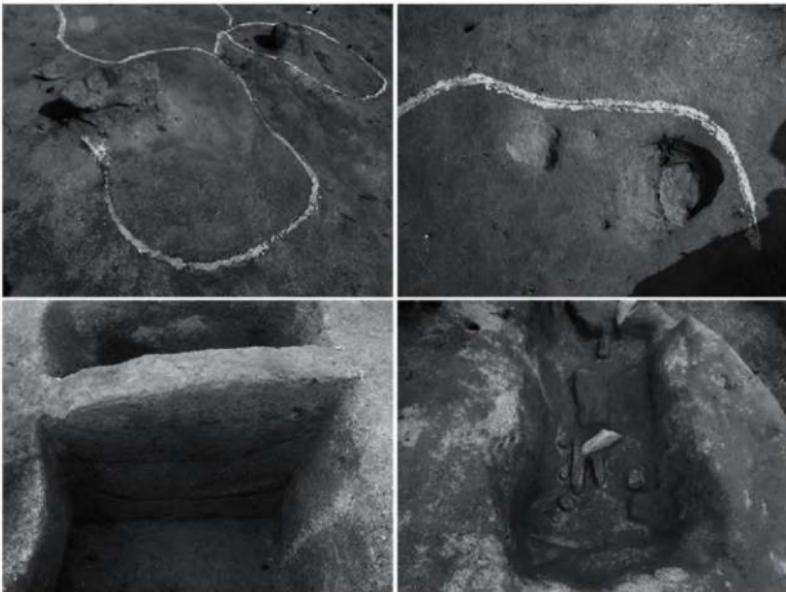
70 土壙 地区割 4F9a

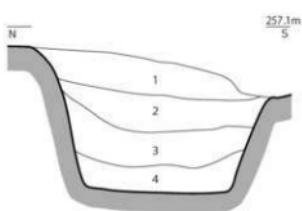
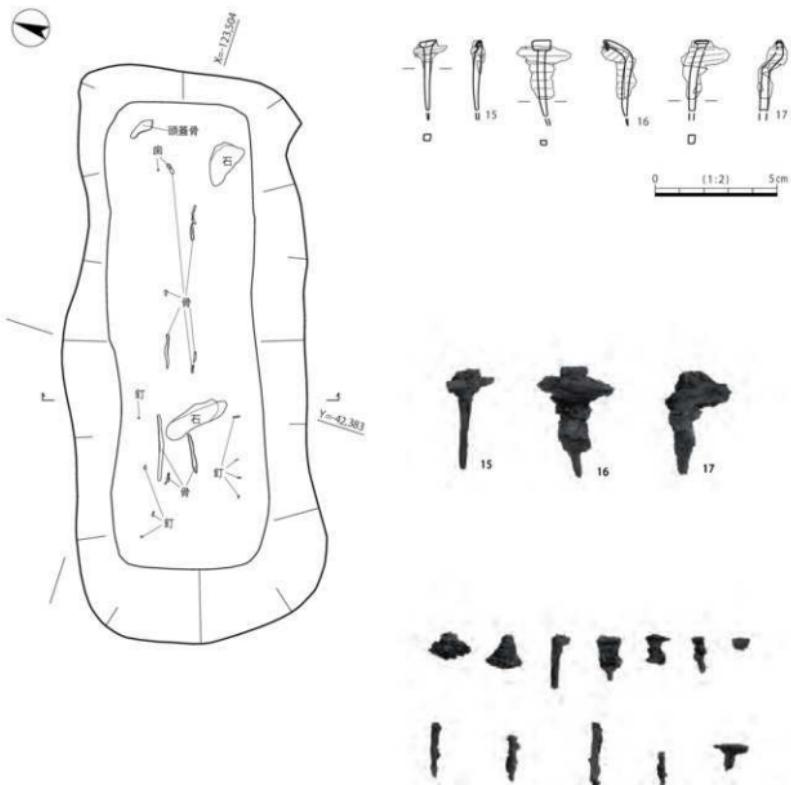
土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	33~	<input checked="" type="checkbox"/>	30~	cm
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	21~	<input checked="" type="checkbox"/>	21~	cm
			深さ	15~	cm	軸方向	不明
上部施設	○ 有	構造	<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔	<input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地			
	● 無	所見					
下部施設	○ 有	構造・所見					
	● 無						
埋葬方法	● 火葬 ○ 推定火葬 ○ 土葬 ○ 推定土葬 ○ 不明					藏骨器	● 有 ○ 無
	骨	● 有 ○ 無 被熱痕 ○ 有 ○ 無 炭化物 ○ 有 ○ 無				土師器羽釜	
	所見	土師質羽釜に人骨片が含まれる。人骨は、碎片で白化しており、火葬、拾骨後に納骨が行われたと考えられる。					
棺の形態	<input type="checkbox"/> 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	所見					
	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	顔面方位	不明		疾病	<input type="checkbox"/> 有 ○ 無
	年齢	不明	歯			病考	<input type="checkbox"/> 無
人骨	所見						
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 釘					
	名 称	材 質	数 量	所 見			
	羽釜	土師器	1				
備考	山頂部南側斜面の南西端に位置する。土壙の南西側は急斜面である。西側の137土壙、東側の194、118土壙は、ともに羽釜や鍋の藏骨器を有する土壙であり、同類の遺構が集中する。南側斜面にひろがる墓域の端に位置しており、そのため藏骨器が残存したのであろうか。3区で藏骨器をもつ土壙は、この4基の他には、山頂東側にある179②土壙のみである。羽釜から、14世紀後半～15世紀前半と考えられる。						



千提寺西遺跡3区 81・83土壙 地区割 4F9a

土壤の形態	検出面			
	<input type="checkbox"/> 方形	<input type="checkbox"/> 不整方形	<input checked="" type="checkbox"/> 長方形	
	<input type="checkbox"/> 円形	<input type="checkbox"/> 不整円形	<input type="checkbox"/> 不整形	
底面		<input type="checkbox"/> 方形	<input type="checkbox"/> 不整方形	<input checked="" type="checkbox"/> 長方形
		<input type="checkbox"/> 円形	<input type="checkbox"/> 不整円形	<input type="checkbox"/> 不整形
深さ		55	cm	軸方向 N-75°-E
上部施設	構造		下部施設	構造・所見
	(●) 有	自然石複数 出土。二次的に移動したとみられる 見が、標石の可能性も考えられる。		
埋葬方法	土葬	所見	頭蓋骨、胸椎、大腿骨の 一部が残存する。人骨の 状態から伸展位による木 棺直葬と推測する。	棺の形態
副葬品	推定長方形木棺 土壙の形状と人骨、釘の状況から推測する。			
	頭蓋骨、胸椎、大腿骨の 一部が残存する。人骨の 状態から伸展位による木 棺直葬と推測する。			
備考	山頂南側斜面に位置する。尾根と同じ方向に主軸をもち、本土壙の北側に161土壙が並列し、東側に164土壙が直列する。南側の82土壙より後出する。長方形墓で伸展位による木棺直葬とみられ、キリシタン墓の可能性が考えられる。			





- 1 10YRS/3~6/4 にぶい黄褐色 粗粒砂～粗砂質シルト
 2 10YRS/4 にぶい黄褐色 粗粒砂～粗砂質シルト
 3 10YRS/4 にぶい黄褐色 粗砂質シルト
 4 10YRS/4~4/6 にぶい黄褐色～褐色 シルト

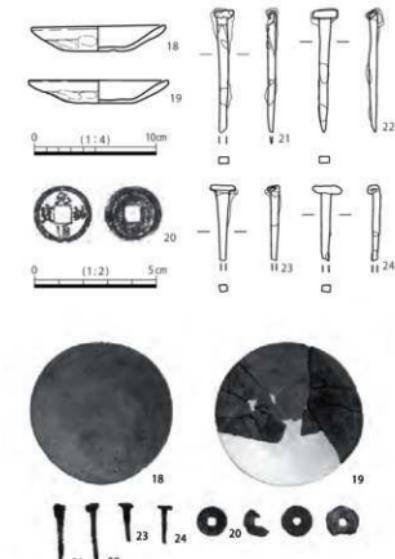
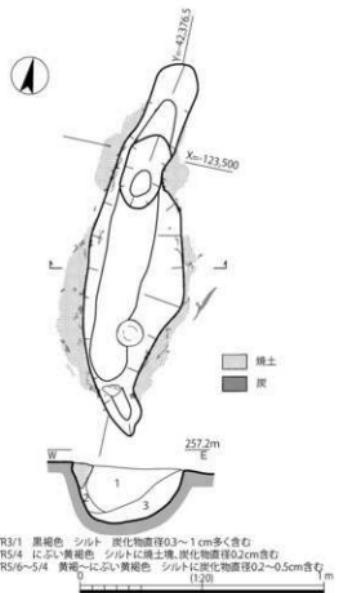


0 (1:20) 1m

千提寺西遺跡3区

90 土壙 地区割 4F8a

土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	154	×	40	cm
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	142	×	19	cm
		深さ 20 cm 軸方向 NS					
上部施設	○ 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏					
	● 無	所見					
下部施設	○ 有	構造・所見					
	● 無						
埋葬方法	● 火葬 ○ 推定火葬 ○ 土葬 ○ 推定土葬 ○ 不明		藏骨器 ○ 有 ● 無				
	骨 ○ 有 ○ 無 被熱痕 ○ 有 ○ 無 炭化物 ○ 有 ○ 無						
	所見 細長い筋状の土壙であり、断面はV字形である。土壙一面に炭層を検出し、壁面に被熱による赤変が認められる。人骨は碎片で白化しており、火葬による埋葬が行われている。						
棺の形態	○ 桶形木棺 ○ 長方形木棺 ○ 推定桶形木棺 ○ 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 ○ その他 ○ 推定箱形木棺 ○ 不明	所見					
人骨	性別 ○ 男性 ○ 女性 ● 不明	顔面方位 不明		疾病 ○ 有	備考		
	年齢 不明	歯		○ 無			
	所見						
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘		所見 内面ヨコナデ、外面口縁部ヨコナデ 至道元寶(初鑄995年)1点、元祐通寶(初鑄1086年)1点、被熱変形2点、不明1点 長大・短小 3mm角、他の中世墓の釘に比べ細い。				
	名 称 皿 銭貨 釘	材質 土師器 銅 鉄	数量 2 5 11				
備考	山頂部のほぼ中央、尾根上に位置する。尾根と直交する南北方向に主軸をもつ。断面V字形で炭化物が積積し、壁面に被熱による赤変が顕著なことから、かなり高熱を受けたことがうかがえる。本土壙周辺は調査中においても、風が強く吹いていくところであり、こうした場所が選ばれたのかかもしれない。本土壙に類似する土壙は今回の調査ではみられないが、他遺跡における類例をみると、やや短い長方形土坑の底面に本土壙のような筋状の土壙を設け、火葬する例がみられ、本土壙も本来はやや短い長方形土坑の下部に伴うものであった可能性が考えられる。土師器皿から16世紀と考えられる。						



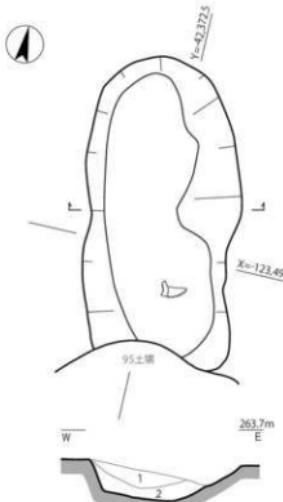
千提寺西遺跡3区

96土壙 地区割 4E8j

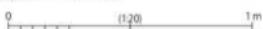
土壤の形態	検出面			検出面直径・一边	120~	×	62	cm			
	<input type="checkbox"/> 円形	<input checked="" type="checkbox"/> 不整円形	<input type="checkbox"/> 不整形								
底面	底面			底面直径・一边	115~	×	41	cm			
	<input type="checkbox"/> 方形	<input type="checkbox"/> 不整形	<input type="checkbox"/> 長方形								
上部施設	底面			深さ	11	cm	軸方向	N-10°-E			
	<input type="checkbox"/> 円形	<input checked="" type="checkbox"/> 不整円形	<input type="checkbox"/> 不整形								
埋葬方法	構造			下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造・所見	棺の形態	不明			
	<input checked="" type="radio"/> 有	自然石單体									
副葬品	○ 有 骨			○ 有 炭 化 ○ 有 藏 骨 ○ 有 被 熱 痕 ○ 無 物 ○ 有 器 ○ 有 無 痕 ○ 有 物 ○ 有 器 ○ 有 無			土壙は浅く、瓦器碗片が 1片出土したのみである。	不明			
	○ 有 炭 化 ○ 有 藏 骨 ○ 有 被 熱 痕 ○ 有 物 ○ 有 器 ○ 有 無 痕 ○ 有 物 ○ 有 器 ○ 有 無										
備考	山頂の東側、尾根上の最も高所に位置する。西側に167、166、165土壙が並列し、南側の95土壙が先行する。瓦器碗片から13世紀後半～14世紀前半と考えられる。										



25



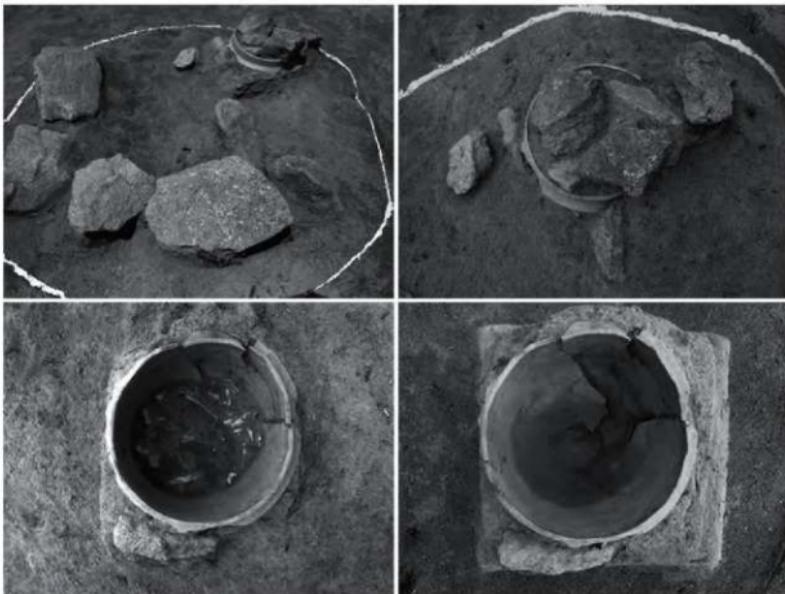
1 10YR6/4~5/4 に近い黄褐色～に近い黄褐色 滅砂質シルト
2 10YR6/3 に近い黄褐色 滅砂質シルト



千提寺西遺跡 3区

118 土壙 地区割 4F9a

土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	145	×	160	cm
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	105	×	85	cm
			深さ	19.6～	cm	輪方向	不明
上部施設	構造	自然石複数	下部施設	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	構造・所見	上部施設の北西隅部で土師質羽釜が出土。羽釜上面には、自然石が置かれる。土師質羽釜内部から人骨片がまとめて出土した。	上部施設
	● 有 ○ 無	土壙上面で人頭大から拳大の自然石が10点(118石組)出土。標石の可能性が考えられる。					
埋葬方法	火葬	所見	棺の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	不明 羽釜周辺から釘が1本出土したが、棺の存在はつかえない。	棺の形態	不明 羽釜周辺から釘が1本出土したが、棺の存在はつかえない。
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 錫貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘					
	名 称	材 質	数 量		所 見		
	羽釜	土師質 鉄	1 1		口縁端部に打ち欠き、底面外面から穿孔有り。 短小、屈曲		
備考	山頂南側斜面にひろがる墓域の南端に位置する。本土壙の南側は急斜面となる。東側に210土壙が隣接する。西側に194、70、137土壙が位置し、いずれも羽釜や鍋の藏骨器を有する。3区で藏骨器をもつ土壙は5基あり、そのうち4基が本土壙周辺に集中する。本土壙は南側斜面の墓群のなかでは、上部施設が比較的良好に残存する。墓域の南端に位置するためであろうか。土師質羽釜は、焼成後、口縁端部が打ち欠かれて、底面が外面から穿孔されている。土師質羽釜から、14世紀と考えられる。						





Y=42.384

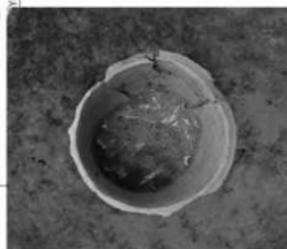


X=123.508

0 (1:20) 1m

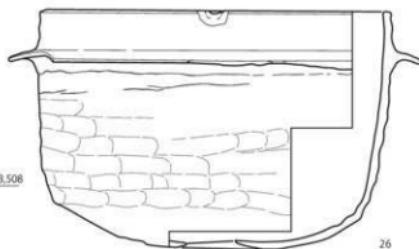


Y=42.384



X=123.508

0 (1:10) 50cm



0 (1:4) 10cm



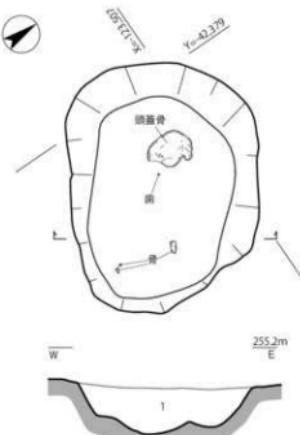
26



26

千提寺西遺跡 3区 126① 土壙 地区割 4F8a

形土 壙 態の 底	検出面 円形	検出面直径・一辺	103	×	78	cm	深さ	19	cm			
	面 円形	底面直径・一辺	82	×	56	cm	輪方向	N-60° -E				
上 部 施 設	構 造 ・ 所 見					下 部 施 設	構 造 ・ 所 見					
	○ 有 ● 無						○ 有 ● 無					
埋 葬 方 法	土葬		所 見	残存不良であるが、頭蓋骨が出土。頭を北西に置く。					棺 の 形 態		不明	
	● 有 ○ 有 ○ 無	被 炭 化 物	○ 有 ○ 有 ○ 有 ○ 無 ○ 無	藏 骨 化 物	○ 有 ○ 有 ○ 有 ○ 無 ○ 無							
人 骨	性別 不明	年齢 不明	顔面方位 NW(頭位)			疾病	○ 有	○ 無	備考			
	歯		所 見									
副 葬 品	器種	□ 土器	□ 銀貨	□ 鉄製品	□ 土製品	□ 銅製品	□ 石製品	□ 木製品	□ 玉類	□ 刀		
	名 称	材 質	数 量				所 見					
備 考	山頂南側斜面、南東端に位置し、南側に126②、126③土壙が隣接する。126①～③土壙の下手、南東側では第1面で多くの石仏、石造物が重なった状態で出土した(126石組)。126①～③土壙と126石組の位置は重複しないことから、126石組が126①～③土壙の上部施設とは考えがたい。時期は不明であるが、近接する126③土壙に近い時期のものと推察する。											

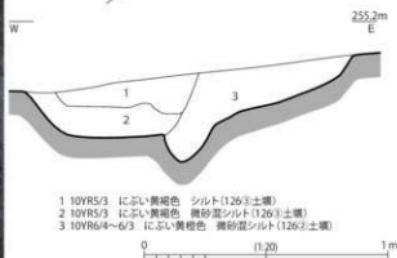
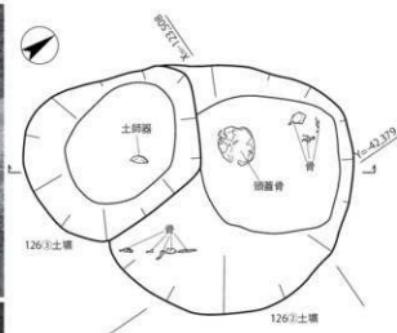


1.10YR6/4にぶい黄褐色、微砂混シルト



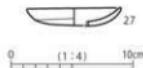
千提寺西遺跡3区 126②土壙 地区割4F8a

形土 壙 態の 底	検出面 円形	検出面直径・一辺	102	×	62～	cm	深さ	40	cm
	底面 円形	底面直径・一辺	55	×	57～	cm	輪方向	不明	
上部 施設	標造 自然石単体 土壙上面で人頭大の自然石が1点 (124石組)出土。標石の可能性が考 えられる。	下部 施設	○有 ●無	構造 ・ 所見					
埋葬 方法	土葬	所見	残存不良であるが、頭蓋骨が出土。頭を北西に置く。		棺の形態	不明			
	●有 ○有 ○有 ○有 ○無 ●無 ○無 ●無 ○無	被 炭 藏 骨 化 物 器 類	●有 ○有 ○有 ○有 ○無 ●無 ○無 ●無 ○無						
人 骨	性別 不明	年齢 不明	顔面方位 SW(頭位)		疾病	○有 ○無	備考		
	歯	所見							
副 葬品	器種	■土器	□銭貨	□鉄製品	□土製品	□銅製品	□石製品	□木製品	□玉類
	名 称	土師器	材質	数量	1	所見	破片		釘
備 考	不明								
	山頂南側斜面、南東端に位置する。これより南東側は急斜面である。北側に126①土壙、南側に126③土壙が隣接し、本土壙は126③土壙に先行する。126①～③土壙の下手、南東側では多くの石仏、石造物が並び、重ねられた状態で出土した(126石組)。126①～③土壙は126石組を除去後に検出されたものであるが、126石組と126①～③土壙の位置は重複しないことから、126石組が126①～③土壙の上部施設とは考えがたい。人骨、土師器片のみの出土であり、時期は不明であるが、隣接する126③土壙に近い時期のものと推察する。								



千提寺西遺跡 3区 126③ 土壙 地区割 4F8a

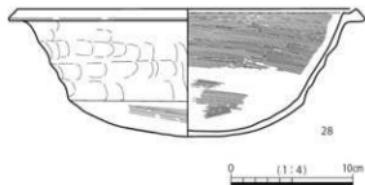
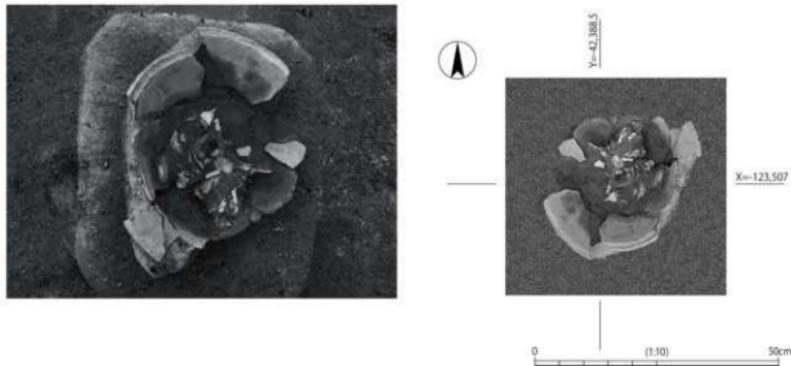
土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	65	×	73	cm
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	54	×	44	cm
			深さ	22	cm	軸方向	不明
上部施設	構造	自然石單体	下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見		
	所	土壤上面で人頭大の自然石が1点(129石組)出土。標石の可能性が考えられる。					
埋葬方法	不明		所見				
	骨	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無					
棺の形態	不明	所見					
人骨	性別	年齢	顔面方位	不明	疾病	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考
	歯		所見	出土なし			
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钺	材質	数量	所見		
	名稱	土師器					
備考	山頂南側斜面、南東端に位置する。これより南東側は急斜面である。北側に126①、126②土壙が隣接し、本土壙は126②土壙に後出す。126①～③土壙の下手、南東側では多くの石仏、石造物が並び、重ねられた状態で出土した(126石組)。126①～③土壙は126石組を除去後に検出されたものであるが、126石組と126①～③土壙の位置は重複しないことから、126石組が126①～③土壙の上部施設とは考えがたい。土師器皿から16世紀～17世紀前半と考えられる。						



27

千提寺西遺跡 3 区

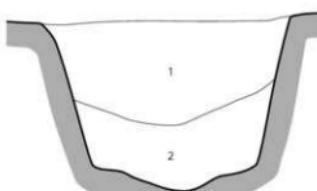
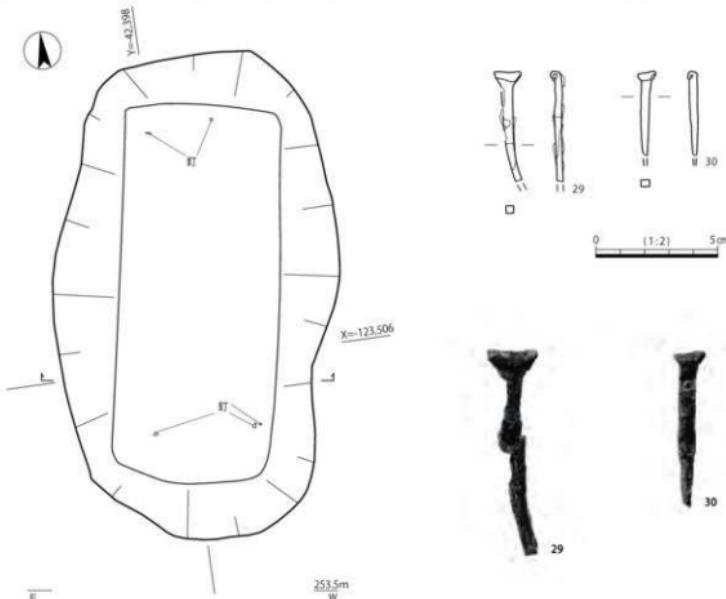
137 土塘 地区割 4F9a



千提寺西遺跡3区

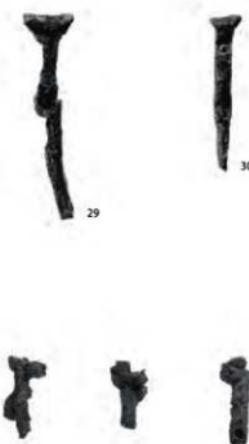
142 土壙 地区割 4F10a

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 200 × 116 cm							
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 154 × 66 cm							
上部施設	○ 有 ◎ 無	構造 所見	深さ 68 cm 軸方向 N-5°-E							
下部施設	○ 有 ◎ 無	構造・所見								
埋葬方法	<input type="checkbox"/> 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input type="checkbox"/> 土葬 <input checked="" type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 所見 底面近くで出土した釘の配置と土壙形状から伸展位による土葬と推測する。			藏骨器 ○ 有 ◎ 無						
棺の形態	<input type="checkbox"/> 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明		土壙の形状と釘の出土状況から推測する。 所見							
人骨	性別 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明		顔面方位 不明		疾病 ○ 有 ○ 無					
	年齢		歯							
所見 出土なし										
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘									
	名稱 釘 材質 鉄 数量 5 所見 短小・長大									
備考	山頂西側平坦面に位置する。5基の長方形墓(18、146、142、143、206土壙)が主軸をほぼ南北方向にもって並列し、本土壙は西から3番目でやや北側に位置する。これら5基の長方形墓は土壙形状と配列、伸展位による土葬からキリシタン墓と考えられる。本土壙は、山頂に向かって東西方向にのびる尾根の南側、直下に掘削されている。南側に147土壙が隣接するが、重複関係は認められない。周辺出土遺物から中世墓とみられるが、明確な時期は不明である。									



1 10YR6/2～6/3 灰黄褐色～にじい黄褐色 細砂混シルトに腐植物含む
2 10YR5/4 にじい黄褐色 微砂混シルト 針含む

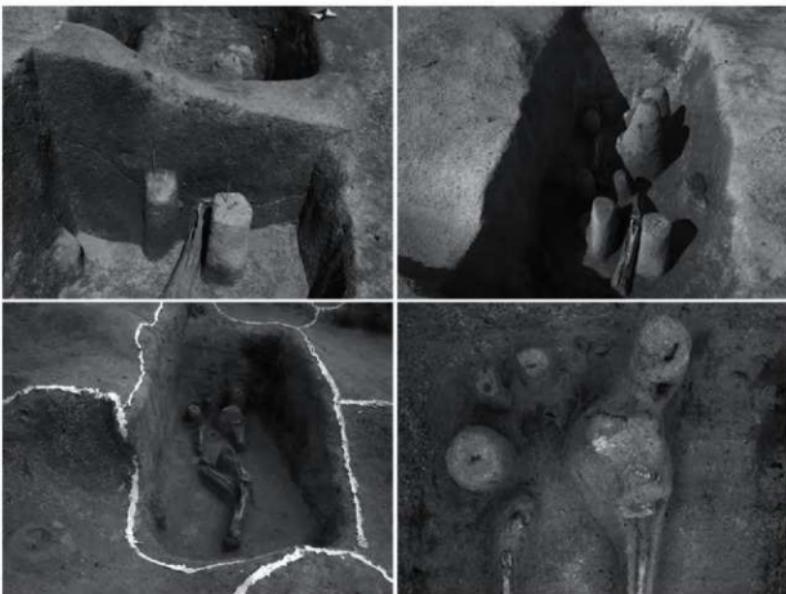
0 (1/20) 1m

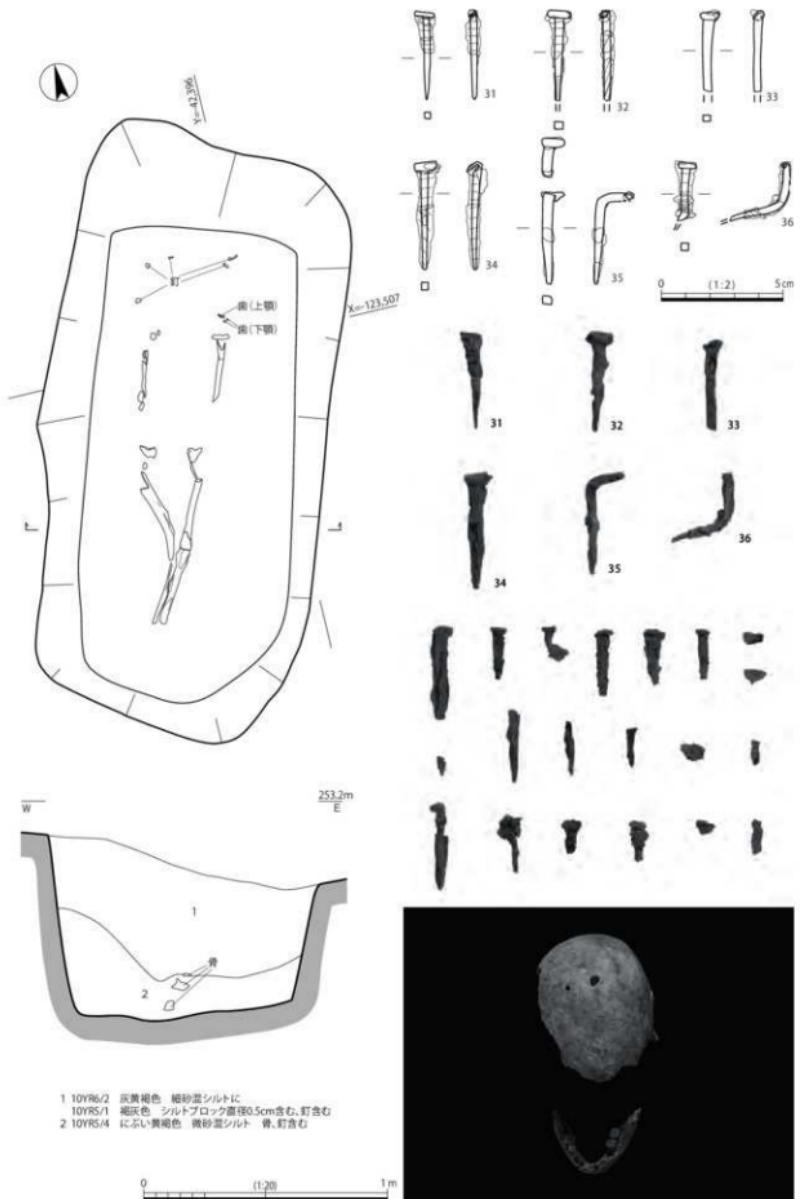


千提寺西遺跡 3区

143 土壙 地区割 4F10a

形土 壙 態の 底面	検出面 長方形	検出面直径・一辺 250 × 118 cm	深さ 70 cm
	長方形	底面直径・一辺 193 × 85 cm	輪方向 N-20° -E
上部施設	○有 ◎無	下部施設	○有 ◎無
埋葬方法	土葬	所見 頭蓋骨、上腕骨、大腿骨の一部が残存する。伸展位による木棺直葬と推測する。頭位は北側。	棺の形態 推定長方形木棺 土壙の形状と人骨、釘の出土状況から推測する。
人骨	性別 不明 年齢 不明	顔面方位 N(頭位)	疾病 ◎有 ○無 備考
副葬品	器種 □土器 □銭貨 □鉄製品 □土製品 □銅製品 □石製品 □木製品 □玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	名称 釘 材質 鉄 数量 20	所見 短小・長大
備考	山頂西侧平坦面に位置する。5基の長方形墓(18、146、142、143、206土壙)が主軸をほぼ南北方向にもつて並列し、本土壙は東から2番目である。土壙形状と配列、伸展位による土葬からキリシタン墓の可能性が考えられる。22土坑(火葬場)の焼化物層上層除去後に検出され、201土壙より後出するため、201土壙(16世紀)→143土壙→22土坑(17世紀前半)である。16世紀以降17世紀前半以前と考えられる。		

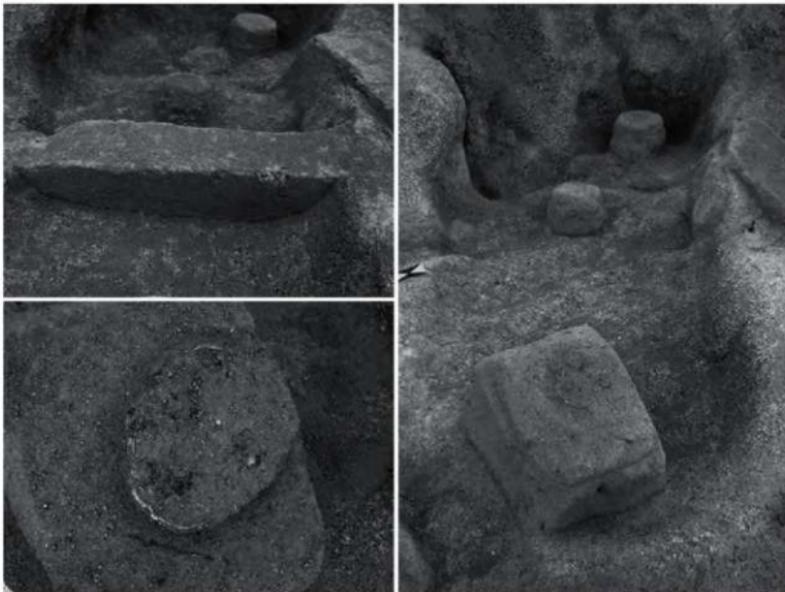


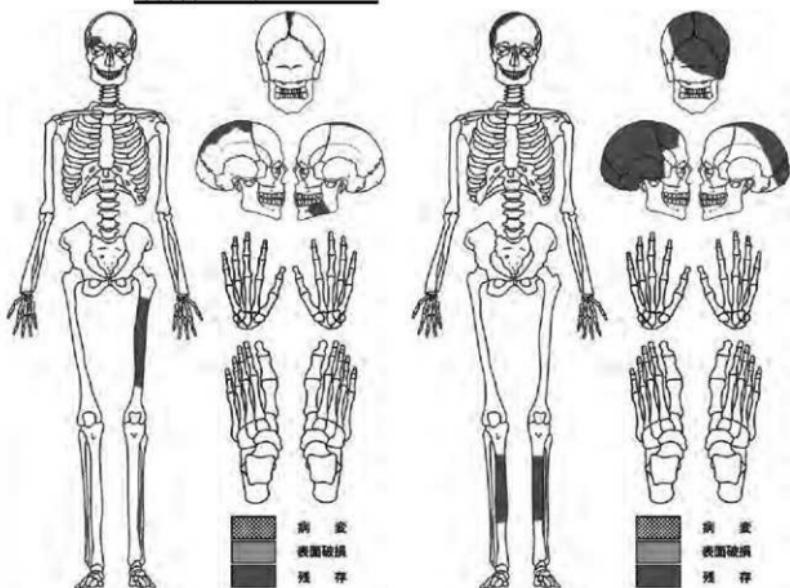
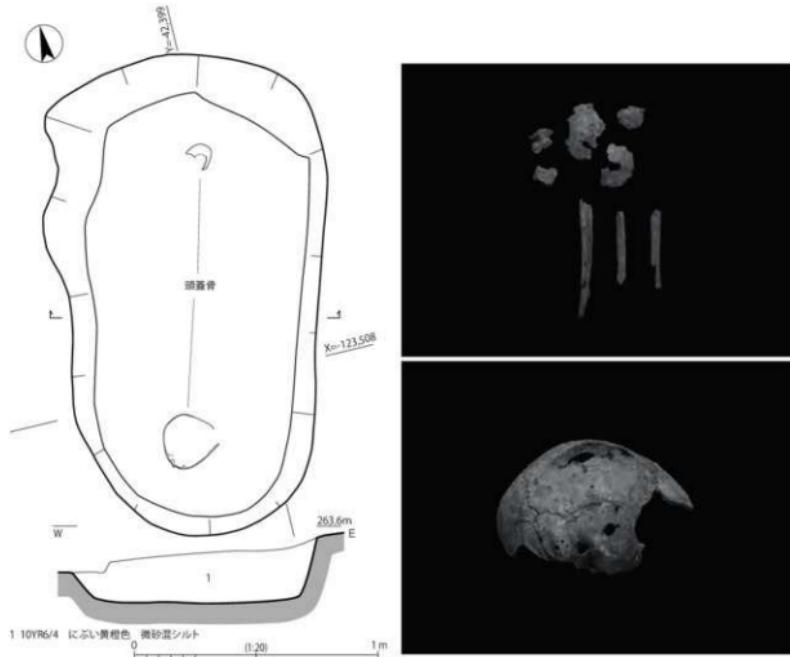


千提寺西遺跡 3区

146 土壙 地区割 4F10a

形土 壙 態の 底面	検出面 長方形	検出面直径・一辺 198 × 116 cm	深さ 21 cm
	長方形	底面直径・一辺 174 × 91 cm	輪方向 N-10° -E
上部施設	○有 ◎無	下部施設	○有 ◎無
埋葬方法	土葬	所見 北側で成人の頭蓋骨が、南側で幼児～少年の頭蓋骨と大腿骨の一部が残存する。	棺の形態 推定長方形木棺 土壙の形状と人骨の状況から推測する。
人骨	性別 不明 年齢 不明	顔面方位 N(大人顎位) S(子供顎位)	疾病 ○有 ○無 備考
副葬品	器種 □土器 □銭貨 □鉄製品 □土製品 □銅製品 □石製品 □木製品 □玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	名称 釘	材質 鉄
		数量 1	所見 短小
備考	山頂西側平坦面に位置する。5基の長方形墓(18、146、142、143、206土壙)が主軸をほぼ南北方向に並列し西から2番目に位置する。これら5基の長方形墓はキリスト教の可能性が考えられる。228→146土壙、148→147→146土壙と考えられる。西側の150土壙から16世紀後半～17世紀前半の土器皿、東側の22土坑(火葬場)炭化物上層から1期古窓水(1636～1659年)が出土しており、これに近い時期と考える。なお、出土人骨の放射性炭素年代測定を行った結果、2σ暦年代範囲(確率95.4%)が1488-1604 cal AD(76.3%)、1610-1640 cal AD(19.1%)であった(第4章第2節参照)。		

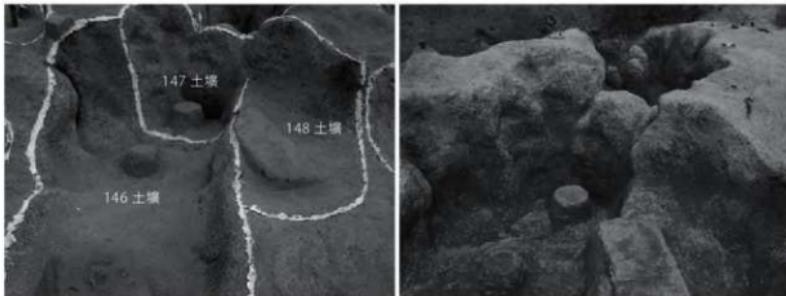




千提寺西遺跡3区

147 土壙 地区割 4F10a

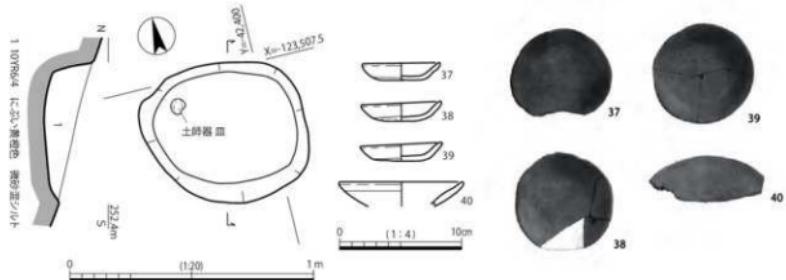
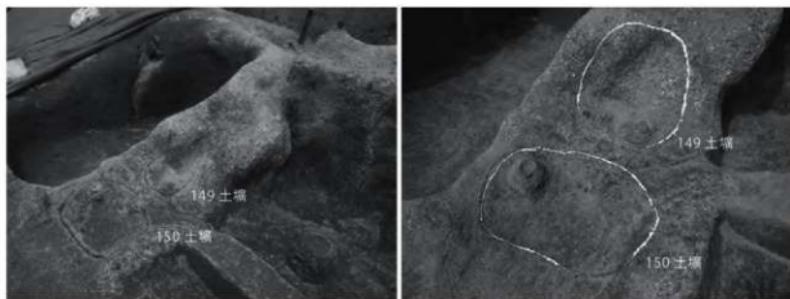
土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	90	×	60~	cm		
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	65	×	48~	cm		
			深さ	77	cm	軸方向	不明		
上部施設	構造			下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見			
	○ 有 ● 無	所見							
埋葬方法	不明			所見	少量の人骨片が出土したのみである。				
	骨 ● 有 ○ 無 被 ○ 有 熱 痕 炭化 物 藏 ○ 有 器 ● 無 ● 有 ● 無 ● 無								
棺の形態	不明	所見							
人骨	性別 不明	年齢 不明	顔面方位 不明	疾病	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考			
	歯	所見							
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 釘							
	名 称	材 質	數 量	所 見					
	不明	土師器	1	破片					
備考	山頂西側平坦面に位置する。北側に142土壙が、南側に146、148土壙が隣接する。重複関係は、本土壙が148土壙に後出し、146土壙に先行することから、148土壙→147土壙→146土壙と考えられる。148土壙出土遺物は人骨のみ、146土壙出土遺物は釘のみ、本土壙出土遺物は人骨と土師器片のみである。周辺出土遺物から中世墓とみられるが、明確な時期は不明である。								



千提寺西遺跡 3区

150 土壙 地区割 5F1a

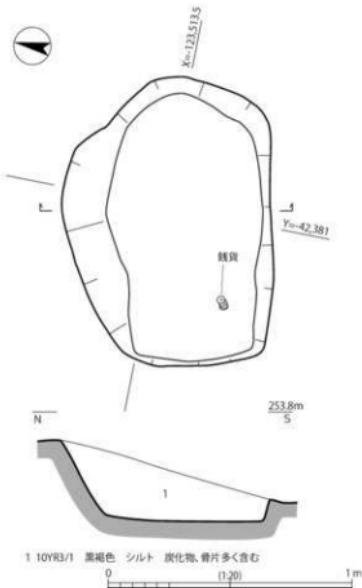
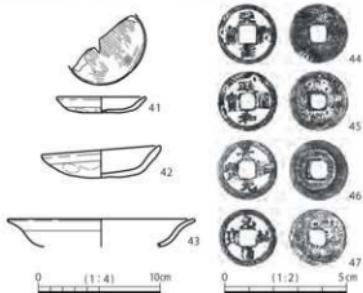
土壤の形態	検出面			□ 方形 □ 不整形 □ 長方形 ☒ 円形 □ 不整円形 □ 不整形	検出面直径・一辺	70	×	58	cm	
	底面			□ 方形 □ 不整形 □ 長方形 ☒ 円形 □ 不整円形 □ 不整形	底面直径・一辺	55	×	45	cm	
	深さ			23 cm	軸方向	不明				
上部施設	○ 有 ● 無	構造・所見			下部施設	○ 有 ● 無	構造・所見			
埋葬方法	不明	所見	土師器皿がまとめて出土。土壤が浅く、人骨も出土しないことから、墓ではない可能性がある。	被骨	○ 有 ● 無	炭化物	○ 有 ● 無	藏骨	○ 有 ● 無	
副葬品	器種	☒ 土器	□ 錢貨	□ 鉄製品	□ 土製品	□ 銅製品	□ 石製品	□ 木製品	□ 玉類	□ 釘
	名 称	土師器	材 質	数量	所 見					
備 考	山頂西側平坦面の西側に位置する。東側に146土壙、西側に18土壙の2基のキリシタン墓にはまれ、北側に149土壙、南側に228土壙が隣接する。重複関係は、本土壙が228土壙に後出する。土師器皿から16世紀を中心とする時期が考えられる。									



千提寺西遺跡 3区

152 土壙 地区割 4F9b

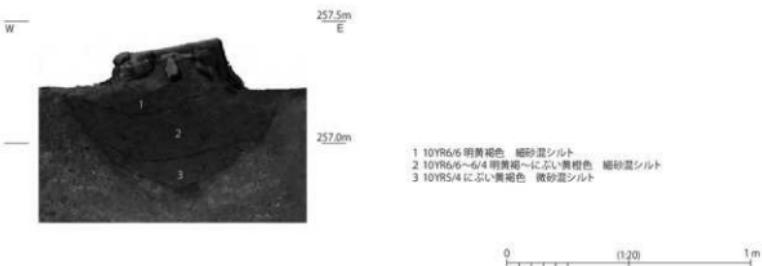
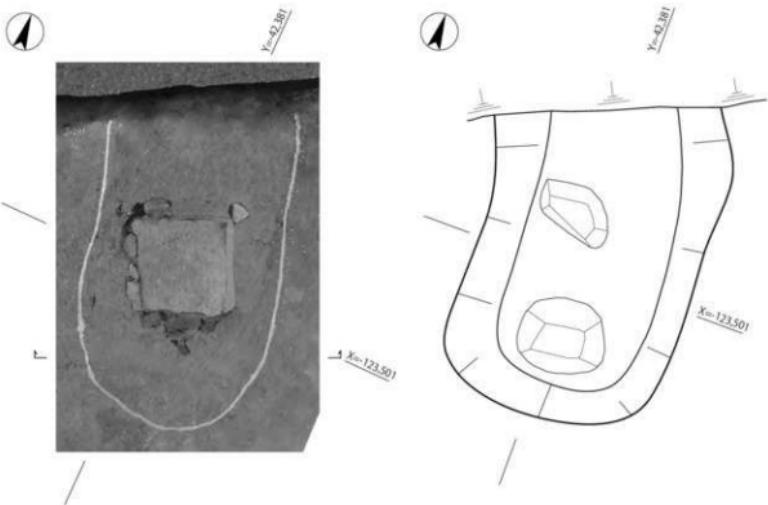
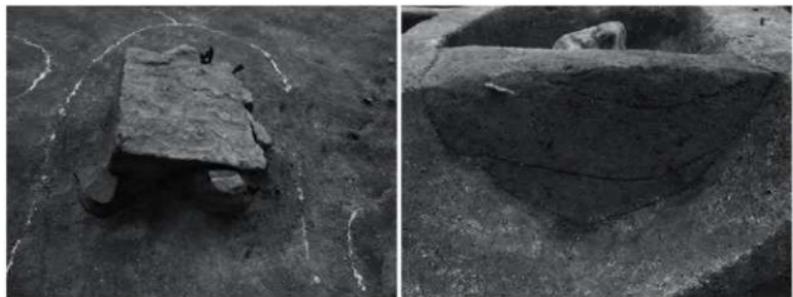
形 土 壙 態 の 性	検出面 不整円形	検出面直径・一边 119 × 85 cm	深さ 30 cm	
	底面 不整円形	底面直径・一边 110 × 64 cm	輪方向 EW	
上部施設	○有 ◎無	下部施設	○有 ◎無	
埋葬方法	火葬	所見	土壙全面に炭化物と人骨片が含まれ、底部から錢貨が4点まとめて出土した。	
人骨	性別 不明 年齢 不明	顔面方位 不明	疾病 ○有 ○無 備考	
歯	所見			
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 刃 名 称 土師器 皿 錢貨 銅 釘 鉄	材質	数量 3 4 2	所見 景祐元寶(初鑄1034年)、嘉祐元寶(初鑄1056年)、元祐通寶(初鑄1086年)、政和通寶(初鑄1111年)。 長大
備考	山頂南側斜面、南端に位置する。北東側に184、132、130土壙が位置する。土壙全面で炭化物に混じって人骨片が堆積し、51、182土壙と埋葬状態が類似する。土師器皿から16世紀を中心とする時期が考えられる。壁面に明らかな被熱痕跡は認められないが、炭化物の集中と錢貨の出土状況からここで火葬した可能性が考えられる。			



千提寺西遺跡3区

156 土壙 地区割 4F9a

土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	128~	<input checked="" type="checkbox"/>	98	cm
		<input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input checked="" type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏		<input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	底面直径・一辺	114~	<input checked="" type="checkbox"/>	63	cm
		深さ 45 cm 軸方向 NS							
上部施設	● 有	構造 <input checked="" type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input checked="" type="checkbox"/> 加工石單体	所見	<input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地					
	○ 無	土壤上面中央で約45×40×15cmの方形の台石と、その周囲を取り巻く拳大の自然石が6点出土(156石組)。方形の台石上にも拳大の自然石が6点、置かれたような状態で出土。							
下部施設	● 有	構造	所見	土壤下面南側で人頭大の自然石が2点出土。被熱痕跡は無い。					
	○ 無	・							
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 ○ 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input checked="" type="checkbox"/> 不明		骨	○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	藏骨器	○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
	○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無								
棺の形態	○ 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 ○ 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 ○ 推定箱形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 不明		所見	所見					
人骨	性別 ○ 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明	顔面方位 不明	所見		疾病	○ 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 傷考			
	年齢	歯							
	所見 出土なし								
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 釘		所見						
	名稱	材質		数量					
備考	山頂部の尾根上に位置する。41・40道路状遺構を含む尾根に沿って、西から154、155、156、159土壙がほぼ等間隔に並列し、本土壙は西から3番目に位置する。西端の154土壙はキリシタン墓とみられる161土壙に先行する。本土壙の上部施設は、3区で最も頗著なものであり、他に例が無い。周辺出土遺物から中世墓とみられるが、明確な時期は不明である。		所見						

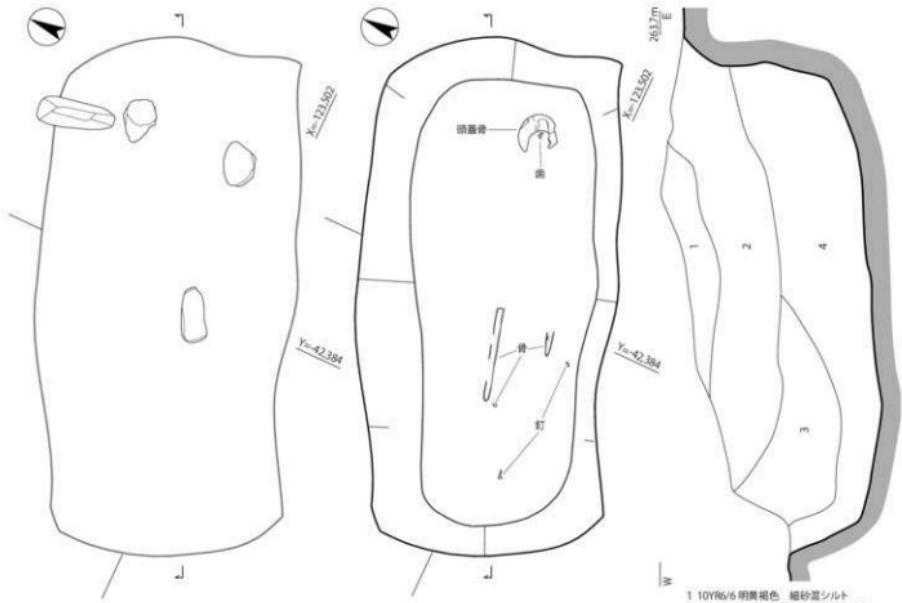


千提寺西遺跡3区

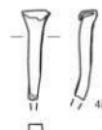
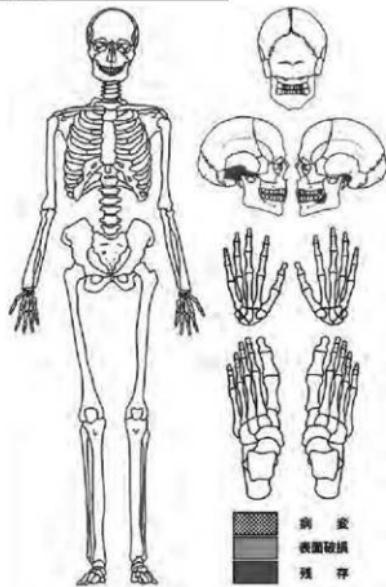
161 土壙 地区割 4F9a

土壤の形態	検出面 <input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				検出面直径・一辺 213 × 107 cm								
	底面 <input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				底面直径・一辺 183 × 76 cm								
	深さ 82 cm		軸方向 N-70° -E										
上部施設	構造 自然石複数 所見 土壙上面東側で人頭大の自然石が3点(154石組)出土。散在しており、二次的に移動したものとみられるが、標石であつた可能性も考えられる。				下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見						
埋葬方法	土葬		頭蓋骨と大腿骨の一部が残存する。人骨の状態から伸展位による木棺直葬と推測する。東側に頭位をもつ。 所見										
棺の形態	推定長方形木棺		土壙の形状と人骨、釘の状況から推測する。 所見										
人骨	性別 不明	年齢 不明	顔面方位 SE(頭位)		疾病 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考							
	歯		所見										
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘												
	名 称 釘	材 質 鉄	數 量 2	所 見 短小 木質付着									
備考	山頂部の尾根上に位置する。尾根と同じ方向に主軸をもち、本土壙の南側に81・83土壙が並列し、81・83土壙の東側に164土壙が直列する。南側の154土壙に後出する。長方形墓で伸展位による木棺直葬と推定され、キリシタン墓の可能性が考えられる。なお、本土壙西側の204土壙はやや軸が北にずれるが、長方形墓であり、キリシタン墓の可能性が考えられる。なお、出土人骨の放射性炭素年代測定を行ったが、汚染の可能性があり結果が出せなかった。												



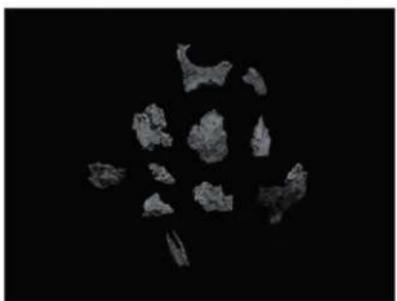


0 (1:20) 1m



- 1 10YR6/6 明黄色 褐砂混シルト
2 10YR6/4 にぶい黄褐色 褐砂混シルト
3 10YR5/4 にぶい黄褐色 褐砂混シルト
4 10YR5/3 にぶい黄褐色 微砂~細砂混シルト

0 (1:2) 5cm

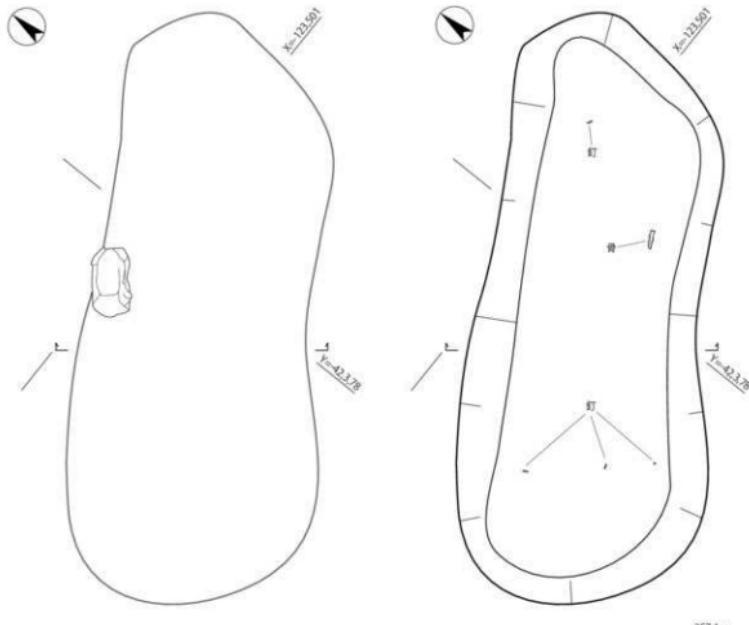


千提寺西遺跡3区

164 土壙 地区割 4F8a

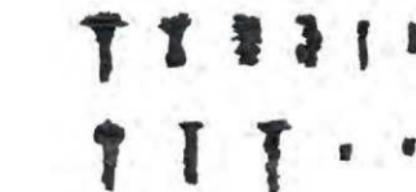
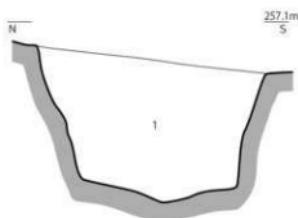
形土 壙 態の 所見	検出面 長方形	検出面直径・一辺	241	×	100	cm	深さ	57	cm			
	底面 長方形	底面直径・一辺	220	×	75	cm	輪方向	N-60°	-E			
上 部 施 設	自然石單体 ○有 標造 人頭大の自然石が1点(88石組)出 ○無 所見 土。二次的に移動したものとみられる が、標石の可能性も考えられる。			下 部 施 設	○有	構造・ 所見						
	土葬				○無	推定長方形木棺						
埋 葬 方 法	骨			被 ○ 有 炭 ○ 有 藏 ○ 有 ○ 有 烟 ○ 无 物 ○ 无 器 ○ 无			棺の形態 土壙の形状と人骨、釘の状況から推測する。					
	性別 不明	年齢 不明	顔面方位 不明			疾病	○ 有	○ 无	備考			
人 骨 齒				所見								
	器種			□ 土器	□ 錢貨	□ 鉄製品	□ 土製品	□ 銅製品	□ 石製品	□ 木製品	□ 玉類	▣ 釘
副 葬 品	名 称	材 質	数 量	所見			釘 鉄 8~				短小、木質付着、頭先半円形に曲がる。	
備 考	山頂南側斜面に位置する。尾根と同じ方向に主軸をもち、本土壙の西側に81・83土壙が直列し、81・83土壙の北側に161土壙が並列する。長方形墓で伸展位による木棺直葬の可能性があり、キリスト教の墓の可能性が考えられる。											





1 10YRS/3～5/4 にぶい黄褐色 細砂質シルト

0 (1:20) 1m

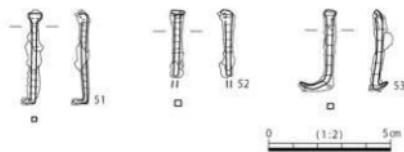
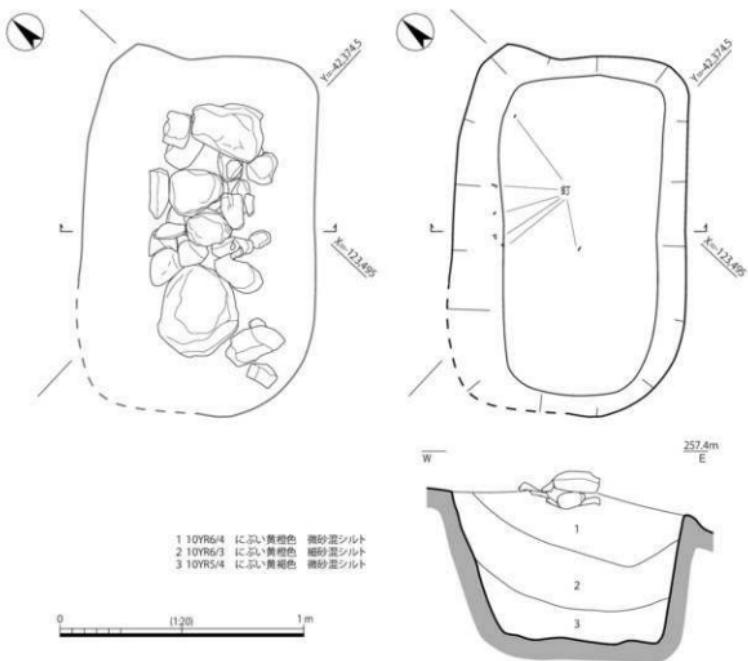


千提寺西遺跡3区

166 土壙 地区割 4E8j

土壙の形態	検出面			検出面直径・一辺	148	x	97	cm					
	<input type="checkbox"/> 円形	<input checked="" type="checkbox"/> 不整円形	<input type="checkbox"/> 不整形										
底面	底面			底面直径・一辺	131	x	66	cm					
	<input type="checkbox"/> 方形	<input checked="" type="checkbox"/> 不整形	<input type="checkbox"/> 長方形										
上部施設	深さ			深さ	60	cm	軸方向	N-30°-E					
	<input type="checkbox"/> 円形	<input checked="" type="checkbox"/> 不整円形	<input type="checkbox"/> 不整形										
埋葬方法	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	構造・所見	自然石複数 自然石14点(166石組)が1~2段に重なって出 土。長方形に石をめぐらせた後内側を充填し たような状況を示す。標石と考えられる。	下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造・所見	自然石複数 自然石14点(166石組)が1~2段に重なって出 土。長方形に石をめぐらせた後内側を充填し たような状況を示す。標石と考えられる。	構造・所見					
副葬品	推定土葬			所見	釘が出土したのみである が、土壤形状から土葬と 推測する。長辺が短く、 伸展位か否かは不明。	棺の形態	不明	棺の形態					
	<input type="checkbox"/> 被 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無												
備考	<input type="checkbox"/> 炭化 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 痕			<input type="checkbox"/> 藏 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 物			<input type="checkbox"/> 器種 名 称 釘						
	<input type="checkbox"/> 鉄 材質			<input type="checkbox"/> 土器 数量 6			所見 短小・長大 細い、先が屈曲するもの有り、頭小さい。						

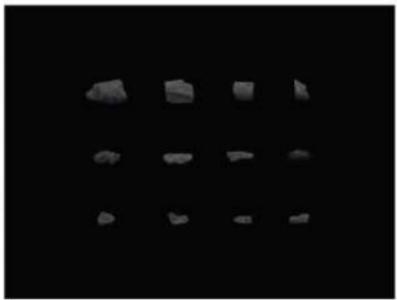
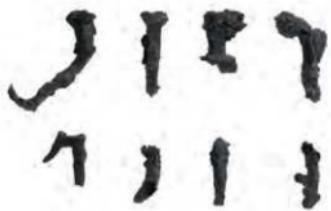
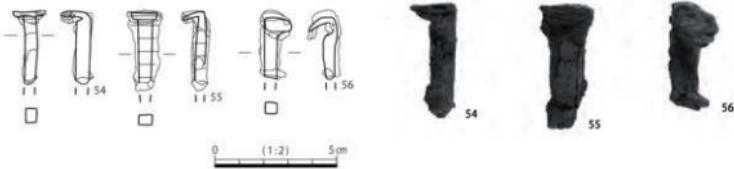
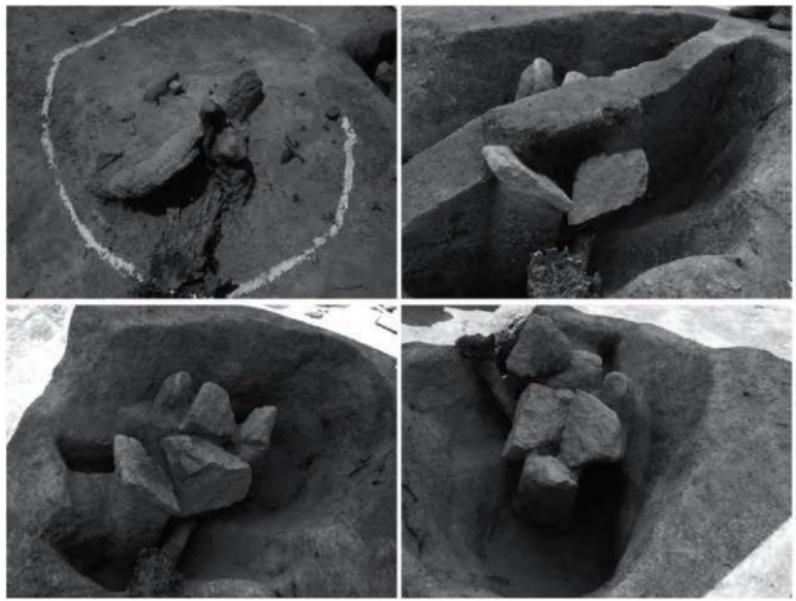


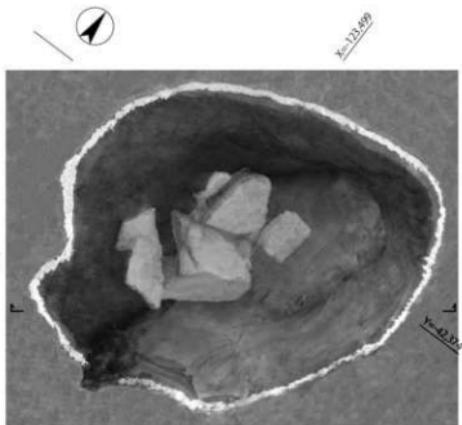
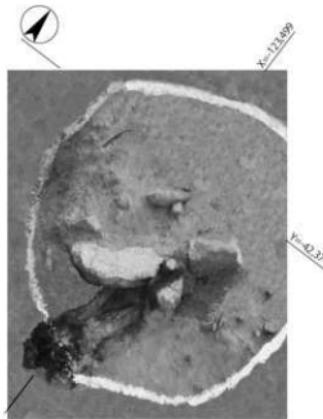


千提寺西遺跡3区

177 土壙 地区割4E8j

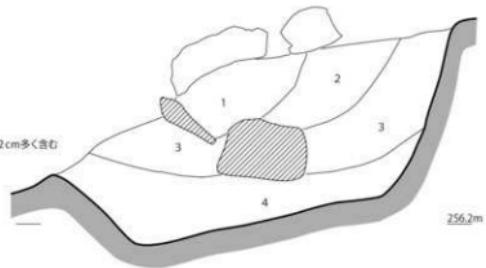
土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	170	×	132	cm				
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	115	×	92	cm				
		深さ	71	cm	軸方向	N-20°-E					
上部施設	● 有	構造	<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏	土壙上面で人頭大の自然石が4点(177石組)出土。標石の可能性が考えられる。							
	○ 無	所見									
下部施設	● 有	構造	上部施設除去後、中央で直径約40cmの円形の炭化物層を検出した。断面で確認したところ、人頭大の自然石5点をまとめて置き、その上面に人骨片を含む炭化物層が堆積することがわかった。自然石の内面は被熱による赤変は認められないが、黒変している。これら自然石を除去後、下部ではやや長方形を呈する土壙を検出し、釘が出土した。								
	○ 無	所見									
埋葬方法	○ 火葬	● 推定火葬 <input type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明	藏骨器 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無								
	● 骨	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 被熟痕 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無									
	○ 所見	人頭大の自然石5点の内面は明らかな被熟痕跡がみられず、この場で火葬がなされたか否かは不明。火葬、拾骨後の納骨か。この下層では釘が出土しており、木棺を用いた土葬が当初行われた可能性がある。									
棺の形態	○ 桶形木棺	<input type="checkbox"/> 長方形木棺	土壙底面の形状から、やや長さが短い長方形木棺の可能性がある。								
	○ 推定桶形木棺	<input type="checkbox"/> 推定長方形木棺									
人骨	○ 箱形木棺	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	○ 推定箱形木棺	<input type="checkbox"/> 不明									
	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	顔面方位	不明	疾病	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考				
	年齢	不明	歯								
	所見										
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘									
	名 称	材質	数量	所見							
	釘	鉄	7	短小・長大 木質付着							
備考	山頂の東側、尾根上から南側斜面にかけて位置する。東側の179①、179③、180土壙と等間隔に並列する。本土壙は、上部で火葬、拾骨後の納骨、下部で木棺を用いた土葬、の複数回の埋葬を確認した。下部の埋葬後、上部の埋葬が偶然行われたのか、意識的に行われたのかは不明である。このような遺構は今回の調査で他に例がない。確実に土壙に伴う出土遺物は釘のみである。周辺出土遺物から中世墓とみられるが、明確な時期は不明である。										





W E 257.2m

- 1 10YR4/1 暗灰色 シルトに炭化物直径1~2cm多く含む
 2 10YR6/4 にぶい黄褐色 シルト
 3 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト
 4 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまったシルト



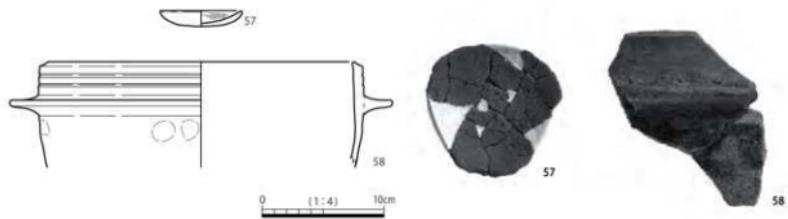
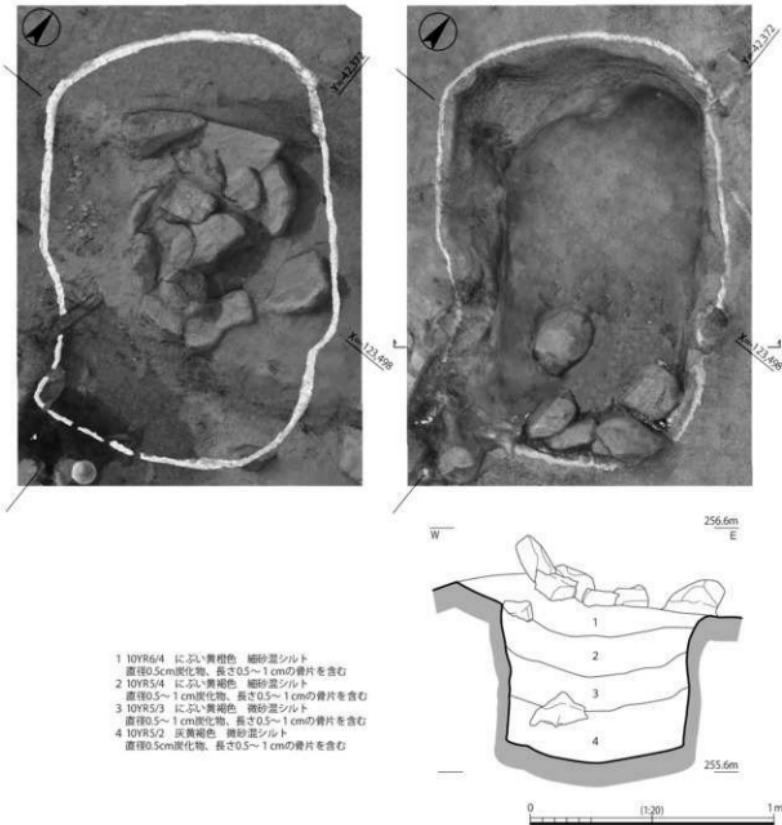
W E 257.2m



千提寺西遺跡 3区 179① 土壙 地区割 4E8j

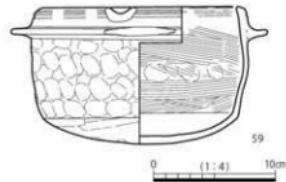
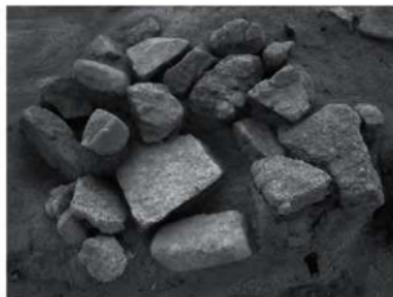
形 土 壙 態 の 底 面	検出面 不整方形	検出面直径・一边 175	×	120 cm	深さ 64 cm
	底面 不整円形	底面直径・一边 120~	×	80 cm	軸方向 N-35° -E
上 部 施 設	構造 ● 有 ○ 無 所見	自然石複数 自然石約20点(179①石組)が1~2 段に重なり出土。不整方形に石をめ ぐらせた後内側を充填。標石である。	下 部 施 設	構造 ● 有 ○ 無 所見	上部施設除去後、約30cm埋土を 掘削した段階で、土壤南側において 人頭大の自然石5点が集中して 出土した。被熱痕跡は無い。
埋 葬 方 法	推定火葬	所 見	埋土に人骨片、炭化物 片を少量含む。被熱痕 跡無し。他所で火葬、拾 骨後、埋葬したものか。	棺 の 形 態	不明 釘は出土していない。
人 骨	性別 不明	年齢 不明	顔面方位 不明	疾病 ○ 有 ○ 無	備考
歯		所 見			
副 葬 品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 釘	名 称	材 質	数 量	所 見
		羽釜 皿	瓦質土器 土師器	1 2	破片
備 考	山頂の東側、尾根上に位置する。東側の179③、180土壙、西側の177土壙と尾根上南側で等間隔に並列する。本土壙周辺は、3区のなかでも、上部施設が残存する土壙が集中し、本土壙は良好に上部施設が残存する一例である。瓦質羽釜から、14世紀後半～15世紀前半と考えられる。				

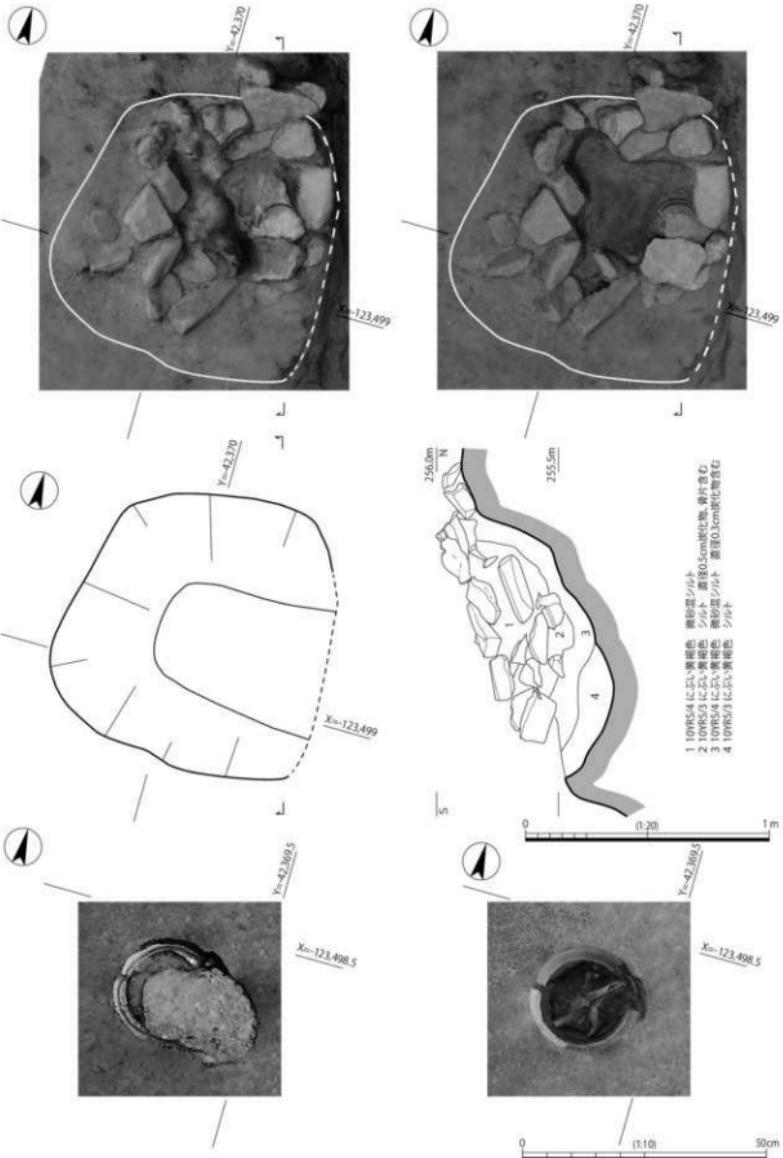




千提寺西遺跡 3区 179② 土壙 地区割 4E7・8j

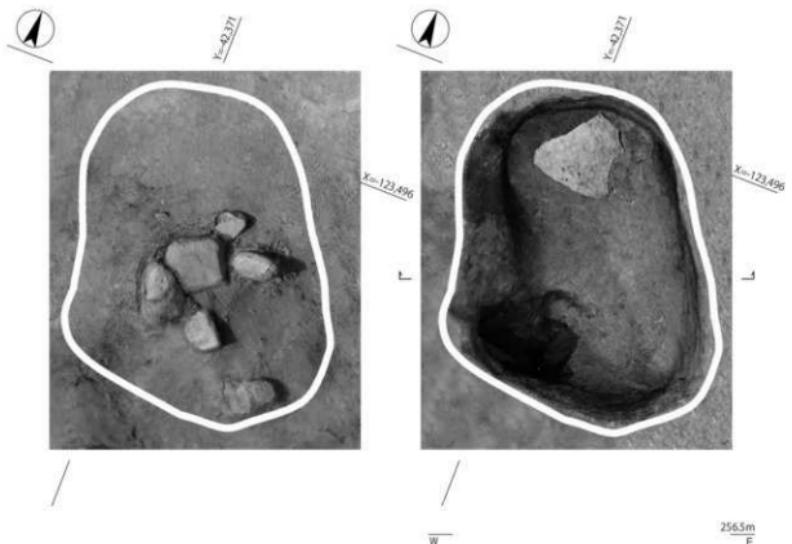
土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	115	<input type="checkbox"/> ×	115~	cm
		<input type="checkbox"/> 底面直径・一边	52	<input type="checkbox"/> ×	70~	cm			
上部施設	● 有 ○ 無	構造	<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input checked="" type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input checked="" type="checkbox"/> 五輪地	所見	土壙上面北側で人頭大の自然石が約25点(179②石組)、2~3段に重なって出土。不整方形に石をめぐらせた後内側を充填したような状況を示す。標石と考えられる。				
		構造・所見	上部施設除去後、土壙東側で土師質羽釜が出土した。土師質羽釜の上面には、平石が口縁部を覆うように置かれる。土師質羽釜内部から人骨片がまとまって出土した。土師質羽釜の周辺から炭化物がわずかに出土した。						
埋葬方法	● 有 ○ 無	● 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 ● 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	所見	土師質羽釜に人骨片が含まれる。人骨は、碎片で白化しており、火葬、拾骨後に納骨が行われたと考えられる。	藏骨器 ● 有 <input type="checkbox"/> 無	土師質羽釜 口縁部に打ち欠き有り			
		○ 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 ○ 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 ○ 推定箱形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 不明							
人骨	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	顔面方位	不明	疾病 ○ 有 <input type="checkbox"/> 無	備考			
	年齢	不明	歯						
副葬品	所見								
	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钵	名称	材質	数量	所見			
備考	羽釜	土師質	1						
	山頂の東側、尾根をやや降った南斜面に位置する。北側尾根上に180、179③、179①、177土壙が並列し、上部施設が179①土壙に類似することから、同じ墓群に属する可能性がある。本土壙周辺は、3区の中でも、上部施設が残存する土壙が集中し、本土壙は良好に上部施設が残存する一例である。土師質羽釜から、14世紀と考えられる。								



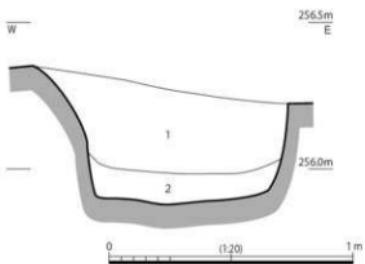


千提寺西遺跡3区 179③土壙 地区割 4E8j

土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形	検出面直径・一辺 140 × 110 cm		
		<input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺 116 × 90 cm		
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形	深さ 47 cm	軸方向 N-25°-E	
上部施設	● 有 ○ 無	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	土壤上面で人頭大の自然石が2点とやや小さな自然石が4点(180石組)出土。標石の可能性が考えられる。		
下部施設	● 有 ○ 無	構造・所見	土壤底面北側で人頭大の自然石が1点出土。被熱痕跡は無い。		
埋葬方法	<input type="checkbox"/> 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input type="checkbox"/> 土葬 <input checked="" type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 所見	藏骨器 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
棺の形態	<input type="checkbox"/> 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	所見			
人骨	性別 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明 年齢 所見 出土なし	顔面方位 不明 疾病 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 無考			
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 釘	名称 材質 数量 所見			
備考	山頂の東側、尾根上に位置する。東側の180土壙、西側の179①、177土壙と尾根上南側で等間隔に並列する。周辺出土遺物から中世墓とみられるが、明確な時期は不明である。				



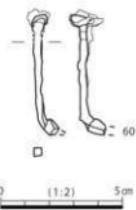
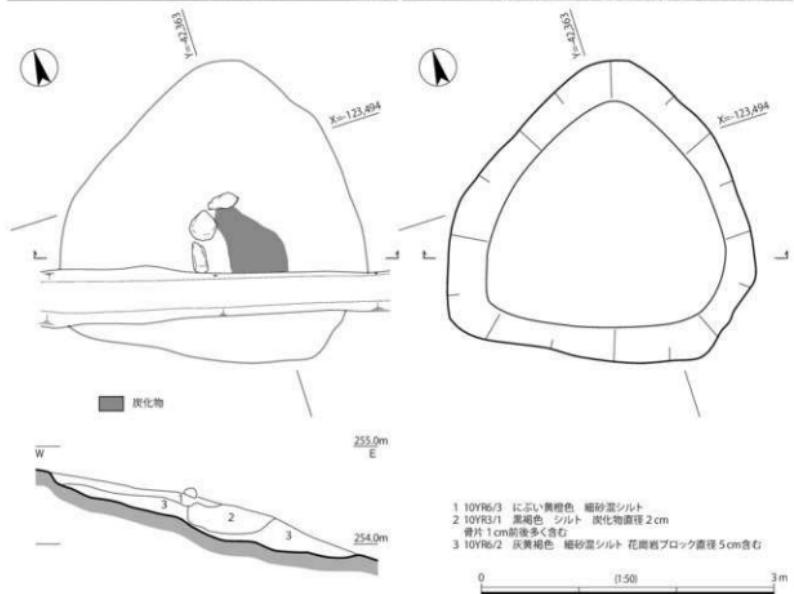
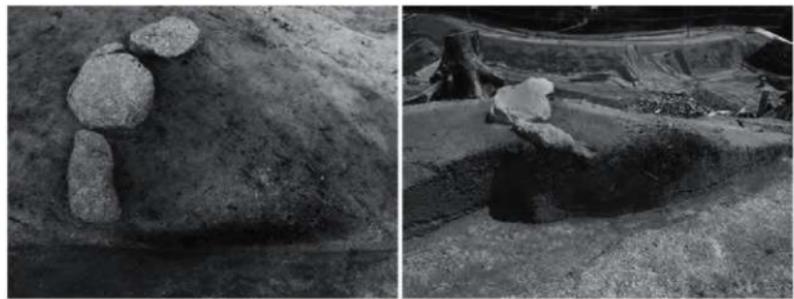
1 10YR6/3 に付い黄褐色 細砂混シルト 直径 1 cmの炭化物含む
2 10YRS/3 に付い黄褐色 細砂混シルト 直径 1 cmの炭化物含む



千提寺西遺跡3区

182 土壙 地区割 4E7j

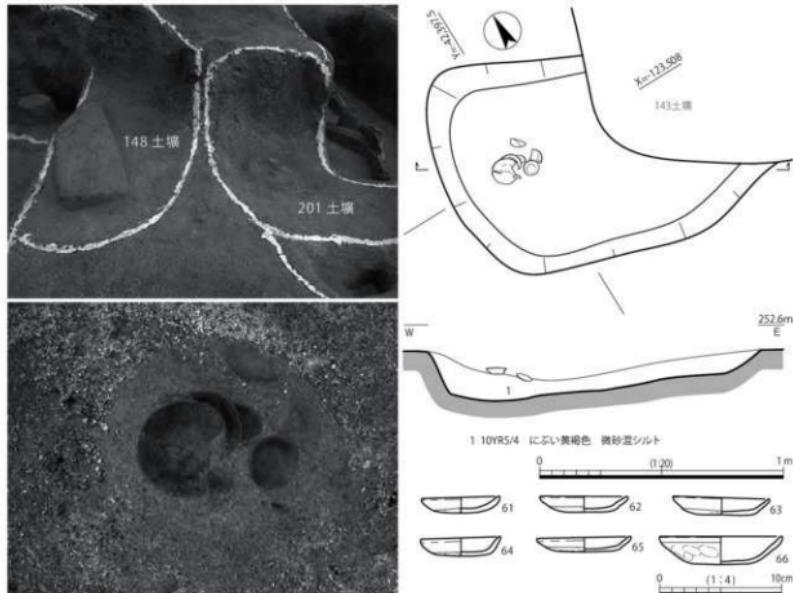
土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形	検出面直径・一辺 124 × 126 cm				
		<input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺 98 × 92 cm				
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	深さ 15 cm	軸方向 N-20° -E			
上部施設	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	構造	<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	土壤上面西側で人頭大の自然石が3点(182石組)出土。炭化物が堆積する土壤周線上にめぐっており、標石が一部残存したものと考えられる。			
		所見					
下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造・所見					
埋葬方法	<input checked="" type="radio"/> 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明				藏骨器 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		
	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 炭化物 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無						
	所見 土壙全面で炭化物に混じって、人骨片がわずかに出土する。 被熱痕跡は認められないが、炭化物の集中から、この場所での火葬が考えられる。						
棺の形態	<input type="radio"/> 楠形木棺 <input type="radio"/> 長方形木棺 <input type="radio"/> 推定楠形木棺 <input type="radio"/> 推定長方形木棺 <input type="radio"/> 箱形木棺 <input type="radio"/> その他 <input type="radio"/> 推定箱形木棺 <input checked="" type="radio"/> 不明		釘が1点出土する 所見				
	性別 <input type="radio"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="radio"/> 不明		顔面方位 不明		疾病 <input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 傷考		
人骨	年齢 不明		歯				
	所見						
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘						
	名称 釘	材質 鉄	数量 1	所見 長大			
備考	山頂部の東側、尾根上に位置する。北側に198土壙があるが、重複関係は認められない。3区において、標石と土壙の関係がつかえる数少ない例である。土壙全面で炭化物に混じって人骨片が堆積し、51土壙、152土壙に類似する。周辺出土遺物から中世墓とみられるが、明確な時期は不明である。						



千提寺西遺跡 3区

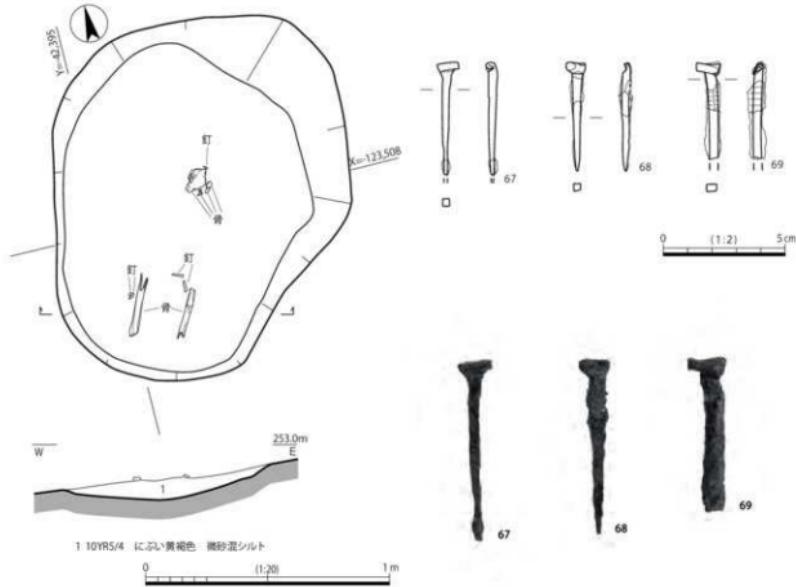
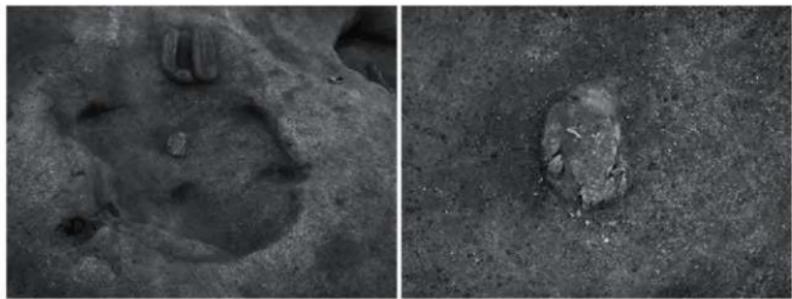
201 土壙 地区割 4F10b

土壤の形態	検出面			底面	検出面直径一辺			
	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				140~ × 87 cm			
深さ			底面直径一辺			116~ × 72 cm		
21 cm			軸方向 N-85° -E					
上部施設	○有 構造・所見 ●無			下部施設	○有 構造・所見 ●無			
埋葬方法	不明	所見	土師器皿がまとまって出土。土壤が浅く、人骨も出土しないことから、墓ではない可能性がある。			棺の形態	不明	
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 釘			所見				
	名 称	材 質	数 量					
	土師器		6					
備考	山頂西側の平坦面に位置する。東側に143土壙があり、本土壙は143土壙に先行する。また、本土壙と143土壙は、南側にひろがる22土坑(火葬場)の炭化物上層除去後に検出されたことから、201土壙→143土壙→22土坑(火葬場)炭化物上層と考えられる。本土壙出土の土師器皿は16世紀のものとみられる。							



千提寺西遺跡 3区 206 土壙 地区割 4F10a

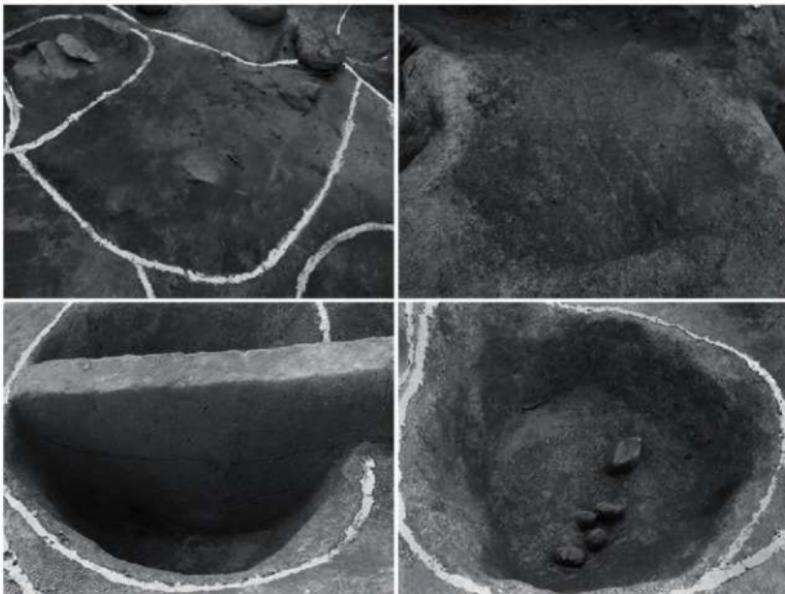
土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 157 × 126 cm 底面直径・一边 134 × 104 cm 深さ 8 cm 軸方向 N-35° -E
		<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	
	底面		
上部施設	○ 有	構造	<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地
	● 無	所見	
下部施設	○ 有	構造・所見	
	● 無		
埋葬方法	○ 火葬 ○ 推定火葬 ● 土葬 ○ 推定土葬 ○ 不明 骨 ● 有 ○ 無 被熱痕 ○ 有 ○ 無 炭化物 ○ 有 ○ 無 所見 椎骨?、大腿骨の一部が残存する。人骨の状態から伸展位による木棺直葬と推測する。北側に頭位をもつ。	藏骨器 ○ 有 ○ 無	
棺の形態	○ 桶形木棺 ○ 長方形木棺 ○ 推定桶形木棺 ● 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 ○ その他 ○ 推定箱形木棺 ○ 不明	所見	本土壙は底面が一部残存する状態である。土壙底面の形状と人骨、釘の状況から推測する。
人骨	性別 ○ 男性 ○ 女性 ● 不明 年齢 不明	顔面方位 N(頭位) 歯	疾患 ○ 有 ○ 無 備考
	所見		
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	名 称 釘	材質 鉄
	数量 5~	所見 長大・短小 木質付着、棺板との関係明瞭。	
備考	山頂西側平坦面に位置する。5基の長方形墓(18、146、142、143、206土壙)が主軸をほぼ南北方向にもって並列し、本土壙は東端に位置する。これら5基の長方形墓は土壙形状と配列、伸展位による土葬からキリシタン墓の可能性が考えられる。本土壙は22土坑の炭化物上層除去後に検出しておらず、これに先行する。東側に212、214土壙が隣接するが、重複関係は認められない。22土坑(火葬場)の炭化物上層から1期古寛永(1636~1659年)が出土しており、これ以前の時期が考えられる。		

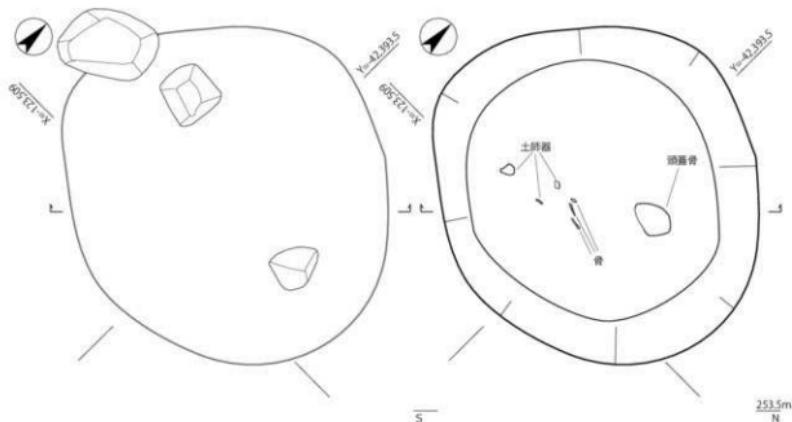


千提寺西遺跡 3区

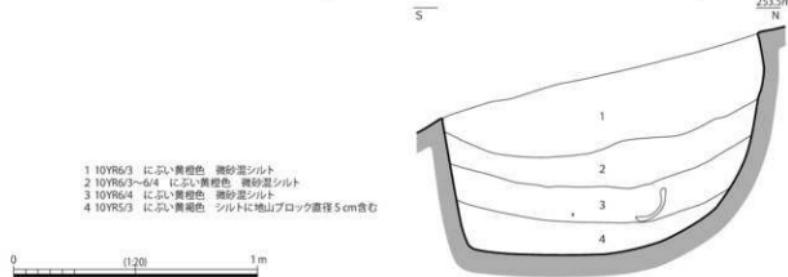
212 土壙 地区割 4F10a

形土 壙 態の 記	検出面 円形	検出面直径・一辺 139 × 131 cm	深さ 73 cm	
	底 面 円形	底面直径・一辺 107 × 101 cm	輪方向 不明	
上 部 施 設	構造 ● 有 ○ 無 ・所見	自然石複数 人頭大の自然石が2点(109・111石 組)出土。二次的に移動したものとみ られるが、標石の可能性もある。	下 部 施 設 ○ 有 ● 無 ・所見	構造 ・所見
埋 葬 方 法	土葬	所 見	底面で頭蓋骨と骨片、釘 が出土しており、土壤形 状と遭構の状態から土葬 と推測する。	
人 骨	性別 不明 年齢 不明	顔面方位 NE(頬位)	疾病 ○ 有 ○ 無 備考	
歯	所 見			
副 葬 品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘 名 称 盆 材 質 土師器 數 量 2 鉄 3~	所 見 2点共破片 長大・短小		
備 考	山頂西側平坦面の東端に位置する。北側に213、214土壙が、西側に206土壙が隣接する。213土壙より後出であり、22土坑(火葬場)の炭化物上層に先行する。22土坑(火葬場)炭化物上層から1期古窓水が出土したことから、17世紀前半以前と考えられる。			

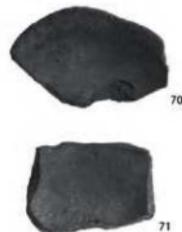
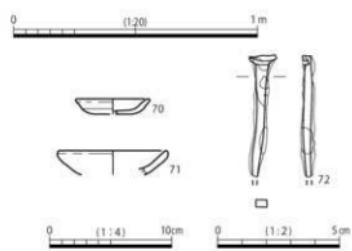




253.5m N



- 1 10YR6/3 にふい黄褐色 粘砂混シルト
2 10YR6/3-6/4 にふい黄褐色 粘砂混シルト
3 10YR6/4 にふい黄褐色 粘砂混シルト
4 10YR5/3 にふい黄褐色 シルトに地山ブロック直徑5cm食む



b. その他の遺構

前述の墓以外に、当該調査区では焼土坑（火葬場）である 22 土坑、道路状遺構とみられる 1 堀、墓の上部施設であった自然石が集積されたものとみられる石組を検出した。

22 土坑 山頂西側平坦面に位置する。平坦面からその南側斜面にかけて検出した。表土掘削中より、炭化物や骨片がみられ、慎重に表土を除去後第 1 面で検出した（図 25・26・写真図版 18-1～5）。楕円形を呈し、長さ 6.7 m、最大幅 5.2 m である。

層序を確認するためサブトレンチを入れたところ、平坦面では土坑状に 2 層の堆積があり（図 30 土層名 1・2）、その下層では、土坑北端の最も高い箇所で被熱の痕跡が認められた（同土層名 3）。その下層は全面黒色の炭化物層であり、上層、中層、下層（同土層名 4～6）に分層できる。

本遺構は、被熱痕跡や焼骨片を多量に含む炭化物層の存在から火葬場として機能したものと考える。

最上層である土坑状の 2 層の堆積は、シルトに炭化物がわずかに含まれるのみであり、下層の炭化物層とは様相が異なる。被熱痕跡を覆うように皿状に堆積した層であることから、火葬場の機能が停止した後の埋積と考えられる。

被熱痕跡は、土坑北端中央で幅約 50 cm の範囲で認められた。本層は地山である花崗岩バイラン土が被熱したものである。本地点は、調査時においても南斜面下の谷部から吹き上げる風が強かったことから、ここで火が用いられた際にも、炎が南から北へと吹き上がり、土坑北端が最も強く火を受けたものと考える。

炭化物層は、上層、中層、下層の順に炭化物の割合が減じる。

上層は、土坑の平坦面から南側斜面にかけて広範囲にひろがる。ほぼ炭化物のみからなる層であり、遺物を多く含む。中層と下層は、平坦面の南端から南斜面にかけてひろがる。ほぼ円形を呈し、長さ 5.0 m、最大幅 4.6 m である。

遺物は、土坑上面で図 33-73～77、炭化物層の上層で同 78～80、中層で同 81～83、下層で同 84～86 が出土した。75、76 は瓦質香炉、77 は瀬戸美濃系陶器椀、80 は肥前系陶器皿、86 は瓦質羽釜であり、その他は土師器皿である。75、76 は、本来瓦質であったものが後世吸着した炭素が消失したため、一見土師器に見える。80 は口縁部に打ち欠きがある。75、76 は 16 世紀～17 世紀前半、77、80 は 17 世紀前半、86 は 14 世紀に位置付けられる。

錢貨は開元通寶、北宋錢、南宋錢、永樂通寶、寛永通寶が出土した。希少なものとしてベトナム、陳の紹豊元寶（初鑄 1341 年）（図 33-94）が 1 点含まれる。錢貨は 116 点出土しており、中世のものが大半をしめ、層位による錢貨の多寡や種類の違いは認められない。寛永通寶は、炭化物層の上層で古寛永が 2 点出土した（図 33-96・97）。

検出時より土坑の肩部は不明瞭であり、第 1 面では、埋土がやや盛り上がるような状況であった。山頂西側平坦面では、炭化物層の上層を除去した段階で、地山面である第 2 面に至る。第 2 面では、炭化物層の中層、下層が平坦面の南端から斜面にかけてひろがる状態であった。その北側では、長方形墓ならびに、それに切られた中世墓を検出した（図 28・29）。

以上より、本遺構は、第 1 面から第 2 面にかけて機能しており、第 1 面では、平坦面から南側斜面にかけての楕円形の広い範囲で機能し（炭化物層の上層）（図 25・26）、第 2 面では、平坦面南端から南側斜面の円形の範囲で機能しており（炭化物層の中層・下層）（図 28・29）、前者は

17世紀前半、後者は14世紀以降17世紀前半までの時期が考えられる。なお、本遺構が最も盛んに機能した時期は、炭化物の様相から、第1面、炭化物層の上層が堆積した17世紀前半とみられる。

1堀 調査区西端に位置する。第2面において輪郭を検出し、上面には3~7、19土壤が位置することから、本遺構はこれらの遺構以前に位置付けられる（図29）。三日月状の平面形を呈し、最大幅3.5m、深さ1.6mである。断面形はV字形で、整った形状であることから人為的な掘削であることは明らかである（図31・写真図版25-3~5）。埋土は上層から下層まで、微砂がラミナ状に入る層が主体であり、中位に両肩部からシルトが堆積する（図31土層名3）。こうした堆積からは、掘削後、雨水により埋積が進むなか、中位まで埋積した段階で一度両肩部から山上の堆積があり、その後再び雨水により埋積したものと考える。中位の山土からは13世紀後半の和

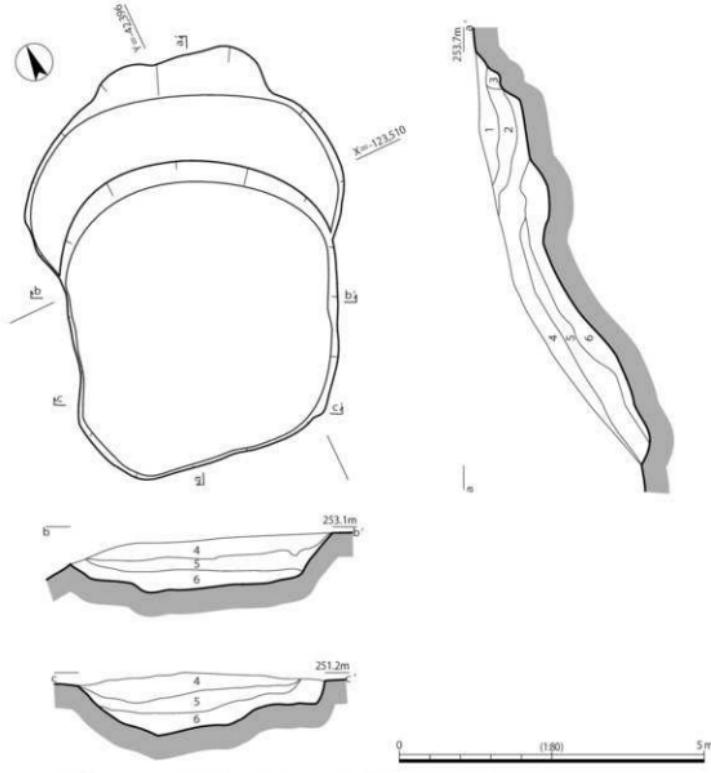


図30 千提寺西遺跡3区 第1・2面 22土坑 平・断面図

泉型瓦器椀が出土した(図33-88)。埋土上面では、土師器皿(図33-87)が出土しており、時期の確定は困難であるが中世末、16世紀の可能性がある。本遺構は13世紀後半以前に掘削され、16世紀には埋積していた可能性が考えられる。

本区の中世墓出土遺物は、13世紀後半から16世紀のものであり、本区は、主にこの時期に墓域であった。本遺構は、墓域形成以前に掘削され、墓域が広がるなかで埋積が進んだものとみられる。

本遺構の性格は、当初、断面形状から堀と考えた。5区3溝が本遺構の南端につながるような位置にあるため、5区から本区に向かってのびる尾根を区画するために設けられたものと考えた。しかし、5区3溝と本遺構は規模が異なり、また時期も異なるため、同一の遺構とみることが困難となった。平面図を再度検討すると、本遺構は調査区西側を南北にはしる現在の道の東側にあり、尾根を分断するように大きく湾曲するものの、その北端と南端は現在の道に連結することから、現在の道以前の道として機能した可能性が考えられる。本遺構上面には、中世末、16世紀とみられる墓があることから、少なくとも中世末、16世紀には本遺構は埋積しており、現在の道が機能していたと考えられる。

67・68石組 第1面、山頂南側緩斜面の西側斜面に位置する(図26・32・写真図版20-3~6)。石仏、五輪塔部材を含む自然石群が約4×4mの範囲で集中して出土した。石仏は正立するものではなく、横位もしくは平置きであり、五輪塔部材は単独で自然石群のなかに混在する。また、斜面下部から裾部にかけては、石造物や自然石が二重三重に重なる状態であった。なお、これらを除去後の第2面において、土壤は検出されなかった。こうした出土状況から、これらの石造物や自然石群は、本来は墓の上部施設であったものが、いずれかの時期に動かされ、墓ではない場所にまとめて置かれた可能性が考えられる。石造物はほぼ完形であり、とくに破壊の痕跡は認められない(表7・写真図版89~102)。図33-86は、石造物や自然石とともに出土した瓦質羽釜である。口縁部が内傾しており、14世紀に位置付けられる。藏骨器であったものが、後世動かされたものとみられる。

69石組 第1面、67・68石組のやや東側に位置する(図26・32・写真図版20-7)。石仏5

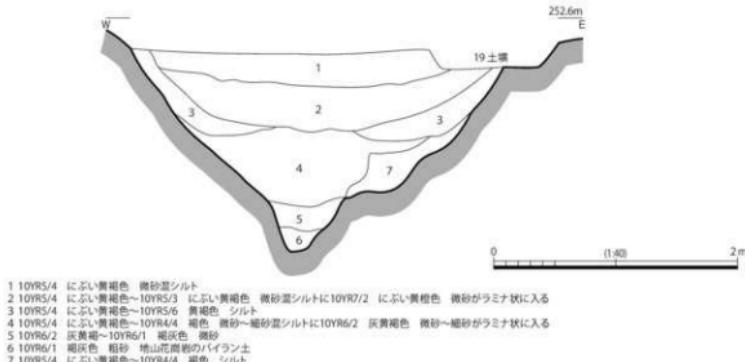


図31 千提寺西遺跡3区 第2面 1堀 断面図

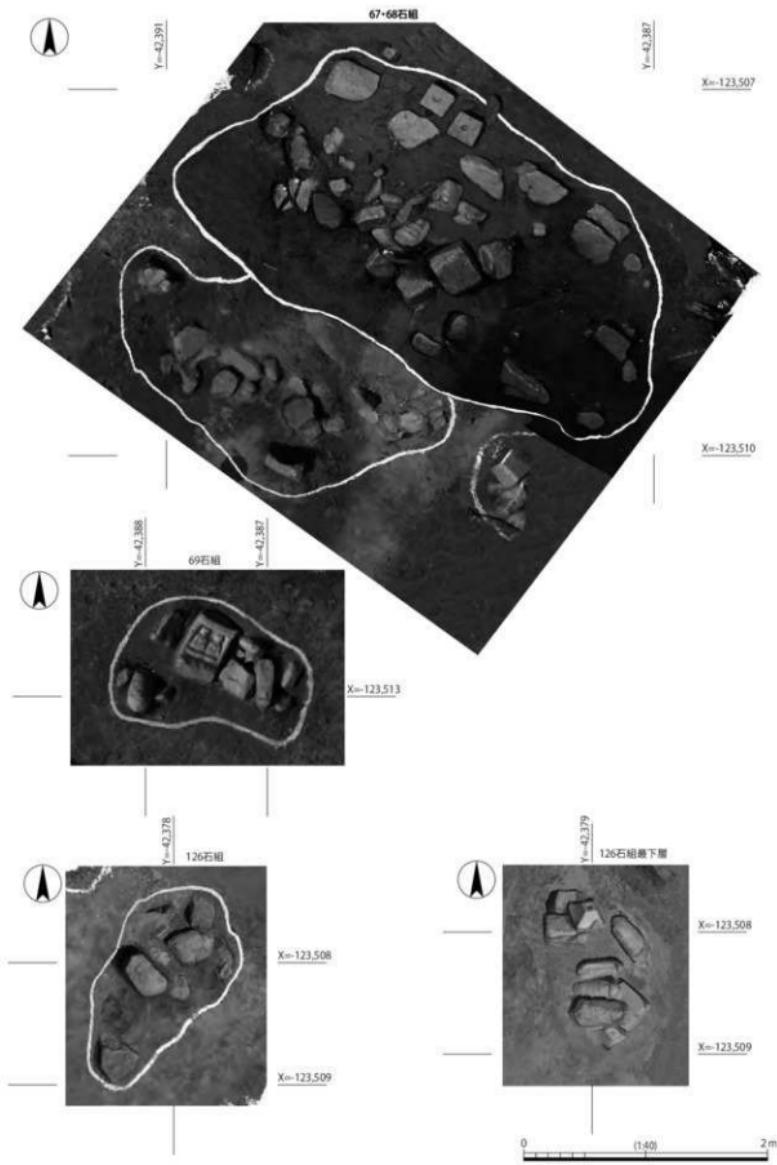


図 32 千提寺西遺跡 3 区 第 1 面 67・68、69、126 石組構造 平面図

点と地輪 1 点が集中して出土した。石仏は正立するものが 1 点あるが、4 体は横位、平置きで地輪とともに並んだ状態で出土した。これらを除去後の第 2 面で、墓は検出されなかった。これらの石造物や自然石も、本来上部施設であったものが、動かされ、まとめて置かれたものと考えられる（表 7・写真図版 89・90）。

126 石組 第 1 面、山頂南側緩斜面の東側斜面に位置する（図 26・32・写真図版 22-1～3）。石仏、五輪塔部材を含む自然石群が約 2×1 m の範囲で集中して出土した。67・68 石組と同様の出土状況を示し、石造物や自然石が三重四重に重なる状態であり、最下層では 69 石組同様、石仏が並べられた状態で出土した。これらの石造物や自然石も、本来上部施設であったものが、動かされ、まとめて置かれたものと考えられる（表 7・写真図版 89～102）。

3・4 区は、今回調査した 5箇所の墓域において、唯一中世墓が主体となる墓域である。墓域は、山頂南側緩斜面にひろがる墓群と山頂西側平坦面にひろがる墓群がある。「墓の丸」という字名どおり、調査以前より石仏や五輪塔部材の分布が確認されていたが、調査の結果、第 1 面では石組と自然石のひろがりを、第 2 面では円形、方形を呈する中世墓を 74 基、キリスト教墓の可能性

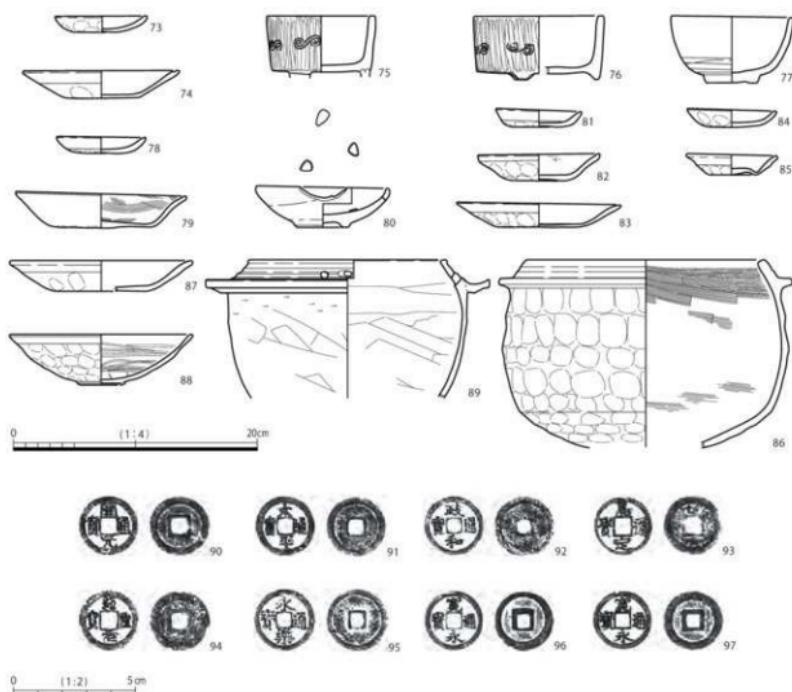


図 33 千提寺西遺跡 3 区 出土遺物

をもつ長方形墓を10基、近世墓を2基検出した。その他、火葬場（22土坑）、道路状遺構（40、41）、道（1堀）を検出した。

これらの遺構から考えられる、本区における遺構の変遷は以下のとおりである。

13世紀後半以前、調査区西端に道（1堀）が設けられる。5区から3・4区へと東へのびる丘陵部を分断して設けられた大きく湾曲する道である。この道は本区北側へとのびており、集落へ連なっていた可能性が考えられる。

13世紀後半～15世紀には、山頂南側緩斜面に墓域が形成される。瓦器が出土した墓（33、96土壤）や羽釜（70、118、179②土壤）、鍋（137土壤）を藏骨器とする墓の分布から、山頂南側緩斜面を中心に墓がひろがったと考えられる。墓は円形、方形を呈し、火葬、土葬がともになされた。墓の上部施設は、円形もしくは方形を呈する自然石の石組であり、これと共に石仏や五輪塔が据えられたと想定される。山頂西側平坦面では、確実にこの時期に比定できる墓はなく、この時期の墓の有無は不明である。ただし、平坦面の南端から南斜面にかけての場所は火葬場として使用される。調査区西端の道（1堀）は中位より上へ埋積が進む。

この時期、山頂南側緩斜面には、墓の上部施設である2～3段の自然石の石組や石仏、五輪塔が累々と並び、山頂西側平坦面の南端には火葬場があり、西端の道（1堀）は埋積が中位にまで進む景観が復原できる。

16世紀には、山頂南側緩斜面のほか、山頂西側平坦面も墓域となる。また、調査区西端の1堀は埋積し、その上面から尾根上の道端には数基の墓がひろがる（3～7、19、10～12、20土壤）。墓は前代に引き続き、円形、方形を呈し、火葬、土葬とともにあったとみられ、上部施設も同様と考えられる。山頂西側平坦面とその西側尾根上の道端には、土師器皿がまとまって出土する墓が集中する（10、20、150、201土壤）。山頂西側平坦面の南端では火葬場が継続する。なお、調査区西端の道（1堀）はこの時期には埋積しており、道は現在の道筋へと変化している。

この時期、山頂南側緩斜面と山頂西側平坦面、調査区西端の1堀上面から尾根上の道端には、墓の上部施設である2～3段の自然石の石組や石仏、五輪塔が累々と並び、山頂西側平坦面の南端に火葬場があり、道は現在の道筋が利用されている景観が復原できる。

その後、17世紀前半までのいずれかの時点で、これら円形、方形の中世墓に重複して、長方形墓が山頂周辺に5基（42、164、81・83、161、204土壤）、山頂西側平坦面に5基（18、146、142、143、206土壤）設けられ、これらが後出する。中世墓の上部施設であった自然石の石組や石仏、五輪塔が動かされた契機は、墓域の廃絶後等いくつか考えられるが、この長方形墓が設けられたときもひとつつの契機となる可能性が考えられる。長方形墓を掘削するために、中世墓の上部施設であった自然石の石組や石仏、五輪塔の多くは、山頂南側緩斜面の東側と西側斜面へと動かされ、まとめて置かれたとは考えられないだろうか。まとめて置かれた石仏や五輪塔は原形をとどめることから、このとき石造物を破壊する行為はなかったものと考えられる。山頂南側緩斜面と山頂西側平坦面にひろがる墓の多くは、その上部施設が動かされ、もとの姿をとどめないが、墓域の東端である山頂東側においては、自然石の石組からなる上部施設が残存する。ここは、尾根上をはしる道の突き当たりにあたり、また、長方形墓が設けられなかつたため、上部施設が残存したのかもしれない。

山頂周辺の長方形墓はほぼ東西に直列し頭位が東、山頂西側平坦面の長方形墓はほぼ南北に並

列し頭位が北であり、すべて長方形木棺での伸展葬と考えられる。副葬品はみられない。長方形墓は、軸をそろえた配列、長方形木棺での伸展葬から、キリスト教の可能性が考えられる。5区4土壙は本区の長方形墓と同じ特徴をもつものであるが、ここでは自然石が長方形にめぐる上部施設が確認されており、長方形墓をキリスト教とみる要因の一つとなった。残念ながら、本区では長方形墓の上部施設は自然石が1～3点残るのみであり、明確な上部施設は検出されなかった。

長方形墓のなかで、161土壙と146土壙では、出土した人骨片を試料として放射性炭素年代測定（AMS法）を実施した。161土壙出土試料は、残念ながら人骨のほかに由来する炭素による汚染の可能性があるため測定結果を除外せざるをえなかった。146土壙出土試料は¹⁴C年代が 330 ± 20 ¹⁴C BP、2σ曆年代範囲（確率95.4%）が1488～1604 cal AD(76.3%)、1610～1640 cal AD(19.1%)であり、15世紀後半～17世紀前半の範疇に入る結果を得た。

長方形墓は、副葬品が無いため時期の確定が困難であるが、先述したとおり、山頂西側平坦面において、焼土坑（火葬場）、22土坑の炭化物層上層を除去後に長方形墓（143、206土壙）が検出されており、炭化物層上層及び上面出土遺物が17世紀前半に位置付けられることから、長方形墓は17世紀前半以前の時期が考えられる。また、長方形墓（143土壙）は中世墓（201土壙）に後出することから、中世墓（201土壙）以降の年代が考えられ、201土壙からは16世紀のものとみられる土師器皿が出土していることから、長方形墓は16世紀以降の時期が考えられる。放射性炭素年代測定（AMS法）の結果を含めて考えると、長方形墓の時期は16世紀～17世紀前半の中のいずれかの時期と考えられる。

16世紀～17世紀前半の中のいずれかの時期、山頂周辺と山頂西側平坦面には長方形墓が設営される。長方形墓の上部施設は不明であるが、5区4土壙を参考にすると、自然石が長方形にめぐる上部施設があり、整然と軸をそろえて直列、並列していたと想定される。山頂南側緩斜面の西側と東側の斜面には、長方形墓設営に際し中世墓上部から動かされた自然石、石仏、五輪塔が積み重ねられた状態で置かれ、これまであった中世墓の上部施設は数個の自然石が散在する状態になったものと想定される。ただし、尾根上の道の突き当たりにあたる山頂東側では様相が変わらず、中世墓の上部施設である2～3段の自然石の石組が変わらずに並ぶ。山頂西側平坦面の火葬場は、この時期には土葬が主となり、ほとんど使用されなかったものと想定する。

17世紀前半以降、山頂西側平坦面では、長方形墓の上部施設が失われ、その上に火葬場がひろがる。このときの火葬は、14世紀～16世紀にかけて行われた火葬に比べ、かなり大規模で回数も多い火葬であったと考えられる。山頂周辺の長方形墓も上部施設は失われ、外観からは長方形墓の存在はわからなくなっていたと考えられる。

その後、17世紀後半以降、近世墓が2基設けられるものの、本区は墓域としてほとんど機能しなかったものと考えられる。山頂西側平坦面の火葬場も機能していない。

本区では、13世紀後半以降の中世墓がひろがる墓域に、キリスト教とみられる長方形墓が出現する。これは、この地において、長らく仏教の信仰のもと墓域が形成されてきたなかで、中世末～近世初頭に新たにキリスト教の信仰が受容されたときの姿が墓域に現れたものと考えられ、このような宗教環境の変化に伴う具体的な様相を知るうえで重要な知見を得ることができた。

(2) 千提寺西遺跡5区

5区は千提寺西遺跡の北西部に位置し、西からのびる尾根が北東と南に分かれる分岐地点の頂部を中心とする(図34)。東西約90m、南北約110mの範囲にひろがり、標高は264mから272mを測る。本調査区は地元で「マエノヤマ」と呼ばれており、今回の発掘調査を実施する直前まで中谷家先祖代々の一族墓地として使用されていた。ただし、当地を埋葬地として利用していたのは明治期前半の土葬までであり、火葬が普及した後は西側に造られた共同墓地へ埋葬するようになったようである。中谷家は隠れキリシタンとして知られており、江戸時代の墓地はその当時を知る貴重な手掛かりになると考えられることから、調査の対象となったものである。

調査区は最も高所に位置する中谷家の墓地を中心に、北東方向と南方向にのびる尾根が道によって寸断されるまでの範囲が設定された。従前に行った試掘調査において石仏や土器片、土坑を検出したことや、東側尾根の中央付近にて石仏がみつかったことから、「墓の丸」から連続する中世墓の存在やそれ以外にも遺構が存在する可能性を鑑み、尾根の全域を調査対象とすることになった。しかし、実際に調査を開始したところ、近世墓地の東側斜面は人が立っていられないほど急峻であり、人為的及んだ蓋然性が極めて低いこと、調査自体の安全を確保することが非常に困難なことから、調査対象より除外することとした。

基本的な層序は、暗茶褐色を呈する腐植土の近現代表土(第1層)、黄褐色を呈する砂質土の近世表土(第2層)、明黄褐色を呈する生物擾乱土(第3層)、花崗岩あるいはその風化土の地山により構成される。遺構面は、新旧表土を除去した地山面を第1面として設定した(図11・12)。

重機が進入可能な箇所については、樹木や竹の除根が必要なため近現代の表土である第1層を機械によって慎重に除去し、以下の層を人力によって掘削したが、平坦面が狭い尾根上や斜面については表土から生物擾乱層である第3層まですべて人力による掘削を行った。

現地の調査は、排土を搬出する都合から、北東方向の尾根を中心とする1トレンチを先に実施し、続いて南方向の尾根を中心とする2トレンチを行った。これらのトレンチは調査を行うための便宜的なものであるため、本項では5区全体を通して特徴をもつ地区ごとに報告を行う。なお、遺物や写真・図面等の記録類に関してはトレンチ名を残している。

本調査区は、当初の想定通りに墓域としての成果が多く、すべて尾根上の狭量な平坦面を利用して建設されていた。それらは大きく3つの地区に分けることが可能であり、東・中央・南に区分する。墓以外の遺構としては土坑・焼土坑・集石遺構・道路状遺構があり、調査区内に点在することから、まとめて後述する。

a. 墓域

東の墓域は、中世墓群の存在する「墓の丸」と道を隔てた対面に位置する尾根上の先端付近にみつかった(図34・35)。立地する東側にのびる尾根は、頂部平坦面の幅が2~3mと非常に狭く、両側は切り立った崖面となっている。調査前の現況では「マエノヤマ」から「墓の丸」へとづく細い山道があり、その傍らに石仏が放置された状態でしかなかった。

腐植土である第1層を除去すると、X=123,501、Y=42,453付近において長方形の石組を検出した(カラー図版2-1)。石組は第2層中に埋没し、腐植土に覆い隠れた状態であることから、近世以前に形成されたことは明らかであった。しかし、同じ検出面で関連する遺構の有無を確認することは困難であったため、石組を残した状態で第2層を除去し、地山面に達した。地山面は花崗岩を主としており、第

2層を埋土とする複数の土坑を検出した（カラー図版2-2）。石組遺構の直下では、長軸同じにする長さ約2mの隅丸方形の4土壙を検出した。石組遺構の縦横に残した断面観察用のアゼによると、検出した土坑の掘削面は石組底面と一致しており、土坑を埋め戻した後にその上面に石組を構築したことが明らかとなった（カラー図版2-3）。なお、4土壙は検出時に一つの遺構と認識していたが、埋土の掘削中に遺構肩の残骸が認められ、西端に円形土坑が接していたことがわかった。5土壙は4土壙の北側に並行して築かれており、ほぼ同様の規模を有する。周辺の他の土坑からは遺物がまったく出土しなかつたが、4・5土壙において人骨片を確認できたことから、これらの土坑すべてが墓壙であった蓋然性が高いと推察する。4土壙のような石組構造をもつ墓は同市下音羽地区「オガミジョ（大神家墓地）」に積石墓の例があり、国内では北九州地方に特徴的にみられる。調査期間中に複数のキリシタン墓研究者に実見していただいた結果、当該期に構築する墓の形態としてはキリシタン墓以外に考えられないとの見解を得た。キリシタンに関連する遺物が確認できなかった点については、後世の禁教政策下において弾圧を恐れて遺骸とともに回収された可能性があることや、貴重な信仰祭具のため遺骸埋葬時に納棺しなかった可能性が考えられる。当地区では上記の隅丸長方形墓以外に楕円形墓を含めて計9基の土壙がみつかっているが、狭い尾根頂部の10m以内の範囲に密集しており、一族あるいは家族等の小単位で築かれた墓地と判断する。その造墓時期については、遺物が残らないため詳細が不明であるが、「墓の丸」の中世墓地内に構築された初期キリシタン墓以降、禁教令発布の直後くらいまでの短期間と推測する。ただし、西側の尾根頂部に広い平坦面が存在するのに、あえて狭量で不便な当該地点を選地したことを考慮すると、すでに禁教政策が始まり、大々的な造墓が憚られた可能性も指摘される。

中央の墓域は、尾根が東と南に分岐する地点に位置する（図34・36）。周辺の尾根の中では最も高所に立地し、南側の「浄土墓」、東側の「墓の丸」、さらにその奥にある「市坂山」や「竜王山」を望むことができる。墓地が築かれた尾根上の平坦面は幅5～9mと広く、最高所を中心とする約15mの範囲に計53基の土壙が集中する。なお、中央の墓域の東側斜面には大量の土砂が堆積していることから、造墓期間中に本来の尾根地形を削平して平坦部を拡張した可能性も考えられる。

土壙の形状は、上面では崩落のため変形が著しいものの、底面では円形と方形に分かれ、その比はおよそ1：2である。木棺が遺存する例はほとんど認められないが、38土壙では埋土の中位付近から戠手や透かしの施された木材が出土し、棺上を覆う天蓋の可能性があるものや、64土壙では箱形木棺に塗布されていたと思われる赤色顔料が出土していることから、当時一般的であった桶形や箱形の木棺を使用したと考えられる。土壙底面の形状が埋納された木棺の形状に規制された点は間違いないことから、当墓域における桶形木棺と箱形木棺の使用比も上記と同様に約1：2であったと推測する。

地表構造については、調査前に墓石等を移築したことからほとんど残存しておらず、8基において単体もしくは複数の自然石を用いた集積が認められたのみであった。

人骨は全体の約66.0%である35基に残存していた。残存する人骨のうち約82.9%の29体は埋葬形態の判別が可能であり、屈座あるいは胡坐座による埋葬が行われている。また、頭部正面の方位を復原したところ、1体が北西位、2体が北位を示す以外は、約89.7%が南西位を中心とする45°以内に入っており、東位を指向するものは皆無であった。なお、これらのうち年齢や性別の判明したものは約95%であり、男女比は約55：45、年齢構成は10才以下が15%、20～60才の成人が74%、60才以上が11%となった。人骨の詳細な観察については、後述の第4章第5節を参照されたい。

副葬品については、釘を除く何らかの遺物が出土する墓は約67.9%の36基を数える。主な遺物と



図35 千提寺西遺跡5区 キリストン墓 平面図

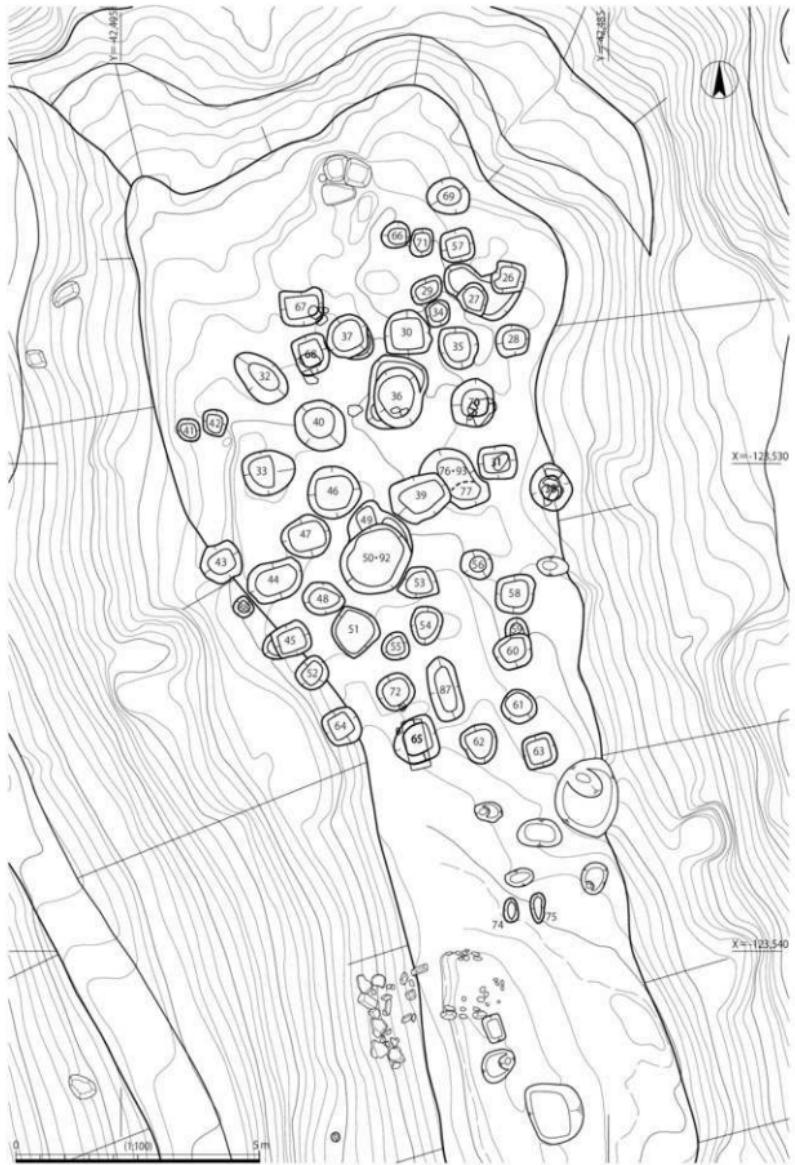


图 36 千提寺西遗迹 5 区 近世墓 平面图

しては煙管・銭貨・握り鉄の3種が挙げられ、煙管・銭貨は男女に関係なく使用されているが、握り鉄は女性に限定されている。同様の遺物には断面が「へ」字を呈する鉄製毛垂（剃刀）があり、44・46・64・74 土壙から出土している。銭貨については 21 基から出土しているが、全体の約 39.6% と 4 割に満たず、隣接する「淨土墓」と比べても少ない。また、1 基当たりに埋納される枚数は平均 4 点であり、6 点揃っている例は少ない。しかし、これは他の墓地でも被葬者や生活環境等の状況によって枚数の増減があったことは明らかであり、特別な違いは認められない。しかし、28・30・61 土壙で出土した太夫・虚無僧・福良雀・外国人といった土人形は、一般的な墓には珍しい例である。信仰対象物として仮託された可能性も考えられるが、加工や加筆の痕跡は確認できなかった。その他に特筆すべきものとして、鉛玉や棒状鉄製品、煙草入れ一式がある。鉛玉は 32 土壙から出土したもので、遺骸の右胸部背骨付近にみつかった。直径約 11 mm を測り、一部が潰れて変形している。発射された弾丸が本遺骸に命中したものであれば、死亡原因となった蓋然性は高いと考えられる。棒状鉄製品は 45 土壙から出土しており、遺骸の骨盤前方の左下から右上にかけてみつかった。倒れ込んだ肋骨や背骨が本品を覆っているため、上部からの混入ではなく、埋葬時点で下腹部付近にあったものと推測する。棒状鉄製品は、一端が断面三角形であり、細い方の一端が断面長方形であることから、断面三角形の方が尖端になるものと考えら

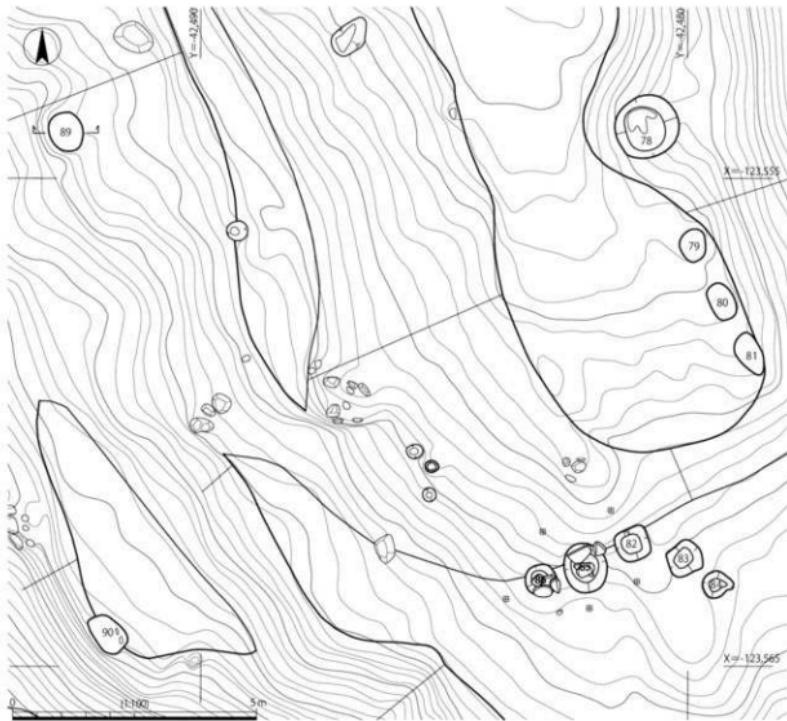


図 37 千提寺西遺跡 5 区 南側 平面図

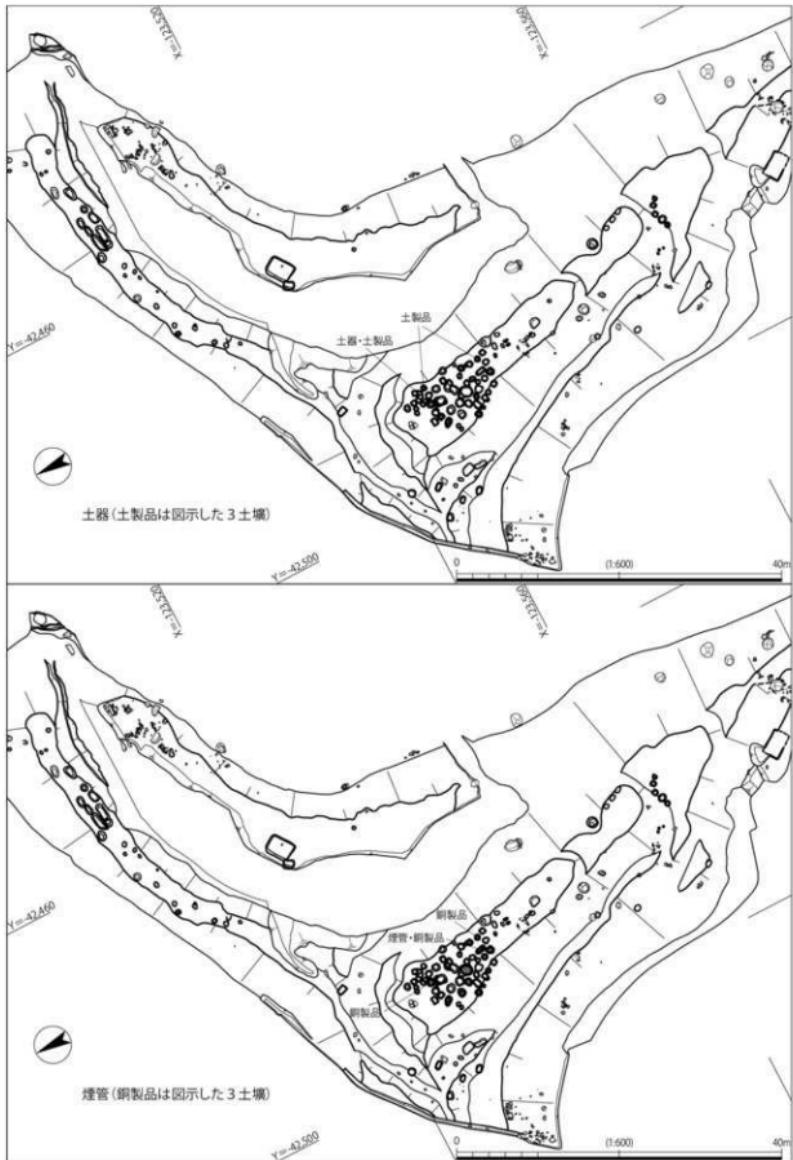


図38 千提寺西遺跡5区 遺物別平面図(1)

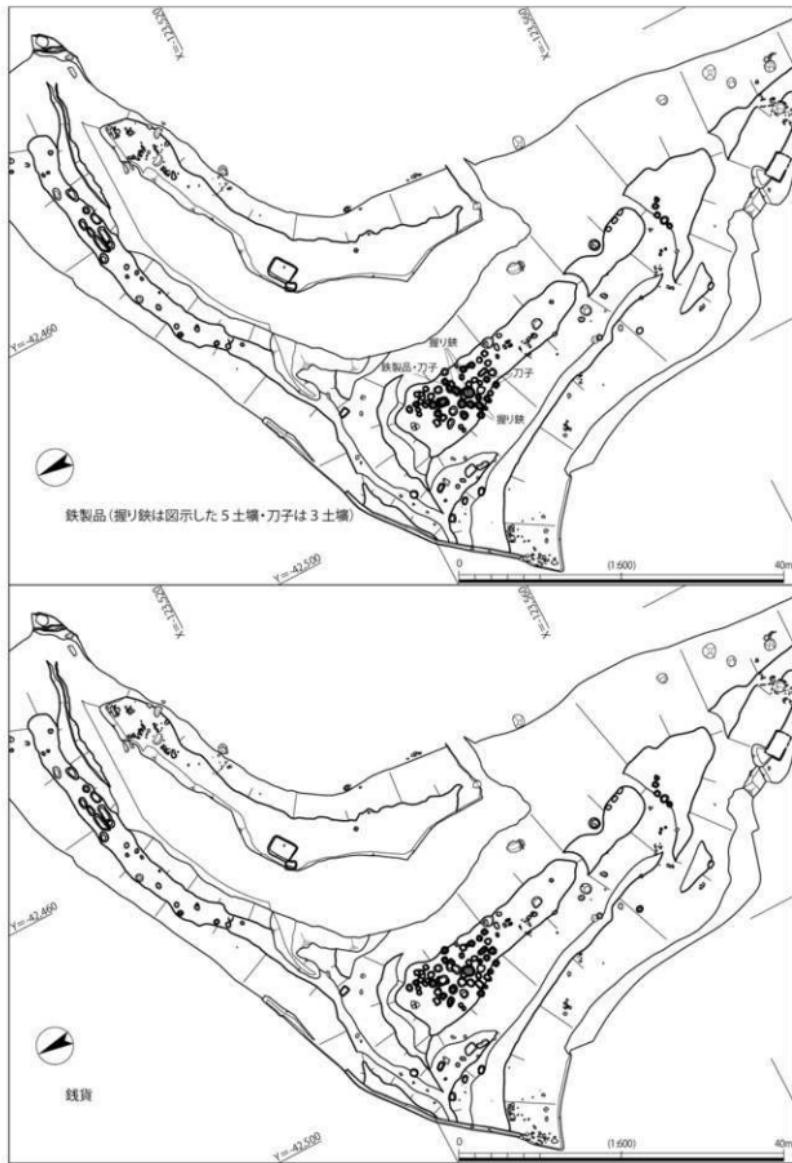


図39 千提寺西遺跡5区 遺物別平面図（2）

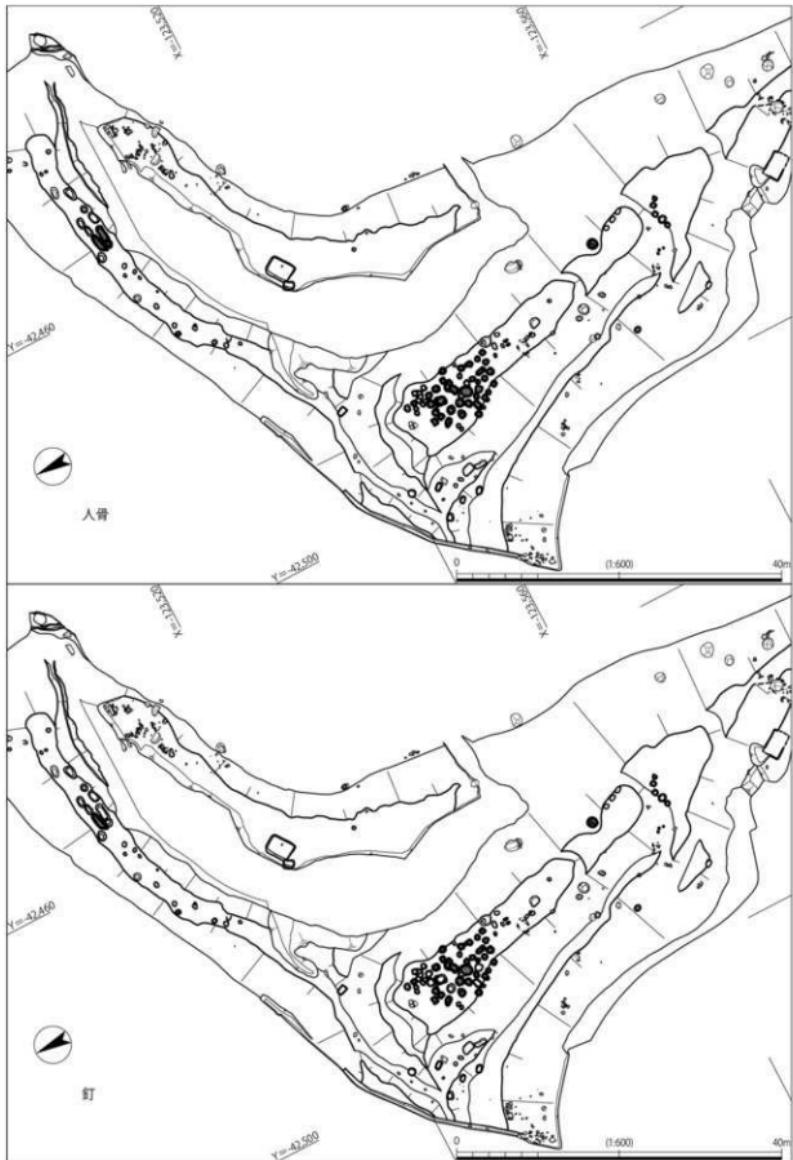


図40 千提寺西遺跡5区 遺物別平面図（3）

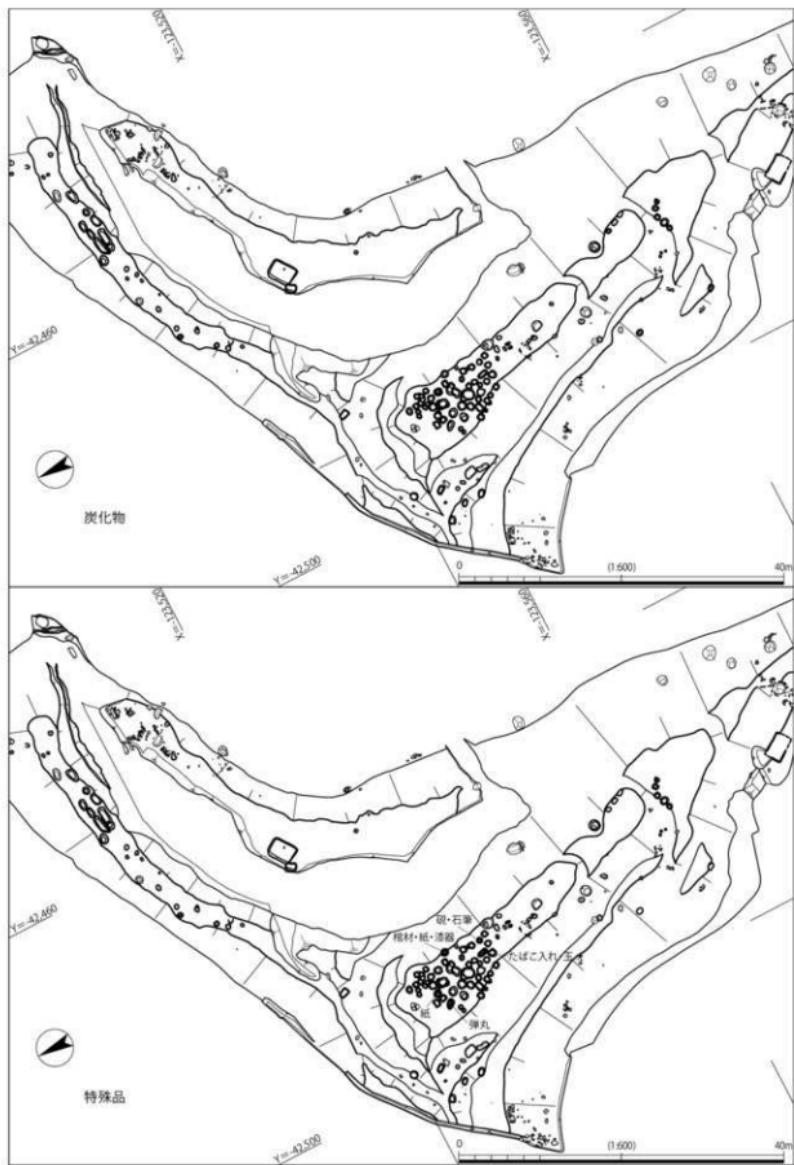


図41 千提寺西遺跡5区 遺物別平面図(4)

れる。出土状況をみると、身体側が断面長方形、断面三角形側が外側を向く。刺突された可能性と、腹部上に置かれた可能性が推察される。煙草入れは 87 土壙から出土したものであり、留具・台座・円環・紐等の計 18 点の部品を数える。台座には、薄い紙状のものが重なった状態で付着しており、本体は紙製と推察される。留具に残る意匠から三重県伊勢市に現存する「つぼや」が製作した煙草入れと判明した。

当墓域の南端に位置する 74・75 土坑については、長軸が約 50・60 cm、短軸が約 30 cm、深さ約 5 cm を測る。ほぼ同規模で同形状の遺構が約 55 cm の間隔で平行していることから、前述の「オガミミヨ」に現在も残存する柏台の柱石の痕跡と推察する（写真図版 31-6）。これより南側の平坦面には墓が築かれていないことから、墓域の境界を示す役割も担ったと考えられる。

当墓域は本調査の直前まで隠れキリシタンである中谷家が墓参されていたことから、近世以降に築かれた同家の一族墓地であることは予め認識されていた。禁教令以前とみられるキリシタン墓は 4 土壙、5 土壙などの一群を東の墓域で検出し、中央の墓域では江戸期における「潜伏キリシタン」の実態を知る手掛かりの発見が期待されたが、残念ながらそれらを示す直接的な資料はみつからなかった。

南の墓域は、中央の墓域より約 20 m 南へ下降した尾根上に位置する（図 37）。やや離れて単独にある 78 土壙と、ほぼ同規模・同形状で密集する 5 基の土壙墓で構成される。78 土壙は掘形がひと回り大きいものの、深度が約 30 cm と浅いために遺構の大半が削平されており、わずかに残存する人骨や釘から墓と判明した。82～86 土壙は深度が 60～70 cm と深いものの、遺骸はまったく残存しなかった。86 土壙からは土師器皿が出土しており、隣接する「浄土墓」に類似する遺構があることや、遺構の形状から墓であると判断した。

78 土壙は浅いものの釘や人骨の出土状況から、その他は墓壙の形状から、いずれも座棺による土葬墓と推測できる。造墓時期は中央の墓域に重複していることから、位置を避けて埋葬された理由としては、「浄土墓」に面している点や類似する土師器皿が納められている点、「潜伏キリシタン」という特殊な事情を考慮すると、同族の中で異なる信仰の方を埋葬した可能性が考えられる。

南の墓域から約 20 m 南へ下降した地点には、現在使用されていた参道の両側に直径 1.5 m を超す巨岩が存在する。これ自体は自然に存在したものであるが、このすぐ北側の斜面において人為的に削られたと思われる谷地形を検出した（図 34）。現在使用されていた参道は幅 1.5～2.0 m で一様に頂部まで続いているが、過去には当該地点にのみ両側に切り立った谷が存在し、背が極端に狭くなっていたことは明らかである。自然の巨石を利用し、地形を改変することと合わせて、神聖な墓域の境界を示した可能性が考えられる。

墓の全容は表 3 のとおりである。うち遺構や遺物の出土が顕著である 29 基について、個別に報告する。

表3 千提寺西遺跡5区土壤一覧

個別報告の土壤

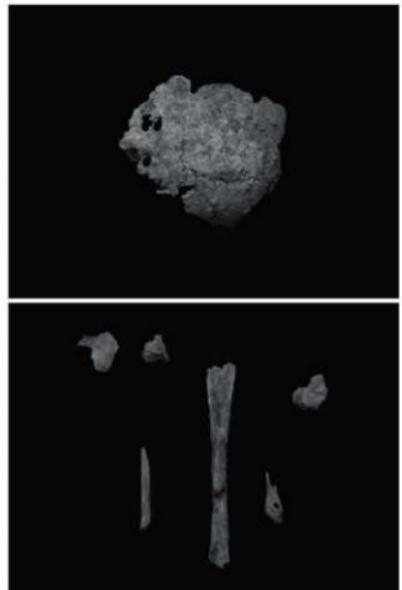
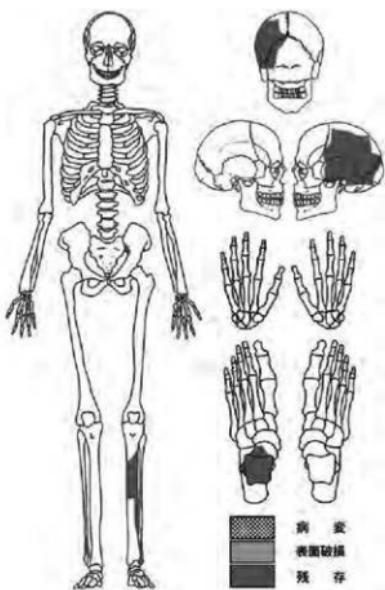
土質名	横出面形態	底面形態	横出面 厚さ(—cm)	底面 厚さ(—cm)	深さ(cm)	上部施設	下部施設	埋蔵方法	棺の形態	人骨	副葬品
41土壤	長方形	長方形	301	88	230	55	86	有自然石棺	無	土葬	限定長方形木棺
42土壤	長方形	長方形	260	90	215	54	75	無	無	土葬	限定長方形木棺
43土壤	長方形	長方形	130	60	90	45	85	無	無	不明	無
44土壤	不整円形	円形	90	65	47	40	30	無	無	不明	無
45土壤	不整円形	不整円形	128	70	70	52	47	無	無	不明	無
46土壤	長方形	長方形	125	94	110	55	72	無	無	不明	無
47土壤	長方形	長方形	150	94	110	68	47	無	無	不明	無
48土壤	長方形	長方形	135	76	80	38	36	無	無	土葬	不明
49土壤	不整円形	円形	70	65	45	42	205	無	無	限定土葬	限定楕円木棺
50土壤	不整円形	円形	58	58	45	45	100	無	無	限定土葬	限定楕円木棺
51土壤	方形	方形	70	62	45	39	136	無	無	限定土葬	限定楕円木棺
52土壤	不整方形	円形	69	48	50	30	97	無	無	限定土葬	限定楕円木棺
53土壤	不整円形	円形	98	90	65	65	180	無	無	土葬	限定楕円木棺
54土壤	方形	方形	80	68	52	39	230	有自然石棺	無	土葬	限定楕円木棺
55土壤	不整円形	円形	128	78	73	38	161	無	無	土葬	限定楕円木棺
56土壤	不整円形	方形	108	91	48	62	175	有自然石棺	有	土葬	限定楕円木棺
57土壤	方形	方形	52	49	39	33	73	無	無	限定土葬	限定楕円木棺
58土壤	不整方形	方形	87	80	59	50	157	無	無	土葬	限定楕円木棺
59土壤	不整円形	円形	116	92	65	80	177	有自然石棺	有	土葬	限定楕円木棺
60土壤	不整方形	方形	103	91	60	65	277	無	無	土葬	限定楕円木棺
61土壤	方形	方形	90	80	70	69	200	無	無	土葬	橢円木棺
62土壤	不整方形	方形	120	91	80	55	217	無	無	土葬	限定楕円木棺
63土壤	不整円形	円形	115	98	65	61	140	無	無	土葬	限定楕円木棺
64土壤	方形	方形	47	45	32	29	87	無	無	限定土葬	不明
65土壤	方形	方形	52	48	38	32	76	無	無	限定土葬	不明
66土壤	不整円形	方形	85	78	55	43	270	無	無	土葬	限定楕円木棺
67土壤	方形	方形	115	78	90	50	255	無	無	土葬	限定楕円木棺
68土壤	不整円形	方形	77	78	67	69	270	無	無	土葬	限定楕円木棺
69土壤	方形	方形	110	100	78	68	271	無	無	土葬	限定楕円木棺
70土壤	方形	方形	89~	89	72	55	246	無	無	土葬	限定楕円木棺
71土壤	不整方形	方形	77	60	51	42	70	無	無	土葬	限定楕円木棺
72土壤	方形	方形	79	63	32	48	69	無	無	土葬	限定楕円木棺
73土壤	不整円形	不整円形	140	90	45	38	113~	無	無	不明	無
74土壤	不整円形	方形	150	130	123	97	196	無	無	土葬	限定楕円木棺
75土壤	不整円形	不整円形	95	92	80	77	207	無	無	土葬	限定楕円木棺
76土壤	不整方形	方形	68	60	45	35	199	無	無	土葬	限定楕円木棺
77土壤	不整円形	方形	77	60	51	42	70	無	無	不明	無
78土壤	方形	方形	79	63	32	48	69	無	無	土葬	限定楕円木棺
79土壤	不整円形	不整円形	58	40	35	80~	無	無	不明	無	限定楕円木棺
80土壤	方形	方形	63	59	32	30	113~	無	無	不明	無
81土壤	不整円形	方形	95	92	80	77	207	無	無	土葬	限定楕円木棺
82土壤	不整方形	方形	68	60	45	35	199	無	無	土葬	限定楕円木棺
83土壤	不整円形	方形	77	60	51	42	70	無	無	不明	無
84土壤	方形	方形	79	63	32	48	69	無	無	土葬	限定楕円木棺
85土壤	不整円形	不整円形	73	68	52	67	76	無	無	土葬	限定楕円木棺
86土壤	方形	方形	29	75	56	52	243	有自然石棺	無	土葬	限定楕円木棺
87土壤	不整円形	方形	68	68	48	48	232	有自然石棺	有	土葬	限定楕円木棺
88土壤	方形	方形	75	75	48	45	317	無	無	土葬	橢円木棺
89土壤	不整円形	方形	92	90	58	58	256	有加工石棺	無	土葬	限定楕円木棺
90土壤	不整円形	方形	69	57	36	32	78	有自然石棺	無	不明	限定楕円木棺
91土壤	不整方形	方形	89	71	67	42	235	有自然石棺	無	土葬	限定楕円木棺
92土壤	方形	方形	82	70	51	45	213	有自然石棺	有	土葬	限定楕円木棺
93土壤	不整円形	不整円形	90	75	49	39	67~	無	無	不明	無
94土壤	不整円形	方形	98	88	55	55	195	有自然石棺	無	土葬	限定楕円木棺
95土壤	不整円形	不整円形	59	47	39	32	78~	無	無	不明	無
96土壤	方形	方形	75	75	52	50	142	無	無	土葬	限定楕円木棺
97土壤	不整方形	不整円形	100	90	69	55	162	無	無	土葬	限定楕円木棺
98土壤	方形	方形	50	60	55	40	204	無	無	土葬	限定楕円木棺
99土壤	方形	方形	65	65	38	40	88	無	無	土葬	限定楕円木棺
100土壤	不整円形	不整円形	60	50	30	30	10	無	無	不明	無
101土壤	不整円形	方形	70	50	35	30	10	無	無	不明	無
102土壤	不整円形	不整円形	90	50	45	30	15	無	無	不明	無
103土壤	方形	方形	70	70	40	40	70	無	無	不明	無
104土壤	方形	方形	70	60	40	30	63	無	無	不明	無
105土壤	不整方形	方形	60	50	35	25	58	無	無	不明	無
106土壤	方形	方形	102	88	61	55	59	有自然石棺	無	土葬	不明
107土壤	方形	方形	65	60	35	35	28	有自然石棺	無	土葬	不明
108土壤	方形	方形	98	82	68	70	166	無	無	土葬	限定楕円木棺
109土壤	方形	方形	41	38	25	20	78~	無	無	不明	無
110土壤	方形	方形	80	60	30	20	18	無	無	限定土葬	不明
111土壤	不整方形	方形	150	132	120	98	263	無	無	土葬	限定楕円木棺
112土壤	方形	方形	100	90	60	55	277	無	側	土葬	限定楕円木棺

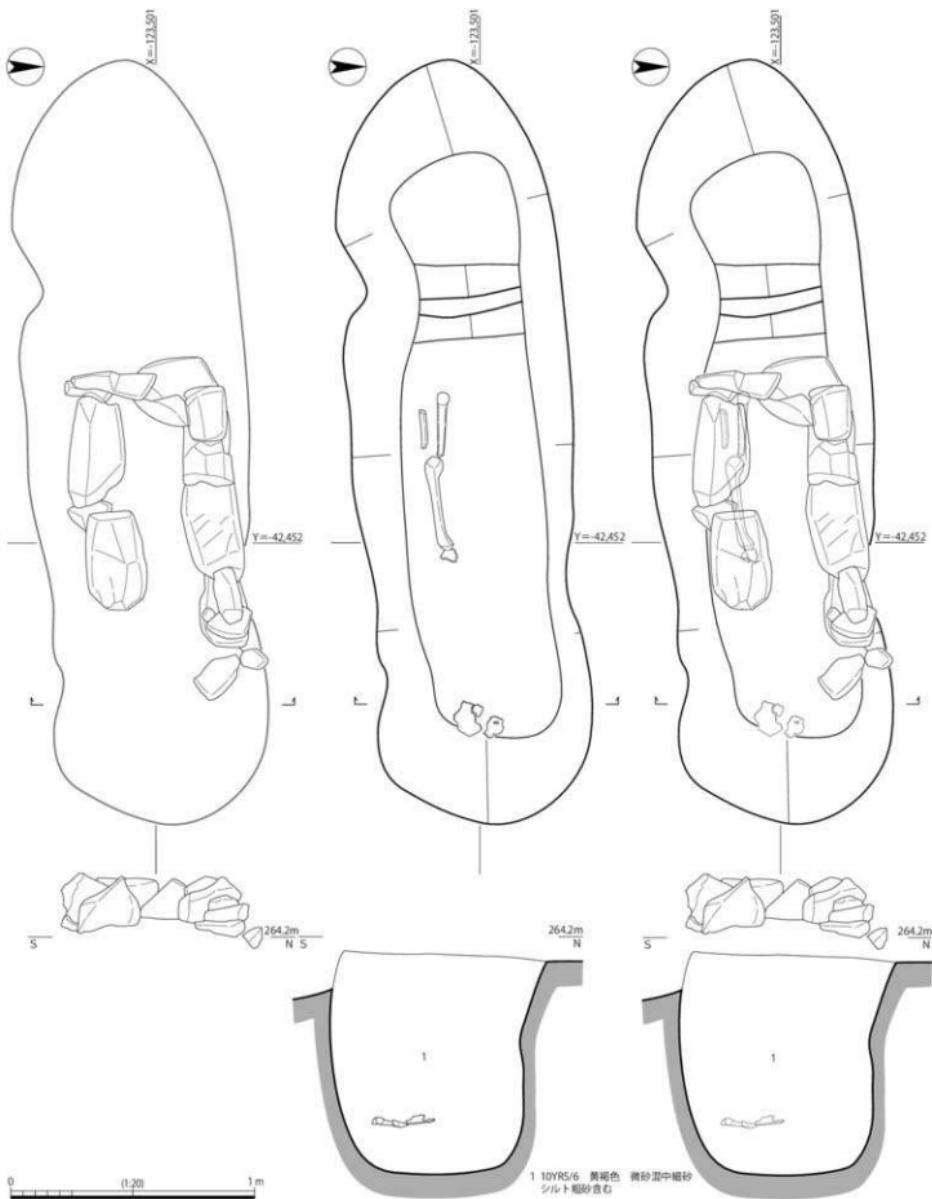
千提寺西遺跡 5区

4 土壙 地区割 5F6a

土壤の形態	検出面				検出面直径・一边			
	<input type="checkbox"/> 方形	<input type="checkbox"/> 不整形	<input checked="" type="checkbox"/> 長方形		301	×	88	cm
	<input type="checkbox"/> 円形	<input type="checkbox"/> 不整円形	<input type="checkbox"/> 不整形		底面直径・一边	230	×	55 cm
底面	<input type="checkbox"/> 方形	<input type="checkbox"/> 不整形	<input checked="" type="checkbox"/> 長方形		深さ	86	cm	軸方向 N-88°-E
	<input type="checkbox"/> 円形	<input type="checkbox"/> 不整円形	<input type="checkbox"/> 不整形					
上部施設	構造 自然石組				下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造・所見	
	<input checked="" type="radio"/> 有	所見 東側の一部が崩壊するが、土壙直上の地表面に1.35×0.52mの長方形石組を形成。自然石の1段1列の石囲状で内側は空いているが、本来は小砾の充填か蓋状の巨石か板石の設置があったと推測する。						
埋葬方法	土葬				所見	土壙底面の形状と人骨の状態から、伸展位による木棺直葬と考える。		
	<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="checkbox"/> 被熱痕	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有		<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有
棺の形態	骨		<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有
	<input type="checkbox"/> 無	<input checked="" type="radio"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 有
人骨	推定長方形木棺		所見 土壙の形状から推測する。					
	性別 不明	年齢 不明	顔面方位 N-88°-E	疾病	<input type="radio"/> 有	<input type="checkbox"/> 無	備考	
副葬品	歯		所見					
	器種		<input type="checkbox"/> 土器	<input type="checkbox"/> 銭貨	<input type="checkbox"/> 鉄製品	<input type="checkbox"/> 土製品	<input type="checkbox"/> 銅製品	<input type="checkbox"/> 石製品
備考	名 称		材質		数量		所 見	
	調査区の北東部、西から東へのびる尾根上の先端付近、東の墓域に位置する。本遺構周辺に計9基の土壙を検出し、いずれも長軸を尾根に平行してまとめて配置されており、一連の墓と考える。本遺構は、検出当初は1基の長大な土壙と思われたが、わずかに残る壁面から西側に小土坑の接することが判明した。地表面に残る石組施設が長崎県や大分県のキリシタン墓の地上構造に酷似している点や、埋葬方法が周辺の中近世墓に無い伸展位の土葬である点からキリシタン墓と判断した。ただし、石組施設が残る土壙は今回の調査では本例が唯一であり、近隣の「大神家墓地」に1例をみるのみである。なお、出土人骨の放射性炭素年代測定を行った結果、2σ層年代範囲（確率95.4%）が1491-1603 cal AD(76.8%)、1614-1640 cal AD(18.6%)であった（第4章第2節参照）。							



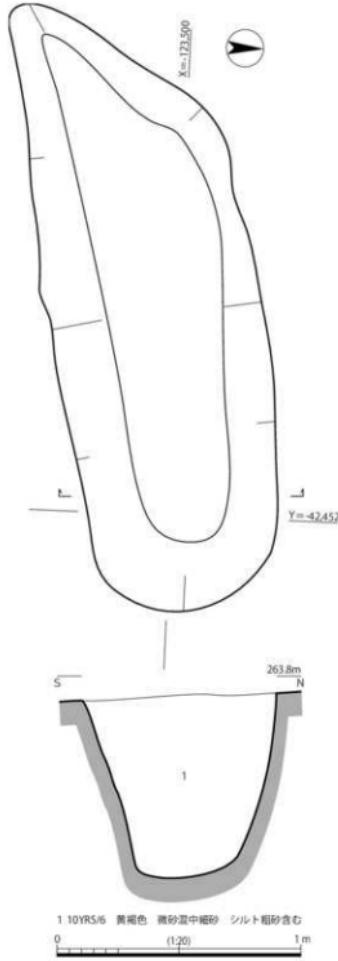




千提寺西遺跡5区

5土壤 地区割 5E・F6j・6a

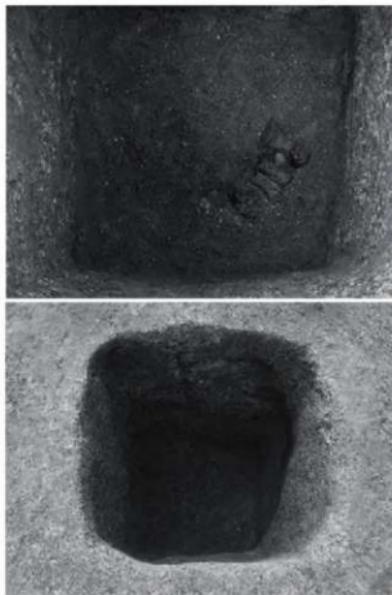
土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺 260 × 90 cm		
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺 215 × 54 cm		
	底面	深さ 75 cm 軸方向 N-80°-E			
上部施設	○ 有	<input type="checkbox"/> 構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏			
	● 無	<input type="checkbox"/> 所見			
下部施設	○ 有	<input type="checkbox"/> 構造・所見			
	● 無				
埋葬方法	○ 火葬 ○ 推定火葬 ● 土葬 ○ 推定土葬 ○ 不明		藏骨器 ○ 有 ● 無		
	骨 ○ 有 ○ 無 被熱痕 ○ 有 ○ 無 炭化物 ○ 有 ○ 無				
	所見 人骨の状態から伸展位による木棺直葬と推測する。				
棺の形態	○ 楠形木棺 ○ 長方形木棺 ○ 推定楠形木棺 ○ 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 ○ その他 ○ 推定箱形木棺 ○ 不明		土壤の形状と釘の出土から推測する。		
		所見			
人骨	性別 ○ 男性 ○ 女性 ● 不明	顔面方位 不明		疾患 ○ 有	備考
	年齢 不明	歯		病 ○ 無	
	所見 細片のため詳細不明。				
副葬品	器種 ○ 土器 ○ 錢貨 ○ 鉄製品 ○ 土製品 ○ 銅製品 ○ 石製品 ○ 木製品 ○ 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘				
	名称 釘	材質 鉄	数量 3	所見 短小	
備考	調査区の北東部、西から東へのびる尾根上の先端付近、東の墓域に位置する。4土壤の北側にはほぼ平行して隣接しており、両者に密接な関係のあったことがうかがえる。本遺構は、4土壤東側の頭位側ではなく西側の小土坑側に掘形の端部が崩うことから、4土壤の東側の土壤との埋葬時期に若干の時間差が存在した可能性が考えられる。4土壤とともに遺物の出土がみられないため詳細は不明であるが、両者とも他ではみられない長大な掘形を持つことからキリスト教墓の可能性が高いと考える。				



千提寺西遺跡 5区

28 土壙 地区割 5F9c

形土 壙 底 面	検出面 方形	検出面直径・一边	70	×	62	cm	深さ	136	cm	
	底面 方形	底面直径・一边	45	×	39	cm	輪方向	NS		
上部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無			下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無					
埋葬方法	推定土葬			所見						
	骨 ○ 有被 ○ 有熟 ○ 有炭 ○ 有化 ○ 有藏 ○ 有骨 ○ 有痕 ○ 無物 ○ 無器 ○ 無					棺の形態	推定箱形木棺 土壙の形状から推測する。			
人骨	性別	年齢	顔面方位	不明	疾病	<input type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無	備考		
	歯		所見	出土なし						
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器	<input type="checkbox"/> 銭貨	<input type="checkbox"/> 鉄製品	<input checked="" type="checkbox"/> 土製品	<input type="checkbox"/> 銅製品	<input type="checkbox"/> 石製品	<input type="checkbox"/> 木製品	<input type="checkbox"/> 玉類	<input type="checkbox"/> 鈴
	名 称		材 質	数量	所見					
	土人形		土	1	太夫人形。胎土は淡褐色で表面に剥離材は認められない。島田? 儀と前で留められた「心」形縫縮めの特徴から、太夫と判断する。着衣の一部には彩色の痕跡が認められる。左側足下に植物らしい表現のある簡状器物があり、何か挿し立てられたようである。同様の土人形は管見にはみられない。					
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の北東端、26土壙の南に位置する。出土した土人形は18世紀以前に製作された伏見人形であり、伝世品の可能性も考えられるが、本墓域の中では比較的古い段階に作られた墓と推測する。また、土人形の形状も希有であることから、キリストian信仰の仮託品として使用された可能性もあり得る。									



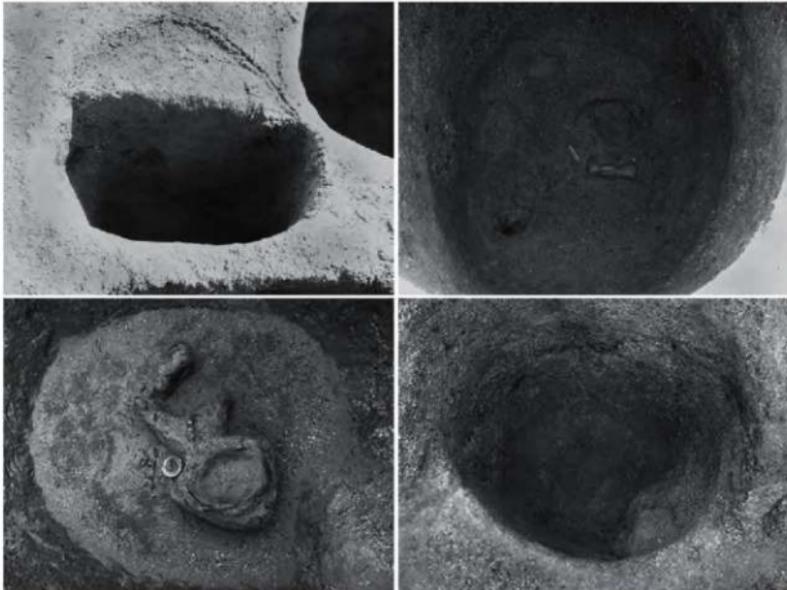
99

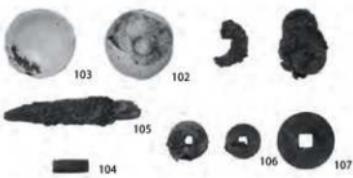
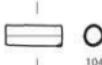
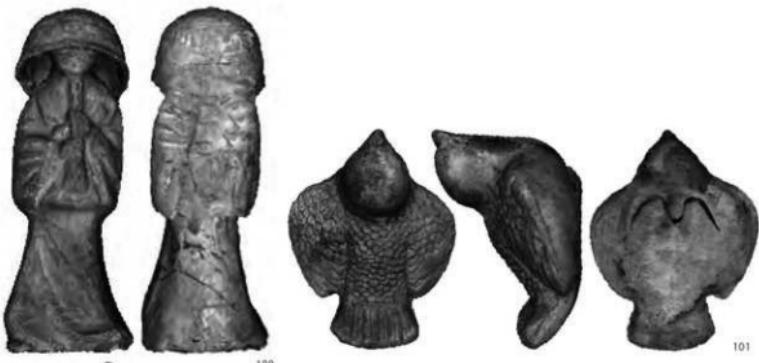
0 (1:2) 5cm

千提寺西遺跡 5区

30 土壙 地区割 5F9c

形 土 壙 態 の 性	検出面 不整円形	検出面直径・一边 98 × 90 cm	深さ 180 cm		
	底面 円形	底面直径・一边 65 × 65 cm	輪方向 NS		
上部施設	○有 ◎無	下部施設	○有 ◎無		
埋 葬 方 法	土葬	所見 頭蓋骨の痕跡のみであるが、被熱痕跡がないため土葬と判断する。	棺 の 形 態		
人 骨	性別 不明 年齢 6~9才	顔面方位 不明 疾病 ○有 ○無 備考			
歯	所見 下顎骨第1大臼歯萌出完了、その他は全て乳歯				
副 葬 品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銀貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input checked="" type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 刻	名 称 紅猪口(皿) 銀貨 刀子 土人形 不明	材 質 磁器 銅 鉄 土 銅	数 量 2 9 1 2 1	所見 白磁杯で外面に貝殻状筋線あり。寛永通寶2枚が入る。寛永通寶、1期古寛永2点、3期新寛永1点、十文錢(1708年~)1点、不明5点 虚無僧・福良雀人形。淡褐色の胎土に剥離材が付着する。彩色の痕跡あり。
備 考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の北部、29土壙の南西に隣接する。人骨の遺存状況が極めて悪いものの、紅猪口が出土したことから被葬者は女性と考えられる。また供伴する福良雀の土人形は、江戸末期から明治初期のものとして伝わる伏見人形のものと同一であり、先述の28土壙と異なり、本遺構は比較的新しく築かれた墓と考えられる。副葬された遺物はいずれも頭蓋骨の周辺から出土した。				



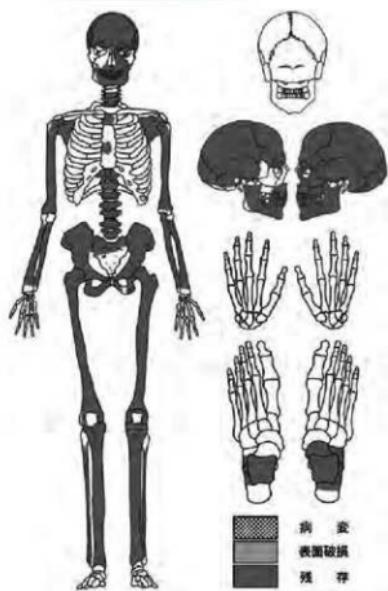
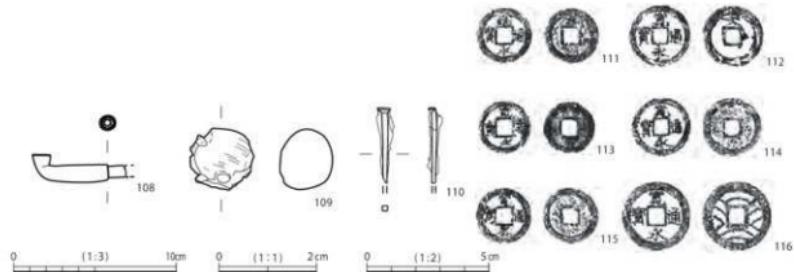


千提寺西遺跡 5区

32 土壙 地区割 5F10c

形 土 壙 態 の 形 態	検出面 不整円形	検出面直径・一边 128 × 78 cm	深さ 161 cm	
	底面 円形	底面直径・一边 73 × 38 cm	軸方向 N-45° -W	
上部施設	○有 ◎無	下部施設	○有 ◎無	
埋 葬 方 法	土葬	所見 座位による土葬である。	棺 の 形 態	
	●有 被 骨 ○有 炭 ○無 烟 ●有 藏 ●無 物 ●有 骨 ●無 器 ●無		推定桶形木棺 土壙の形状と釘の出土から推測する。	
人 骨	性別 男性 年齢 20才前後	顔面方位 N-45° -W	疾病 ○有 ○無 備考 身長の推定可	
歯	所見			
副 葬 品	器種 ■土器 □銅貨 □鉄製品 □土製品 ■銅製品 □石製品 □木製品 □玉類 ■釘		所見	
	名 称	材質	数 量	
	皿	土師器	1	細片のみ
	銭貨	銅	6	寛永通寶、2期新寛永(文錢)1点、3期新寛永4点、四文錢(1768年～)1点。
	煙管	銅合金？	1	雁首(羅宇一部残存)
	釘	鉄	4	短小
	鉛弾	鉛	1	一部に変形あり。胸部背骨の右側付近より出土。
備 考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の北西端に位置する。人骨の残存状態が極めて良好である。頭蓋骨を取り上げた後に肋骨や椎骨の検出中に発見した鉛弾は、出土状況から体内に残っていたものと考えられ、死因になった可能性がある。銭貨は胸部付近から出土。なお、足元から出土した煙管は19世紀後半に製造されたもので、個人の嗜好性が強いことから、埋葬時期も同じ頃になると考える。			

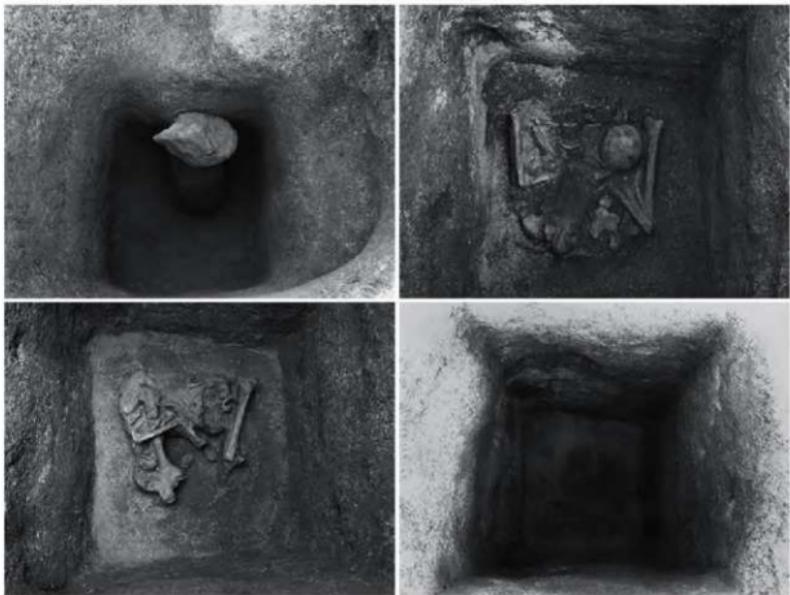


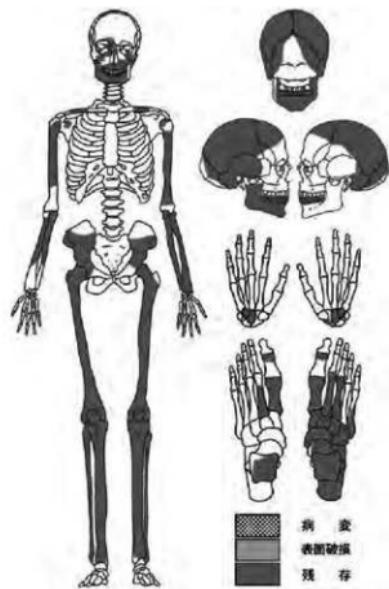
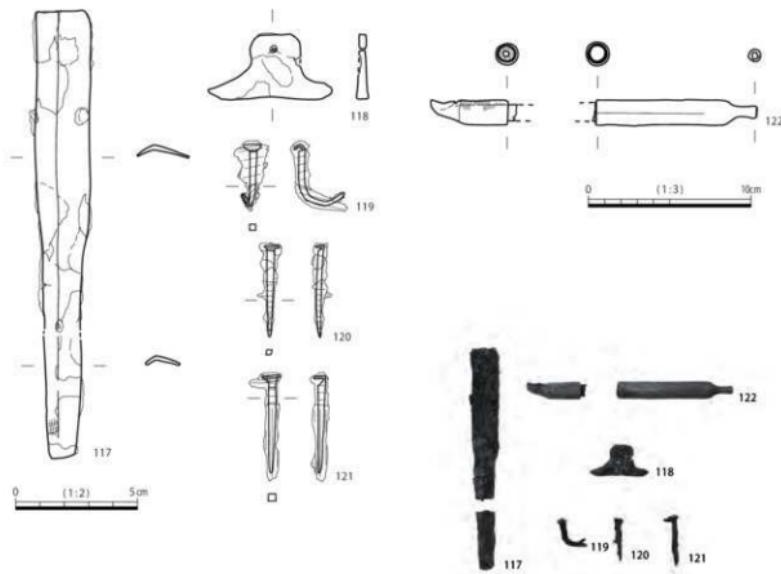


千提寺西遺跡 5区

33 土壙 地区割 5F10c-d

形土 壙 態の 底面	検出面不整円形	検出面直径・一辺	108	×	91	cm	深さ	175	cm					
	方形	底面直径・一辺	48	×	62	cm	輪方向	NS						
上部 施設	<input checked="" type="radio"/> 有 構造 <input type="radio"/> 無 所見			自然石單体 埋土中位より自然石が出土。腐朽による 陥没に伴い遺構内に転落したものか。深 い位置のため、標石ではないか。			下部 施設	<input checked="" type="radio"/> 有 構造 <input type="radio"/> 無 所見						
	土葬			所見 座位による土葬である。				棺の形態						
埋葬 方法	<input checked="" type="radio"/> 有 被 <input type="radio"/> 热 <input type="radio"/> 有 炭 <input type="radio"/> 有 藏 <input type="radio"/> 有 骨 <input type="radio"/> 无 痕 <input checked="" type="radio"/> 无 物 <input type="radio"/> 无 器			推定箱形木棺 土壙の形状、人骨の出土状況と 釘の出土から推測する。										
	性別 女性	年齢 成人	顔面方位 S-80° -W			疾病 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 无	備考 身長の推定可							
人 骨 歯	所見													
	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銅貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘													
副 葬 品	名 称	材 質	数 量	所 見										
	毛垂(剃刀)	鉄	1	板状で、一端をやや細く整形。										
備 考	火打金	鉄	1											
	煙管	銅?	2	羅首(羅字の一部残存)、吸口(羅字の一部残存) 大型の特殊品。										
	釘	鉄	23	短小										

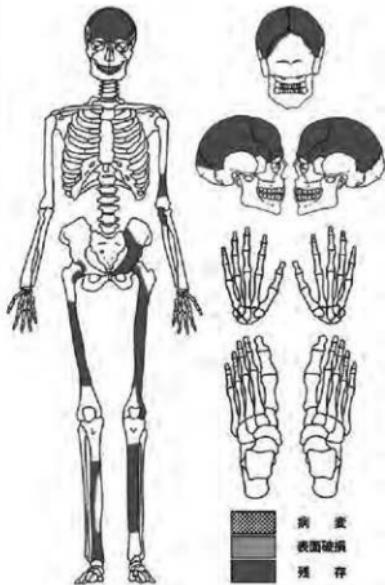
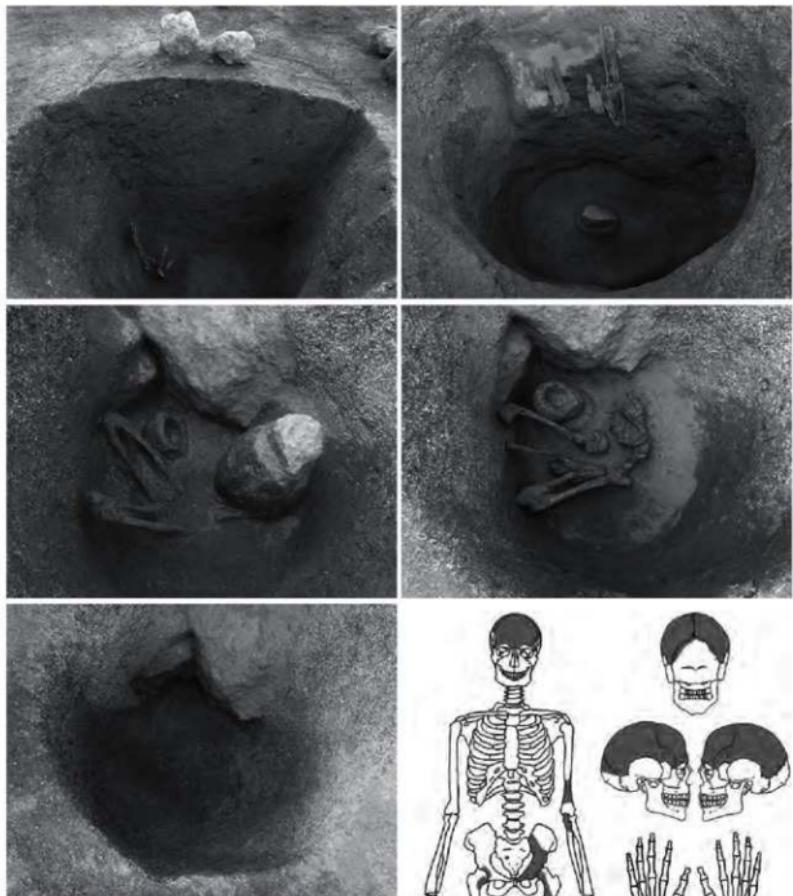


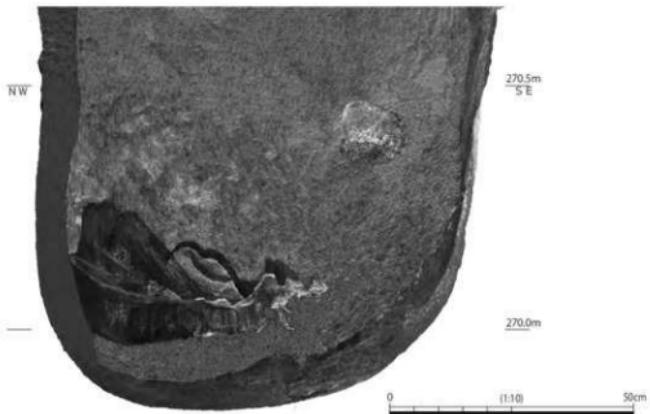
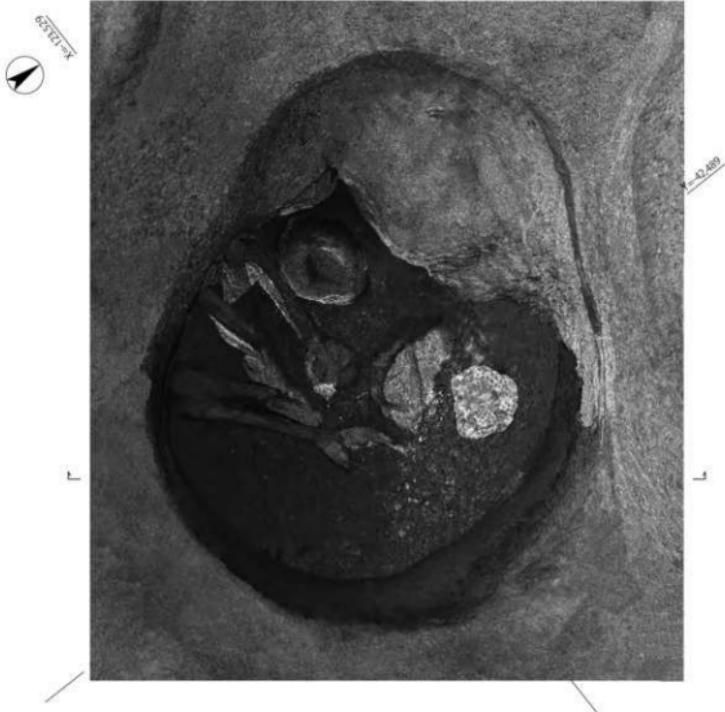


千提寺西遺跡 5区

36 土壙 地区割 5F9c

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 底面直径・一边 深さ	116 × 92 cm 65 × 80 cm 177 cm	輪方向 N-10°-W
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形			
	底面				
上部施設	◎ 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	所見 現地表面と埋土中位に自然石が出土。地表面のものは標石として現地性を保っていることから、設置からあまり時間が経っていないと思われる。		
	○ 無				
下部施設	◎ 有	構造・所見			
	○ 無				
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 ◎ 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 ◎ 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	所見 人骨の状態から座位による土葬と考えられる。		藏骨器 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
棺の形態	○ 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 ◎ 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 ○ 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	所見 土壙の形状から推測する。			
人骨	性別 <input type="checkbox"/> 男性 ◎ 女性 <input type="checkbox"/> 不明 年齢 成人	顔面方位 S-60°-W 歯		疾病 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 備考	
	所見				
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input checked="" type="checkbox"/> 石製品 <input checked="" type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钵	名 称 不明棺	材質 石 木	数量 1 24	所見 下部埋葬の標石か。 上部埋葬の棺材か。
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の中央より北寄り、30土壙の南に隣接する。検出した墓の中でも掘形が大きく、途中に段が認められる。標石以外に埋土中位から自然石や木質遺物が出土しており、当初は異なる標石や卒塔婆垣が転落したものと考えたが、人骨の出土した高さや位置との関係に違和感が感じられることから、2基の土壙が重複する可能性も考えられる。その場合、標石と木質遺物は上部、自然石と人骨は下部それぞれ別の埋葬に分けられる。				

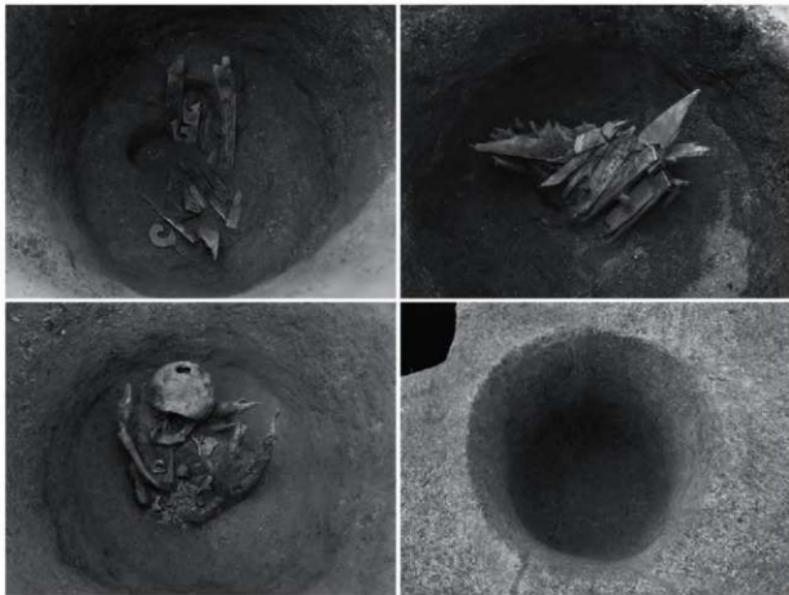


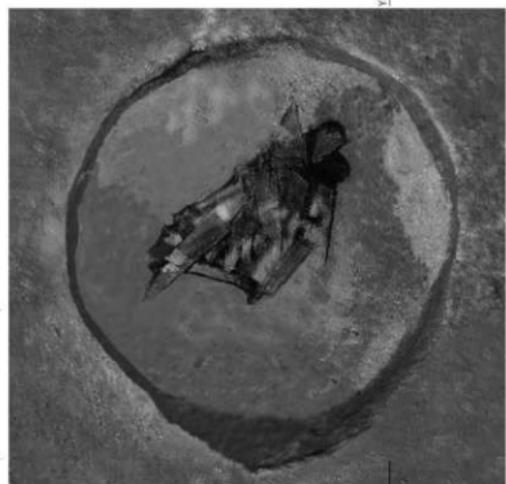


千提寺西遺跡 5区

38 土壙 地区割 5F9d

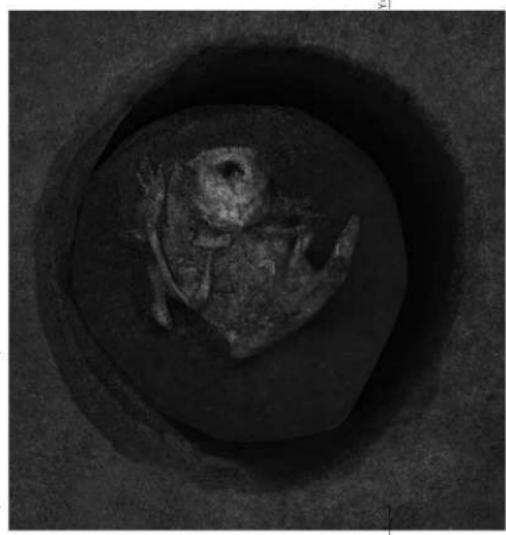
形土 壙	検出面 円形	検出面直径・一边 90	×	80	cm	深さ 200	cm
態の 底	底面 円形	底面直径・一边 70	×	69	cm	輪方向 N-10°-W	
上部施設	○有 ◎無			下部施設		○有 ◎無	
埋葬方法	土葬			所見	人骨や木質遺物の状態から、座位の木棺直葬と断定できる。	棺の形態	桶形木棺 木棺本体は残存しない。理士の中位から出土した木質遺物、木棺上部に飾られる「天蓋」の可能性がある。
人骨	性別 男性 年齢 成人	顔面方位 N-10° -W			疾病 ○有 ○無	備考	
	歯は全て脱落	所見					
副葬品	器種 □土器 <input checked="" type="checkbox"/> 錢貨 □鉄製品 □土製品 □陶製品 □石製品 <input checked="" type="checkbox"/> 木製品 □玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘				所見		
	名 称 銀貨 天蓋? 椀 釘 紙	材質 銅 スギ 漆器 鉄 紙	数量 3 70~ 1 1 2		是先付近から出土。寛永通寶。3期新寛永2点、不明1点。 板材と棒材があり、板材は厚みから2種に分けられる。赤と黒の彩色が施され一部に雲形等の装飾や飾金具が認められる。 銀貨の下から出土。一部のみで内外赤。 板材の間から出土。薄緑色でわずかに唐草文が残る。		
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の東端、31土壙の南東に位置する。木質遺物は貴重な出土例となった。人骨周辺の棺材が消失しているのに對し「天蓋」らしき木材が良好な状態でみつかる点には若干の疑問も残る。塗装による防腐効果を理由としたいところであるが、当家に「明治期にキリシタン開道の巻物を墓地に埋めた」という伝承があり、紙片や棒材が巻物の残滓である可能性も考えられる。紙片については赤外線を照射し文字等の有無を確認したが、見出すことはできなかった。						





Y=42,486

X=123,531

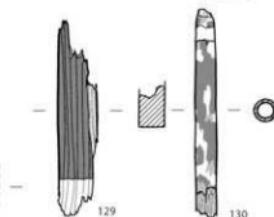
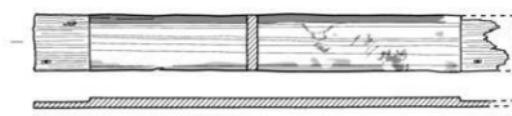
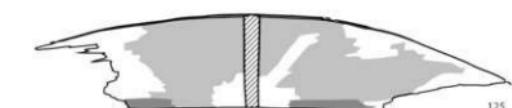
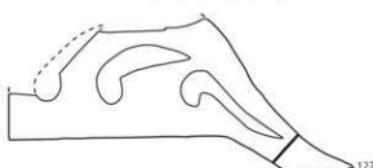
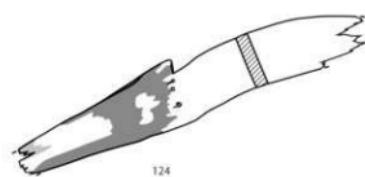
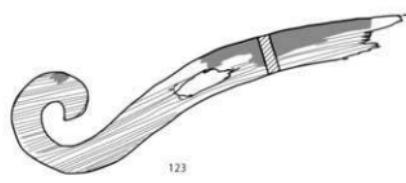


Y=42,486

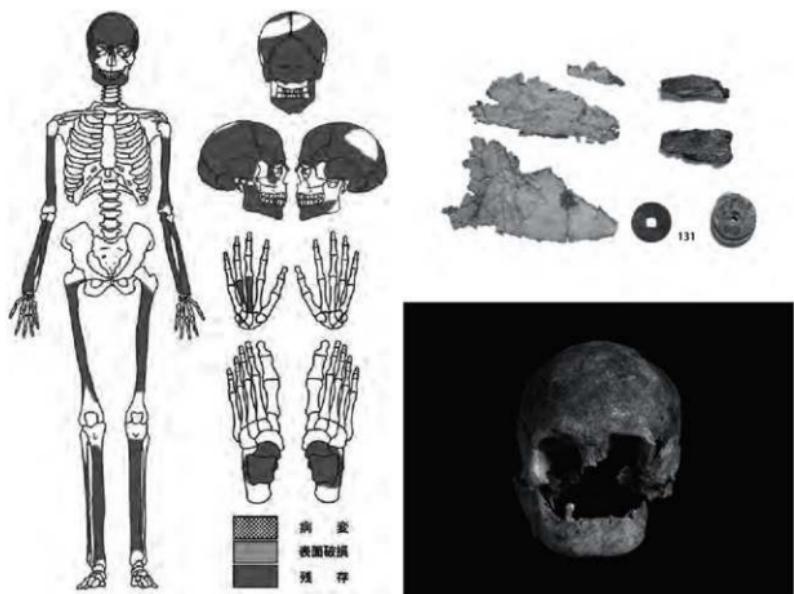
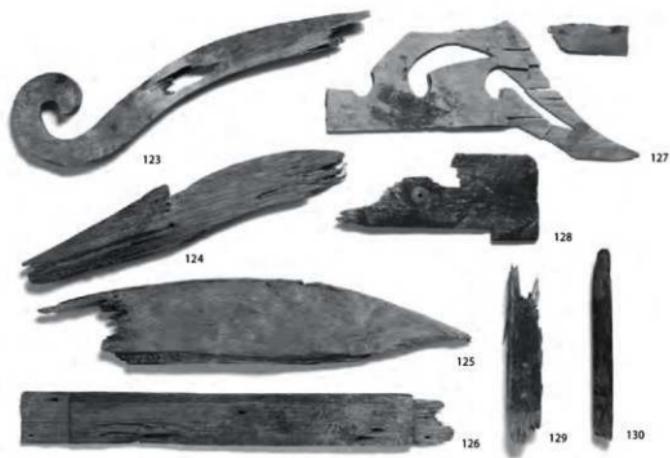
X=123,531



269.8m
0 (1:10) 50cm



0 (1:4) 10cm

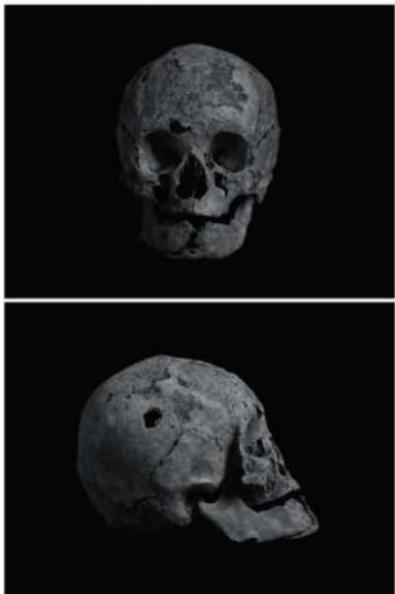
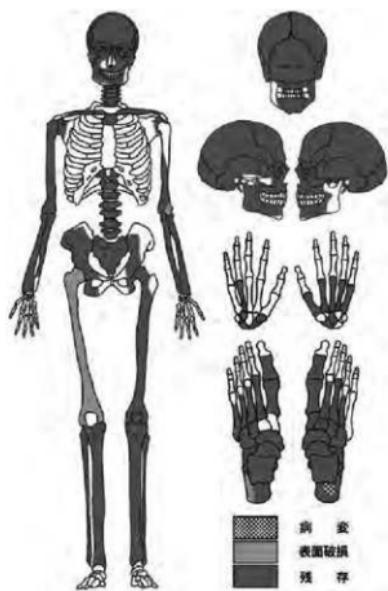
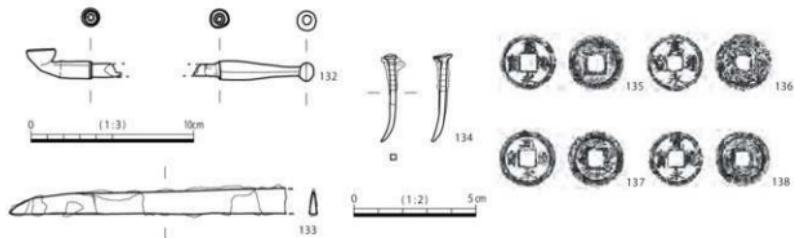


千提寺西遺跡 5区

43 土壙 地区割 5F10d

形土 壙 態の 底	検出面 不整円形	検出面直径・一辺	85 × 78 cm	深さ 270 cm
	面 方形	底面直径・一辺	55 × 43 cm	輪方向 N-60°-W
上部施設	○有 ◎無		下部施設	○有 ◎無
埋葬 方法	土葬		所見 人骨の状態から、座位による土葬と考えられる。	棺の形態 推定箱形木棺 土壙の形状と人骨の状況から推測する。
人 骨	性別 女性 年齢 60+才	顔面方位 S-20° -W	疾病 ○有 ◎無	備考 身長の推定可
	歯は全て脱落	所見 黄色齶帶骨化症		
副 葬 品	器種 □土器 <input checked="" type="checkbox"/> 錢貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 □土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 □石製品 □木製品 □玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘			
	名 称	材 質	数 量	所 見
	錢貨	銅	5	寛永通寶。1期古寛永1点、3期新寛永4点。
	刀子?	鉄	1	長さ11.4cmの板状、刀子か。
	煙管	銅?	2	雁首(羅字一部残存)、吸口(羅字一部残存)。
	釘	鉄	21	短小
備 考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の西端、平坦面の肩口に位置する。人骨の残存状態が極めて良好で、ほぼ全身骨格が揃う。煙管・錢貨・刀子?ともに寛骨の上部付近より出土しており、遺骸の下腹部に納めていたものと推測する。また、寛骨や椎骨の状態から、遺骸は箱形木棺の対角に埋納された可能性が高い。			



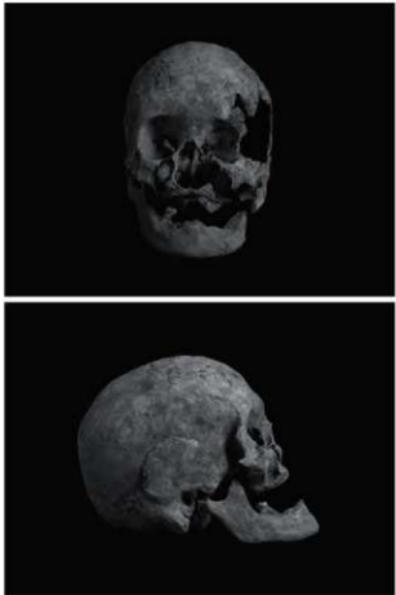
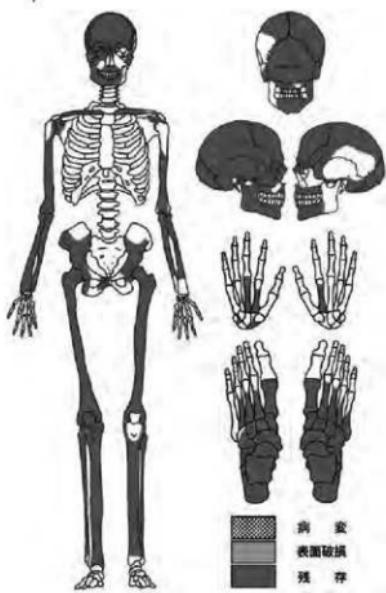
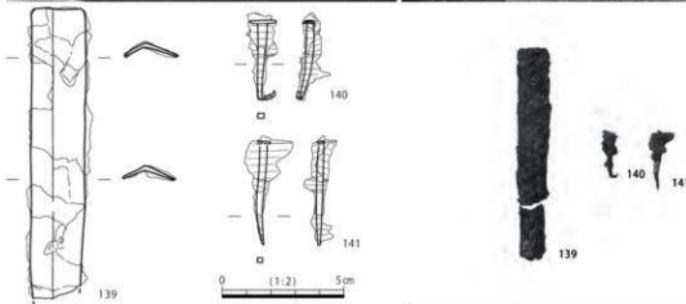


千提寺西遺跡 5区

44 土壙 地区割 5F10d

土壤の形態	検出面 <input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形			検出面直径・一边 115 × 78 cm							
	底面 <input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形			底面直径・一边 90 × 50 cm							
	深さ 255 cm 軸方向 N-20°-W										
上部施設	構造 所見			下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無						
					構造・所見						
埋葬方法	土葬			人骨の状態から座位の土葬と考えられる。							
	骨被 ○有炭 ○有藏 ○有 ○無熟 ○無化物 ○無骨器 ○無			所見							
棺の形態	推定箱形木棺		所見 土壙の形状から推測する。								
人骨	性別 男性	年齢 60+才	顔面方位 S-70°-W	疾病 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考	身長の推定可					
	歯は全て脱落	所見	右変形性肘関節症								
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘										
	名 称 毛垂(剃刀)	材 質 鉄	数 量 1	所見 幅2.2cm、長さ12.0cmを測り、長軸中央がわずかに屈曲して鍔状を呈する。							
備考	釘										
	鉄 36 短小										
近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の西端、43土壙の南東に隣接する。人骨の遺存状態は良好で、毛垂(剃刀)が寛骨上部から出土する点等、43土壙との類似性が認められる。											





千提寺西遺跡 5区

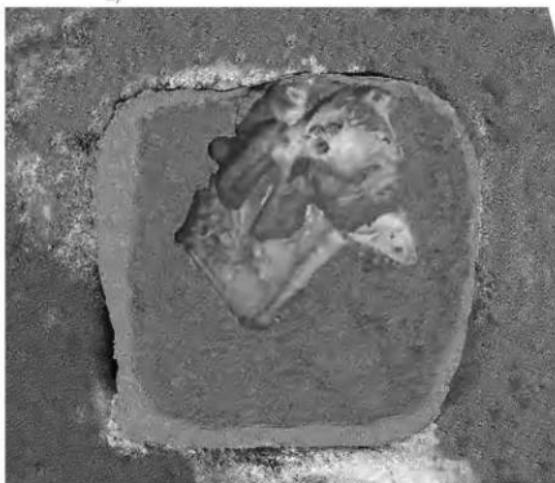
45 土壙 地区割 5F10d

土壤の形態	検出面 <input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				検出面直径・一边 77 × 78 cm								
	底面 <input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				底面直径・一边 67 × 69 cm								
	深さ 270 cm 軸方向 N-70°-W												
上部施設	構造 所見				下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		構造・所見					
埋葬方法	土葬			人骨の状態から座位の土葬と考えられる。 所見									
棺の形態	推定箱形木棺		土壙の形状と人骨の状態により推測する。										
人骨	性別 男性	年齢 40~60才	顔面方位 S-70°-W	疾病 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考 身長の推定可								
	歯はほとんど脱落	所見	左右変形性肘関節症										
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘												
	名 称 棒状 釘	材 質 鉄 鉄	数 量 2 33	所 見 長さ13.2cm、最大径7.0mm。一端が断面三角形、細い方の一端が断面長方形で、断面三角形の方が尖端とみられるが、布がまかれしており、判然としない。 短小									
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の西端、44土壙の南に位置する。人骨は土壙の北側に偏って出土するが、脚部を閉じて屈折しており、コンパクトに埋納されている。開脚するタイプと合わせて2種類の納棺形態がわかる資料である。棒状鉄製品は左寛骨から右肋骨下端にかけて出土しており、断面長方形側が身体側、断面三角形側が外側を向く。折損しているため正確にはわからないが、身体に刺突された可能性と、腹部に置かれた可能性が推察できる。刺突の場合、戦闘や事故によるものか。キリシタンの場合はイエス受難を模した可能性もあり、解釈には十分な注意が必要である。												





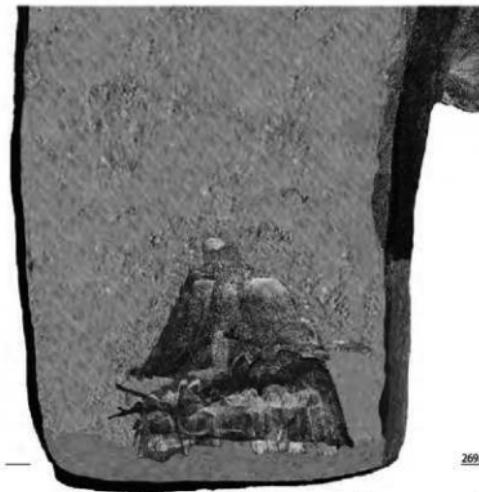
Y=4.492



X=123534

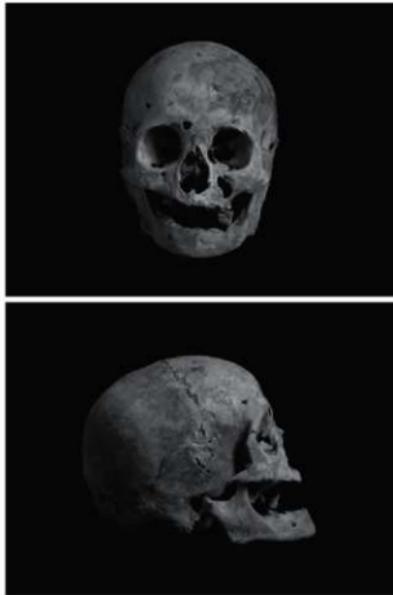
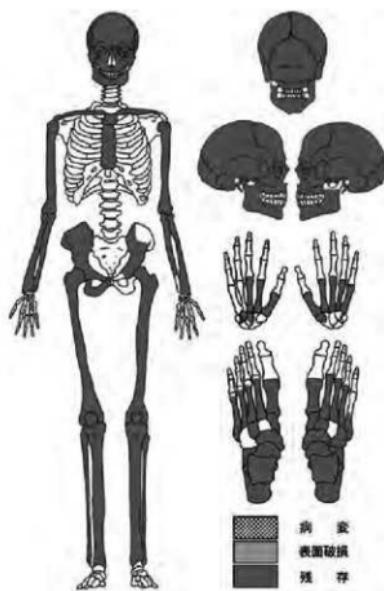
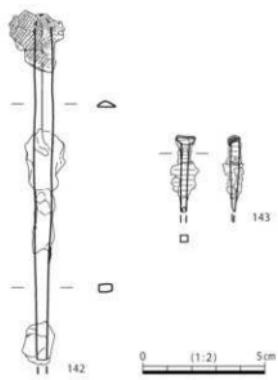
270.4m
E

W



269.4m

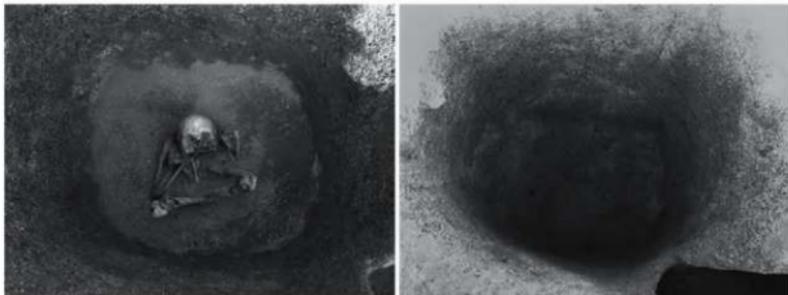
0 (ft:10) 50cm

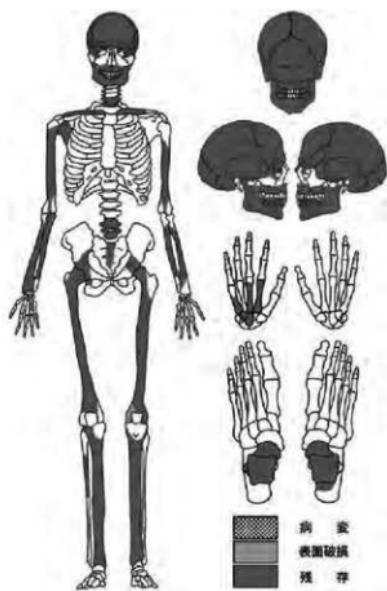
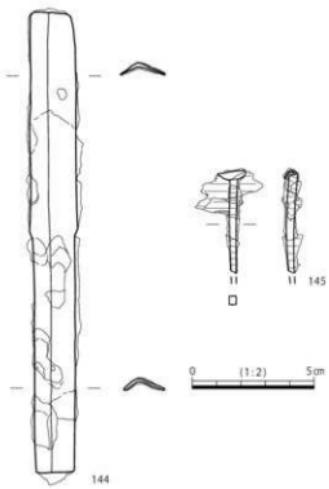


千提寺西遺跡 5区

46 土壙 地区割 5F10d

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	110	×	100	cm
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	78	×	68	cm
			深さ	271	cm	軸方向	NS
上部施設	構造		下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見		
	○ 有 ● 無	所見					
	土葬						
埋葬方法	骨	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	人骨の状態から座位による土葬と考える。	所見
	被熟化物	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
棺の形態	推定箱形木棺		所見			土壙の形状と人骨の状態により推測する。	
人骨	性別 男性	年齢 成人	顔面方位 S~80° ~W	疾病	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考 身長の推定可	
	歯 齒歯有り	所見	性別は男性か? 環椎の変形性脊椎症				
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘					
	名称	材質	数量	所見			
	毛垂(剃刀) 釘	鉄 鉄	2 27	幅2.0cm、長さ18.9cmを測り、長軸方向に錐状のわざかな屈曲する後が認められる。 短小			
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の中央やや西寄り、40土壙の南に位置する。遺骸は座位であるが、脚はやや開き気味にして脛骨を交差させ、腕は折り曲げて胸上で手を合わせたような形態が見受けられる。毛垂(剃刀)は足下からやや離れた外側から出土するが、人骨の底面よりやや浮いた位置にみつかっていることから、上方から転落した可能性が考えられる。						

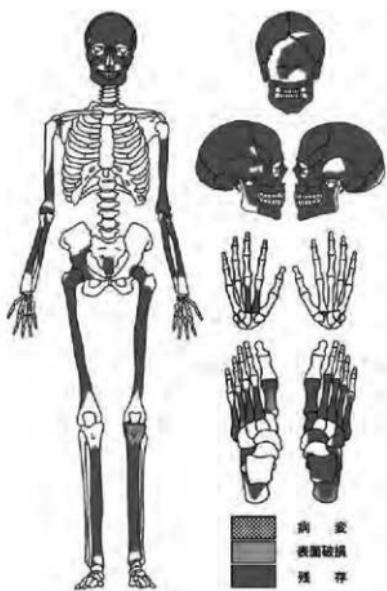
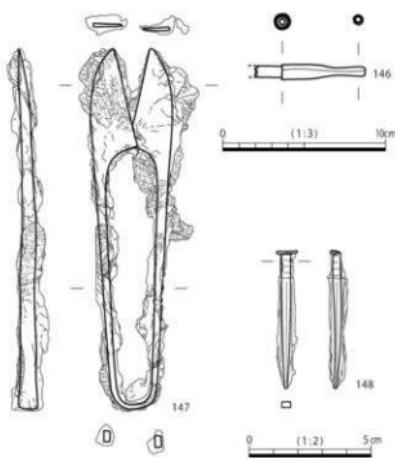




千提寺西 遺跡 5 区

47 土塘 地区剖 5F10d

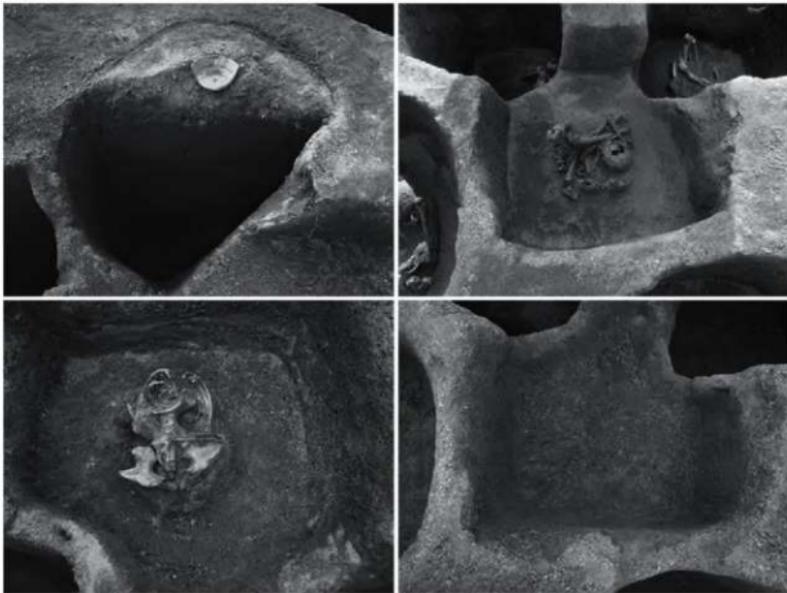


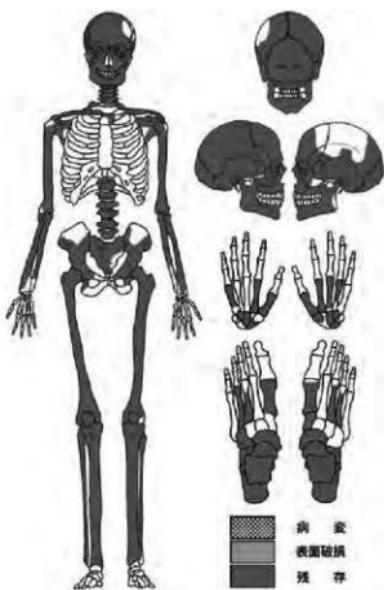
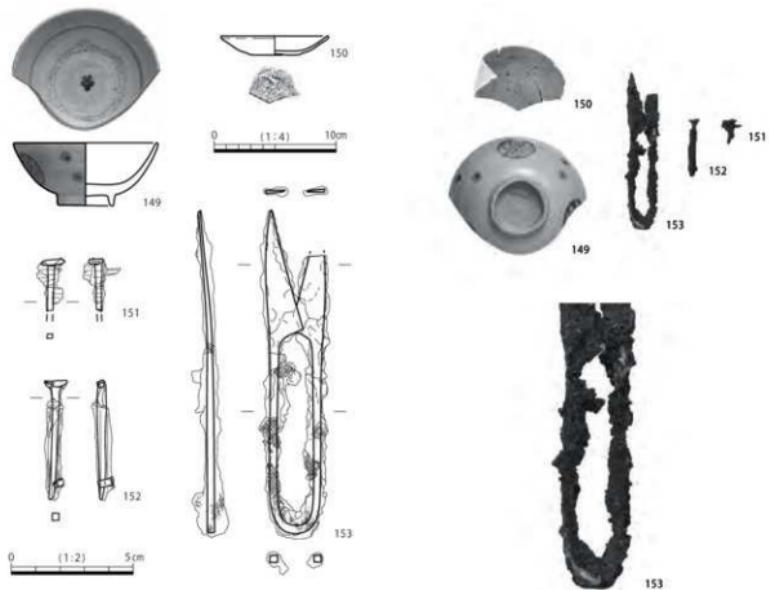


千提寺西遺跡 5区

48 土壙 地区割 5F10d

形土 壙 態の 底面	検出面 不整方形	検出面直径・一辺 89～ 68 cm	深さ 245 cm	
	方形	底面直径・一辺 61 × 40 cm	輪方向 NS	
上部施設	○有 ◎無	下部施設	○有 ◎無	
埋 葬 方 法	土葬	所 見 座位の土葬と考える。但し、寛骨より上体が床面に對し平坦で、上面に下肢が倒れ込むことから、仰臥屈位の可能性もある。	棺 の 形 態 推定箱形木棺 土壙の形状と人骨の状況から推測する。	
人 骨	性別 女性 年齢 40～60才 齶歯有り	顔面方位 W 所 見 黄色齶帶骨化症	疾病 ◎有 ○無 備考 身長の推定可	
副 葬 品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	材質 皿 碗 握り鉄 釘	数量 1 1 1 20	所 見 染付、波佐見焼。見込みに重ね焼き痕 18世紀中頃。 長さ13.2cm、刃部5.0cmを測る。細身で柄部が長い。 地表付近は長大、遺構内は短小。
備 考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の西寄り、47土壙の南に位置する。検出時は不明であったが、土壙内の調査時に西侧の44・45土壙と重複することが判明。両者に比べ本遺構の深度が極めて浅いことから、掘削時に他の墓を掘り返さないよう配慮した結果と推測する。本遺構は両者より後出すると考える。当区では少ない土師器皿の存在や、仰臥屈位の可能性がある点等も、時期差によるものか。			

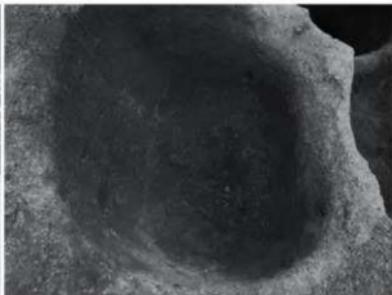




千提寺西遺跡 5区

51 土壙 地区割 5F9・10d

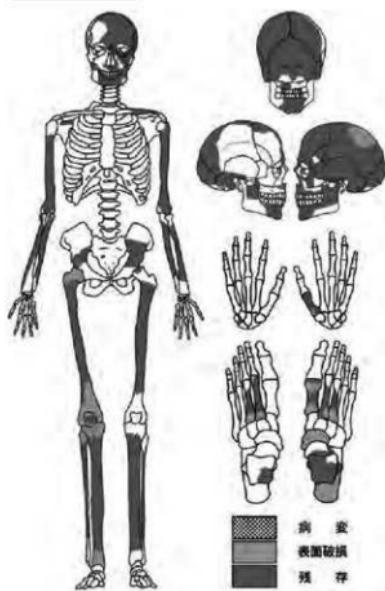
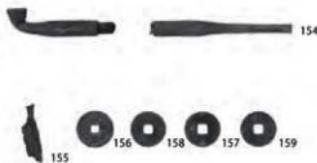
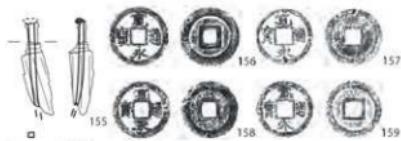
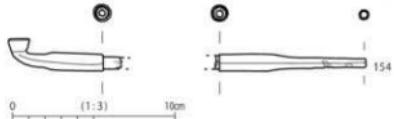
土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	95	×	92	cm
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	80	×	77	cm
			深さ	207	cm	軸方向	N-60°-W
上部施設	構造				下部施設	○ 有 ● 無	構造・所見
	○ 有 ● 無	所見					
埋葬方法	土葬				人骨の状態から座位による土葬と考える。頭蓋骨が足下に転落していることから、開脚されていたと考えられる。		
	骨	● 有被 ○ 有熟 ○ 無痕	○ 有炭 ● 無物	○ 有藏 ● 無器	○ 有骨 ● 無	所見	
棺の形態	推定箱形木棺	所見	土壙の形状と人骨の状況から推測する。				
人骨	性別 女性 年齢 20~40才	顔面方位 S-30°-W 疾病 ○ 有 ○ 無	備考	身長の推定可			
	歯	所見					
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钉	名稱	材質	数量	所見	
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の南西、50土壙の南西に位置する。人骨の遺存状態は良好であるが、副葬された遺物は認められなかつた。隣接する49土壙や50土壙とほぼ同じ深度に埋葬されることから、これらは同じような時期で、墓域の中では後出になると考えられる。						



千提寺西遺跡5区

52 土壙 地区割 5F10d

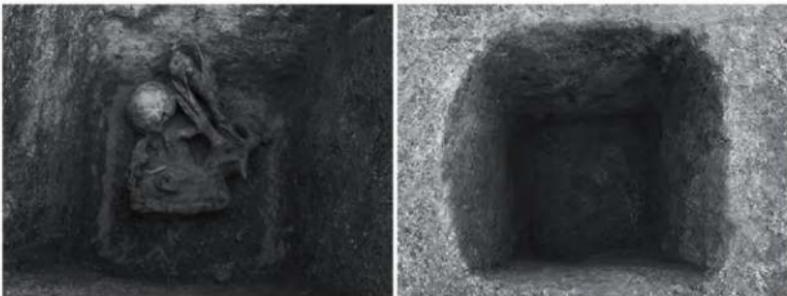
土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺 68 × 60 cm
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺 45 × 35 cm
		深さ 199 cm	軸方向 N-50°-W
上部施設	○ 有	<input type="checkbox"/> 構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏	
	● 無	所見	<input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地
下部施設	○ 有	構造・所見	
	● 無		
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input checked="" type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明	藏骨器 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
	骨 ○ 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	所見 人骨の状態から座位による土葬を考える。両膝が接することから、閉脚されていた可能性が高い。		
棺の形態	<input type="checkbox"/> 楠形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定楠形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	土壙の形状と人骨の状況から推測する。 所見	
	性別 ○ 男性 <input checked="" type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明		顔面方位 S-40°-W
	年齢 40~60才		歯 歯は全て脱落
人骨	所見		疾患 ○ 有 <input type="checkbox"/> 病 <input type="checkbox"/> 無考
			身長の推定可
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	名 称 材 質 数 量 所 見	
	錢貨 銅 4 寛永通寶。1期古寛永1点、3期新寛永3点。		
	煙管 銅 2 雁首(羅宇一部残存)、吸口(羅宇一部残存)18世紀後半~19世紀前半。		
備考	釘 鉄 12 短小 木質付着		
	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の南西端、51土壙の南西に位置する。人骨の遺存状態が良好であり、閉脚した座位で埋葬されたと考えられる。煙管や銭貨は腹部付近から出土しており、埋葬時に納められたものであろう。		

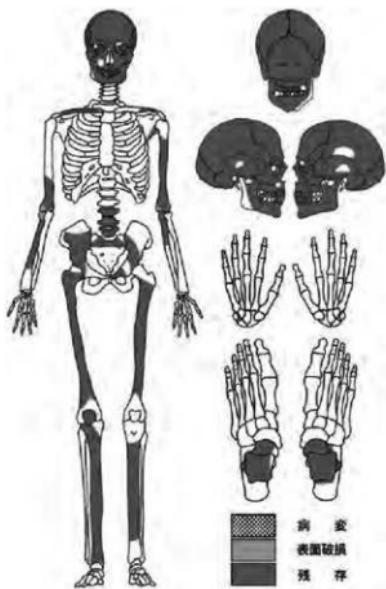
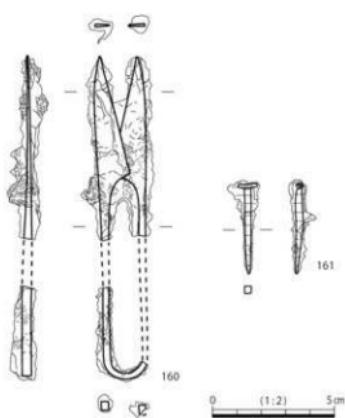


千提寺西遺跡 5区

58 土壙 地区割 5F9d

土壤の形態	検出面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	80	×	80	cm
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	55	×	50	cm
			深さ	205	cm	軸方向	N
上部施設		構造 所見	下部施設	○有 ●無	構造・所見		
埋葬方法	土葬	人骨の状態から座位による土葬と考える。45土壙等と同様、閉脚されている可能性が高い。			所見		
棺の形態	推定箱形木棺	所見	土壙の形状と人骨の状況から推測する。				
人骨	性別 女性 年齢 20~40才	顔面方位 S	疾病 ○有 ○無	備考			
副葬品	歯	所見					
	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 錢貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	材質	数量	所見			
	碗 磁器	1		染付片、地表面より出土。			
	握り鉄 鉄	1		全長13.1cm、刃部5.0cm、柄部は板状。			
	釘 鉄	25		短小 木質付着			
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の東端、56土壙の南東に位置する。土壙形状は残りが良好であるが、人骨は表面が黒変し、風化が著しい。握り鉄は人骨と共に出土したが、位置を特定することは困難である。						



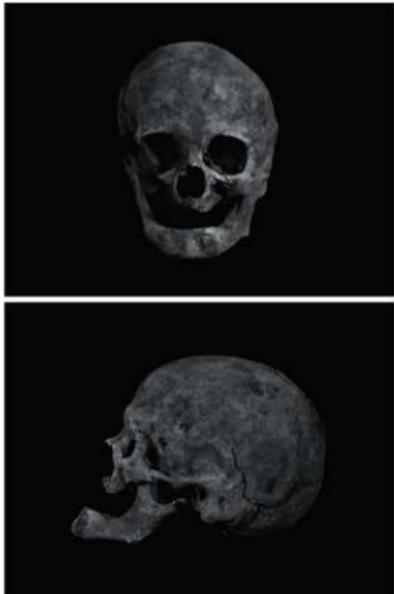
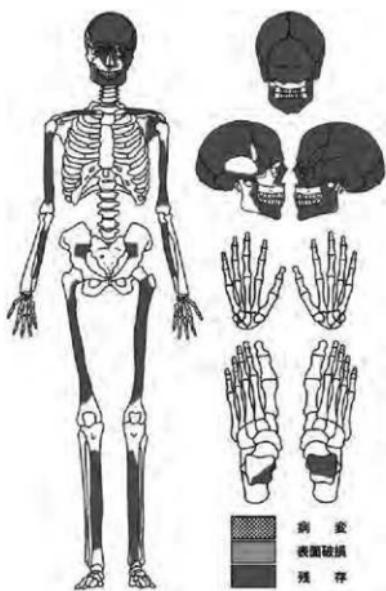


千提寺西遺跡 5区

60 土壙 地区割 5F9d

土壤の形態	検出面 <input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				検出面直径・一辺 75 × 75 cm												
	底面 <input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				底面直径・一辺 53 × 50 cm												
	深さ 270 cm 軸方向 NS																
上部施設	構造 所見				下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無											
						構造・所見											
埋葬方法	土葬			人骨の状態から座位による土葬と考える。足を描えて閉脚状態で埋葬されたようである。													
	骨 <input checked="" type="checkbox"/> 有被 <input type="checkbox"/> 有炭 <input type="checkbox"/> 有藏 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 无熟痕 <input checked="" type="checkbox"/> 无化物 <input type="checkbox"/> 无骨器 <input type="checkbox"/> 无			所見													
棺の形態	推定箱形木棺		所見 土壙の形状と人骨の状況から推測する。														
人骨	性別 男性	年齢 成人	顔面方位 S-80° -W		疾病 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考											
	歯は全て脱落		所見 性別は男性か?														
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘																
	名 称	材 質	数 量	所 見													
備考	銭貨	銅	4	不明4点													
	煙管	銅?	1	雁首(羅宇一部残存)19世紀後半か。													
	釘	鉄	24	短小													
	不明	皮革?	4	端部が丸味を帯びており、装飾具の一部か。													

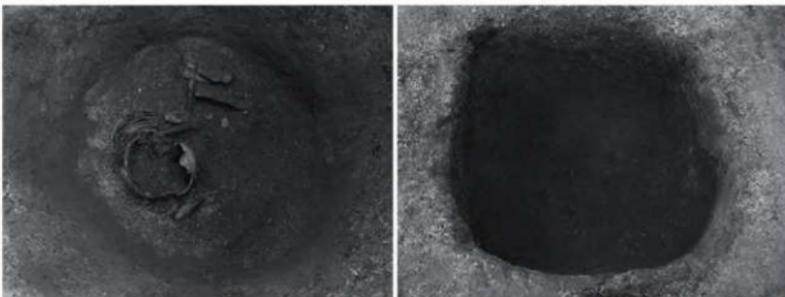




千提寺西遺跡 5区

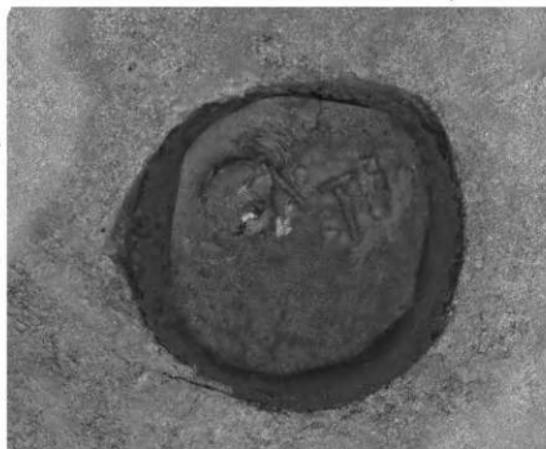
61 土壙 地区割 5F9d

土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	73	×	68	cm				
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	52	×	67	cm				
			深さ	76	cm	軸方向	不明				
上部施設	構造			下部施設							
	○有 ●無	所見	○有 ●無		構造・所見						
埋葬方法	土葬			所見	人骨や土壤の状態から土葬と考えるが、姿勢については骨が散乱しているため不明である。						
	骨 ●有 ○被 ○有 ○熟 ○無 炭 ●化 ●無 藏 ●骨 ●器 物 ●無										
棺の形態	推定桶形木棺	所見	土壤の形状から推測する。								
	性別 不明	年齢 4才前後	顔面方位 S-45° -W	疾病 ○有 ○無	備考						
人骨	歯	所見									
	器種 ○土器 ●銭貨 □鉄製品 ●土製品 ●銅製品 ●石製品 □木製品 □玉類 ●釘	材質	数量	所見							
副葬品	銭貨	銅	2	寛永通寶。3期新寛永2点。							
	土人形	土	1	外国人形。容貌特殊で青・赤の彩色あり。伏見製か。部分的に被焼。							
	小鉤(こはぜ)	銅	1	長さ3.2cm、片面に布付着。留糸は認められない。							
	硯	粘板岩	1	長さ7.6cm、幅4.7cm、高嶋石か。							
	石筆	葉ろう石	1	長さ8.1cm、先端が尖る形。使用後のもの。							
備考	釘	鉄	1	長大。木質付着							
	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の南端、60土壙の南に位置する。人骨から少年が埋葬されていたことが明らかとなった。土人形や硯、銭貨は人骨検出面とほぼ同じ高さから出土しており、埋土中位に当たることから、棺上か棺外に納められたものであろう。小鉤は下部の人骨とともに出土しており、足袋の金具であれば装着されていた可能性が高い。石筆は人骨の下部付近から出土しており、他と同様、身体の近くに納めていたものが転落したものと考える。										





X=172.535



Y=-42.487

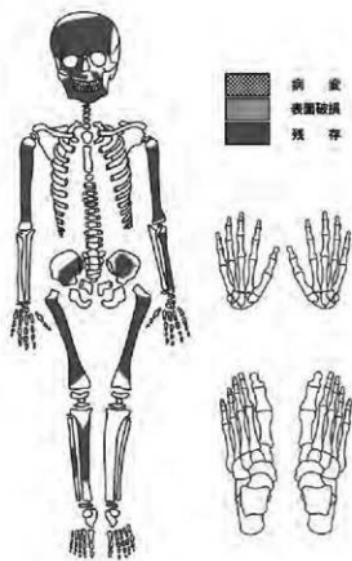
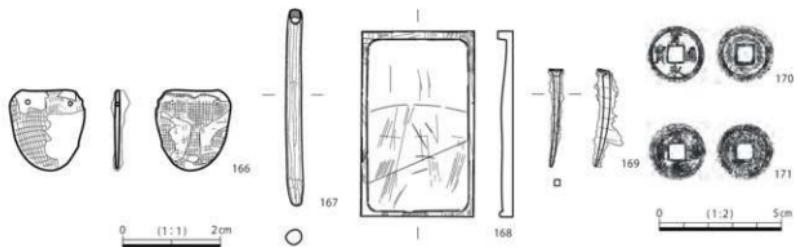
W

272.3m
E



271.3m

0 (1:10) 50cm

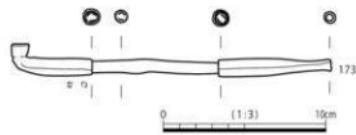


千提寺西遺跡 5区

62 土壙 地区割 5F9d

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	79	×	75	cm					
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	56	×	52	cm					
			深さ	243	cm	軸方向	N-10°-W					
上部施設	構造	自然石單体	下部施設	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	構造・所見							
	所見	埋土の上部、ほぼ地表面に近い土壤の中央付近から自然石が出土している。標石として設置されたものと思われる。										
埋葬方法	土葬		所見	人骨の状態から座位による土葬が明らかである。								
	骨	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 被 熱 痕		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 有 炭 化 物	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 有 藏 骨 器	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 有 骨 器	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 有 器					
棺の形態	推定箱形木棺	所見	土壙の形状と人骨の状況から推測する。									
人骨	性別 男性	年齢 40~60才 (35才前後?)	顔面方位 S-60°-W	疾病 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考	身長の推定可						
	歯齒有り	所見										
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	所見									
	名 称	材 質		長さ13.1cm、雁首・羅宇・吸口が残る完形品。19世紀か。 短小 木質付着								
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の南端、61土壙の南西に位置する。人骨の遺存状態が非常に良好で、ほぼ全身骨格が復原可能である。典型的な座位であるが、左腕が左脚を抱えるように外側を通って右脚付根付近にのびる様子が看取される。煙管は完形で残存しており、右寛骨の外側付近から出土している。											

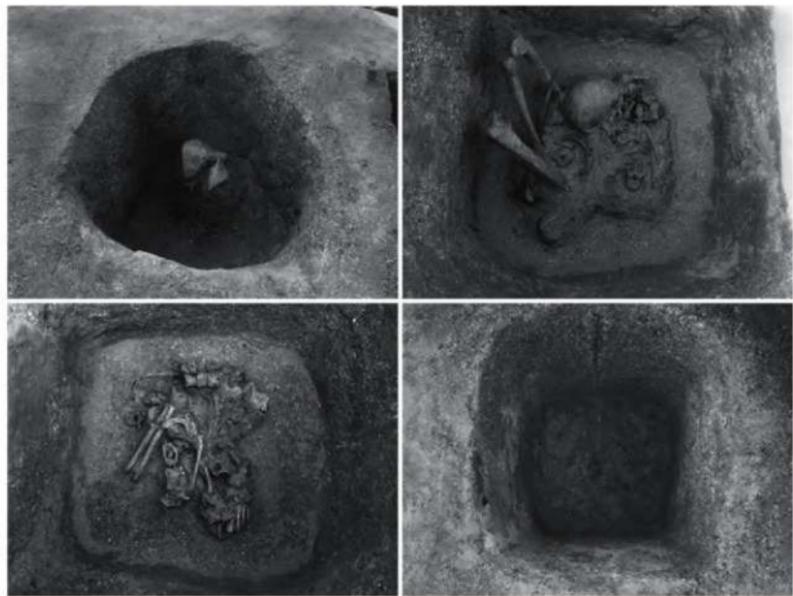




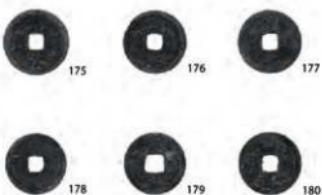
千提寺西遺跡 5区

63 土壙 地区割 5F9d

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺 68 × 68 cm																													
		<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺 48 × 48 cm																													
上部施設	底面	深さ 232 cm 軸方向 N-20°-W																														
		構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地																														
下部施設	<input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	所見 埋土上位から自然石が出土しており、元は地表面に設置されていたと考えられる。																														
		構造・所見																														
埋葬方法	<input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	○火葬 <input type="radio"/> 推定火葬 <input checked="" type="radio"/> 土葬 <input type="radio"/> 推定土葬 <input type="radio"/> 不明 骨 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	藏骨器 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無																													
		所見 人骨の状態から座位による土葬が明らかである。																														
棺の形態	<input type="radio"/> 桶形木棺 <input type="radio"/> 長方形木棺 <input type="radio"/> 推定桶形木棺 <input type="radio"/> 推定長方形木棺 <input type="radio"/> 箱形木棺 <input type="radio"/> その他 <input checked="" type="radio"/> 推定箱形木棺 <input type="radio"/> 不明	所見 士壙の形状と人骨の状況から推測する。																														
人骨	性別 <input checked="" type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性 <input type="radio"/> 不明	顎面方位 S-60°-W	疾病 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 備考 身長の推定可																													
	年齢 20~40才	歯																														
副葬品	所見 右下顎頭の変形性関節症、変形性脊椎症																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>器種</th> <th><input type="checkbox"/> 土器</th> <th><input checked="" type="checkbox"/> 銭貨</th> <th><input type="checkbox"/> 鉄製品</th> <th><input type="checkbox"/> 土製品</th> <th><input type="checkbox"/> 銅製品</th> <th><input type="checkbox"/> 石製品</th> <th><input type="checkbox"/> 木製品</th> <th><input type="checkbox"/> 玉類</th> <th><input checked="" type="checkbox"/> 鉤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>銭貨 釘</td> <td></td> <td>材質 銅 鉄</td> <td>数量 6 33</td> <td colspan="5">所見 寛永通寶。3期新寛永6点。 短小</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			器種	<input type="checkbox"/> 土器	<input checked="" type="checkbox"/> 銭貨	<input type="checkbox"/> 鉄製品	<input type="checkbox"/> 土製品	<input type="checkbox"/> 銅製品	<input type="checkbox"/> 石製品	<input type="checkbox"/> 木製品	<input type="checkbox"/> 玉類	<input checked="" type="checkbox"/> 鉤	名 称										銭貨 釘		材質 銅 鉄	数量 6 33	所見 寛永通寶。3期新寛永6点。 短小				
器種	<input type="checkbox"/> 土器	<input checked="" type="checkbox"/> 銭貨	<input type="checkbox"/> 鉄製品	<input type="checkbox"/> 土製品	<input type="checkbox"/> 銅製品	<input type="checkbox"/> 石製品	<input type="checkbox"/> 木製品	<input type="checkbox"/> 玉類	<input checked="" type="checkbox"/> 鉤																							
名 称																																
銭貨 釘		材質 銅 鉄	数量 6 33	所見 寛永通寶。3期新寛永6点。 短小																												
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の南東端、62土壙の東に位置する。62土壙と同様、人骨の残存が極めて良好であり、爪先をきれいに揃えて納棺されたことが分かる。銭貨は左寛骨上部から出土しており、下腹部に納められたものであろう。																															



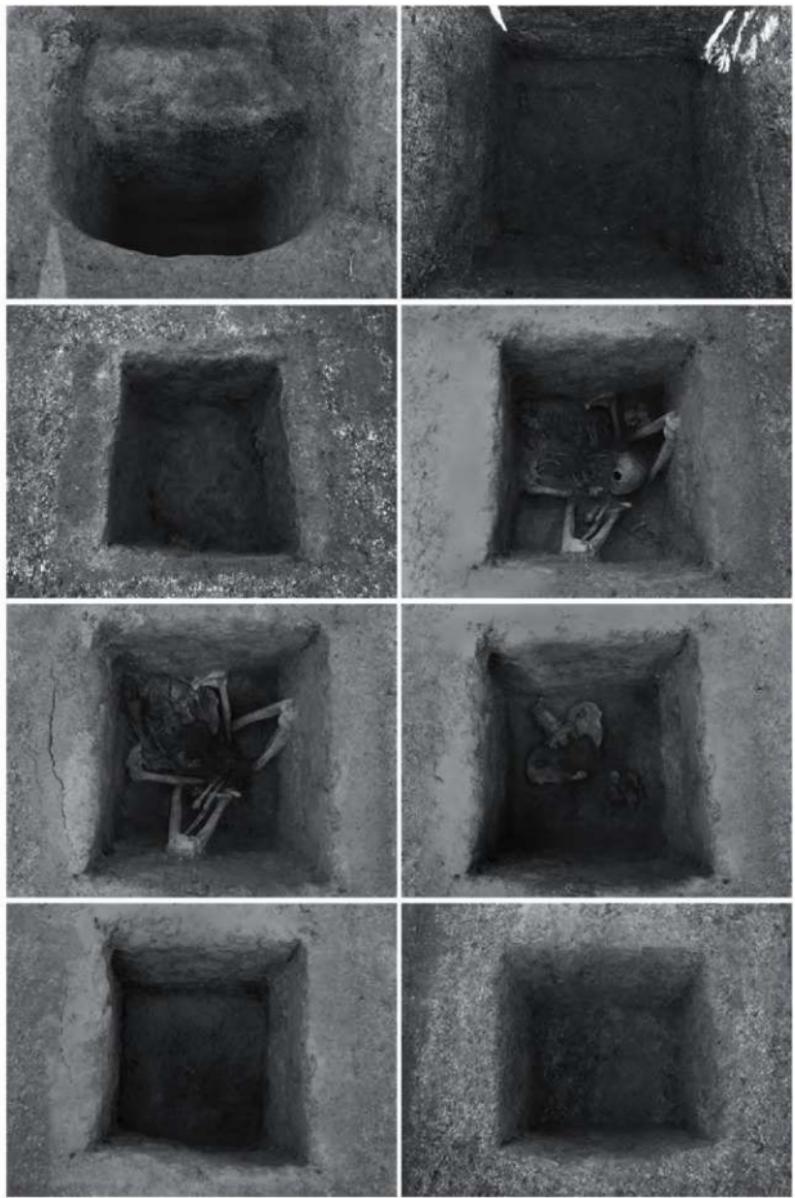
0 (1:2) 5cm



千提寺西遺跡 5区

64 土壙 地区割 5F10d

土壙の形態	検出面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 75 × 75 cm				
		<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 48 × 45 cm				
上部施設	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	深さ 317 cm 軸方向 N-20°-W				
		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造	<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地			
下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造・所見					
		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	骨	<input type="radio"/> 火葬 <input type="radio"/> 推定火葬 <input checked="" type="radio"/> 土葬 <input type="radio"/> 推定土葬 <input type="radio"/> 不明 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 被熱痕 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無 炭化物 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	藏骨器 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		
埋葬方法	所見	人骨の状態から座位による土葬が明らかである。					
		<input type="radio"/> 桶形木棺 <input type="radio"/> 長方形木棺 <input type="radio"/> 推定桶形木棺 <input type="radio"/> 推定長方形木棺 <input checked="" type="radio"/> 箱形木棺 <input type="radio"/> その他 <input type="radio"/> 推定箱形木棺 <input type="radio"/> 不明	木棺は腐朽して残存しないが、表面に塗布されたとみられる赤色顔料を箱状に検出した。この痕跡から木棺の法量は縦50.0cm、横50.0cm、高さは判然としないが55.0cm以上と推定できる。				
人骨	性別	<input checked="" type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性 <input type="radio"/> 不明	顔面方位 S-10°-W	疾病 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	備考	身長の推定可	
	年齢	40~60才(45才前後)	歯 歯は全て脱落				
	所見	変形性脊椎症、変形性肘関節症					
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘					
	名 称	銭貨 毛垂(剃刀) 釘	材質	銅 鉄 鉄	数量	所見	
備考	不明3点 長さ17.6cm、長軸中央付近を折り曲げ、鎌状を呈する。 短小						
	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の南西端、平坦面と西側斜面の境に位置する。掘形の内側に箱状に残存する赤色顔料を検出したことから、箱形木棺の形状と法量がわかる希少な調査例となつた。赤色顔料は、外側ほど濃く明瞭に残ることから、棺の外面に塗布されていたものと考えられる。毛垂(剃刀)は手先から下腹部にかけて、銭貨は右下腹部付近から出土している。銭貨の種類は残念ながら不明であるが、人骨表面に植物根が繁茂していることから、明治時代に入る可能性も考えられる。43土壙と同様、木棺の対角方向に遺骸を納棺する。						





X=123.515



Z=133.36
Y=42.491

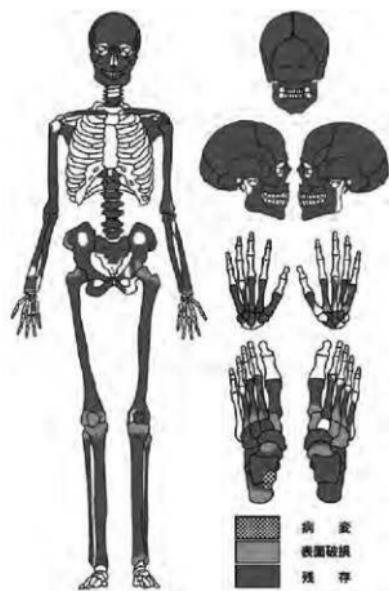
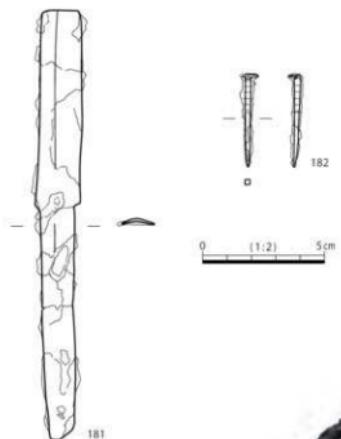
Y=42.490

SW

270.0m
NE



— 269.0m
0 (1:10) 50cm



病
變
表面破損
殘
存



千提寺西遺跡 5区

65 土壙 地区割 5F9d

土壙の形態	検出面				検出面直径・一边					
	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				92 × 90 cm					
	底面				底面直径・一边					
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				58 × 58 cm				
		深さ		256 cm		軸方向 N-20°-W				
上部施設	構造 加工石單体				下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造・所見			
	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無						所見 長さ1m・幅40cm・厚さ約10cmの花崗岩製石板が地表面に設置されていた。本来は上部に石製墓碑が立っていたとされ、台座石に相当するものである。			
埋葬方法	土葬				所見	人骨の状態から座位による土葬が明らかである。				
	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無						骨被熱痕			
棺の形態	推定箱形木棺		所見 士壙の形状から推測するが、人骨が土壙の目一杯まで広がることから、木棺は土壙とほぼ同じ規模で作成されたと考えられる。							
	人骨		性別 男性 年齢 20~40才(35才前後) 顔面方位 S-60°-W 疾病 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 備考 身長の推定可							
副葬品	歯		所見 歯は全て脱落		変形性脊椎症、右変形性肘関節症					
	器種		<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄		名 称 材 質 数 量 所 見					
備考	碗		磁器		1		輸宝紋、陶胎磁器、貫入多数。地表面の供具。19世紀。			
	錢貨		銅		6		寛永通寶、1期古寛永1点、2期新寛永(文錢)2点、3期新寛永3点。			
	煙管		銅?		2		雁首(羅宇一部残存)、吸口(羅宇一部残存)19世紀後半か。			
	釘		鉄		30~		短小 木質付着			





0 (1:4) 10cm



0 (1:3) 10cm



185



186



187



188



189



190

0 (1:2) 5cm



183



185



186



187



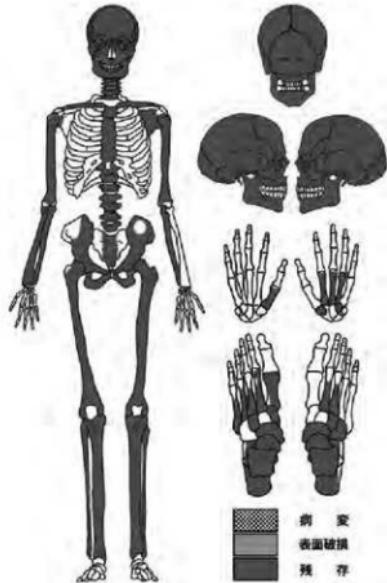
188



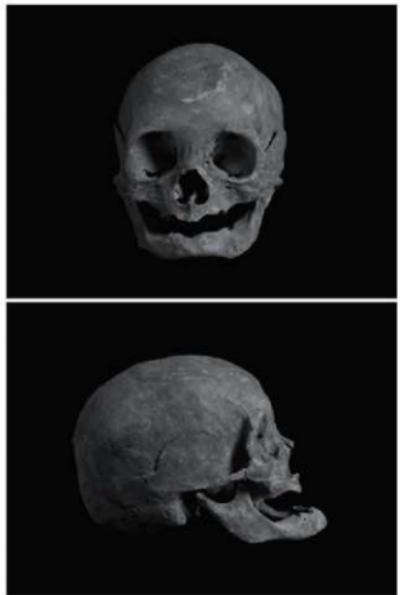
189



190



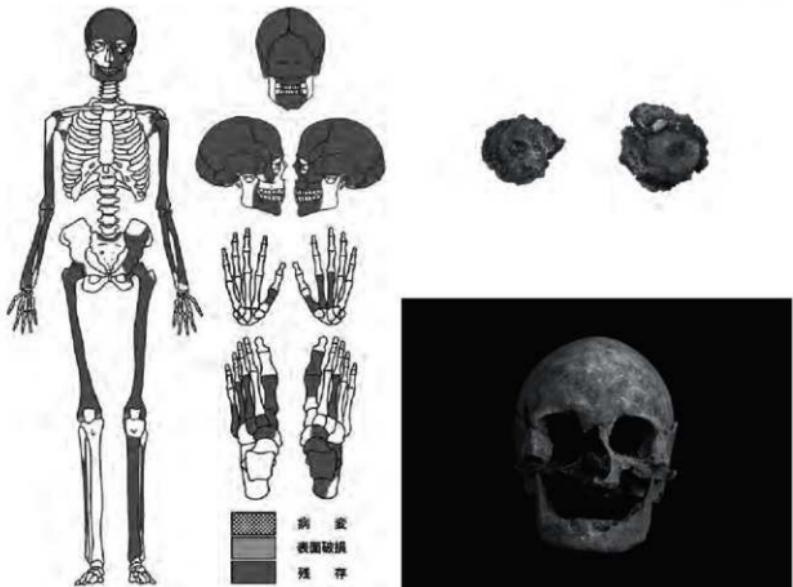
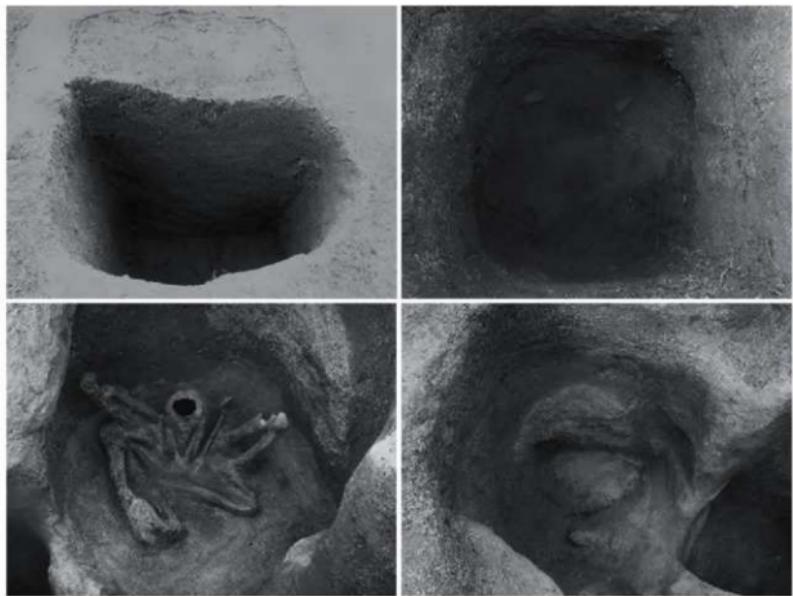
病 变
表面破損
殘 存



千提寺西遺跡 5区

68 土壙 地区割 5F10c

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 82 × 70 cm							
		<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 51 × 45 cm							
	底面	深さ 213 cm 軸方向 N-10°-W								
上部施設	● 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石単体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地								
	○ 無	所見								
下部施設	● 有	構造・所見								
	○ 無									
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input checked="" type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 ● 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 所見 南面して開脚する座位による土葬であり、木棺の対角に遺骸を見安置している。					藏骨器 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				
棺の形態	<input type="checkbox"/> 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	土壙の形状、人骨の状態や釘から推測する。 所見								
人骨	性別 ● 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明	顔面方位 S-20°-W		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		身長の推定可				
	年齢 成人	歯 歯は全て脱落		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		備考				
	所見									
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘									
	名 称 皿 銭貨 釘	材質 土師器 銅 鉄	数 量 1 3 1	所見 細片のため詳細不明。 腐植が著しく不明3点。 短小						
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の北端、67土壙の北に位置する。人骨の残存状態が良好であり、埋葬形態がよくわかる。銭貨は下腹部付近から出土しており、冥銭として副葬されたものと思われる。									



千提寺西遺跡 5区

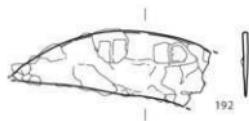
72 土壙 地区割 5F9d

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	75	<input type="checkbox"/>	75	cm
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	52	<input type="checkbox"/>	50	cm
	深さ	142 cm	軸方向	N-30°-W			
上部施設	構造 所見	○有 ●無	下部施設	○有 ●無	構造・所見		
埋葬方法	土葬	骨	人骨の状態から座位による土葬と考える。木棺に対して正方向に開脚して安置されている。	所見			
棺の形態	推定箱形木棺	所見	土壙の形状や人骨の状態、釘の出土から推測する。				
人骨	性別 男性 年齢 60+才	顔面方位 S-35° ~W	疾病 ●有 ○無	備考	身長の推定可		
	歯 齒は全て脱落	所見	変形性脊椎症、黄色靭帯骨化症				
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	材質	数量	所見		
	銭貨 鎌? 煙管 釘	鉄? 鉄 真鍮? 鉄	3? 1 1 31	寛永通寶・鉄一文銭(1739年~)含む。不明2点。 残存長8.1cm、やや弓状を呈するため鎌刀の一部か。 雁首(羅字一部残存) 短小			
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の南端、65土壙の北に隣接する。人骨の残存状態が極めて良好であり、埋葬形態では脚部を開きつつも足先を揃えて体部に寄せて安置されていたことがよくわかる。鉄製品は足首と寛骨の間から出土しており、腹部にあったものが遺骸の腐朽により転落したものと推測する。						





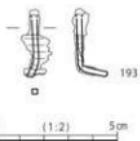
191



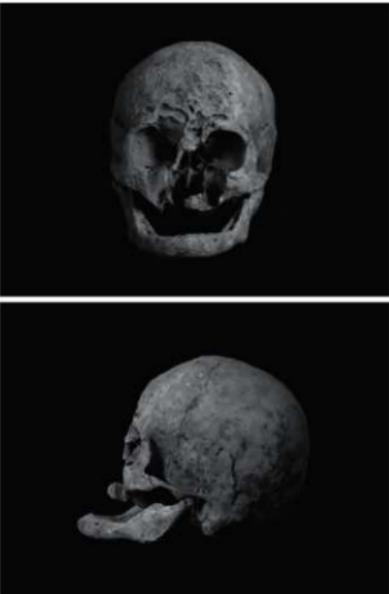
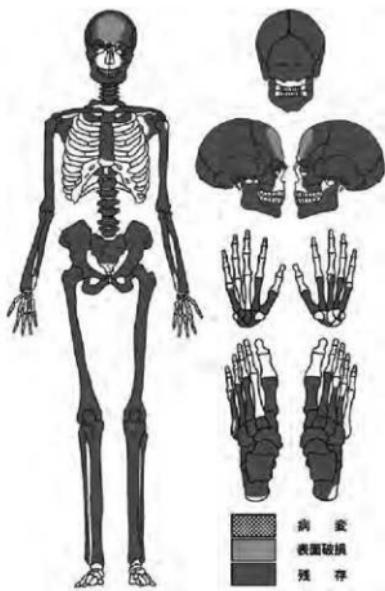
192



193



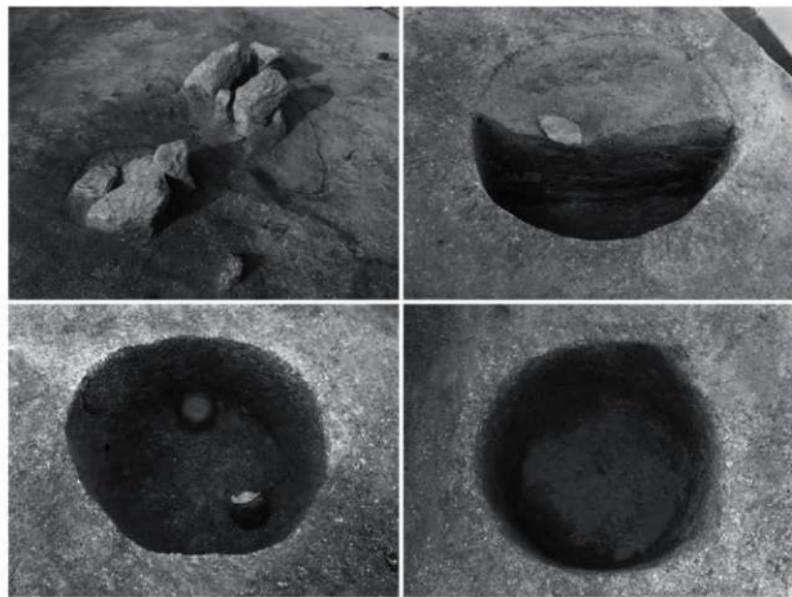
193



千提寺西遺跡 5区

86 土壙 地区割 5F9g

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 65 × 60 cm						
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 35 × 35 cm						
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	深さ 28 cm	軸方向	不明				
上部施設	● 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地							
	○ 無	所見							
下部施設	○ 有	構造・所見							
	● 無								
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input checked="" type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 所見	藏骨器 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無							
棺の形態	<input type="checkbox"/> 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	所見							
人骨	性別 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明	顔面方位 不明	疾病 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ○ 無		備考				
	年齢	歯							
	所見 出土なし								
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钉								
	名 称 皿 銭貨	材質 土師器 銅	数 量 3 5	所見 直径10.6~12.2cm 寛永通寶。1期古寛永5点。					
備考	尾根頂部より南に約30m離れた小規模な墓域の南端に位置する。東側に85土壙が隣接する。土師器皿と銭貨の副葬は6区(浄土墓)における典型的な墓の特徴であるが、同じ調査区内の中央墓域とはやや様相を異とする。銭貨から17世紀以降に作られた墓と考えられる。								



196



195



194



197



198



199



200



201



194



195



196

0 (1:4) 10cm



197



200



198



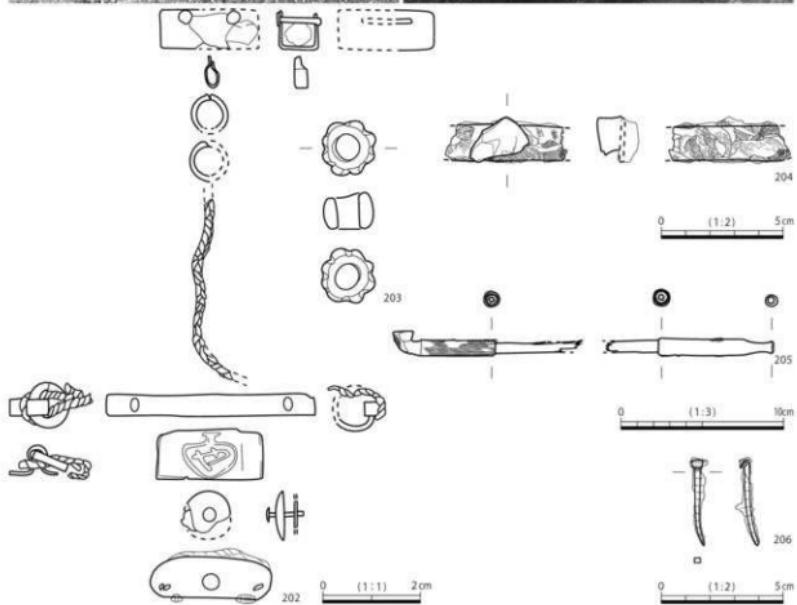
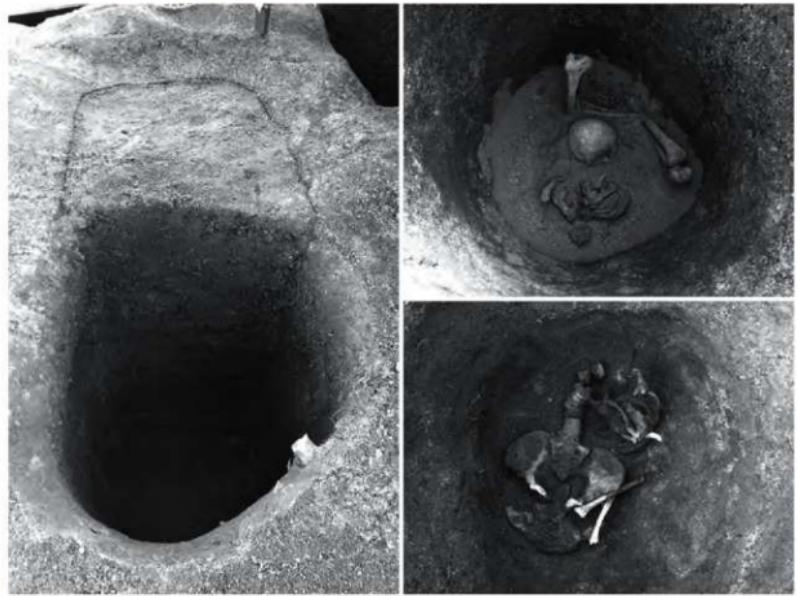
201

0 (1:2) 5cm

千提寺西遺跡 5区

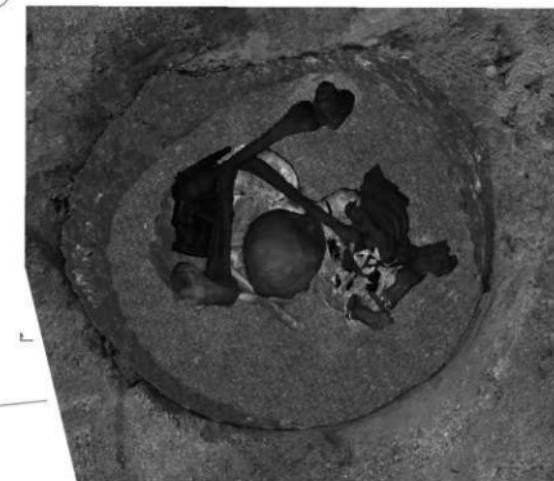
87 土壙 地区割 5F9d

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input checked="" type="checkbox"/> 長方形	検出面直径・一边 98 × 82 cm					
		<input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 68 × 70 cm					
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	深さ 166 cm	軸方向 N-20°-W				
上部施設	○ 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地						
	● 無	所見						
下部施設	○ 有	構造・所見						
	● 無							
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input checked="" type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明	藏骨器 ○ 有 ● 無						
	骨 ● 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無							
	所見 人骨の状態から座位による土葬と考える。							
棺の形態	○ 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 ● 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 ○ 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	土壙の形状や人骨の状態、釘の出土から推測する。 所見						
	性別 ● 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明	顔面方位 S-5° -E		疾病 ● 有 <input type="checkbox"/> 無	身長の推定可参考			
人骨	年齢 20~40才	歯 齒腐歯有り						
	所見 変形性脊椎症、黄色靭帯骨化症、圧迫骨折							
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input checked="" type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘							
	名稱	材質	数量	所見				
	銭貨 火打金 煙管 煙草入れ ガラス玉 釘	鉄 鉄 真鍮? 不明 ガラス 鉄	6 1 1 1 1 11	寛永通寶、鉄一文錢(1739年~)6点。 残存長4.9cm、幅1.5cm。詳細不明。 長さ14.5cm以上で羅首・羅尾・吸口が残るほぼ完形。18世紀頃か。 金具一式(10点+破片)あり。伊勢市「つぼや」製。				
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の南寄りに位置し、62・65土壙の北側に隣接する。検出時は平面が長方形を呈していたが、崩落によることが判明し、円形の土壙に残存良好な人骨が出土した。脚部は直立しながら足先を内側に向けており、極端に内股でやや不自然な体勢が認められる。煙管は人骨の左側から出土しているが、煙草入れは埋土の洗浄によってみつかったものである。ガラス玉はキリシタン大名大友宗麟の城下である大分市府内町遺跡に「コントツ」とされる類例があり、キリシタン関連遺物の可能性を考えられるが、江戸時代の煙草入れにも類例があり判然としない。成分分析では鉛カリウムガラスであり、平安時代以降のガラスにみられる成分であることがわかった。							





X=123.535



-4 Y=-42.488

5

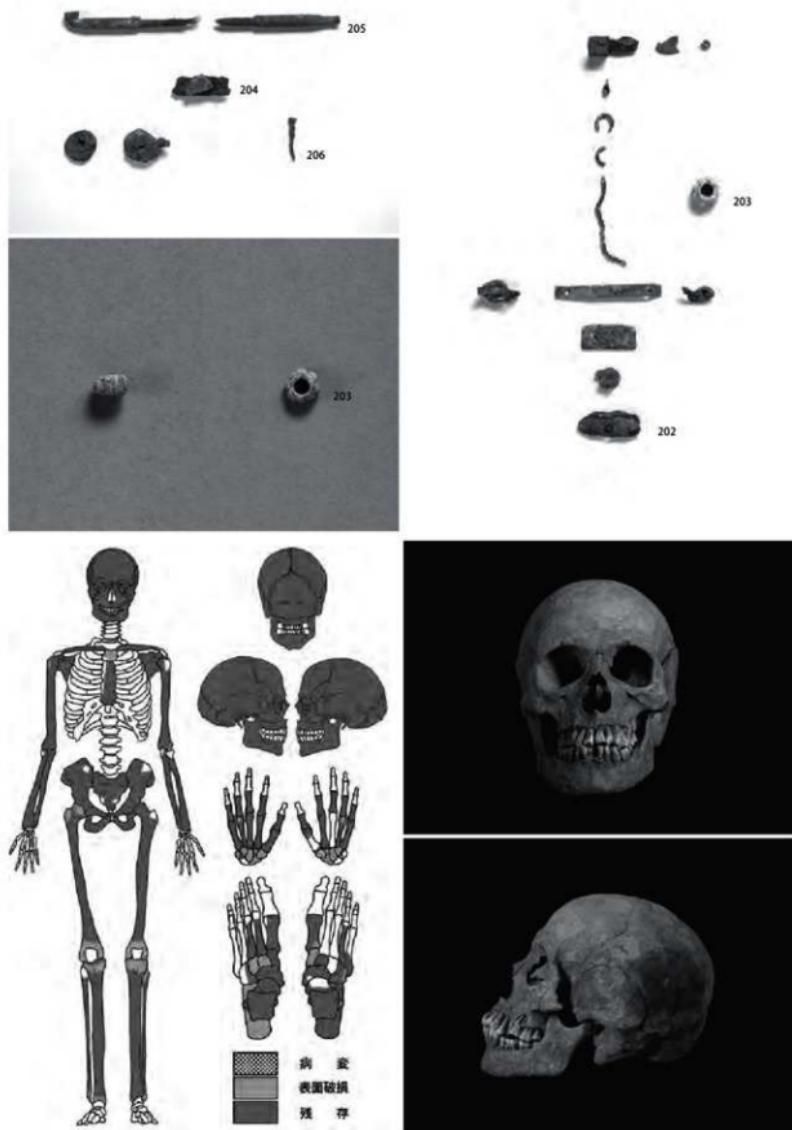
271.5m

N



270.5m

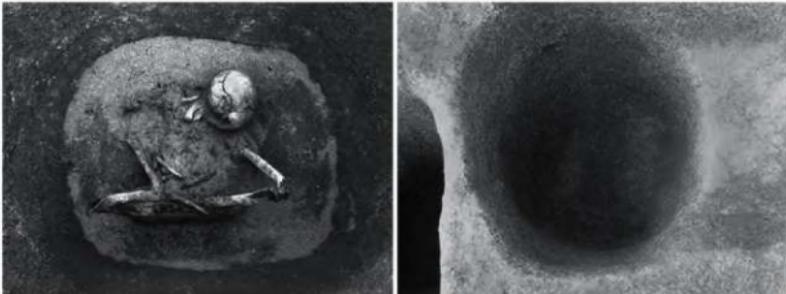
0 (1:10) 50cm

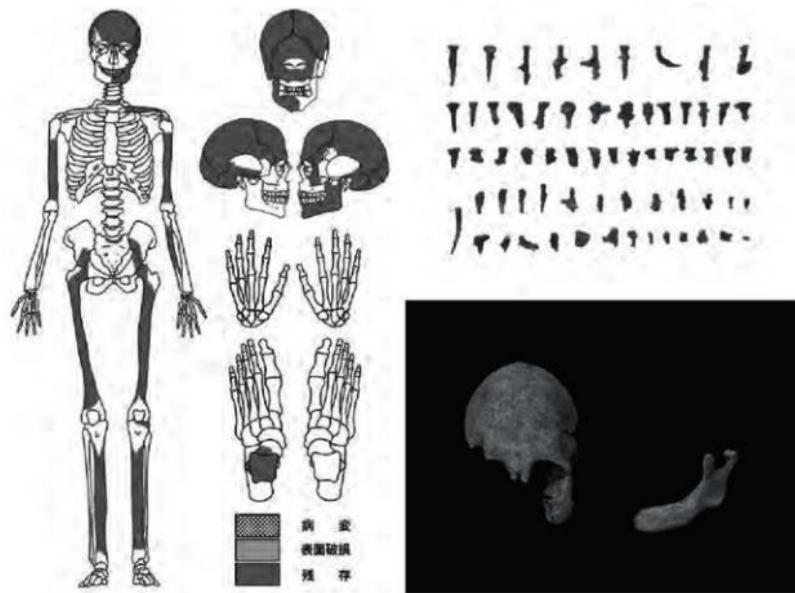
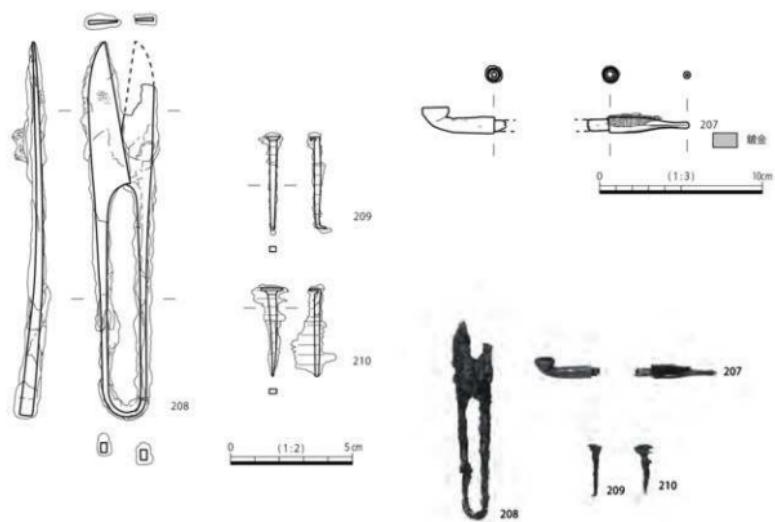


千提寺西遺跡 5区

92 土壙 地区割 5F10d

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	150	×	132	cm						
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	120	×	98	cm						
			深さ	263	cm	軸方向	不明						
上部施設	構造				下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見						
	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	所 上部を50土壙がかく乱するため不明である。 見											
埋葬方法	土葬				所見	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。							
	骨	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無							
棺の形態	推定桶形木棺	所 士壙の形状や人骨の状態、釘の出土から推測する。但し、桶形木棺にして見			は出土する釘の点数が多いため、箱形木棺の可能性も考えられる。								
人骨	性別 女性	年齢 20~40才	顔面方位 SW	疾病 ○ 有 ○ 無	備考								
	歯	歯は全て脱落	所見										
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘											
	名 称	材 質	數 量	所見									
	握り鉄 煙管 釘	鉄 銅? 鉄	1 2 64	長さ15.4cm、刃部4.9cm。柄部は板状を呈する。 雁首(羅字一部残存)、吸口(羅字一部残存)吸口には織布が付着する。17世紀頃のものか。 短小									
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の中央やや南北寄り、50土壙の下層からみつかった。土壙の上半は後世に作られた50土壙によって失われているが、人骨はほぼ完全に残存する。埋葬地点が消失されるほどであり、同じ墓域内でも古い時期の墓であることは明らかである。握り鉄や煙管は脚部の前方付近から出土しており、腹部周辺から出土する他の事例とは様子がやや異なる。												

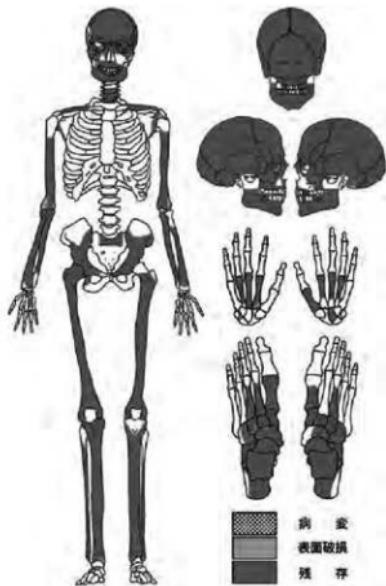
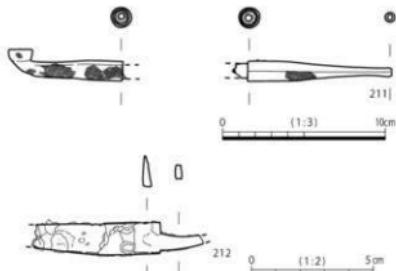




千提寺西遺跡 5区

93 土壙 地区割 5F9d

土壙の形態	検出面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 100 × 90 cm						
		<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 60 × 55 cm						
	底面	深さ 277 cm 軸方向 N-40°-W							
上部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	上部を76土壙がかく乱するため不明である。 所見						
		構造・所見							
下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無								
		<input type="radio"/> 火葬 <input type="radio"/> 推定火葬 <input checked="" type="radio"/> 土葬 <input type="radio"/> 推定土葬 <input type="radio"/> 不明 骨 <input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 被熱痕 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無 炭化物 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	閉脚した座位による土葬である。 所見						
埋葬方法							藏骨器 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		
棺の形態	<input type="radio"/> 桶形木棺 <input type="radio"/> 長方形木棺 <input type="radio"/> 推定桶形木棺 <input type="radio"/> 推定長方形木棺 <input type="radio"/> 箱形木棺 <input type="radio"/> その他 <input checked="" type="radio"/> 推定箱形木棺 <input type="radio"/> 不明		土壙の形状と人骨の状態から推測する。 所見						
	性別 <input checked="" type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性 <input type="radio"/> 不明		顔面方位 不明			<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	身長の推定可		
人骨	年齢 60+才		歯			<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	備考		
	所見 性別は男性か?								
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘								
	名 称	材 質	数 量	所 見 刀子? 鉄 1 残存長7.0cm。先端を欠損。 煙管 銅? 2 吸口(羅字一部残存)は体側右、雁首(羅字一部残存)は骨盤付近と別々に出土。17世紀頃か。 釘 鉄 3 短小					
備考	近世墓を中心とする頂部、中央の墓域の中央やや北西寄り、76土壙の下層からみつかった。土壙の上半は後世に作られた76土壙によって失われるが、人骨はほぼ完全に残存し、状態も極めて良好である。92土壙と同様に古い時期の墓であると考えられるが、土壙以外の遺存状態が良好で破壊された様子がみられないことから、何らかの理由により埋葬後の早い段階で故意に重複して76土壙が築かれた可能性も考えられる。								



b. その他の遺構

前述の墓以外に、当該調査区では溝・焼土坑・土坑・道路状遺構・石切場を検出した。

3溝 調査区の東端、X=123,502、Y=-42,443付近に位置する（図34）。断面は上幅最大3.0m、下幅約0.2mのV字状を呈し、東の墓域の南側斜面を長さ約18mにわたり尾根の先端に向かって下降する（図42）。遺構断面のうち、東側のb-b'では埋土の上半に水成堆積らしき層が認められるものの、埋土下半は山土の崩落土で埋もれていますことから、当初は空堀状であったと推測する。また、流向が斜面に直交する点も不自然であることから、人為によって地形が改変された蓋然性が高いと判断する。ただし、溝の北側肩では尾根上の9・12土壙の一部が破壊されており、降雨時等に尾根の斜面を削りながら流された結果と考えられ、上述の埋土上半にみられる水成堆積はこれによるものと思われる。なお、溝の中央、b-b'のすぐ東側の埋土上層から美濃焼大甕の破片が出土している。尾根上から転落したものと思われ、周辺の状況からこれらの墓に関連する遺物の蓋然性が高いものの、詳細は不明である。

2集石遺構 3溝の南側、X=123,512、Y=-42,444付近に位置する（図34）。現地表面や南側の道に

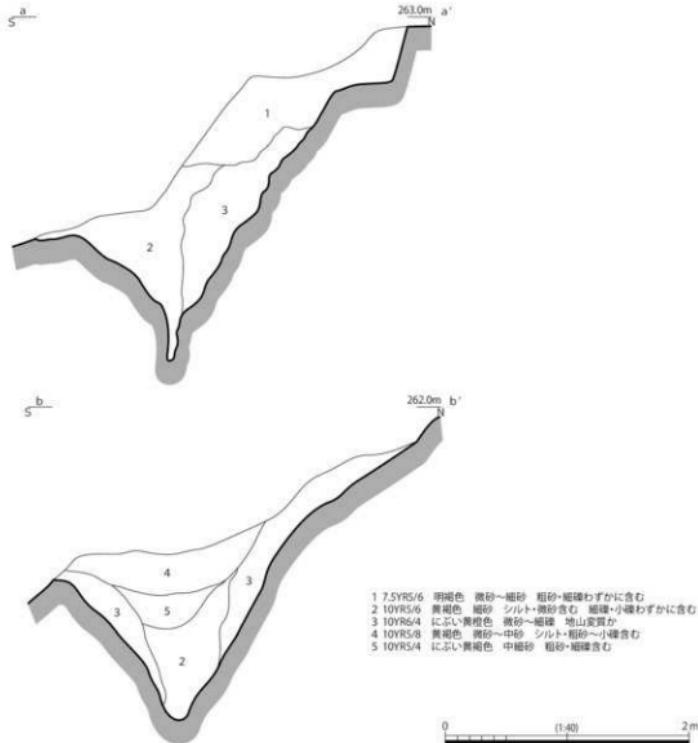


図42 千提寺西遺跡5区 3溝 断面図

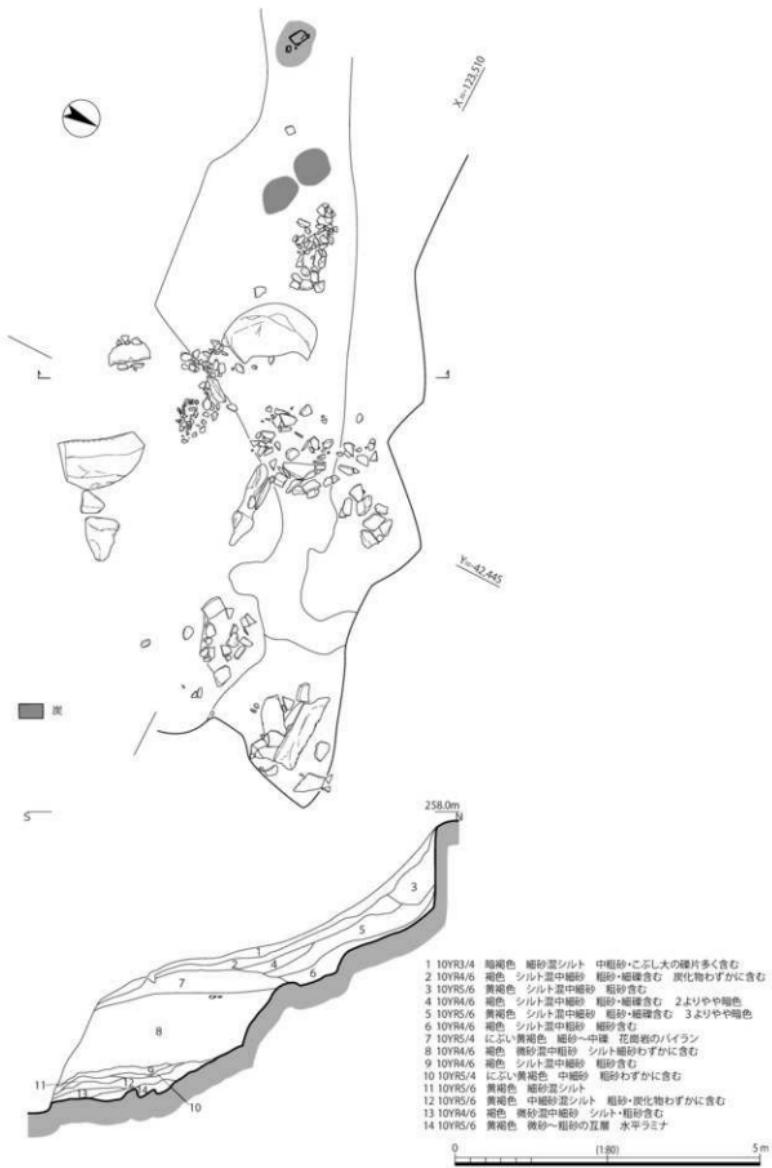


図43 千提寺西遺跡5区 2集石遺構 平・断面図

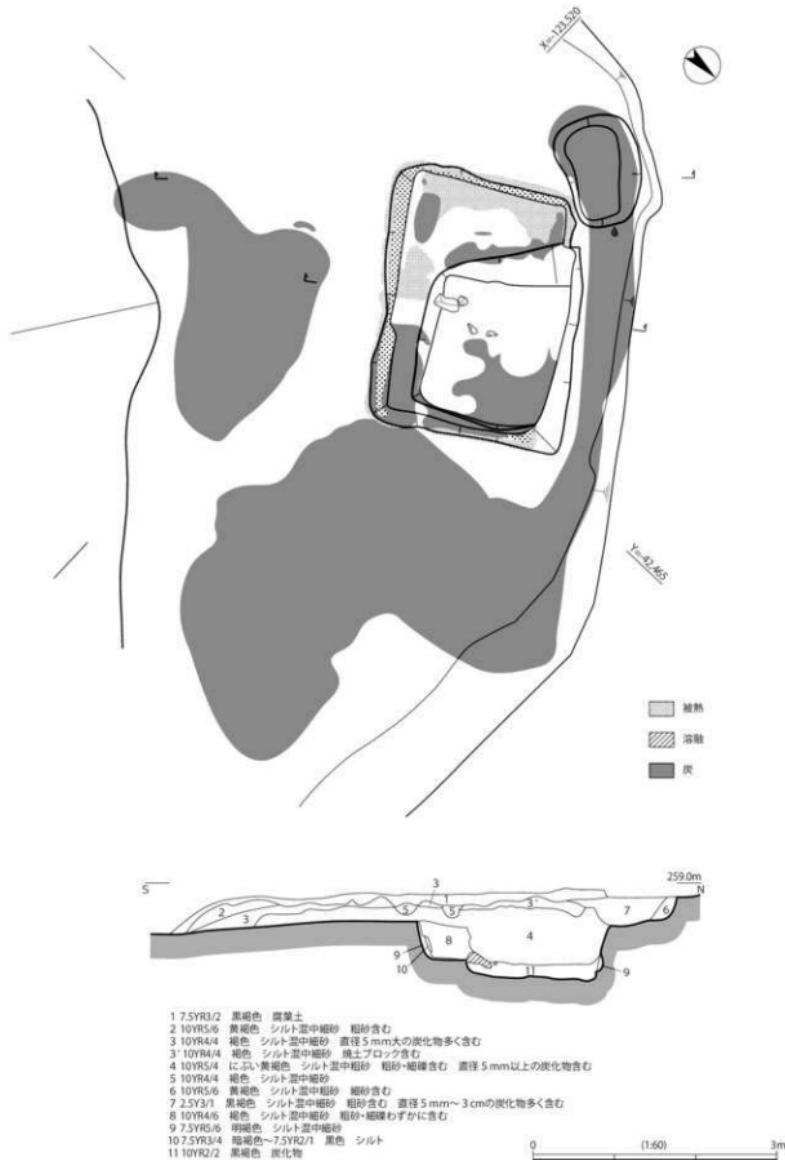


図 44 千提寺西遺跡 5 区 1 焼土坑 平・断面図

おいて矢穴の残る花崗岩が散乱していたことから、崖面の中腹に存在する緩斜面を調査することとなつた。表土を除去すると、地表下約30cmに幅2.0~4.0mの平坦面が現れ、複数の矢穴石と荒剣によつて生じたと考えられる屑石が多数出土した(図39・写真図版30-8・31-1~3)。また、石片が散乱する西側には、炭化物の堆積する21・22土坑がみつかつており、火を起こして作業を行つた痕跡と推察される。この平坦面の上方、尾根の斜面部には直径約2.5mの巨大な花崗岩塊が露頭しており、当地点は花崗岩を切り出した後に大まかな形状まで整形した作業場であったと推測できる。出土遺物の中に製品に近い状態のものが確認できなかつたため、何を製作していたのかは不明であるが、周辺の墓地では石仏や五輪塔、墓碑等を使用しており、それらの石材を切り出していた可能性も考えられる。

1 焼土坑 2集石構造から南西に約20mのX=123.519、Y=42,466付近に位置する(図34)。現地

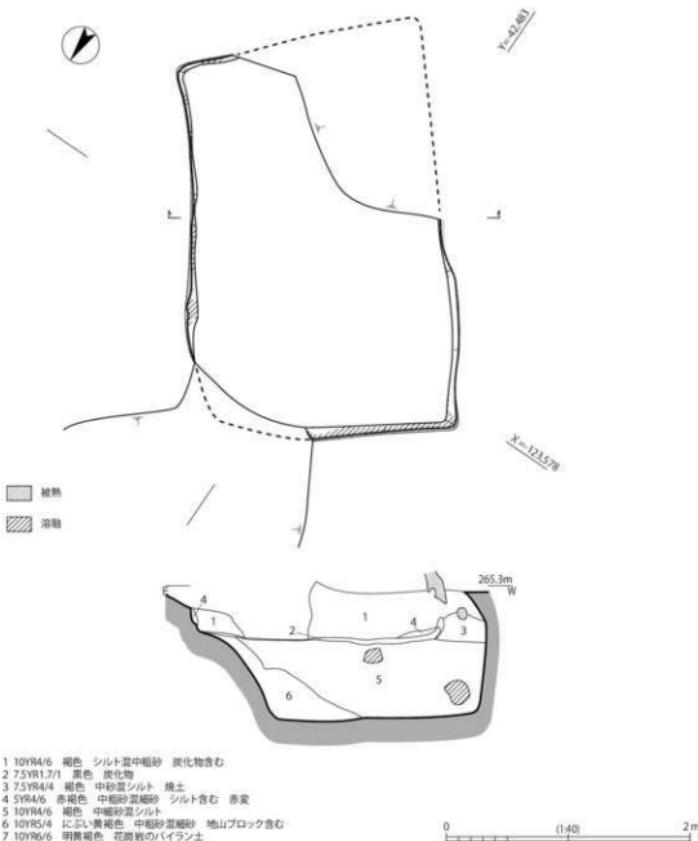


図45 千提寺西遺跡5区 25焼土坑 平・断面図

表面において、浅い方形の窪みと、大量の炭化物が散乱する状態を確認した。

腐植土を含む表土を約 20 cm 除去したところ、隅丸方形にめぐる被熱痕跡とその内外に分布する炭化物を検出した（図 44）。被熱痕跡の規模は短辺約 2.40 m、長辺約 3.30 m を測り、内部の堆積物を除去すると、被熱が著しく、一部は溶融した壁面を約 30 cm の深さに検出した。溶融した壁面の形状から、掘り窪めた後に粘質土が貼り付けられていたものと考えられ、その状態から 1,000°C 近くまで熱せられたことが明らかである（写真図版 29-2～5）。一方、土坑の底面はほとんど被熱を受けた痕跡が認められず、火が直接当たらないような作業が行われたと推測できる。炭化物は土坑の北東側を中心と周囲に分布することから、量の多い北東付近に開口部が存在し、そこから内部に溜まった炭化物や灰等の残留物を掻き出したものと考えられる。これは、被熱や溶融の強い部分が南西側に多く認められ、



図 46 千提寺西遺跡 5 区 西側 平面図

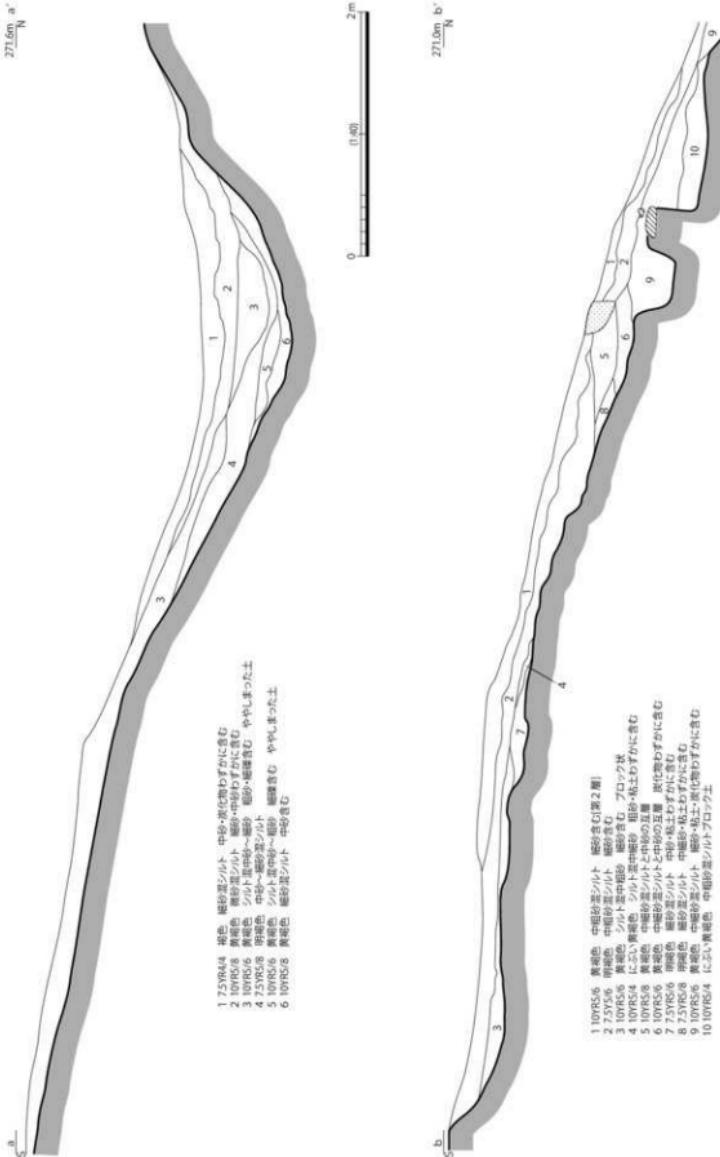


図 47 千提寺西遺跡 5 区 断面図

北東付近には少ない状況とも一致する。

本遺構は前述の2集石遺構と同じ平坦面上に形成されており、この表土を除去した面はいずれも地山である花崗岩が表れて堅固なことから、人为的に山の斜面を加工して安定した作業場を確保したことは明らかである。ただし、両遺構の存続時期が不明なことから、両者が並存したかどうかは不明で、別々に成立した可能性もある。なお中谷早苗氏の情報として、昔は山の中で炭焼きを行っていたと聞いたことがあるということで、現存する炭焼窯とは形状が異なるものの、1焼土坑がそれに使用されていた可能性も考えられる。

25 焼土坑 調査区の南部、X=123.578、Y=42.482付近において検出した（図34）。土坑の一部はかく乱や樹根によって失われているが、遺構の規模は長辺約3.30m、短辺約2.20m、深さ約0.25mを測り、1焼土坑にほぼ等しい（図45）。また遺構内部も、直立する壁面が激しく溶融しているのに対し、底面は炭化物が散見されるだけでほとんど掘削時のままという特徴も同様である（写真図版30-1・2）。かく乱が著しいため、遺構周辺における炭化物の分布はほとんど確認できなかったが、遺構の南東側に対し北西側が広く平坦化していることから、作業場として使用された蓋然性が高い。1焼土坑と同様、方形の炭焼窯であった可能性が考えられる。

17 道路状遺構 現在の道が存在するX=123.523、Y=42.508付近を基点として、尾根上を東北東にのびる（図34）。調査前の時点では木々が生い茂る自然の尾根の頂部で、わずかに草木が除けられた程度の細い道にしかみられなかった。表土を除去すると、X=123.519、Y=42.499を中心とする尾根の鞍部がU字状に開削され、東西に横断する幅約1.5mの切通しが現れた（写真図版31-4・5）。ほぼ同じ幅のまま30mほどづき、東の墓域が存在する尾根上の平坦面に達する。本遺構を覆う堆積物の中からは中央の墓域から転落したと思われる人頭大の花崗岩や、最下面では19焼土坑がみつかっており、人为的に開削されたものであることは明らかである（図47上）。中谷早苗氏によると、小さい頃はこの道の途中に詣墓が存在したらしく、南側斜面に方形に掘削された91土坑は、その痕跡である可能性も考えられる。

18 道路状遺構 西側斜面を南東にのびる。幅1.2～2.4mを測り、西側斜面の中腹を南東にのびて南の墓域より約5m手前で不明瞭となる（図34）。調査前は、中央の墓域に至る方法としては尾根上を通る不明瞭な道を探りながら進む程度しかなく、本遺構の存在した地点は雑木が繁茂し、尾根上からつづく単純な山の斜面としか認識できなかった。表土を除去すると、X=123.527、Y=42.502付近において、当尾根では認められない砂混じりの互層を検出した（図47下）。同層の上面が水平に近く、やや

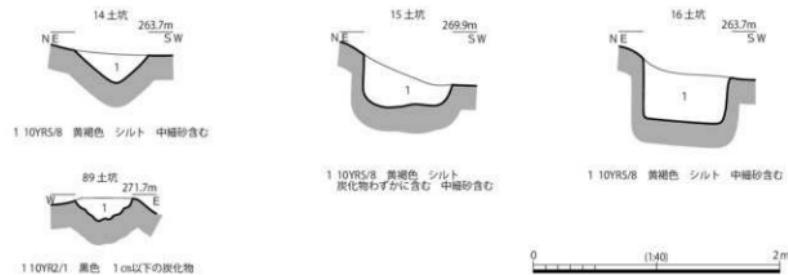


図48 千提寺西遺跡5区 遺構 断面図

しまっていることや、帶状に限定された範囲にのみ堆積することから、人為的に整地されたものと判断した。ただし、前述の 17 道路状遺構が尾根を開削して敷設されたのに対し、18 道路状遺構は盛土して道が造られており、両者の製作法には違いが存在する。

これらの道路状遺構の周辺では、複数の土坑や焼土坑を検出した（図 34）。いずれも調査前の現況は木々が茂る林の中であり、道路状遺構から數mの範囲に分布していることから、道として機能していた頃の所産と考えられる。

14～16・19・20 土坑 17 と 18 の 2 つの道路状遺構が交わる X=123,523、Y=-42,499 付近の直径約 10 m の範囲において検出した（図 34）。

土坑は、平面が円形あるいは隅丸方形、断面がすり鉢状あるいは鍋底状を呈するが、両者に相間は認められない。規模はいずれも長さ 1.0 m 前後、深さ 0.2 ~ 0.5 m を測る（図 48）。遺構内がすべて炭化物で埋まるものもあれば、大部分が山土で埋まつていて底面に薄層としてわずかに炭化物が残るものもあり、一様ではない。また、19 土坑のように底面全体が被熱によって赤変するもの（写真図版 30-4）と、花崗岩のバイラン土のまままったく変化していないものも認められる。いずれも量の多少はみられるものの、埋土に炭化物が確認できることから火葬に関連する遺構と考えられる。埋土が重層的に堆積していないことから、焚火のような一過性のものと推測できる。なお、隣接する墓では火葬骨が確認できないことから、火葬に伴う遺構ではないと考える。

89・90 焼土坑 18 道路状遺構の南端付近において検出した（図 34）。規模や形状は前述の焼土坑とほぼ同様であるが、89 焼土坑については、他が比較的平坦な地形に立地するのに対し、やや急な傾斜面上に形成されている。この点からも火葬に使用されたとは考え難く、簡易的な作業の所産と考える。

5 区では東の墓域において、キリストン墓と考えられる 4・5 土壙を検出した。とくに 4 土壙の上部施設は長方形の石組が残存しており、この土壙をキリストン墓とみる大きな要因となった。4・5 土壙周辺では計 9 基の土壙が狭い尾根頂部に密集してみつかっており、一族墓と判断する。遺物は残らないため詳細は不明であるが、「墓の丸」の中世墓地に構築された初期キリストン墓以降、禁教令発布の直後くらい、16 世紀後葉～17 世紀前半までの範疇に含まれると推測する。なお、4 土壙出土人骨は放射性炭素年代測定を実施し、15 世紀後半～17 世紀前半の曆年代範囲が示された（第 4 章第 2 節）。

その後は、中央の墓域に近世墓がひろがる。この墓域は隠れキリストンである中谷家の一族墓地であり、江戸期における「潜伏キリストン」の実態を知る手掛かりの発見が期待されたが、残念ながら直接的な資料はみつからなかった。

(3) 千提寺西遺跡6区

千提寺西遺跡6区は、千提寺西遺跡の南西隅に位置する。千提寺西遺跡の西辺の地形をみると、北から南にかけて3箇所の丘陵頂部があり、北から順に5区、10区、6区とした。6区は、10区とした丘陵部の南北方向の尾根がいったん下降し、小さな平坦地をはさんだ南側の丘陵部であり、現地においては独立した丘陵状の景観を示す。

調査区は、北東が高く、南西に向かって尾根が下降する地形であり、標高266.7～259.9m、北東から南西にかけての長さが約55m、中央部における北西から南東にかけての長さが約25mである。調査区北東の頂部から南西端部にかけては、幅7～8mの比較的平坦な尾根上の面が下降する。この尾根の北西、北東、南東側は急な斜面であり、北西側は道路へ、北東、南東側は谷に向かって下降する。

調査区は、「浄土墓」の字名があり、調査前には浄土宗を信仰される調査地近郊の家の墓地が営まれていた。墓地は頂部周辺に営まれ、事前に改葬のため掘削された箇所が頂部西側のかく乱土坑である。墓地を営まれた家の方にうかがったところ、墓地へは調査区西側から頂部に向かってのびる窄地を道としていたとのことである。また、調査に入る以前から調査区西端の南側斜面には炭化物と骨片がみられ、台石状の花崗岩が散在していたことから、この場所も墓地に関連するのかをうかがったところ、何ら認識されていなかったとのことであった。90代の方にうかがった内容であるため、少なくともここ90年間は、この土地の頂部のみが墓地として認識されていたことがうかがえる。

墓地の改葬は、現地調査に入った平成24(2012)年時点で、「数年前に実施した」とうかがった。改葬前の墓地は、墓石が2基前後頂部に立ち、その西側に直径約60cm、高さ約30cmの土盛りである墓が10数基並び、各墓前には竹製もしくはプラスチック製の花入れが立てられていた。この区域を改葬のため掘削され、現在は5区の北側にある千提寺の共同墓地へ墓石とともに移設された。

本調査区の層序は上層から、表土(第1層)、山土であるにぶい黄褐色砂混シルト(第2～1層)、地山の風化層である花崗岩バイラン土を含む明黄褐色粗砂混シルト(第2～2層)であり、地山である花崗岩に至る(図13)。調査は、頂部から裾部にかけて機械で改葬時の盛土ならびに表土(第1層)を除去後、人力による掘削、調査に入った。第2～1層除去後面を第1面、第2～2層除去後面、すなわち地山上面を第2面とした。

第1面では、焼土坑(火葬場)である1土坑、台石状の花崗岩が落込む浅い土坑である7土坑、頂部南側から調査区北西邊の中央部にかけて東西方向にのびる石列、そのほぼ中央付近に位置する97石組のほか、調査区南西部周辺の丘陵裾部で拳～人頭大の自然石のひろがりを検出した(図49)。焼土坑(火葬場)である1土坑については、その他の遺構として後述する。石列は当初、頂部平坦面の端に沿っているため人為的なものかと考えたが、断面を確認したところ貫入した岩体であり、遺構ではないことがわかった。97石組はこの岩体の自然石を用いて尾根の方向に石組を構築したものである。道の端を示すものかとも考えられるが性格は不明である。調査区南西部周辺の自然石のひろがりは、当初、墓の上部施設になる可能性を考えた。しかし、その後の第2面の調査により、墓の上部施設になるものは人頭大の自然石の集石がみられた10箇所のみであることがわかった。自然石のひろがりは調査区北半ではみられず、調査区南西部周辺に限られる。墓が検出された他の調査区においてはこのような自然石のひろがりはみられないため、本調査における自然石のひろがりは、何らかの人為的なものとなる可能性が考えられる。

第2面では、近世を中心とする多数の墓と焼土坑(火葬場)である14土坑を検出した(図50)。墓

の本来の掘削面は花崗岩バイラン土の上面である第1面であるが、第1面では、明確な形状を確認することができないため、地山上面である第2面において検出した。焼土坑（火葬場）である14土坑については、その他の遺構として後述する。

なお、墓は深さが1mを超えるものが多いため、第2面における調査後、深い墓は機械で上部を削平した後調査を継続した。

a. 墓域

6区第2面で検出した墓は、66基である。墓は全て土壌に埋葬された土葬であり、座位による土葬が大半を占める。6区は近世を中心とする墓域である。

墓は、頂部から南西方向へのびる尾根上の平坦面に分布する。尾根上以外の斜面に位置する墓は48土壌のみである。墓の分布をみると、大きく頂部の墓群、中腹部の墓群、裾部の墓群がある。頂部の墓群をみると、かく乱土坑の周縁にある106・110・111土壌は改葬時の残存と考えられる。その南東側にある頂部の墓群は改葬時には墓地と認識されていなかったのであろう。なお、裾部南西隅にある91・98土壌の西側には調査区外へ平坦面のがのびており、墓域が調査区外へつなぐ可能性がある。

墓の上部施設は、人頭大の自然石の集石がみられる。このような上部施設が明らかな墓は、中腹部の墓群の下方にある巨石周辺の墓群（105・103・53土壌）から裾部の墓群（55～58・91・98土壌）に集中する。いずれも、土壌の中に自然石がやや落込む状態で検出されていることから、埋葬後下部の棺や遺骸が腐朽するに伴い上部施設である自然石が落込んだものと考えられる。

墓の形は、検出面の平面形は不整形な方形または円形が多く、ほぼ垂直に掘削され、底面の平面形は比較的整った方形または円形が多い。底面では埋葬する棺の形に合わせて掘削したため、整った方形または円形を示すものと考えられる。多くの墓が検出面の形と底面の形は同じであり、当初より棺の形を意識して掘削されているようである。24土壌底面には棺に使用された釘が良好に残り、箱形木棺の使用が考えられる。残された釘と土壌の壁とは5～7cm前後でありほとんど隙間が無いことから、ほぼ棺の大きさに土壌が掘削されたことがわかる。円形より方形のものが多く、桶より箱形木棺が多く使用されている。墓の深さは約0.5mのものから2～3mを測るとかなり深いものがあり、当調査区では深い墓が多いことが特筆される。

人骨は、深い墓で残存が良好である。膝を立て、両膝の間で頭蓋骨が、底面で寛骨が検出されることから座位による土葬とみられる。寛骨は、底面が方形の土壌では隅部で検出されるものが多いことから、箱形木棺の隅に座る状態で埋葬されたと推定する。残存する人骨の多くは成人のものであり、歯が失われているものが目立つ。

本調査区の墓では、同一の土壌で上下別個体の人骨が出土する場合がある。他の調査区ではあまりみられない事象であり、注意される。20（上部）土壌では成人の人骨が出土しており、ほぼ直下の20（下部）土壌では外傷が観察される子供の人骨が出土している。出土状況からは、両者は時間を経ずして埋葬された可能性が考えられる。

副葬品は、磁器碗、土師器皿、銭貨、煙管などが出土した。希少なものでは、入歎・漆器椀（20（上部）土壌）、金属製の環（15土壌）、箱（106土壌）がある。本調査区では、銭貨が32基から出土しており、全体の48%を占め5区に比べ割合が多い。また5区に比べ遺物の種類は少ない。

墓の全容は表4のとおりである。うち遺構や遺物の出土が顕著である33基について、個別に報告する。

表4 千提寺西遺跡6区土壤一覧

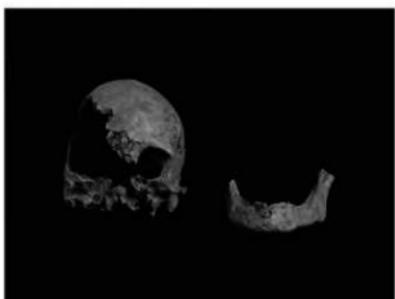
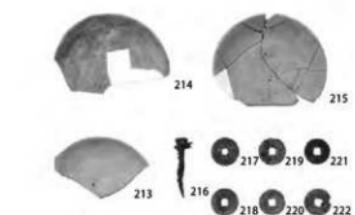
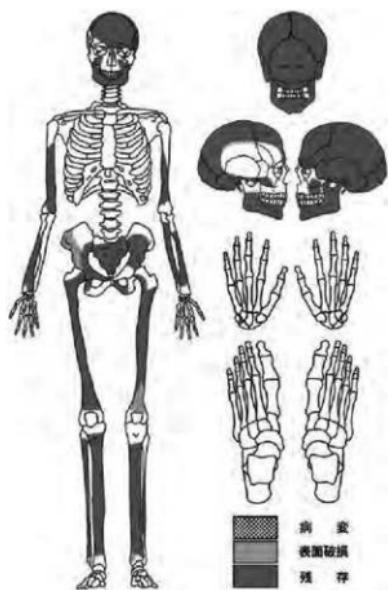
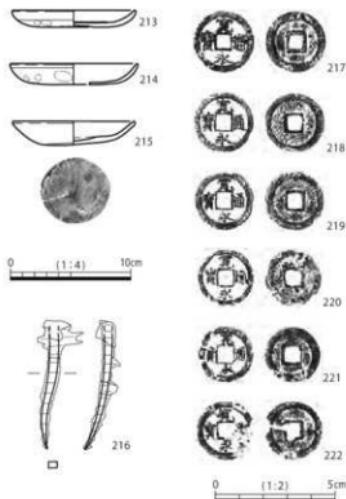
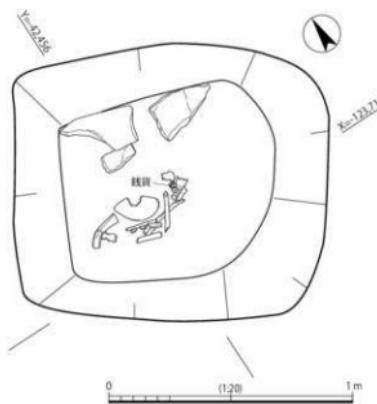
個別報告の土壤

土場	株面形態	底面形態	神出面	露得一边(cm)	底面	露得一边(cm)	底さ (cm)	上部施設	下部施設	埋葬方法	棺の形態	人骨	副葬品
131.土場	不整方形	不整方形	129	114	88	75	157	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有 土師器豆・鍔首・灯	
131.土場	方形	円形	92	75	75	66	188	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・灯	
131.土場	不整方形	方形	70	65	66	66	190	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・豆・鍔首・燈・灯	
16.土壤	不整方形	円形	60	50	40	24	86	無	無	不明	不明	無	
17.土壤	円形	円形	114	110	74	72	141	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 土師器豆・鍔首・灯	
18.土壤	円形	円形	152	146	98	96	122	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有 土師器豆・鍔首・灯	
19.土壤	不整方形	方形	100	81~	80	68~	107	有 自然石单体	無	土葬	不明	有 土師器豆・鍔首・灯	
19.土壤	不整方形	方形	100	81~	85	85	176	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・埋管・竹	
20.土壤	不整方形	方形	96	85~	63	53	123	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・人面(石)・漆器桶・灯	
20.土壤	不整方形	方形	96	85~	63	53	136	無	無	土葬	不明	每	
21.土壤	不整方形	円形	110	100	43	39	56	無	無	不明	埋立箱形木棺	有 土師器豆	
24.土壤	不整方形	方形	86	75	58	40	213	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・埋管・引・火打金・石	
25.土壤	不整方形	方形	63	60	56	47	133	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・鍔首・豆・鍔首・埋管・灯	
26.土壤	不整方形	円形	135	95~	112	72~	181	無	無	土葬	不明	有 鍔首・埋管・竹	
26.土壤	不整方形	方形	135	95~	90	80	300	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・埋管・竹	
27.土壤	不整方形	円形	62	61	65	50	143	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・灯	
27.土壤	不明	不整方形	不明	不明	不明	不明	無	有 土墳間で骨のみ出土したため詳細不明	無	土葬	不明	有	
29.土壤	不整円形	不整円形	55	50	33	30	189	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 竹	
30.土壤	不整円形	方形	150~	140~	124	81	53	無	無	土葬	不明	有 土師器豆・鍔首	
30.土壤	不整円形	方形	150~	140~	63	52	208	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・灯	
30.土壤	不明	不明	不明	不明	不明	不明	無	有 土墳間で骨のみ出土したため詳細不明	無	土葬	不明	有 竹	
12.土壤	不整円形	円形	142	116	59	58	121	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首	
35.土壤	不整方形	方形	86	73	61	60	156	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 灯	
36.土壤	不整円形	円形	105	100	65	60	184	無	有 個別報告参照	土葬	埋立箱形木棺	有 土師器豆・鍔首・灯	
37.土壤	不整円形	円形	104	100	90	78	117	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・灯	
38.土壤	不整不平方形	不整方形	105	85	55	45	89	無	無	埋立土葬	埋立箱形木棺	無 鍔首・灯	
39.土壤	不整方形	不整方形	210	155	125	87	114	無	無	土葬	不明	有 土師器豆・鍔首・灯	
39.土壤	不整方形	不整方形	78	70	69	59	103	無	無	南洋土葬	不明	有 鍔首	
40.土壤	不整方形	方形	160	115	108	71	164	無	無	土葬	不明	有 竹	
40.土壤	不整方形	方形	160	115	68	61	173	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首	
41.土壤	円形	円形	58	40	33	20	62	無	無	土葬	埋立箱形木棺	無 鍔首・灯	
42.土壤	不整方形	不整方形	63	58	38	33	142	無	無	土葬	不明	有 鍔首・灯	
43.土壤	円形	円形	60	58	35	32	47	無	無	埋立土葬	不明	有 鍔首	
44.土壤	不整方形	円形	82	71	61	54	60	無	無	埋立土葬	埋立箱形木棺	無 土師器豆・鍔首・小坪・鍔首	
47.土壤	不整円形	不整円形	52	48	27	25	22	無	無	埋立土葬	不明	有 土師器豆	
48.土壤	不整円形	円形	80	80	55	53	59	有 自然石单体	無	埋立土葬	不明	有 土師器豆	
49.土壤	不整方形	円形	125	120	95	90	188	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有	
52.土壤	不整方形	方形	130	112	71	65	141	無	無	埋立土葬	埋立箱形木棺	有	
53.土壤	不整方形	不整方形	146	131	102	107	63	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有	
53.土壤	円形	円形	116	110	65	65	108	有 土墳壁面にせんし状の指痕あり	無	土葬	埋立箱形木棺	無 土師器豆・鍔首	
56.土壤	円形	不整円形	86	78	43	28	47	有 自然石複数	無	埋立土葬	埋立箱形木棺	無 土師器豆・鍔首	
57.土壤	不整円形	円形	105	100	55	53	70	有 自然石複数	無	埋立土葬	埋立箱形木棺	無 土師器豆・鍔首	
58.土壤	不整円形	円形	144	98	43	36	68	有 自然石複数	無	埋立土葬	埋立箱形木棺	無 土師器豆	
60.土壤	不整円形	円形	143	100	52	52	61	有 自然石複数	無	埋立土葬	埋立箱形木棺	無 土師器豆	
87.土壤	不整円形	円形	78	69	50	40	33	無	有 土墳道由来で自然石が集中して出土	不明	不明	無	
91.土壤	不整方形	円形	135	120	70	61	176	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有 土師器豆・鍔首・灯	
98.土壤	円形	円形	100	98	46	42	100	有 自然石複数	無	埋立土葬	埋立箱形木棺	有 土師器豆	
99.土壤	不整円形	円形	195~	154	98	95	121	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 土師器豆・鍔首・灯	
101.土壤	不整円形	円形	99	53	48	43	64	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有 灯	
103.土壤	不整円形	不整円形	50	46	34	34	59	有 自然石单体	無	埋立土葬	不明	有 土師器豆	
105.土壤	不整方形	不整円形	85	80	79	48	77	有 自然石複数	無	土葬	不明	有 土師器豆	
106.土壤	不整方形	方形	108	88	75	65	161	無	無	土葬	箱形木棺	有 土師器豆・鍔首・性・苦・鍔首・灯	
107.土壤	不整円形	不整方形	50	48	42	30	73	無	無	土葬	不明	有 土師器豆	
108.土壤	不整円形	不整円形	136	114	77	68	94	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有	
109.土壤	円形	円形	71	59	28	25	50	無	無	土葬	不明	有 土師器豆	
110.土壤	不整方形	不整円形	140	130	100	86	146	無	無	土葬	不明	有 土師器豆	
111.土壤	不整方形	不整方形	150	110	110	62	81	無	無	埋立土葬	不明	有 灯	
112.土壤	不整円形	不整方形	122	110	80	70	110	有 自然石複数	無	埋立土葬	不明	有 土師器豆	
113.土壤	不整方形	不整方形	133	121	121	98	43	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有	
119.土壤	不整方形	方形	112	96	65	55	164	無	無	土葬	埋立箱形木棺	有 灯	
120.土壤	不整円形	不整円形	110	76	50	35	85	有 自然石複数	無	埋立土葬	不明	有 土師器豆	
121.土壤	不整円形	不整円形	75	58	40	31	41	有 自然石複数	無	埋立土葬	不明	有 土師器豆	
122.土壤	方型	円形	51	49	43	38	31	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首・灯	
123.土壤	不整円形	円形	116	115	72	72	43	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有 土師器豆・鍔首	
124.土壤	円形	円形	111	104	60	53	64	有 自然石複数	無	土葬	埋立箱形木棺	有 鍔首	
125.土壤	不整円形	不整円形	86	86	50	50	47	無	無	埋立土葬	不明	有 鍔首・灯	

千提寺西遺跡 6区 13(上部) 土壙 地区割 5H6a

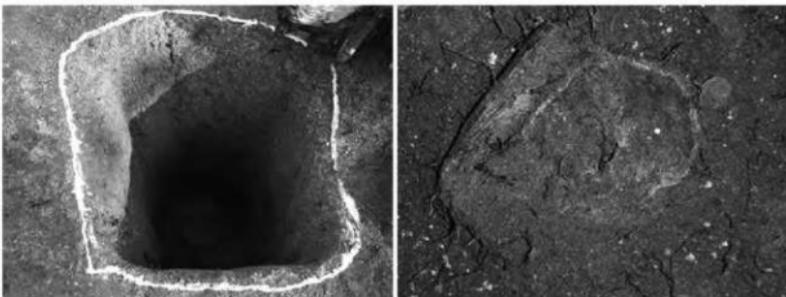
土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	129	×	114	cm
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	88	×	75	cm
			深さ	157	cm	軸方向	N-60° -W
上部施設	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 見	構造 自然石複数 所 埋土の中位付近より自然石2点が出土。 木棺の腐朽による陥没に伴って標石が 遺構内に転落したものと考えられるが、 かなり深い位置のため、判然としない。	下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無 見	構造・所見		
埋葬方法	土葬	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。		所見			
棺の形態	骨 被 ○ 有 炭 ○ 有 藏 ○ 有 ○ 有 热 痕 ○ 无 物 ○ 无 器 ○ 无						
	推定箱形木棺	所見	土壙の形状から推測する。				
人骨	性別 男性	年齢 成人	顔面方位 不明	疾病 ○ 有 <input checked="" type="radio"/> 無	備考		
	歯	所見					
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘						
	名 称 皿 銭貨 釘	材 質 土師器 銅 鉄	数 量 3 6 4	所見 1点外底面糸切り 寛永通寶。1期古寛永1点、3期新寛永5点 短小・長大			
備考	丘陵部中腹に位置する。上部施設の可能性をもつ自然石より下位において、頭蓋骨上部付近で自然石が別に1点出土。箱形木棺の棺蓋上に置かれたものか。銭貨は頭蓋骨脇から出土。銭貨から18世紀以降と考えられる。						

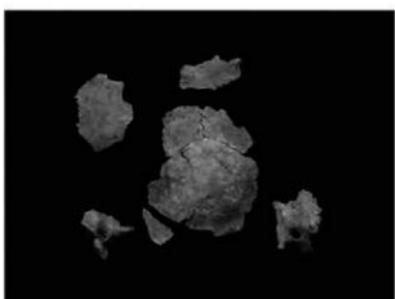
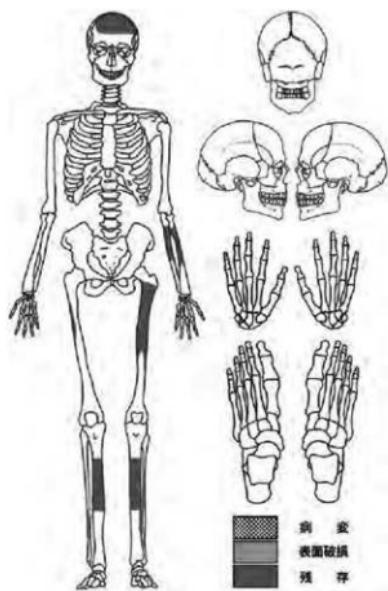
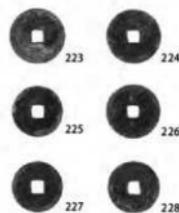
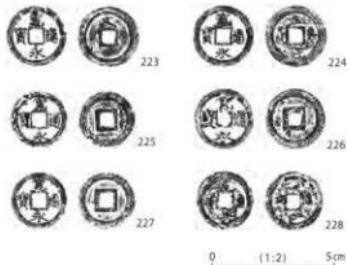
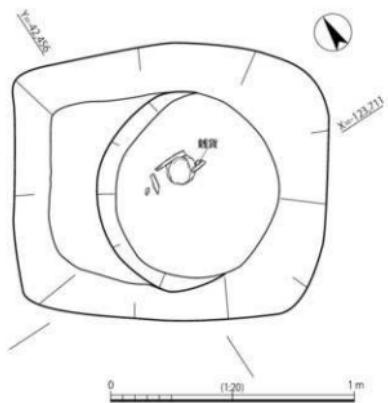




千提寺西遺跡 6区 13(下部)土壌 地区割 5H6a

土壤の形態	検出面 <input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				検出面直径・一边 82 × 75 cm							
	底面 <input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				底面直径・一边 75 × 66 cm							
	深さ 188 cm 軸方向 不明											
上部施設	構造 所見 13(上部)土壌には有り。 ○ 有 ● 無				下部施設	○ 有 ● 無	構造・所見					
埋葬方法	土葬			人骨や土壌の状態から土葬と考えるが、姿勢については 所見 骨が散乱しているため不明である。								
棺の形態	推定桶形木棺		所見 土壌の形状から推測する。									
人骨	性別 不明 年齢 成人		顔面方位 N(頭位)		疾病 ○ 有 ○ 無		備考					
	歯 所見											
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘											
	名 称 銭貨 釘		材 質 銅 鉄		数 量 6 1		所 見 寛永通寶。2期新寛永(文銭)1点、3期新寛永5点。 短小					
備考	丘陵部中腹に位置する。13(上部)土壌の下層約10~30cmのところから別個体の人骨と銭貨、釘が出土。棺がほぼ重なった状態で埋葬された可能性がある。銭貨は頭蓋骨脇から出土。銭貨から18世紀以降と考えられる。											

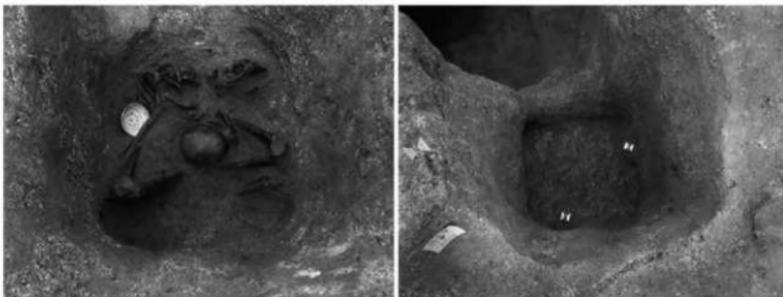


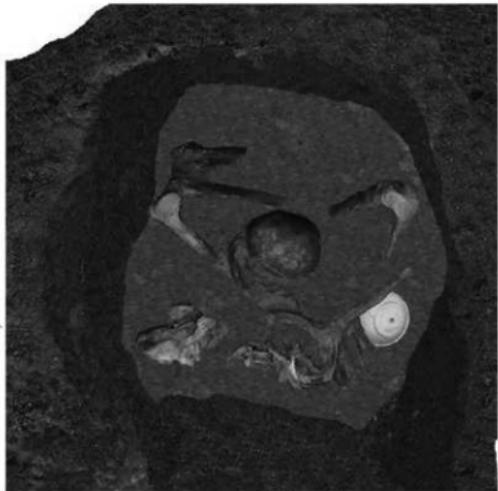


千提寺西遺跡 6区

15 土壙 地区割 5H5a

土壤の形態	検出面				検出面直径・一边												
	<input type="checkbox"/> 方形		<input type="checkbox"/> 不整形		<input type="checkbox"/> 長方形		70 × 65 cm										
	<input checked="" type="checkbox"/> 円形		<input checked="" type="checkbox"/> 不整円形		<input type="checkbox"/> 不整形												
底面		<input checked="" type="checkbox"/> 方形		<input type="checkbox"/> 不整形		<input type="checkbox"/> 長方形		底面直径・一边		66 × 66 cm							
		<input type="checkbox"/> 円形		<input checked="" type="checkbox"/> 不整円形		<input type="checkbox"/> 不整形		深さ		190 cm 軸方向 N-10° -E							
上部施設	構造				下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見										
	所見																
埋葬方法	土葬			人骨の状態から座位による土葬と考えられる。													
	骨			所見													
棺の形態	推定箱形木棺		所見 土壙の形状と釘の出土から推測する。														
	所見																
人骨	性別 男性	年齢 20~40才	顔面方位 W		疾病 <input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無	備考 身長の推定可										
	歯	はほとんど無いが 齶歯有り	所見		変形性脊椎症、上胸骨と大腿骨関節部に骨増殖												
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘																
	名 称	材 質	数 量	所 見													
	碗	磁器	1	染付、波佐見焼、19世紀													
	錢貨	銅	5~6	4点が塊、布付着。寛永通寶。3期新寛永1点、他は鋸付着のため不明。													
	環	銅?	1	直径1cm前後、性格不明。1土坑(火葬場)に類例有。													
	釘	鉄	39~	長大・短小 木質付着													
備 考	山頂部、南東端に位置する。人骨が良好に残存。磁器碗は左寛骨脇、銅環は左中足骨脇、銭貨は左踵骨後方から出土。磁器碗から19世紀と考えられる。																



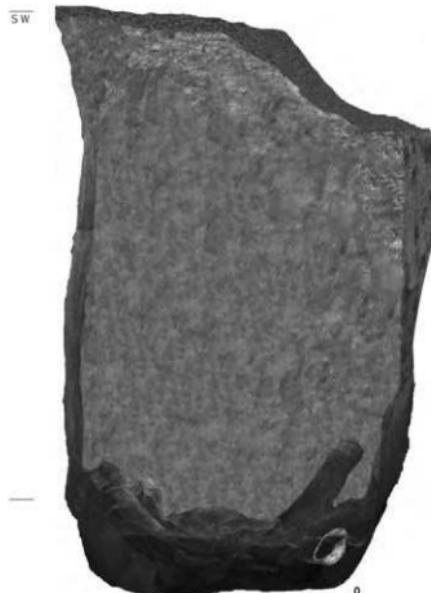


N 111°20'

Y=42442

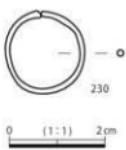
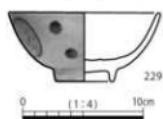
SW

NE



265.4m

0 (1:10) 50cm



230



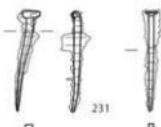
230

229

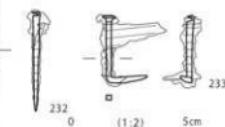


231 232

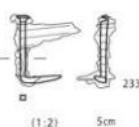
233



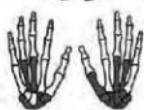
□



□



□



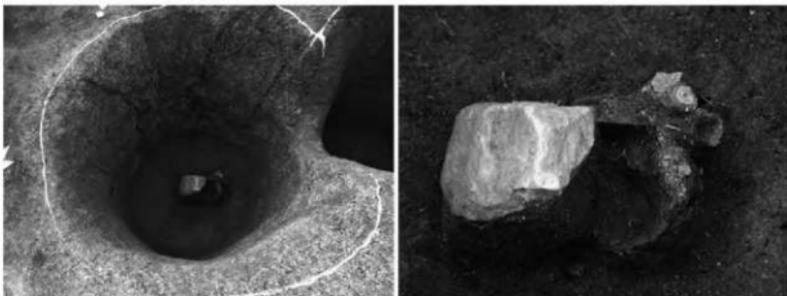
病
姿
表面破損
殘存

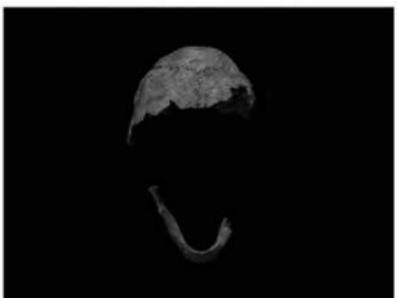
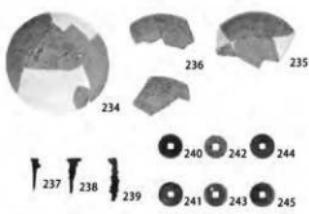
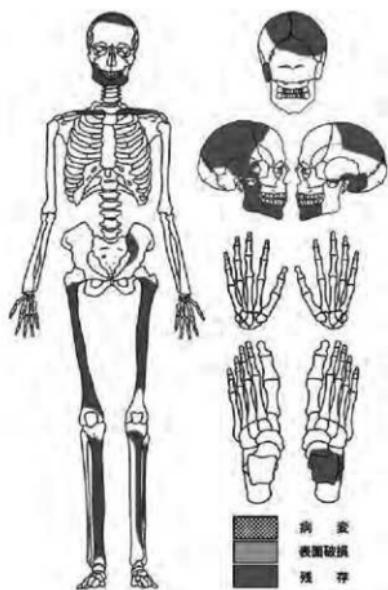
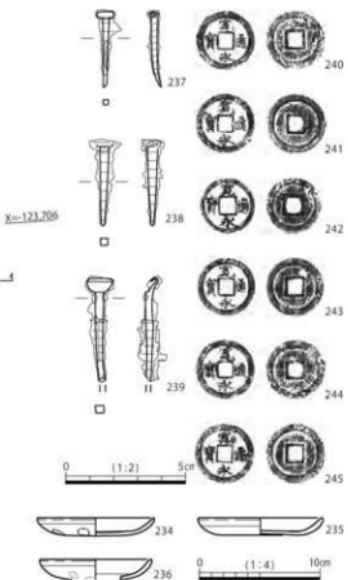
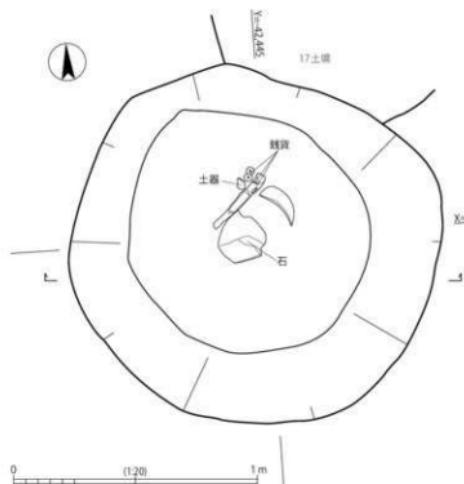


千提寺西遺跡 6区

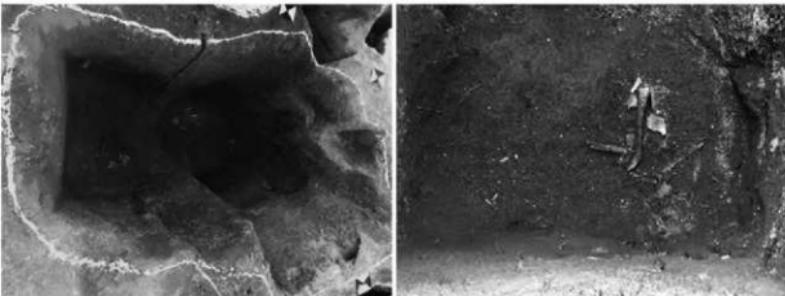
18 土壙 地区割 5H6a

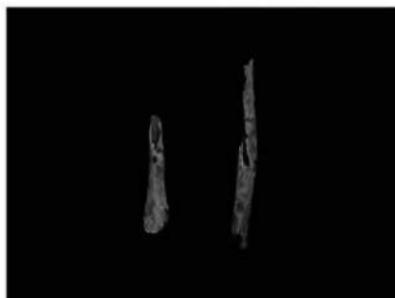
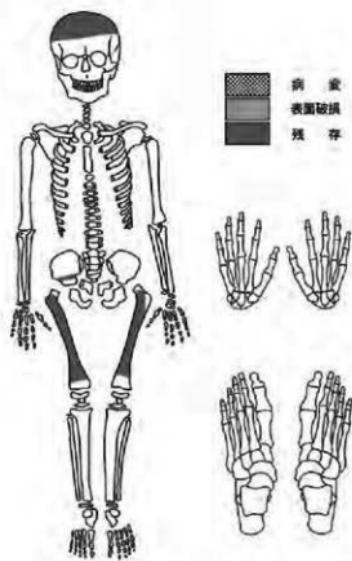
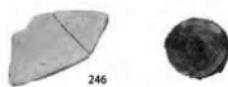
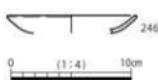
土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺	152	<input checked="" type="checkbox"/>	146	cm
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一辺	98	<input checked="" type="checkbox"/>	96	cm
			深さ	122	cm	軸方向	不明
上部施設	構造	自然石複数	下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見		
	所見	土壙上面中央よりやや片寄った位置で大小2点が出土。標石の可能性がある。					
埋葬方法	土葬		人骨の状態、とくに寛骨の状態から座位による土葬と考えられる。寛骨斜め上から拳大の自然石が出ており、石を抱えたような状態で埋葬された可能性が考えられる。	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	所見		
	骨	<input checked="" type="checkbox"/> 有被 <input type="checkbox"/> 有炭化 <input type="checkbox"/> 有藏 <input type="checkbox"/> 有骨 <input type="checkbox"/> 無熟 <input checked="" type="checkbox"/> 無痕 <input type="checkbox"/> 無物 <input type="checkbox"/> 無器 <input type="checkbox"/> 無					
棺の形態	推定桶形木棺	所見	土壙の形状から推測する。				
人骨	性別 女性	年齢 成人(老人)	顔面方位 NE(頭位)	疾病 <input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無	備考	身長の推定可
	歯	所見	妊娠痕有り				
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	所見	4点内面圓線、2点外面ナデ、2点外面狭いコナデ 寛永通寶。3期新寛永6点。 長大・短小 木質付着			
	名称	材質					
	皿 錢貨 釘	土師器 銅 鉄	数量	4 6 25			
備考	丘陵部中腹に位置する。17土壙と隣接する。錢貨から18世紀以降と考えられる。						





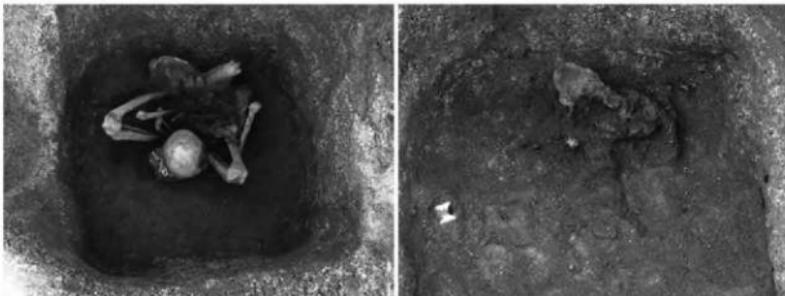
千提寺西遺跡 6区 19(上部)土壙 地区剖 5H5a

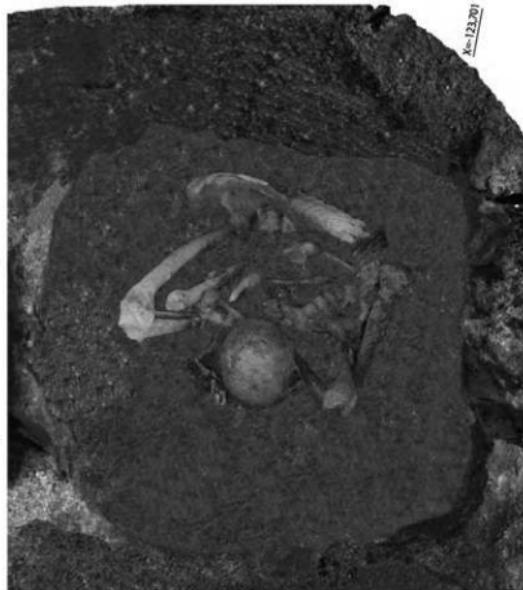




千提寺西遺跡 6区 19(下部) 土壙 地区割

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	100	×	81~cm				
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	85	×	85 cm				
			深さ	176	cm	軸方向 不明				
上部施設	構造		下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見					
	○ 有 ● 無	所見								
埋葬方法	土葬		所見	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。						
	骨	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 热 <input type="checkbox"/> 無		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 炭化 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 藏 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 器 <input checked="" type="checkbox"/> 無				
棺の形態	推定箱形木棺	所見	土壙の形状と釘の出土から推測する。							
人骨	性別 男性 年齢 40~60才	顔面方位 EW	疾病 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考	身長の推定可					
	歯 齒は全て脱落	所見	変形性脊椎症、左肘関節に病変							
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘								
	名 称	材 質	数 量	所 見						
	銭貨	銅	9	6点の塊、紐・布痕有。「永通」が判読できるため寛永通寶か。これと別に寛永通寶四文銭3点。						
	煙管	銅?	1	吸口(羅字一部残存)						
	釘	鉄	18	短小・長大						
備考	山頂部、南東端、16土壙と52土壙の間に位置する。土壙上層である19(上部)土壙には子供が埋葬される。西側の52土壙とはほぼ壁が無い状態で隣接し、重複関係は認められず、前後関係は不明。頭蓋骨の上層で六道銭が出土。棺上に置いたものか。また、仙骨前面で寛永通寶四文銭が出土。腹部上に四文銭を置いた状態で埋葬されたものか。四文銭から18世紀後半以降と考えられる。									





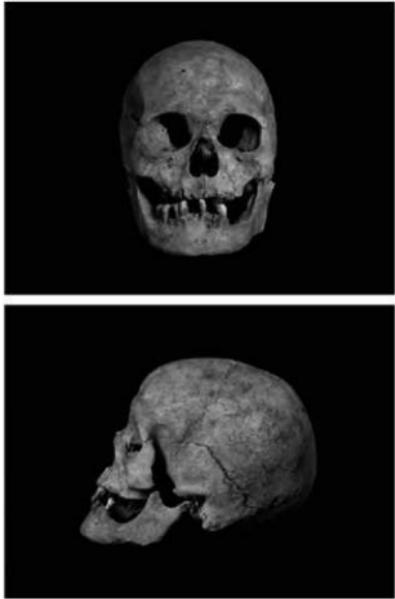
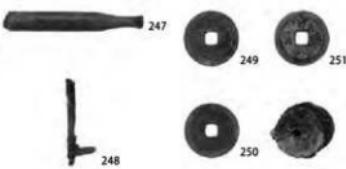
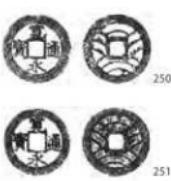
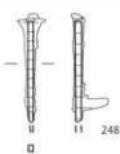
X=122.201

Y=-42.444



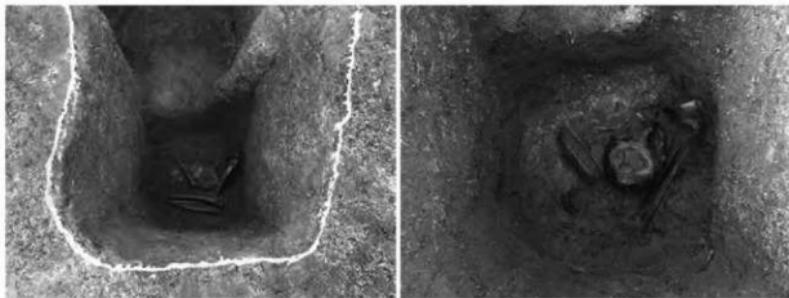
266.2m
S

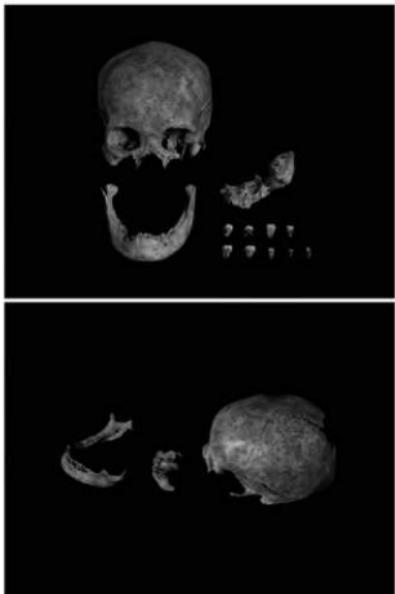
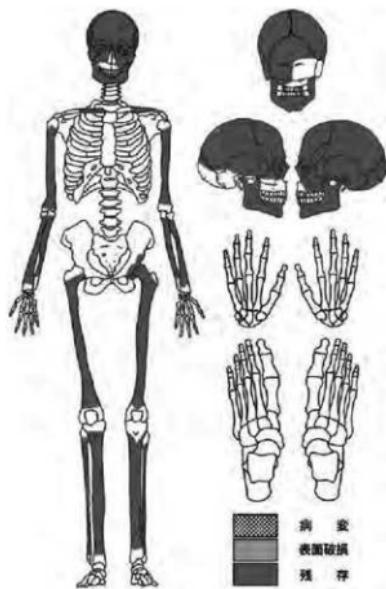
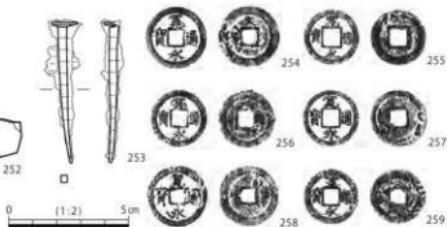
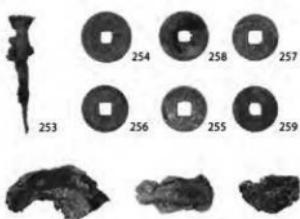
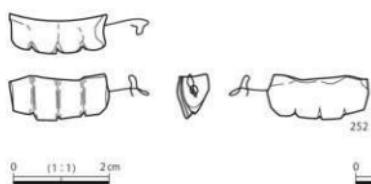
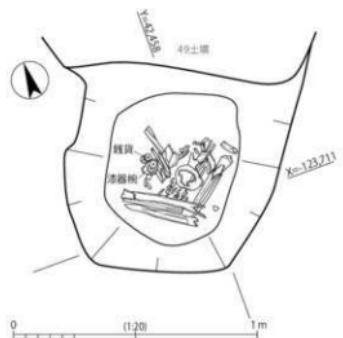
265.2m
(1:10)
0 50cm



千提寺西遺跡 6区 20(上部)土壙 地区割 5H6b

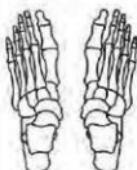
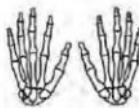
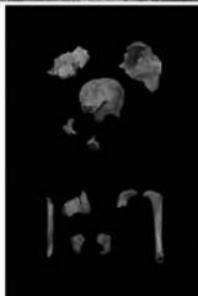
土壤の形態	検出面 <input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形			検出面直径・一辺 96 × 85~ cm					
	底面 <input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形			底面直径・一辺 63 × 53 cm					
	深さ 123 cm		軸方向 N-10° -E						
上部施設	構造 所見			下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				
					構造・所見				
埋葬方法	土葬		人骨の状態から座位による土葬と考えられる。 所見						
	骨被 ○有炭 ○有藏 ○有 ○無熟痕 ○無化物 ○無骨器 ○無								
棺の形態	推定箱形木棺		土壙の形状から推測する。 所見						
	性別 女性 年齢 成人		顔面方位 不明		疾病 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考			
人骨	歯は全て脱落		性別は女性か? 所見						
	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input checked="" type="checkbox"/> 石製品 <input checked="" type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘								
副葬品	名 称		材 質		数 量				
	銭貨 入歯 椀 釘	銅 滑石? 漆器 鉄	6 1 3 1	所 見 寛永通寶。2期新寛永(文錢)1点、3期新寛永5点。漆器椀上で出土。 上前歯4本が1体成形され、極細の針金が通る。 底部のみ残存 長大 木質付着。					
備考	中腹から根部への境界線上に位置する。北東には49土壙が隣接し、間の壁は無い状態で検出された。49土壙との重複関係は無く、前後関係は不明。頭蓋骨周辺では入歯が出土し、寛骨脇に置かれた漆器椀上で六道鏡が出土したことが特筆される。銭貨から18世紀以降と考えられる。この人骨のほぼ直下にある20(下部)土壙から、頭と腰に切られた痕跡をもつ子供の人の骨が出土。								





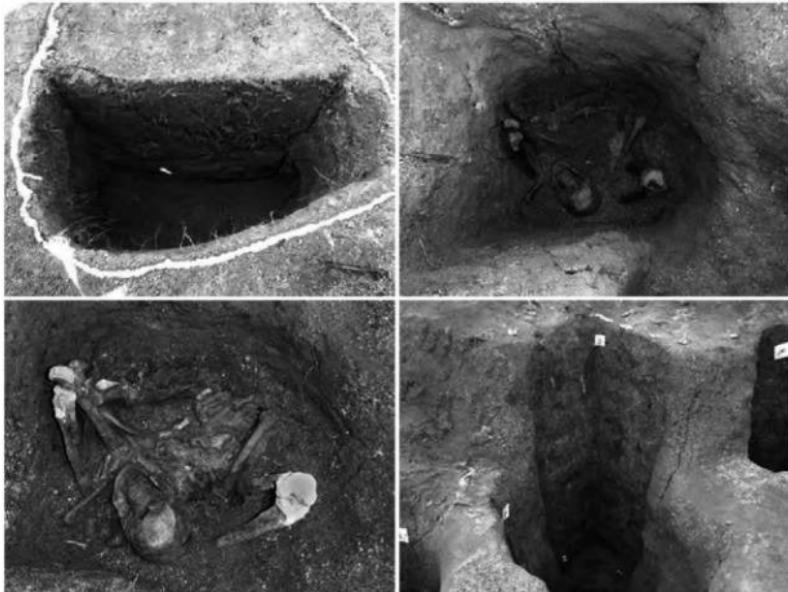
千提寺西遺跡 6区 20(下部)土壙 地区割 5H6b

形 土 壙 態の の	検出面 不整方形	検出面直径・一边	96 × 85~ cm	深さ 136 cm
	底面 方形	底面直径・一边	63 × 53 cm	輪方向 不明
上部施設	○有 ◎無	下部施設	○有 ◎無	
埋葬方法	土葬	所見 子供。頭蓋骨と寛骨に切られた痕跡有。	棺の形態	不明
	骨 ○有被 ○有炭化 ○有藏骨 ○有 ○無痕 ○無物 ○無器 ○無			
人骨	性別 不明 年齢 6才未満	顔面方位 不明	疾病 ○有 ◎無	備考
	歯	所見 前頭骨右眼窓部に2か所と右腸骨に刀痕あり		
副葬品	器種 □土器 □銭貨 □鉄製品 □土製品 □銅製品 □石製品 □木製品 □玉類 □釘	名稱	材質	数量 所見
備考	中腹から掘部への境界線上に位置する。20(上部)土壙人骨を取り上げた後、地山に至る10~15cm程度の土層から別個体の人骨が出土し、20(下部)土壙とした。子供の人骨で、頭蓋骨と寛骨に切られた痕跡をもつ。20(下部)土壙は掘削後、まず子供が埋葬され、その後20(上部)土壙とした成人男性が埋葬されたと考えられる。副葬品は認められなかった。20(上部)土壙が18世紀以降と考えられることから、これ以前のものと考えられる。			



千提寺西 遺跡 6 区

24 土塘 地区割 5G5j





X=123499

Y=-42441



N E

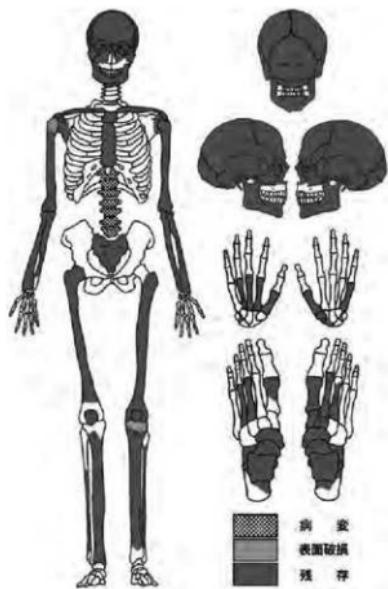
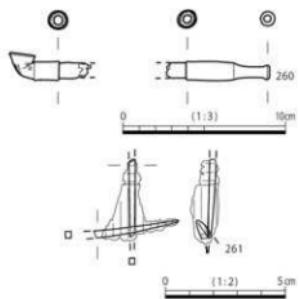
266.2m

S W



265.2m

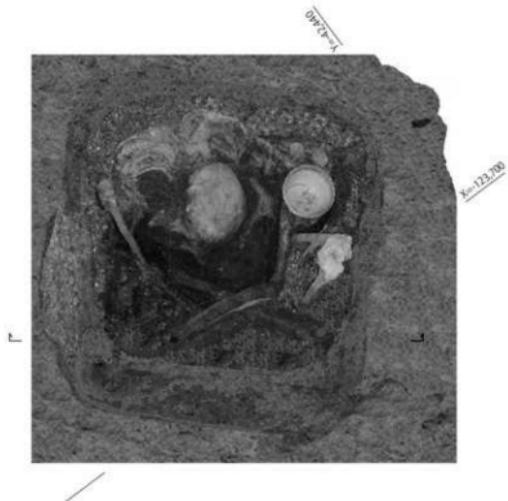
0 (1:10) 50cm



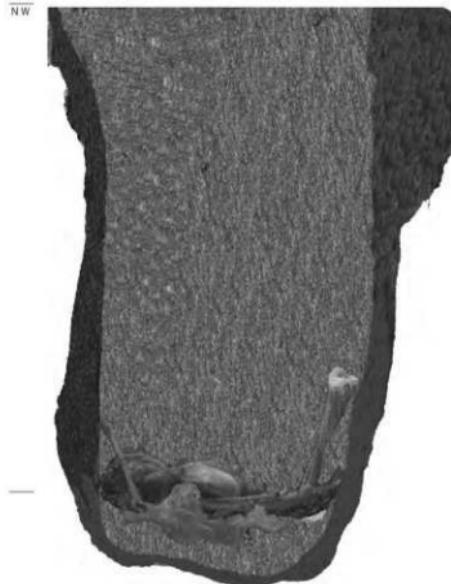
千提寺西遺跡 6 区

25 土塘 地区割 5H・G5a-j



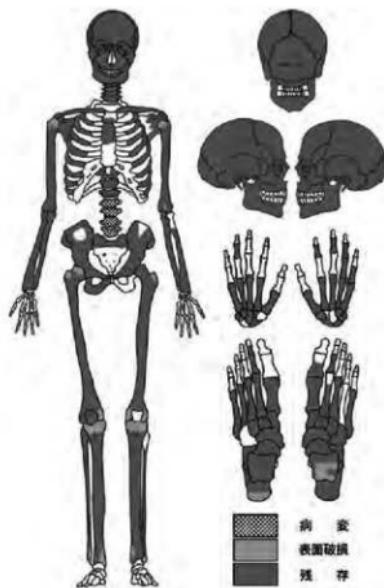
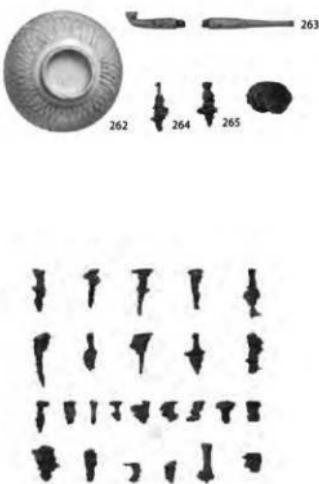
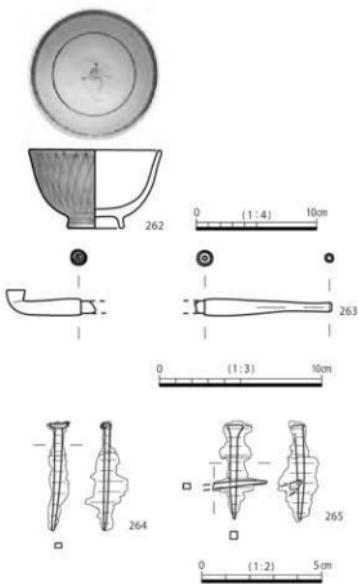


N W 267.0m
S E



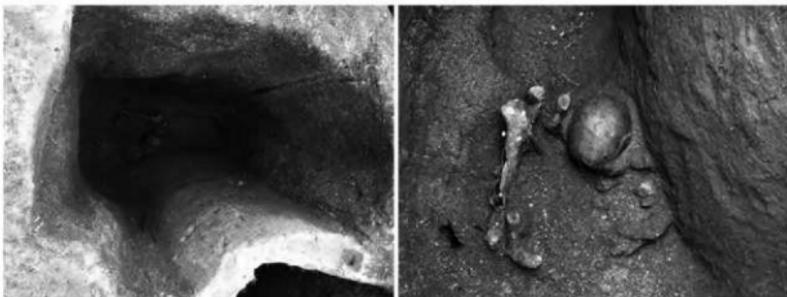
266.0m

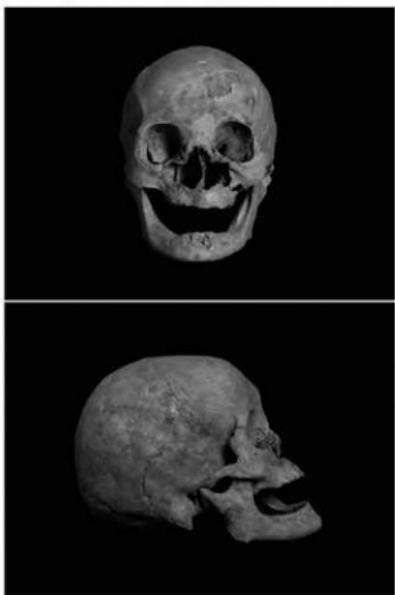
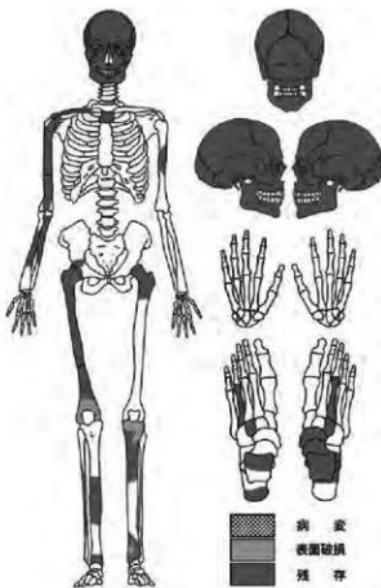
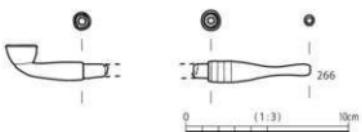
0 (1:10) 50cm



千提寺西遺跡 6区 26(上部)土壙 地区割 5H・G5a-j

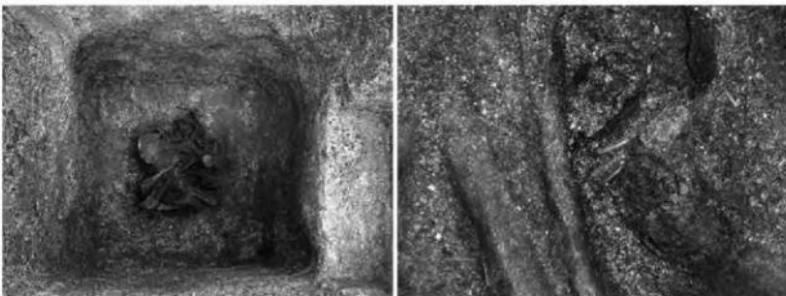
土壙の形態	検出面						検出面直径・一边			135	x	95~	cm												
	底面						底面直径・一边			112	x	72~	cm												
	深さ						深さ 181 cm 軸方向 N-10° -E																		
上部施設	構造 ○有 ●無 所見						下部施設	○有 ●無		構造・所見															
埋葬方法	土葬				人骨の状態から座位による土葬と考えられる。				所見																
	骨																								
棺の形態	不明		所見																						
人骨	性別 女性 年齢 成人		顔面方位 不明		疾病 ●有 ○無		備考																		
	歯 齒は全て脱落		所見 変形性脊椎症																						
副葬品	器種 □土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 □鉄製品 □土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 □石製品 □木製品 □玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘																								
	名 称		材 質		数 量		所 見																		
	銭貨		銅		6		布が付着。種類は不明。																		
	煙管		銅?		2		雁首(羅字一部残存)、吸口(羅字一部残存)。																		
	釘		鉄		13		短小・長大 木質付着																		
備考	山頂部、南東端に位置する。24土壙に先行する。やや長方形を呈する土壙のほぼ中央で人骨を検出し、人骨の右大腿骨の脇から銭貨が出土した。下層では26(下部)土壙を検出し、新寛永が出土していること、また、24土壙は19世紀以降と考えられることから、本土壙は18世紀以降と考える。																								





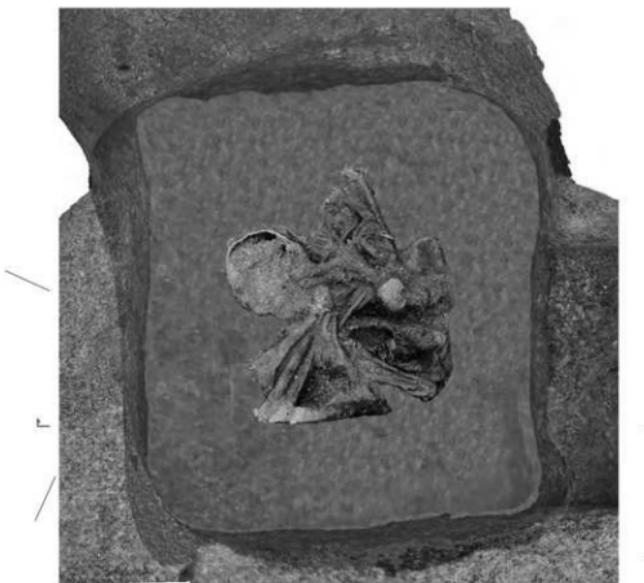
千提寺西遺跡 6区 26(下部) 土壙 地区割 5H16b

土壤の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	135	×	95~	cm						
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	90	×	80	cm						
			深さ	300	cm	軸方向	不明						
上部施設	構造				下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見						
	○ 有 ● 無	所見											
埋葬方法	土葬				所見	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。							
	骨	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無									
棺の形態	推定箱形木棺	所見			土壙の形状と人骨、釘の状況から推測する。								
人骨	性別 男性 年齢 40~60才	顔面方位 不明		疾病 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考 身長の推定可								
	歯	歯は全て脱落		所見	頸椎の変形性脊椎症								
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘											
	名 称	材 質	数 量	所見									
	銭貨 煙管 釘	銅 銅? 鉄	4 1 82	寛永通寶。1期古寛永1点、3期新寛永3点。 雁首(羅字一部残存) 長大・短小 木質付着									
備考	山頂部、南東端に位置する。24土壙に先行する。銭貨から18世紀以降と考えられる。												





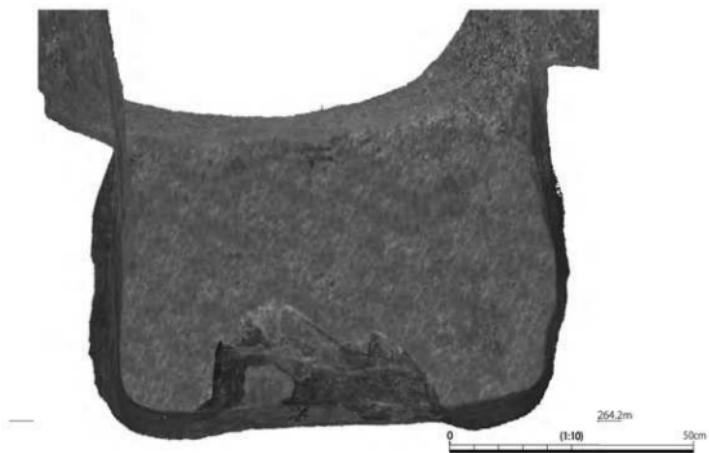
X=123.669



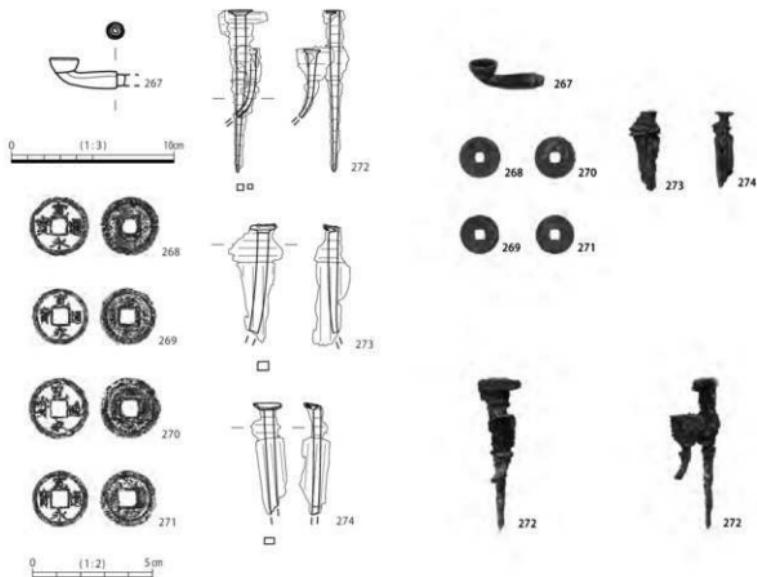
Y=42.442

N W

265.2m
S E



0 (1:10) 50cm



千提寺西遺跡 6区

27 土壙 地区割 5G5j

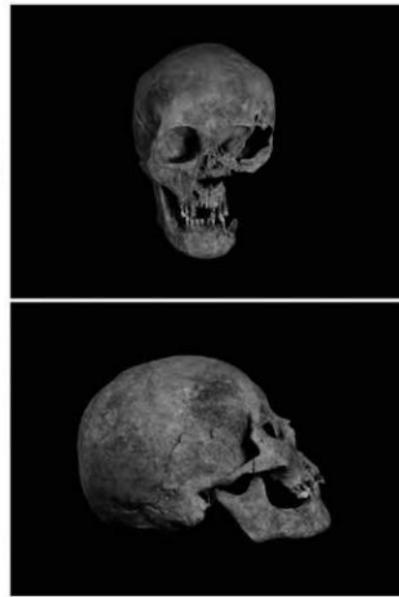
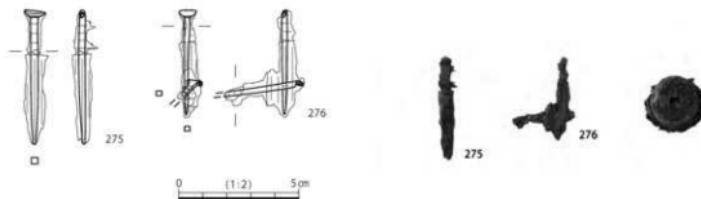
土壤の形態	検出面				検出面直径・一边												
	<input type="checkbox"/> 方形		<input checked="" type="checkbox"/> 不整形		<input type="checkbox"/> 長方形		62 × 61 cm										
	<input type="checkbox"/> 円形		<input type="checkbox"/> 不整円形		<input type="checkbox"/> 不整形		底面直径・一边										
底面				<input type="checkbox"/> 方形		<input type="checkbox"/> 不整形		65 × 50 cm									
				<input checked="" type="checkbox"/> 円形		<input type="checkbox"/> 不整円形		深さ 143 cm 軸方向 不明									
上部施設	構造				下部施設			構造・所見									
	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無					<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無											
埋葬方法	土葬				人骨の状態から座位による土葬と考えられる。												
	骨				所見												
棺の形態	被		炭化		藏骨		有無										
	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無										
人骨	木棺		所見		土壙の形状と人骨の状況から推測する。												
	歯		所見		変形性脊椎症、黄色靭帯骨化症												
副葬品	器種																
	<input type="checkbox"/> 土器																
備考	<input checked="" type="checkbox"/> 銭貨																
	<input type="checkbox"/> 鉄製品																
	名 称		材 質		数 量		所 見										
	銭貨		銅		4		塊で布の痕跡あり。寛永通寶。3期新寛永1点、不明3点。										
	釘		鉄		29		短小・長大 木質付着										
	山頂部のほぼ中央に位置する。東側の52土壙、南西側の30土壙と隣接するが、明確な重複関係は認められない。大腿骨の下から銭貨が出土した。銭貨から18世紀以降と考えられる。																





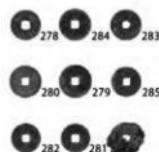
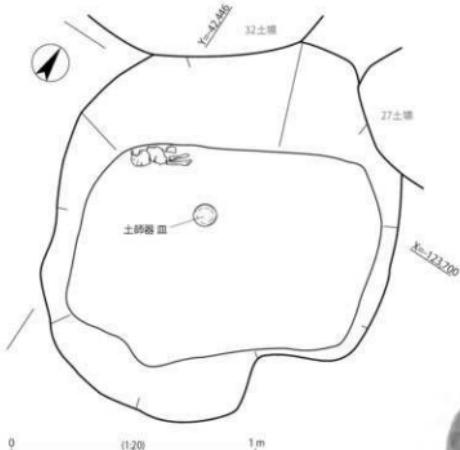
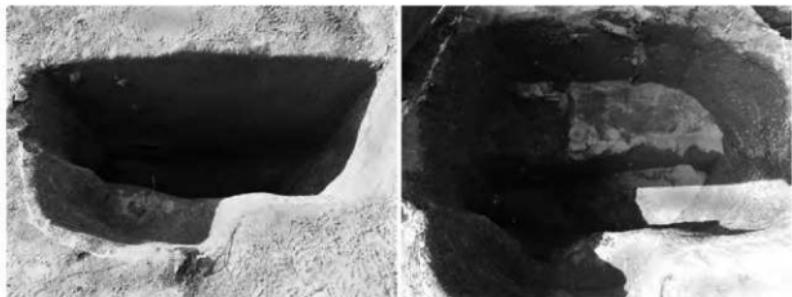
NW

266.4m
S E



千提寺西遺跡 6区 30(上部) 土壙 地区割 5G5j

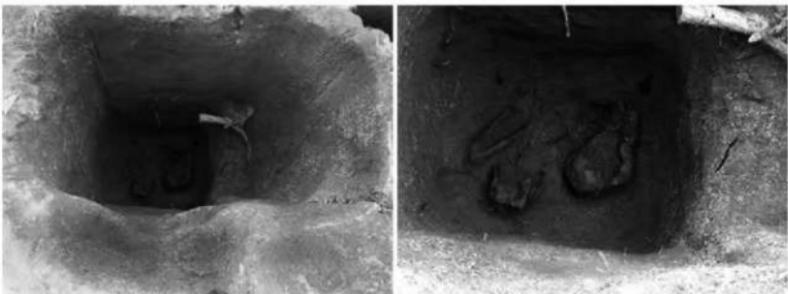
土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	150~	<input type="checkbox"/>	140~	cm	
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	124	<input type="checkbox"/>	81	cm	
			深さ	53	cm	軸方向	N-25° -E	
上部施設	○ 有	構造	<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地					
	◎ 無	所見						
下部施設	○ 有	構造・所見						
	◎ 無							
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input checked="" type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 所見 人骨や土壙の状態から土葬と考えるが、姿勢については骨が散乱しているため不明である。			藏骨器 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				
棺の形態	<input type="checkbox"/> 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	所見						
人骨	性別 ○ 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	顔面方位 不明		疾病 ○ 有 <input type="checkbox"/> 無		備考		
	年齢 4~5才	歯						
	所見							
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 釘 名称 土師器皿 銭貨	材質 土師器皿 銅		数量 1 6 5		所見 内面不明瞭な圓線、外面ナデ、ヨコナデ無し。 北宋錢(熙寧元寶、初鑄1068年)1点。寛永通寶、2期新寛永(文鏡)1点、3期新寛永4点(上面出土)。 布痕有り。寛永通寶。1期古寛永1点、3期新寛永2点、不明2点(底面出土)。		
備考	山頂の南西側に位置する。北側32土壙、北東側27土壙と隣接するが、重複関係は認められない。検出面から30cm程度掘削した面(上面)で土師器皿と銭貨を検出し、そのやや下で頭蓋骨の一部を含む少量の骨を検出した。釘は出土しないことから木棺は無かったと考えられる。出土した土師器皿と銭貨は副葬品とみられる。本土壙は長方形であるが、30(下部)土壙はほぼ方形であり、上部と下部の間に東側に小さな平坦面がある。この平坦面から銭貨が出土した(底面)。上部土壙の底面あるいは下部土壙の上面に伴うものと考えられる。銭貨から18世紀以降と考えられる。							

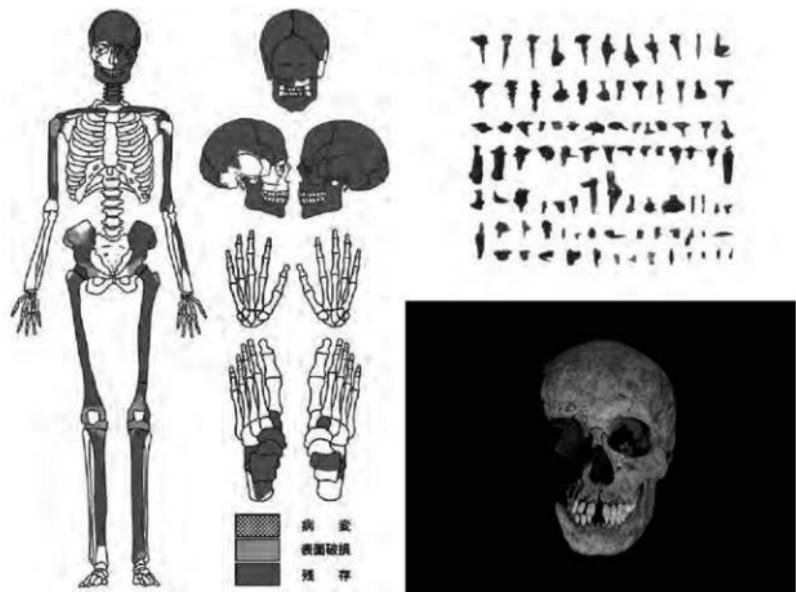
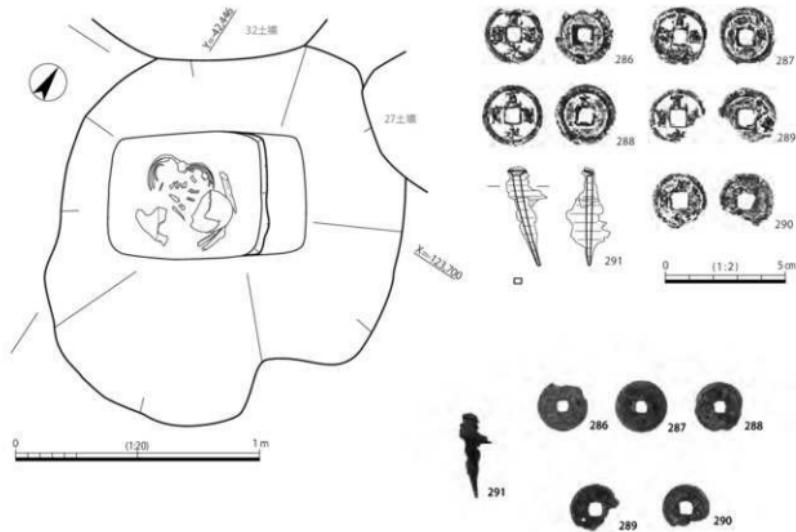


0 (1:2) 5cm

千提寺西遺跡 6区 30(下部) 土壙 地区割 5H15a

土壙の形態	検出面 <input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				検出面直径・一边 150~ × 140~ cm 底面直径・一边 63 × 52 cm 深さ 208 cm 軸方向 不明						
	底面 <input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形										
上部施設	構造 ○有 ●無 所見				下部施設	<input type="checkbox"/> 有 ●無		構造・所見			
埋葬方法	土葬 骨 <input checked="" type="checkbox"/> 有被 <input type="checkbox"/> 有炭化物 <input type="checkbox"/> 有藏骨 <input type="checkbox"/> 有器 <input type="checkbox"/> 無痕 <input checked="" type="checkbox"/> 無器 <input type="checkbox"/> 無				所見	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。					
棺の形態	推定箱形木棺		所見 士壙の形状と人骨、釘の状況から推測する。								
人骨	性別 男性	年齢 15~20才	顔面方位 N-35°-E	疾病 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考						
	歯	所見	脛骨近位端の骨端未融合。その他の長骨にも骨端線あり。変形性脊椎症								
副葬品	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘										
	名 称 錢貨	材 質 銅	數 量 5	所 見 寛永通寶。1期古寛永1点、2期新寛永(文銭)1点、3期新寛永2点。							
	釘	鉄	51~	長大・短小 木質付着							
備考	山頂の南西側に位置する。人骨に伴って錢貨が出土。錢貨から18世紀以降と考えられる。										



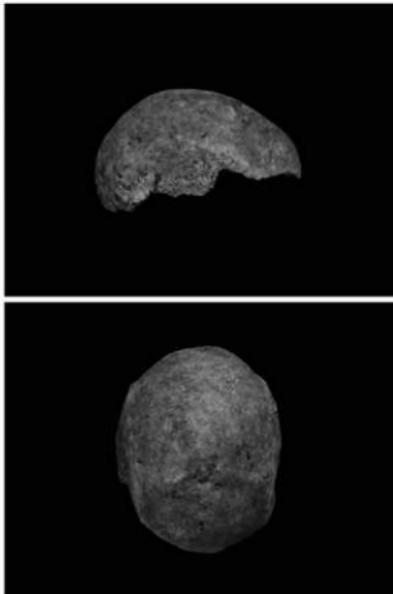
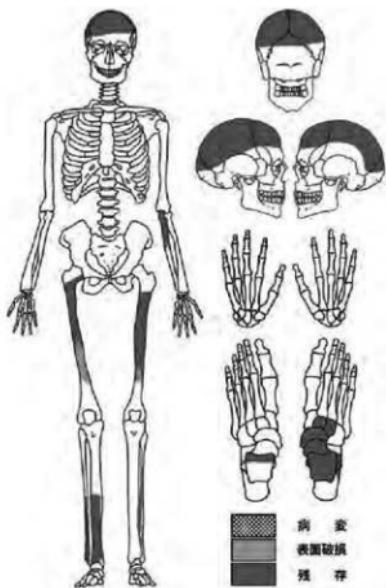


千提寺西遺跡 6区

35 土壙 地区割 5G5j

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	86	×	73	cm	
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	61	×	60	cm	
			深さ	156	cm	軸方向	N-5° -E	
上部施設	構造			下部施設			構造・所見	
	○有 ●無	所見	○有 ●無		所見			
埋葬方法	土葬			人骨の状態から座位による土葬と考えられる。				
	骨 ●有被 ○有炭 ○有藏 ○有骨 ○無熟 ○無化 ●無物 ●無器 ●無			所見				
棺の形態	推定箱形木棺	所見		土壙の形状と人骨、釘の状況から推測する。				
	性別 不明	年齢 不明	顔面方位 N(頬位)	疾病 ○有	●無	備考		
人骨	歯	所見						
	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銀貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘			所見			
副葬品	名 称	材 質	数 量	釘	所見			
	釘	鉄	21	長大				
備考	山頂部西端に位置する。南側の37土壙と隣接するが重複関係は認められない。副葬品は無く、明確な時期は不明であるが、周辺出土遺物から近世と考えられる。							

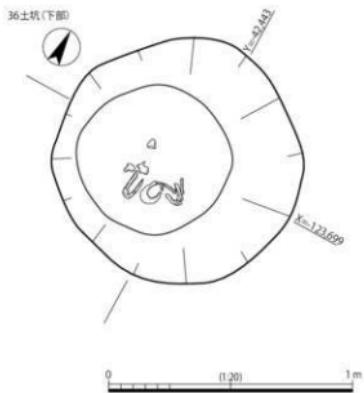
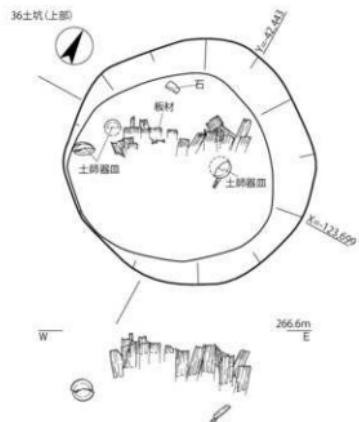
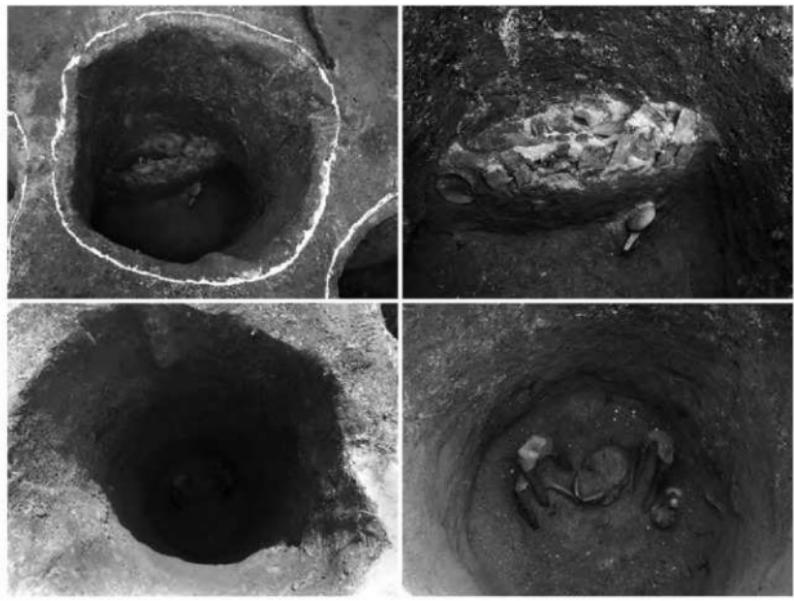




千提寺西遺跡 6区

36 土壙 地区割 5G5j

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一辺 105 × 100 cm		
					底面直径・一辺 65 × 60 cm		
上部施設	○ 有 ◎ 無	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	所見				
下部施設	◎ 有 ○ 無	構造・所見 検出面から約130cm掘削したところで、幅5cm、長さ10~20cmの薄い板が、横方向に60cmにわたり縦に並び立つ状態で検出された。これと共に土師器皿3点と直径5cm程度の勾玉状の木板が出土した。この下では人骨が出土しており、木棺上に何らかの施設があつたと考えられる。勾玉状の木板は5区38土壙出土木製品に類似する。「天蓋」の一部か。	所見				
埋葬方法	○ 火葬 ◎ 有 ○ 無	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input checked="" type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。 所見	藏骨器 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
棺の形態		○ 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 ◎ 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 ○ 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	所見	土壙の形状と人骨の状況から推測する。			
人骨	性別 <input checked="" type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明	顔面方位 S	所見	疾病 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考		
	年齢 18才前後	歯					
副葬品	所見						
備考	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input checked="" type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 刃 名稱						
	皿板 板 釘	材質 土師器 木 木 鉄	数量 4 1 14~ 4	所見 内面不明瞭な圓線、外幅の狭いヨコナデ。 直径5cm程度の勾玉状の木板。赤色・黒色顔料が認められる。 幅5cm、長さ10~20cmの薄い板。赤色・黒色顔料が認められる。 長大・短小			





293



294



295

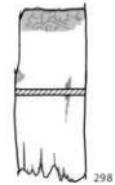


296

0 (1:4) 10cm



297



298



299

0 (1:2) 5cm



293



295



294



296

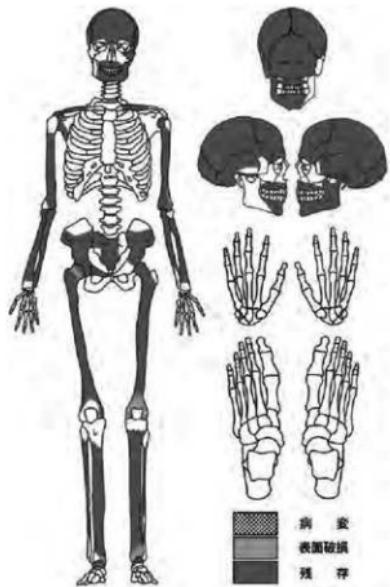
L 299



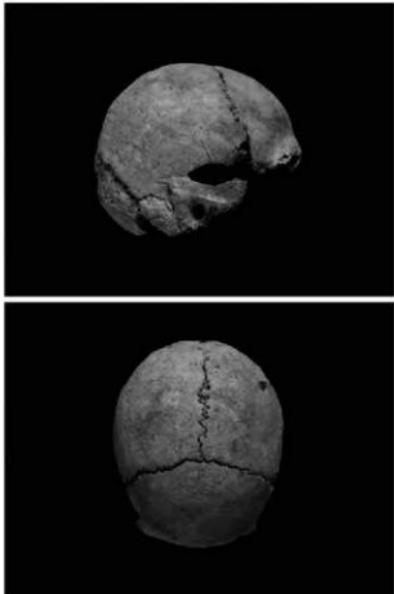
297



298

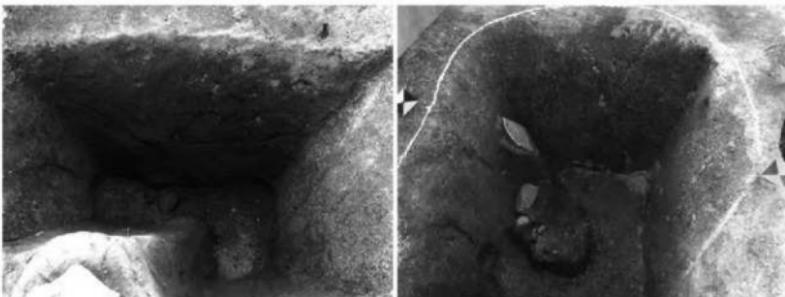


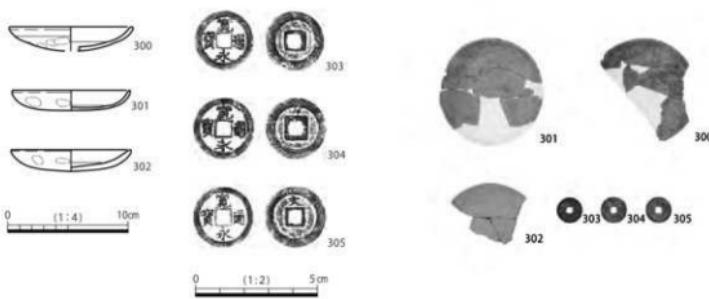
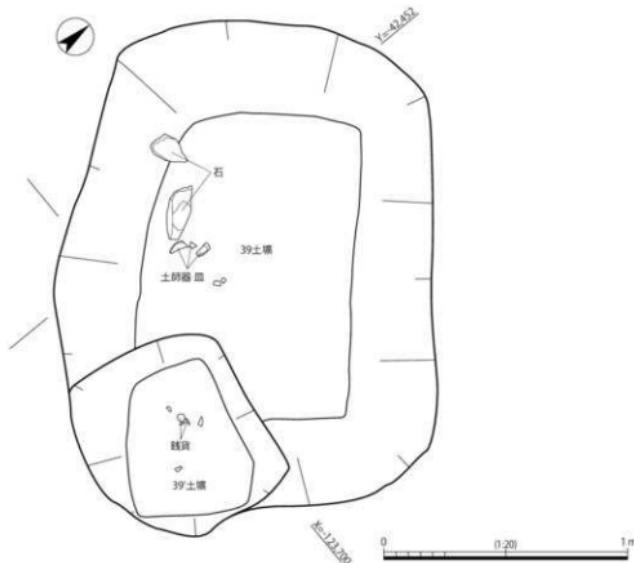
病 变
表 面 破 损
残 存



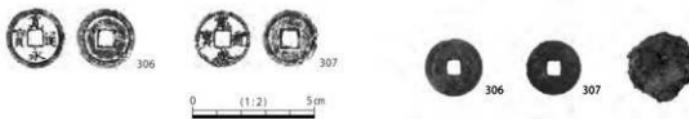
千提寺西遺跡 6区 39・39' 土壙 地区割 5H・G6a・j

土壤の形態	検出面				検出面直径一辺				210・78	×	155・70	cm							
	□ 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 □ 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形				底面直径一辺				125・60	×	87・50	cm							
	底面				深さ				114・103	cm	軸方向	N-50°-E							
上部施設	構造 所見				下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				構造・所見									
埋葬方法	土葬				39土壙は、人骨の残存はわずかであるが、遺構の状態から土葬と推測する。長方形土壙のほぼ中央で人骨が出土することから、長方形土壙のほぼ中央に埋葬されたとみられる。				所見										
棺の形態	不明		所見																
人骨	性別 不明 年齢 不明		顔面方位 不明		疾病 <input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		備考												
歯			所見 長骨片1点のみ遺存(39土壙)																
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘				所見														
	名 称		材 質		数 量		所見												
	39土壙						内面圓線、外面幅の狭いコナデが1点、ナデのみが2点。												
	皿		土師器		3		寛永通寶。1期古寛永2点、2期新寛永(文錢)1点。												
	銭貨		銅		3		短小												
	釘		鉄		4														
	39' 土壙																		
	銭貨		銅		5		寛永通寶。3期新寛永1点、鉄一文銭3点、不明1点。												
備考	山頂から南西にやや降った地点に位置する。重複関係は、南西隅部で39土壙が39' 土壙に先行し、南東隅部で41土壙が39土壙に先行することから、41土壙→39土壙→39' 土壙と考えられる。 39土壙は銭貨から17世紀後半以降と考えられる。 39' 土壙は銭貨から18世紀以降と考えられる。																		





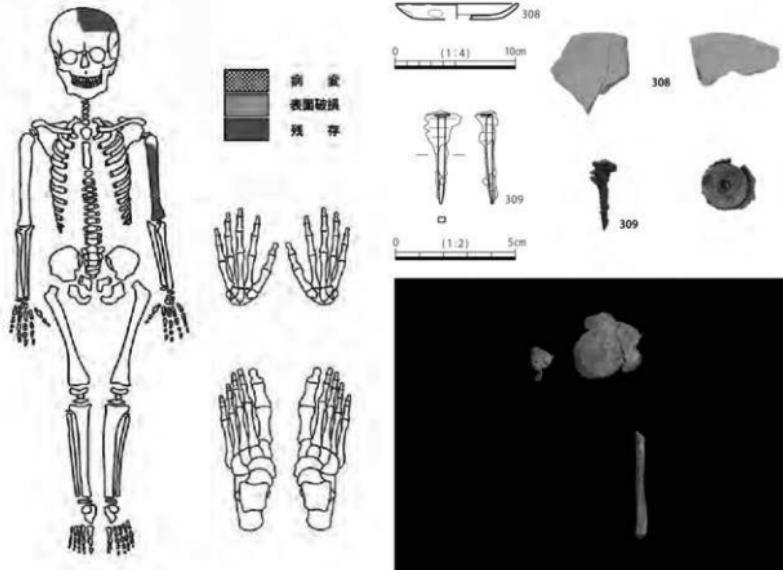
39 土壤出土遺物



39' 土壤出土遺物

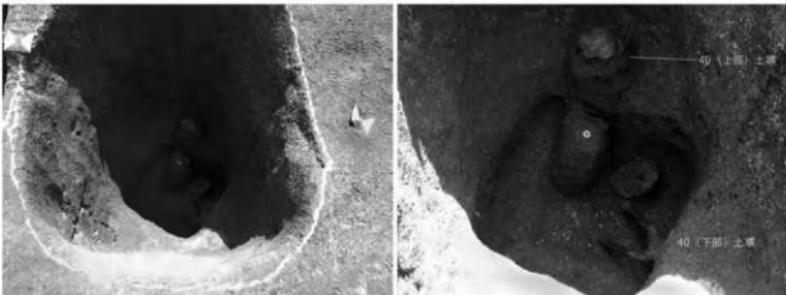
千提寺西遺跡 6区 40(上部)土壙 地区割 5H6a

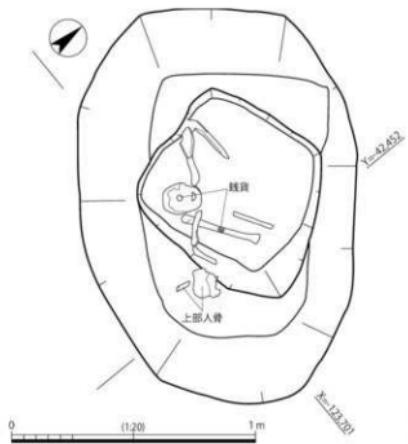
形土 壙 態の 底	検出面 不整円形	検出面直径・一辺	160 × 115 cm	深さ 164 cm
	面 不整方形	底面直径・一辺	108 × 71 cm	輪方向 N-55° -E
上部施設 ○有 ◎無		下部施設 ○有 ◎無		
埋葬 方法	土葬	所見		棺の形態 不明 人骨のみの出土であり、不明。
	骨 ○有 被 ○有 炭 ○有 藏 ○有 ○無 痕 ○無 物 ○無 器 ○無			
人 骨	性別 不明 年齢 10才前後	顔面方位 不明	疾病 ○有 ◎無	備考
	歯	所見 外耳道骨腫?		
副 葬 品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	所見		
	名 称 土師器 銭貨 釘	材質 銅 鉄	数量 1 2 4~	内面圓線、外面ナデ、ヨコナデ無し。 寛永通寶。鉄一文錢?、不明1点。 短小
備 考	山頂から南西にやや降った地点に位置する。北西側で39土壙と隣接するが、重複関係は認められない。40(下部)土壙上層で頭蓋骨が1点出土し、下部の頭蓋骨と別個体のため、上部としてこれを区別した。頭蓋骨のみであり、土壙の詳細は不明である。40(下部)土壙は18世紀以降と考えられることが、本土壙はそれ以降の時期が考えられる。			



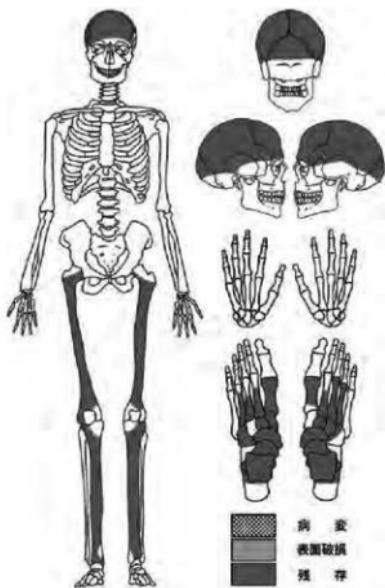
千提寺西遺跡 6区 40(下部) 土壙 地区割 5H6a

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	160	×	115	cm				
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	68	×	61	cm				
			深さ	173	cm	軸方向	不明				
上部施設	構造		下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見						
	○ 有 ● 無	所見									
埋葬方法	土葬		所見	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。							
	骨 ● 有 ○ 有 ○ 無 被 ○ 有 ○ 無 炭化物 ● 有 ● 無 藏骨 ○ 有 ○ 無 器 ● 有 ● 無										
棺の形態	推定箱形木棺	所見	土壙の形状と人骨の状況から推測する。								
人骨	性別 不明	年齢 不明	顔面方位 NW(頭位)	疾病 ○ 有 ● 無	備考						
	歯	所見									
副葬品	器種	<input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘									
	名 称	材 質	数 量	所 見							
	錢貨	鉄・銅	6	寛永通寶。1期古寛永1点、3期新寛永2点、鉄一文錢2点、不明1点。							
	釘	鉄	2	短小							
備考	山頂から南西にやや降った地点に位置する。北西側で39土壙と隣接するが、重複関係は認められない。本土壙の頭蓋骨と40(上部)土壙の頭蓋骨とのほぼ中間から錢貨が出土しており、その帰属に躊躇した。錢貨は、40(下部)土壙の方形の楕形の上端で出土していることから、40(下部)土壙の箱形木棺の蓋上に置いた可能性がある。錢貨から18世紀以降と考えられる。										





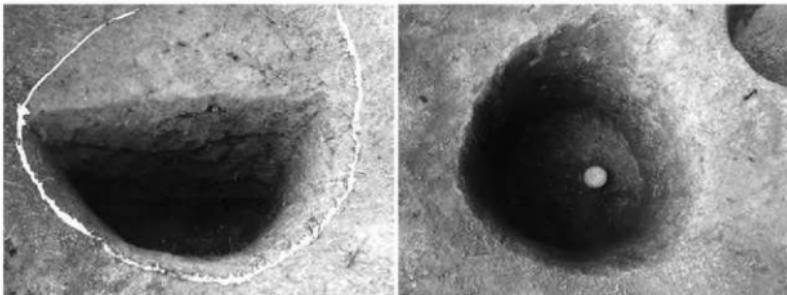
0 (1:2) 5cm

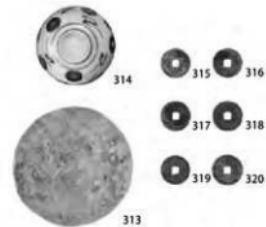
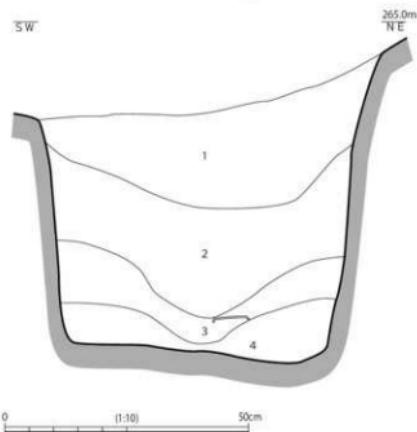
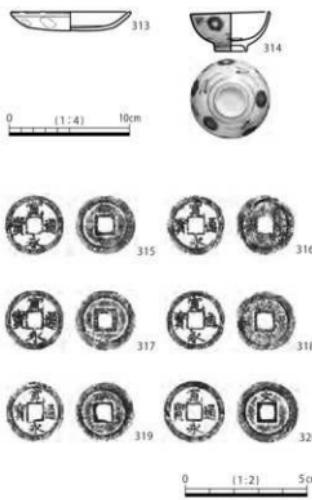
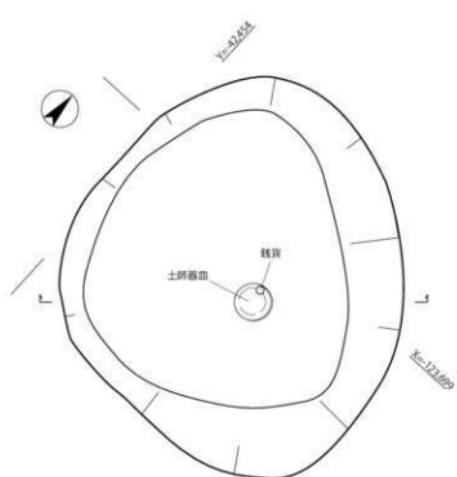


千提寺西遺跡 6区

46 土壙 地区割 5H・G6j

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	82	×	71	cm				
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	61	×	54	cm				
			深さ	60	cm	軸方向	不明				
上部施設	構造				下部施設						
	○有 ●無	所見	○有 ●無	構造・所見							
埋葬方法	推定土葬				所見	人骨が残存しないが、土壙の状態から推測する。					
	骨 ○有 ●無 ○有 ○無 炭化物 ○有 ○無 藏骨器 ○有 ○無										
棺の形態	推定桶形木棺				所見	人骨が残存しないが、土壙の形状から推測する。					
	見										
人骨	性別	年齢	顔面方位	不明	疾病	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考				
	歯	所見	出土なし								
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钺									
	名 称	材 質	数 量	所 見							
備 考	皿	土師器	1	内面圈線不明瞭、外面ナデ、ヨコナデ無し。							
	小坏	磁器	1	染付、19世紀以降。							
	銭貨	銅	6	寛永通寶。1期古寛永2点、3期新寛永4点。							





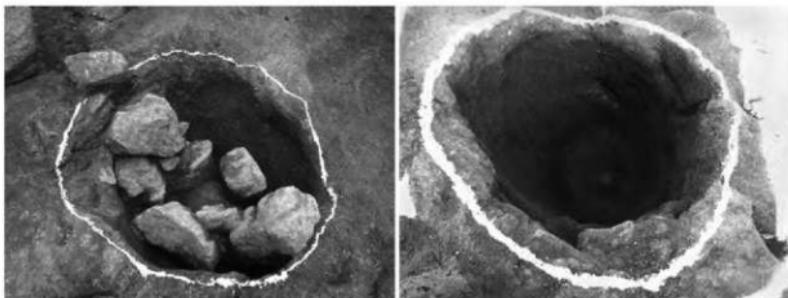
- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂混シルト
 2 10YR5/3～10YR6/3 にぶい黄褐色～にぶい黄褐色 細砂混シルト
 3 10YR6/3 にぶい黄褐色 粗砂混シルト
 4 10YR6/4 にぶい黄褐色 シルト粗砂含む(花崗岩バイラン土)

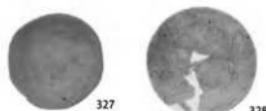
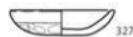
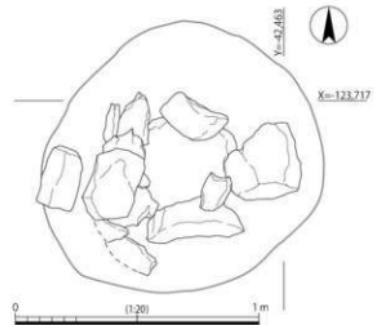
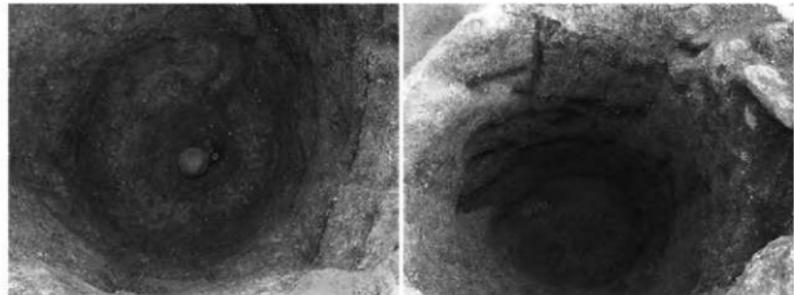


千提寺西遺跡 6区

55 土壙 地区割 5H7b

土壙の形態	検出面			<input type="checkbox"/> 方形	<input type="checkbox"/> 不整形	<input type="checkbox"/> 長方形	検出面直径・一边			116	×	110	cm
	<input checked="" type="checkbox"/> 円形			<input type="checkbox"/> 不整円形	<input type="checkbox"/> 不整形		底面直径・一边			65	×	65	cm
	底面			<input type="checkbox"/> 方形	<input type="checkbox"/> 不整形	<input type="checkbox"/> 長方形	深さ			108	cm	軸方向	不明
上部施設	構造 自然石複数 所見 土壙検出面からやや落込む状態で人頭大の自然石を確認した。中央にやや小さな自然石を円形に置き、外周をやや大きな自然石で円形に囲む。			下部施設			構造・所見			施設は無いが、土壙壁面にらせん状の掘削痕がみられる。			
	<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無	<input type="radio"/> 有				<input checked="" type="radio"/> 無						
埋葬方法	土葬			所見			人骨が残存しないが、土壙の状態から推測する。						
	骨						<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無
棺の形態	推定桶形木棺			所見			土壙の形状から推測する。						
人骨	性別 不明		年齢 不明		顔面方位 不明		疾病 ○ 有 ○ 無		備考				
	歯		所見		焼骨1点のみ遺存。土壙形状から推測する。								
副葬品	器種			<input checked="" type="checkbox"/> 土器	<input type="checkbox"/> 銭貨	<input type="checkbox"/> 鉄製品	<input type="checkbox"/> 土製品	<input type="checkbox"/> 銅製品	<input type="checkbox"/> 石製品	<input type="checkbox"/> 木製品	<input type="checkbox"/> 玉類	<input type="checkbox"/> 鉤	
	名 称	材 質	數 量	所 見			1点は内面ナデ、外面ヨコナデで、底面がやや小さく、器壁が厚い。1点は内面圓線、外周幅の狭いヨコナデ。寛永通寶。1期古寛永6点。						
備考	裾部の尾根上南東側、斜面との境に位置する。同一線上に55～58土壙が並ぶ。1期古寛永6点が出土しており、17世紀前半以降と考えられる。本区の土壙のなかでも古い墓となる可能性がある。56土壙と類似。												





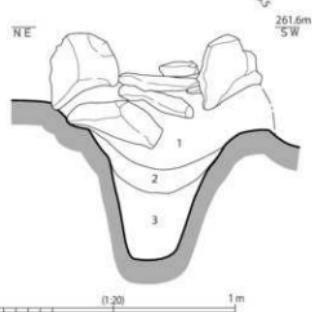
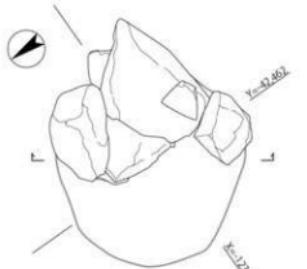
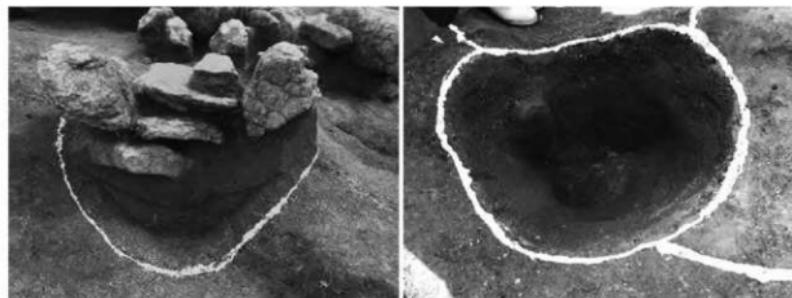
● 321 ● 323 ● 325
● 322 ● 324 ● 326

0 (1:2) 5cm

千提寺西遺跡6区

56 土壙 地区割 5H1b

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 86 × 78 cm
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 43 × 28 cm 深さ 47 cm 軸方向 不明
上部施設	● 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	
	○ 無	所見 土壙検出面からやや落込む状態で人頭大の自然石を確認した。半分しか残存しないが、中央にやや平らな自然石を重ね、外周をやや大きな自然石で円形に囲む。	
下部施設	○ 有	構造・所見	
	● 無		
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 ○ 土葬 <input checked="" type="checkbox"/> 推定土葬 ○ 不明 骨 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 被熱痕 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 炭化物 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 所見 人骨が残存しないが、土壙の状態から推測する。	藏骨器 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
	○ 楠形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 推定楠形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 ○ 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	所見 土壙の形状から推測する。	
人骨	性別 ○ 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明	顔面方位 不明	疾患 ○ 有 <input type="checkbox"/> 備考
	年齢	歯	病 <input type="checkbox"/> 無
	所見 出土なし		
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 錢貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钉	名稱 皿 錢貨	材質 土師器 銅
	数量 1 6	所見 内面圓線、外面幅の狭いヨコナデか。雲母多く含む。 寛永通寶。1期古寛永6点	
備考	裾部の尾根上南東側、斜面との境に位置する。同一線上に55~58土壙が並ぶ。1期古寛永6点が出土しており、17世紀前半以降と考えられる。本区の土壙のなかでも古い墓となる可能性がある。55土壙と類似。		

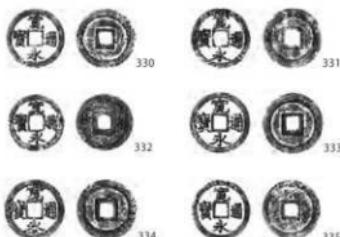
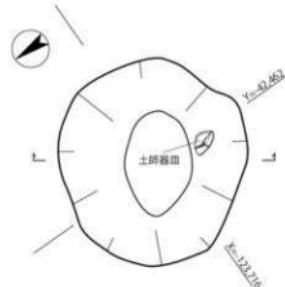


0

(1:20)

1m

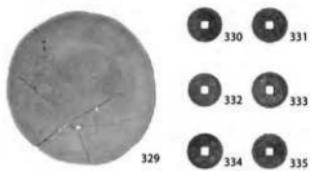
- 1 TOYRS/3 にぶい黄褐色 粗砂混シルト
2 TOYRS/2 黄褐色 細砂混シルト
3 TOYRS/2 黄褐色 細砂



0 (1:2) 5cm



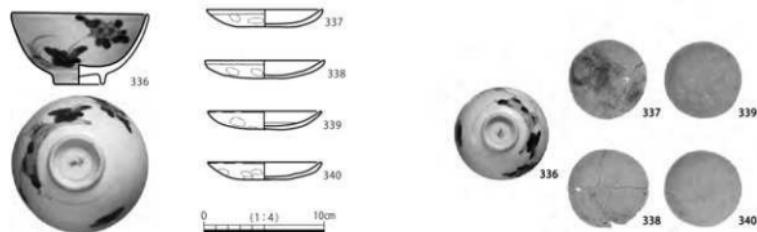
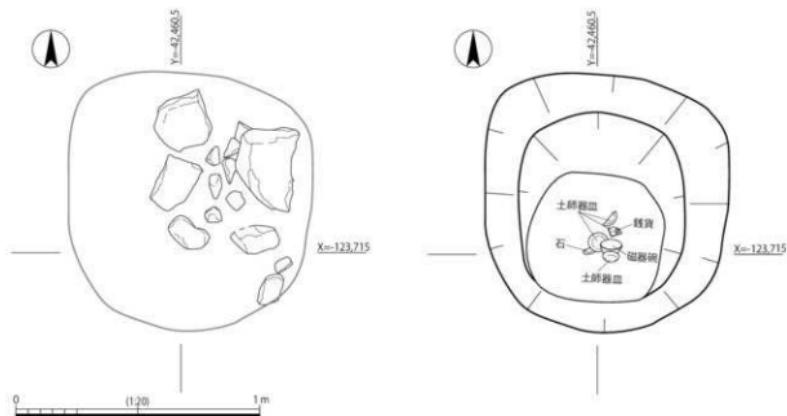
0 (1:4) 10cm



千提寺西遺跡 6区

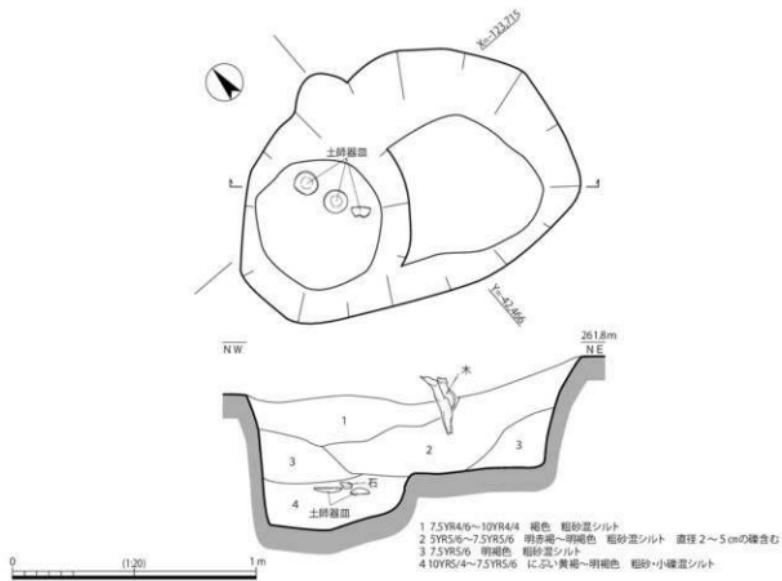
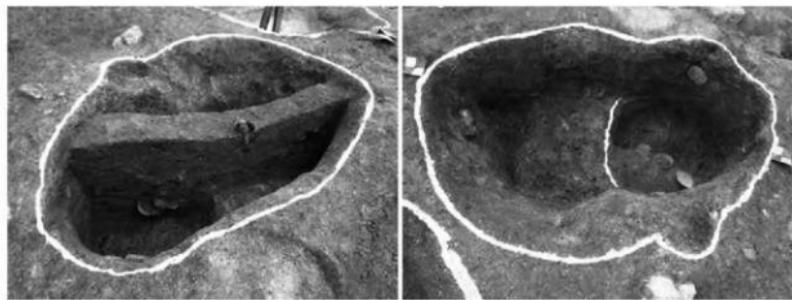
57 土壙 地区割 5H17b

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 105 × 100 cm		
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 55 × 53 cm		
上部施設	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	深さ 70 cm	軸方向 NS	
	● 有 ○ 無	構造 ○ 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石單体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 ○ 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石單体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 ○ 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 ○ 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	所見 土壙検出面からやや落ち込む状態で人頭大の自然石を確認した。半分しか残存しないが、中央にやや小さな自然石を置き、外周にやや大きな自然石を置く傾向がみられる。		
下部施設	○ 有 ● 無	構造・所見			
埋葬方法	○ 火葬 骨	○ 推定火葬 ○ 土葬 ○ 有 ○ 無 ○ 被熱痕 ○ 有 ○ 無 ○ 炭化物 ○ 有 ○ 無	藏骨器 ○ 有 ● 無		
	所見	人骨が残存しないが、土壙の状態から推測する。			
棺の形態	○ 桶形木棺 ● 推定桶形木棺 ○ 箱形木棺 ○ 推定箱形木棺	○ 長方形木棺 ○ 推定長方形木棺 ○ その他 ○ 不明	土壙の形状から推測する。 所見		
	性別 年齢 所見	○ 男性 ○ 女性 ○ 不明 歯 出土なし	顔面方位 不明	疾病 ○ 有 ○ 無	備考
人骨					
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钉			
	名 称 皿碗	材質 土師器 磁器	数量 4 1	所見 4点とも内外面ナデ、圈線なし。 染付、19世紀。	
備考	裾部の尾根上南東側、斜面との境に位置する。同一線上に55~58土壙が並ぶ。土師器皿と磁器碗は土壙底部から出土した。磁器碗から19世紀以降と考えられる。				



千提寺西遺跡 6区 86 土壙 地区割 5H17b

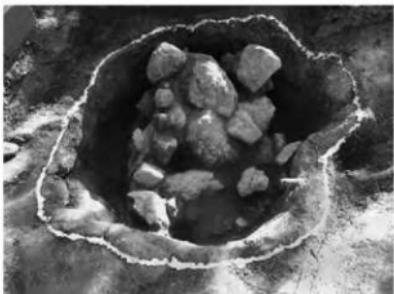
土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	143	×	100	cm
					底面直径・一边	52	×	52	cm
上部施設	● 有	構造	所見	<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	深さ	61	cm	軸方向	N-70° -W?
	○ 無								
下部施設	○ 有	構造・所見	所見						
	○ 無								
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 ○ 土葬 <input checked="" type="checkbox"/> 推定土葬 ○ 不明 骨 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	人骨が残存しないが、土壙の状態から推測する。	所見	藏骨器 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無					
	○ 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明				土壤の形状から推測する。				
人骨	性別 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明	顔面方位 不明	所見	疾病 ○ 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 備考					
	年齢	歯							
副葬品	所見 出土なし								
	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钵	名 称 皿	材質 土師器	数量 3	所見 2点は内面ヨコナデ、外側ヨコナデ。底部小さい。 1点は内外面ナデ。				
備考	裾部に位置する。火葬場とみられる14土坑が東側に隣接するが、重複関係は認められない。不整円形の土坑の西端が円形に落込み、ここに棺が埋葬された可能性が考えられる。円形土壙から土師器皿が3点まとめて出土した。6区出土の他の土師器皿に比べ、底部が小さく口縁部が比較的長く立ち上がる点、外側ヨコナデの幅が広い点がやや古い様相を示す。17世紀前半のものか。								

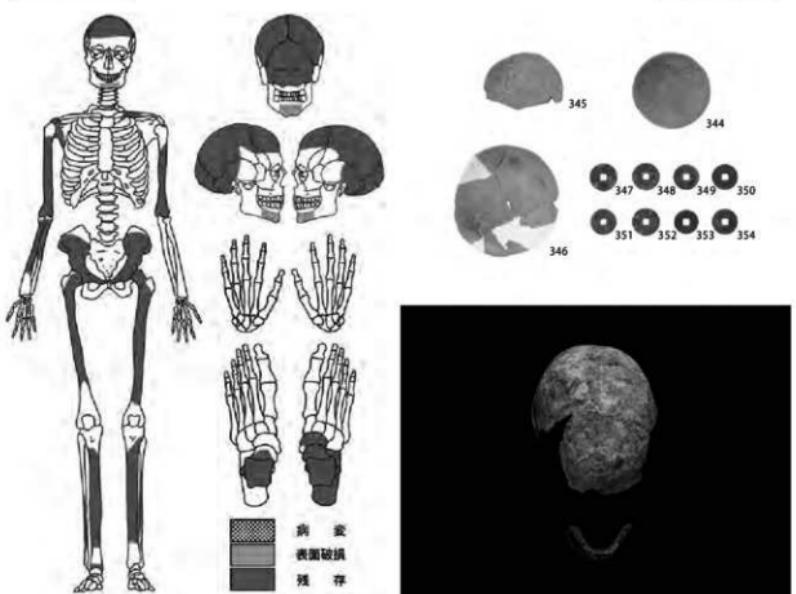
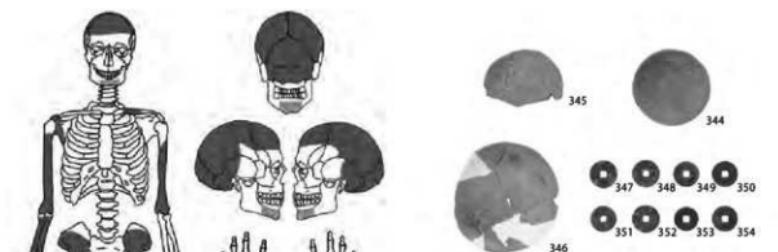
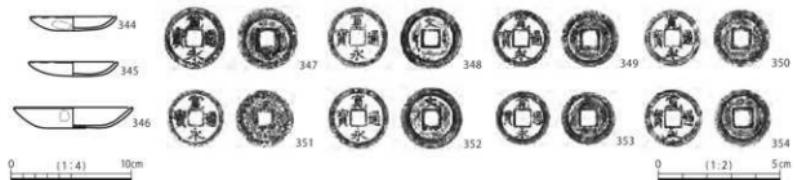
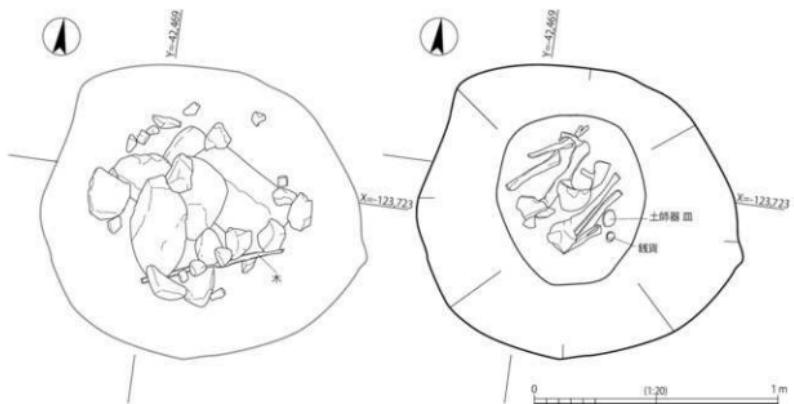


千提寺西遺跡 6区

91 土壙 地区割 5H17c

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	135	×	120	cm				
	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	70	×	61	cm				
	深さ	176 cm	軸方向	不明							
上部施設	構造	自然石複数	下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造・所見						
	所見	土壙検出面からやや落込も状態で人頭大の自然石を確認した。下部中央にやや大きな自然石が、上部周辺にやや小さな自然石がみられる。									
埋葬方法	土葬		所見	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。							
骨	<input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		<input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無							
棺の形態	推定桶形木棺	所見	土壙の形状と人骨の状況から推測する。								
人骨	性別 男性 年齢 15~20才	顔面方位 不明	疾病	<input type="radio"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考						
	歯	所見									
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	所見								
	名称	材質	数量								
備考	皿	土師器	2	内外面ナデ、内面圓線不明瞭(上部)							
	錢貨	銅	1	内外面ナデ(底部)							
	釘	鉄	5	寛永通寶。1期古寛永1点、2期新寛永(文政)1点、3期新寛永3点(上部)							
			3	寛永通寶。1期古寛永1点、新寛永2点(底部)。							
			1	短小							
	据部末端に位置する。東側の98土壙と並列するが、重複関係は認められない。人骨検出時に錢貨5点と土師器皿2点が、人骨取り上げ後、底部で錢貨2点と土師器皿1点が出土した。底部錢貨は底板にはりついた状態で出土した。錢貨から18世紀以降と考えられる。										

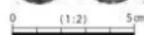
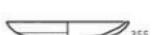
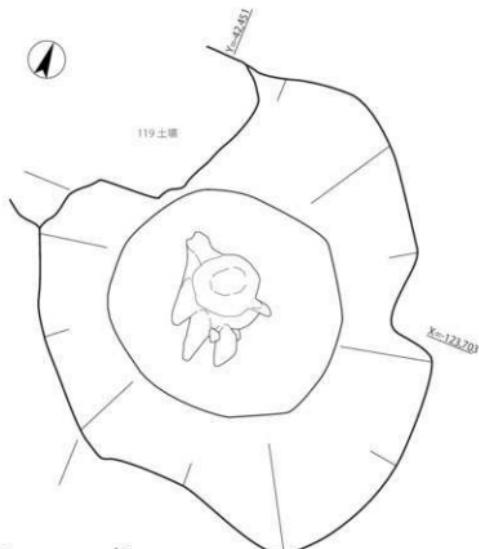
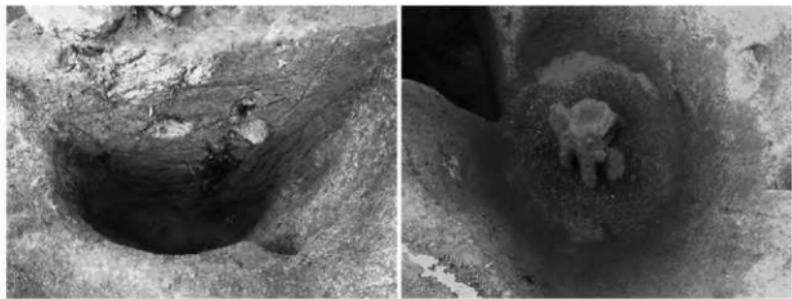




千提寺西遺跡 6区

99 土壙 地区割 5H15・6a

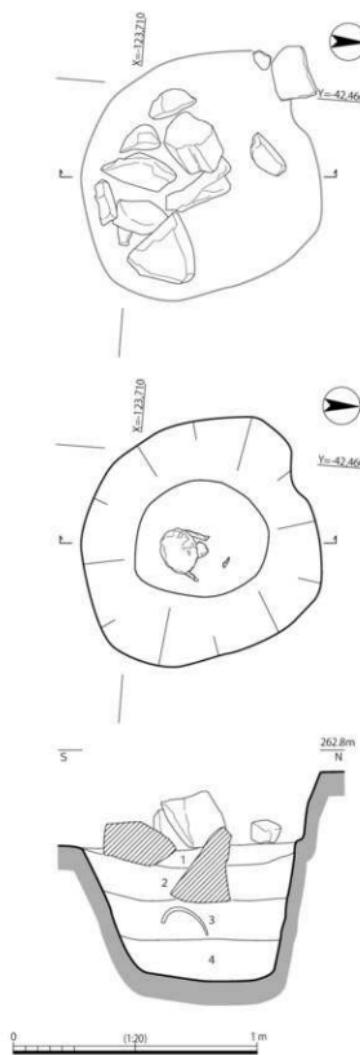
土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	195~	<input checked="" type="checkbox"/>	154	cm
		<input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地			底面直径・一边	98	<input checked="" type="checkbox"/>	95	cm
上部施設	○ 有	構造	所見		深さ	121	cm	軸方向	不明
	● 無	石敷							
下部施設	○ 有	構造・所見							
	● 無								
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input checked="" type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。人骨の残存は不良で、人骨に入り込んだ植物が黒く固まった状態で出土した。	所見		藏骨器	○ 有	● 無		
棺の形態	<input type="checkbox"/> 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	○ 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	所見	土壙の形状と人骨の状況から推測する。					
人骨	性別 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	顔面方位 不明			疾病	<input type="checkbox"/> 有	備考		
	年齢 成人	歯				<input type="checkbox"/> 無			
	所見								
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	名 称	材 質	数 量	所 見				
	皿 銭貨 釘	土師器 銅 鉄		1 6 1	破片 内面圓線、外面ヨコナデ 寛永通寶。1期古寛永4点、2期新寛永(文錢)2点 短小				
備考	山頂から南西にやや降った地点に位置する。北西隅部が119土壙と重複しており、119土壙に先行する。本土壙は銭貨から17世紀後半以降と考えられる。								



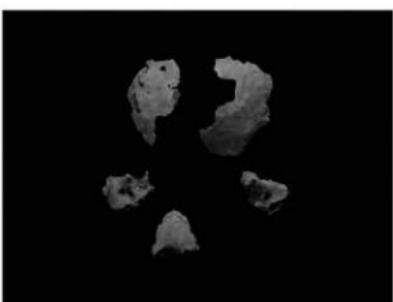
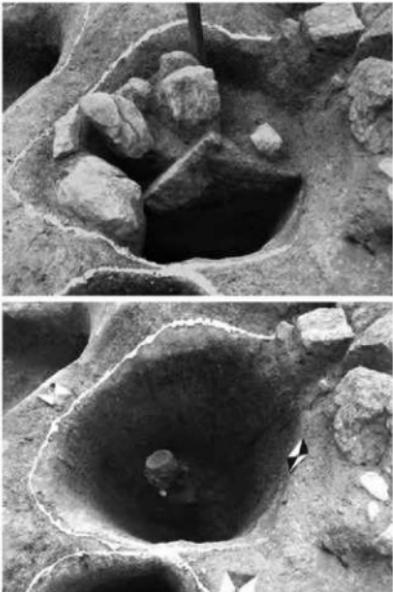
千提寺西遺跡 6区

103 土壙 地区割 5H6・7ab

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 99 × 98 cm					
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 53 × 48 cm					
	底面	深さ 64 cm 軸方向 不明						
上部施設	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	構造	<input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地					
		所見	土壙検出面からやや落ち込む状態で人頭大の自然石を確認した。					
下部施設	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	構造・所見						
埋葬方法	<input type="radio"/> 火葬 <input type="radio"/> 推定火葬 <input checked="" type="radio"/> 土葬 <input type="radio"/> 推定土葬 <input type="radio"/> 不明				藏骨器 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無			
	骨 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 被熱痕 <input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 炭化物 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無							
棺の形態	所見 人骨の状態から座位による土葬と考えられる。							
人骨	性別 <input type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性 <input checked="" type="radio"/> 不明			顔面方位 S(頭位)		疾病 <input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	備考	
	年齢 成人		歯					
副葬品	所見							
備考	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘							
	名称 釘	材質 鉄	数量 2	所見 短小 木質付着				

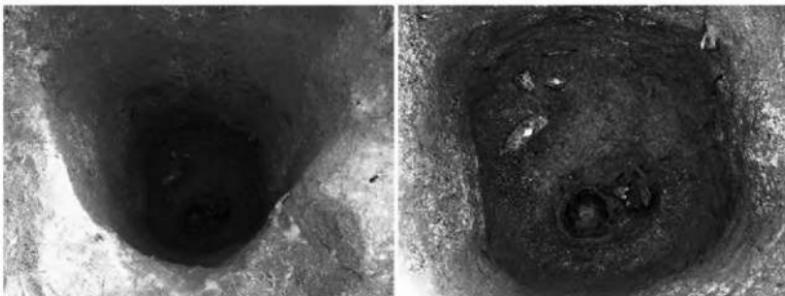


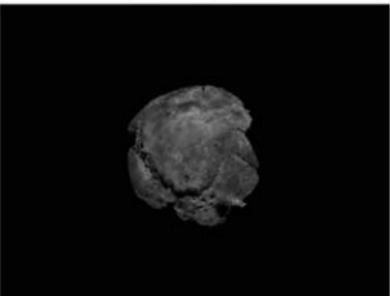
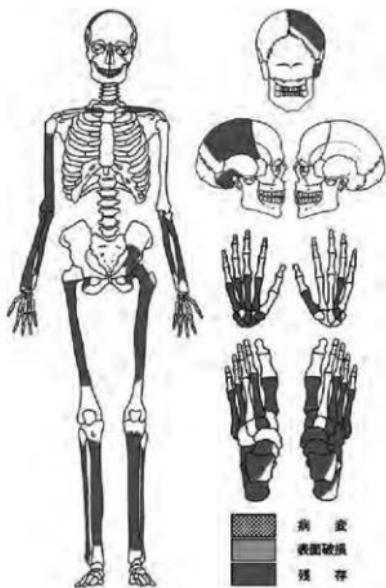
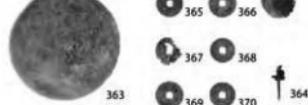
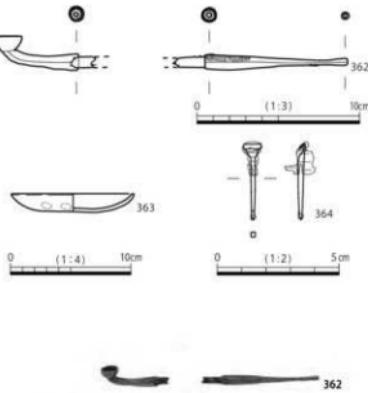
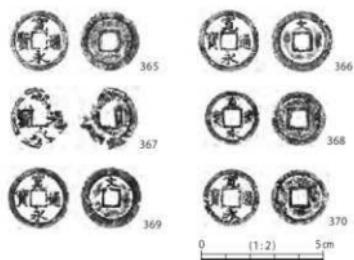
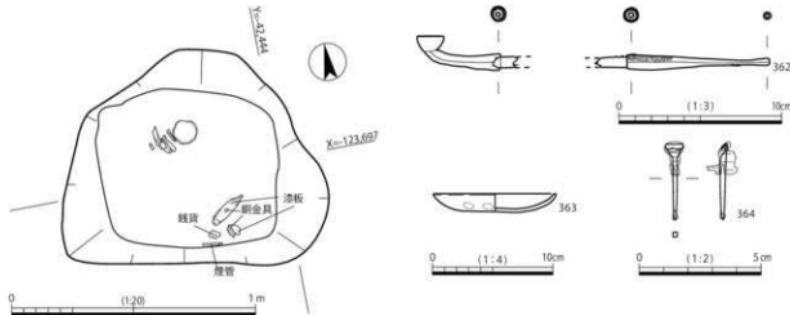
- 1 TOYR7/2 にじい黒褐色 細砂質シルト
- 2 TOYR6/4 にじい黒褐色 細砂質シルト
- 3 TOYR6/3 にじい黒褐色 細砂質シルト
- 4 TOYR6/2 灰黄褐色 シルト



千提寺西遺跡 6区 106 土壙 地区割 5G5j

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边	108	×	88	cm	
	底面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边	75	×	65	cm	
			深さ	161	cm	軸方向	不明	
上部施設	構造		下部施設	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	構造・所見			
	○ 有 ● 無	所見						
埋葬方法	土葬		所見	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。				
	骨	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				
棺の形態	箱形木棺	所見	土壙の形状と釘の出土から箱形木棺とみられる。漆塗、金具付の材が出土しておらず、棺材かと考えたが、厚さが7mmと薄いため容器の可能性が考えられる。					
人骨	性別 女性 年齢 20~40才	顔面方位 N(頬位)	疾病 ○ 有 ● 無	備考				
	歯	所見	妊娠痕あり					
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input checked="" type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input checked="" type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘	名 称 材 質 数 量 所 見					
	皿	土師器						
	銭貨	銅						
	煙管	銅?						
	箱 釘	木・金属 鉄						
備考	山頂北側、改葬によるかく乱との境界に位置する。他の土壙との重複関係はみられない。人骨検出面で漆塗・金具付箱、煙管吸口、布痕のある銭貨塊が出土した。人骨取り上げ後、底部において、銭貨6点、煙管雁首、土師器皿が出土した。漆塗・金具付材は希少な例である。銭貨から18世紀以降と考えられる。							

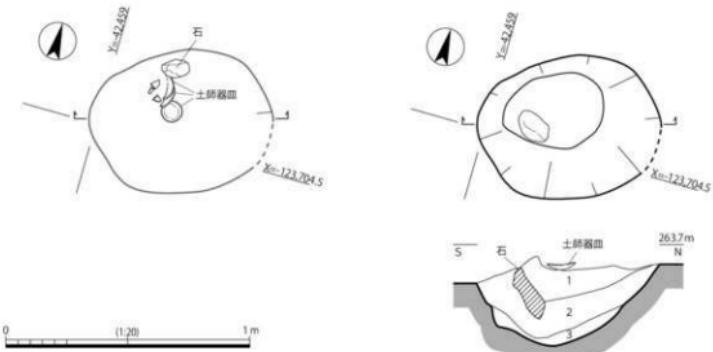
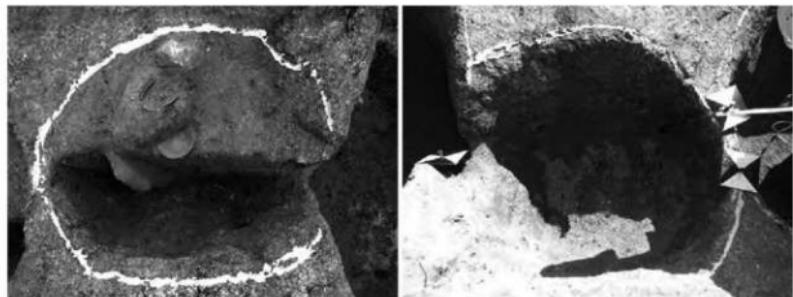




千提寺西遺跡 6区

121 土壙 地区割 5H6a

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 75 × 58 cm				
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 40 × 31 cm				
	底面		深さ 41 cm	軸方向	不明		
上部施設	● 有 ○ 無	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	土壙上面南端で拳大の自然石2点と土師器皿2点が出土。標石と供物が存在した可能性がある。				
下部施設	○ 有 ● 無	構造・所見					
埋葬方法		<input type="checkbox"/> 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input type="checkbox"/> 土葬 <input checked="" type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 骨 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 无 <input checked="" type="checkbox"/> 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 所見	<input type="checkbox"/> 藏骨器 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				
棺の形態		<input type="checkbox"/> 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 <input type="checkbox"/> 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 <input type="checkbox"/> 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 推定箱形木棺 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	所見				
人骨	性別 年齢 所見	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明 歯 出土なし	顔面方位 不明	疾病 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考		
副葬品	器種	<input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钉	所見 内面圓線、外面幅の狭いヨコナデ				
備考	丘陵部中腹に位置する。123、121、112、120土壙がほぼ東西に並ぶ。本土壙は西側の123土壙、東側の112土壙と隣接するが、重複関係は認められない。人骨は出土しないが、大きさからは幼児が埋葬された可能性がある。土師器皿から18世紀以降と考えられる。						

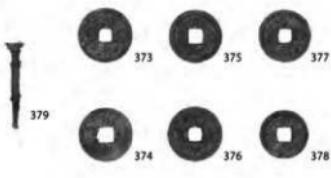
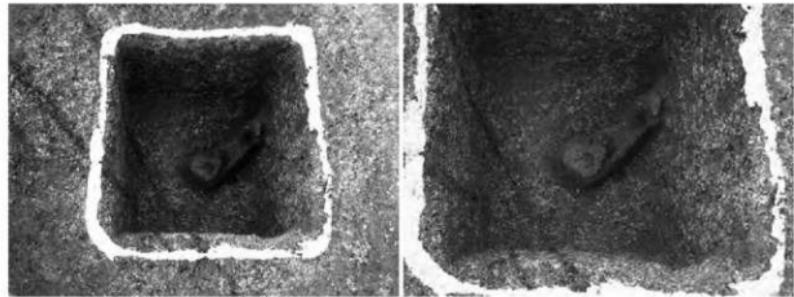


- 1 10%6/3に似い黄褐色 細砂混シルト
2 10%5/3に似い黄褐色 微砂混シルト
3 10%5/3-5/2に似い黄褐色～灰黄褐色 粗砂混シルト



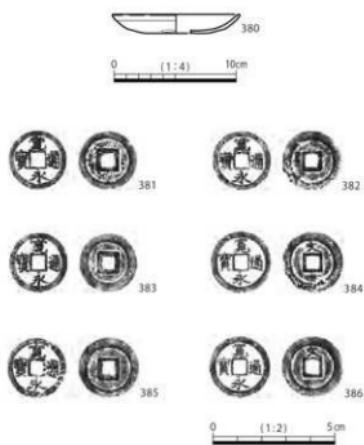
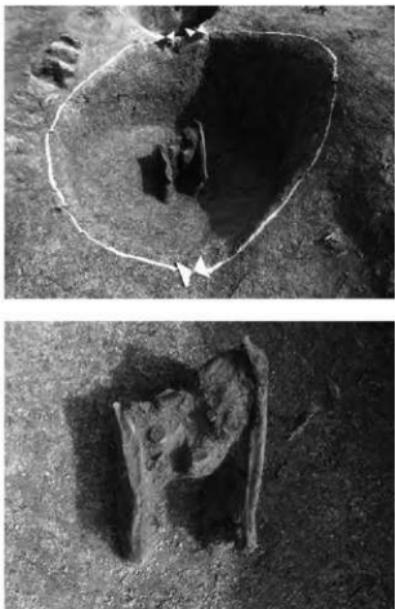
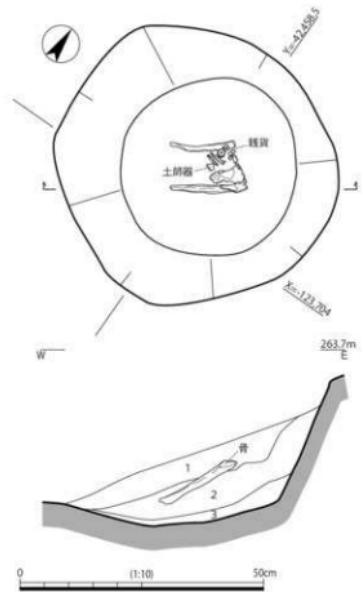
千提寺西遺跡 6区 122 土壙 地区割 5H6a

土壙の形態	検出面	<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	検出面直径・一边 51 × 49 cm				
		<input checked="" type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input type="checkbox"/> 円形 <input type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面直径・一边 43 × 38 cm				
	底面	深さ 31 cm 軸方向 N-45° -E					
上部施設	◎ 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地					
	○ 無	所見 土壙上面西端で拳大の自然石2点が出土。標石の可能性があるが、周辺に拳大の自然石がひろがるため、断定はできない。					
下部施設	○ 有	構造・所見					
	○ 無						
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 ◎ 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明	藏骨器 ○ 有 ◎ 無					
	骨 ◎ 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 ◎ 無						
棺の形態	所見 長さ2~3cmの骨片が3個体のみ出土。これら人骨から、生まれて間もない子供の墓と判明。						
	○ 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 ○ 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 ◎ 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	所見	土壙の形状と釘の出土から推測する。				
人骨	性別 ○ 男性 <input type="checkbox"/> 女性 ◎ 不明	顔面方位 不明	疾病 ○ 有 ◎ 無 備考				
	年齢 出生前後	歯					
副葬品	所見 左右錐体と右大腿骨近位部?のみ遺存、右錐体長21.2mm、左錐体長22.8mm						
	器種 <input type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input checked="" type="checkbox"/> 釘						
備考	名稱 銭貨釘	材質 銅鉄	数量 6 14	所見 寛永通寶。1期古寛永1点、3期新寛永5点。 長大・短小 木質付着			
	山頂から南西にやや降った地点に位置する。重複関係は認められない。土壙の大きさが小さいことから子供の埋葬が予測され、人骨の鑑定により生後間もない子供が埋葬されたことが判明した。銭貨から18世紀以降と考えられる。						



千提寺西遺跡 6区 123 土壙 地区割 5H6a

土壙の形態	検出面	<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形	底面	検出面直径・一边 116 × 115 cm			
		<input type="checkbox"/> 方形 <input type="checkbox"/> 不整方形 <input type="checkbox"/> 長方形 <input checked="" type="checkbox"/> 円形 <input checked="" type="checkbox"/> 不整円形 <input type="checkbox"/> 不整形		底面直径・一边 72 × 72 cm	深さ 43 cm	輪方向 不明	
上部施設	● 有	構造 <input type="checkbox"/> 配石 <input type="checkbox"/> 自然石組 <input type="checkbox"/> 自然石単体 <input checked="" type="checkbox"/> 自然石複数 <input type="checkbox"/> 五輪空風 <input type="checkbox"/> 五輪水 <input type="checkbox"/> 石仏 <input type="checkbox"/> 石敷 <input type="checkbox"/> 加工石組 <input type="checkbox"/> 加工石単体 <input type="checkbox"/> 一石五輪塔 <input type="checkbox"/> 五輪火 <input type="checkbox"/> 五輪地	所見	土壤上面南端で拳大の自然石2点が出土。標石の可能性があるが、周辺に拳大の自然石がひろがるため、断定はできない。			
	○ 無						
下部施設	○ 有	構造・所見	所見				
	● 無						
埋葬方法	○ 火葬 <input type="checkbox"/> 推定火葬 <input checked="" type="checkbox"/> 土葬 <input type="checkbox"/> 推定土葬 <input type="checkbox"/> 不明 骨 ● 有 <input type="checkbox"/> 無 被熱痕 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 炭化物 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	人骨の状態から座位による土葬と考えられる。 所見			藏骨器 ○ 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	○ 桶形木棺 <input type="checkbox"/> 長方形木棺 ● 推定桶形木棺 <input type="checkbox"/> 推定長方形木棺 ○ 箱形木棺 <input type="checkbox"/> その他 ○ 推定箱形木棺 <input type="checkbox"/> 不明	土壙の形状と人骨の状況から推測する。 所見					
人骨	性別 ○ 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	顔面方位 不明	所見	疾病 ○ 有 <input type="checkbox"/> 無	備考		
	年齢 不明	歯					
副葬品	器種 <input checked="" type="checkbox"/> 土器 <input checked="" type="checkbox"/> 銭貨 <input type="checkbox"/> 鉄製品 <input type="checkbox"/> 土製品 <input type="checkbox"/> 銅製品 <input type="checkbox"/> 石製品 <input type="checkbox"/> 木製品 <input type="checkbox"/> 玉類 <input type="checkbox"/> 钉						
	名 称 皿 銭貨	材質 土師器 銅	数 量 1 6	所見 寛永通寶。1期古寛永4点、2期新寛永(文銭)2点。			
備考	丘陵部中腹に位置する。123、121、112、120土壙がほぼ東西に並ぶ。本土壙はその西端であり、東側の112土壙と隣接するが、重複関係は認められない。銭貨から17世紀後半以降と考えられる。						



b. その他の遺構

1 土坑 調査地南西隅部に位置する（図 49）。頂部から南西方向に尾根をくぐった裾部の南東側斜面で検出した。調査前より表土において炭化物や骨片がみられた箇所であり、慎重に表土を除去後第1面で検出した。尾根上の高い箇所から斜面下まで、全面に炭化物がひろがる状態で検出され、高い箇所が幅広く、低い箇所に向かって狭くなる。長さ 7.3 m、幅 2.9 m を測る。被熱痕跡は認められないものの、炭化物や焼けた人骨片の集中から火葬場と考えられる（図 51・写真図版 36-1~4）。

尾根上の高い部分は当初から円形に窪んでおり、円形部のほぼ中心を通るように長軸と短軸のアゼを設定し、下方の炭化物のひろがりに対してはほぼ均等に短軸のアゼを 2 箇所設定した。

遺構埋土は、大きく 3 層に分けられる。いずれも炭化物を多く含み、3 ~ 5 cm の焼けた人骨片、銭貨、釘が多量に出土した。その他、少量の磁器片、瓦質香炉、天目茶碗のほか土師器皿片が出土した。とくに埋土の 2 層には、炭化物と遺物が多く認められた。1 ~ 3 層は、尾根上の円形部から裾部にかけて連続して堆積しており、いずれも裾部にかけて層厚を減ずる。円形部の 2 層はその下位部分に炭化物が集中し粘性が高かったため、これを 2' 層として分けた。

図 53-387 ~ 395 は 1 層、396 ~ 410 は 2 層、411 ~ 412 は 3 層出土土器である。387 ~ 395 は土師器皿であり、393 は口縁部に打ち欠きが、394 は底部外面に糸切り痕が認められる。394 は 18 世紀以降のものと考えられる。396 ~ 407 は土師器皿であり、399 は口縁部に打ち欠きがある。408 は瓦質香炉である。形態変化があまりない器種であり、時期の特定は困難であるが 16 ~ 17 世紀のものであろうか。409 ~ 410 は天目茶碗である。409 は美濃瀬戸系で 16 世紀、410 は唐津系か美濃瀬戸系か断定しがたく、16 世紀後葉 ~ 17 世紀前半のものと考えられる。411 ~ 412 は土師器皿である。

図 53-413 ~ 415 は、土器以外の遺物であり、413 は 1 ~ 2 層出土の金属製環、414 は 3 層出土の煙管雁首、415 は出土層位が特定できないが煙管吸口である。

図 53-416 ~ 419 は出土した銭貨の一部である。銭貨は 39 点出土しており、うち北宋銭は元祐通寶（図 49-416）が一点のみで他はすべて寛永通寶である。寛永通寶は 1 期古寛永（図 49-417）、2 期新寛永（文銭）（図 49-418）、3 期新寛永（図 49-419）が出土した。

なお、1 土坑の下層からは、55、56 土壙が検出されており、両土壙は寛永通寶でも 1 期古寛永のみが出土していることから 17 世紀前半以降のものと考えられる。

以上より、本遺構は 17 世紀前半以降 ~ 18 世紀以降にかけて機能した火葬場と考えられる。

埋土除去後、周辺を精査すると、遺構の東側に一辺約 50 cm の自然石が並んで検出された。その東側は傾斜が急になるため、火葬場の構築にあたり、これらの自然石が置かれた可能性が考えられる。

14 土坑 調査地南西隅部に位置する（図 50・52）。頂部から南西方向に尾根をくぐった裾部で検出した。第 2 面の遺構である。当初は墓と考えたが、被熱痕跡が明瞭であり、墓とするには広くて浅い形状や、銭貨や釘などの遺物がまとまって出土することから火葬場とみる方が妥当と再考した。第 1 面の火葬場である 1 土坑は、本遺構の北西側で検出されていることから、1 土坑は、この地区最初の火葬場である本遺構を意識し、これを踏襲するような位置に新たに設けられた可能性が考えられる。

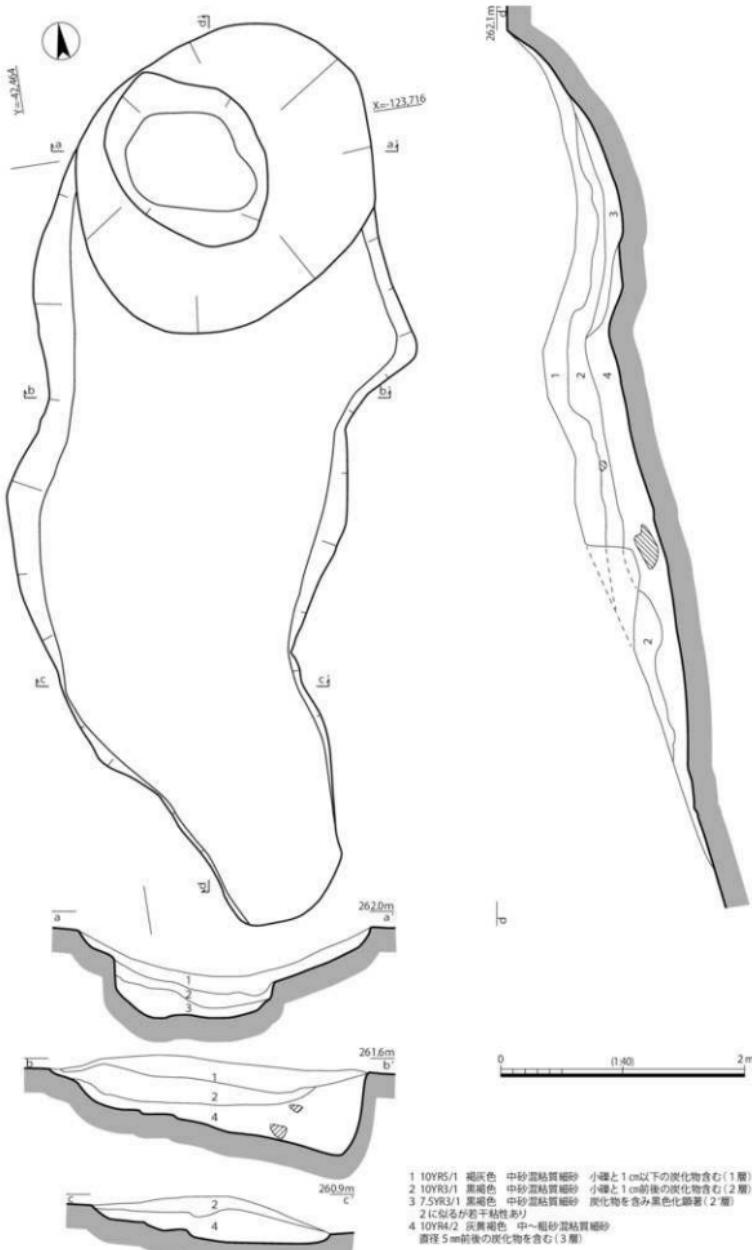


図 51 千提寺西遺跡 6 区 1 土坑 平・断面図

不整形な楕円形であり、全面に炭化物がひろがる状態で検出された。東西 2.15m、南北 1.70 m、深さは 0.38 m である。

遺構埋土はいずれの層も炭化物を多く含み、焼けた人骨片、銭貨、釘が多く出土した。その他、完形品を含む土師器皿がまとまって出土した。

図 53-420 ~ 424 は土師器皿で、420 はへそ皿である。図 53-425 ~ 428 は出土した銭貨の一部である。銭貨は 17 点出土しており、内訳は北宋錢は熙寧元寶？（図 53-425）、明道元寶（図 53-426）の 2 点、中世末～近世初頭の模鋳銭 1 点（元豐通寶）のほかはすべて寛永通寶（古寛永）（図 53-427・428）である。

以上より、本遺構は 16 世紀～17 世紀前半を中心とする時期に機能した火葬場と考えられる。

6 区は、今回調査した 5 箇所の墓域において、多くの墓域が中世から近世にかけての墓が検出されるなか、唯一近世墓のみからなる墓域である。前述したとおり「浄土墓」という名字から、仏教徒の埋葬が予測された。結果として当区ではキリストン墓の可能性をもつ長方形墓は検出されなかった。66 基検出されたすべての墓が、仏教徒の墓として通常有な方形または円形の土壙であり、人骨から埋葬方法がわかるものは、多くが座位による土葬であった。

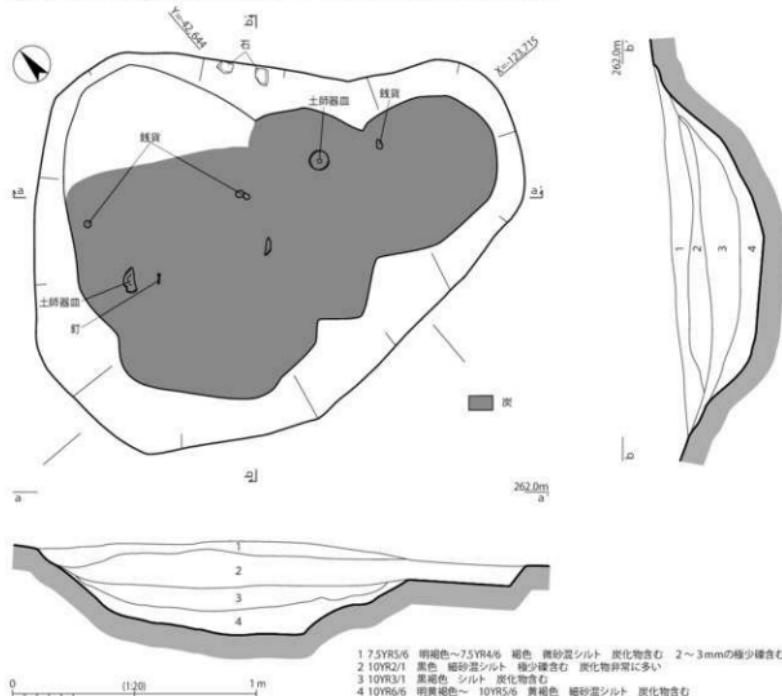


図 52 千提寺西遺跡 6 区 14 土坑 平・断面図

ただし、通有の近世墓に比べ、深さが深いことが特徴としてあげられる。深さ 0.5 ~ 1 m の墓がある一方、深さ約 2 m の土壙（13（下部）・15・19（下部）・24・26（上部）・29・30（下部）・36 土壙）や深さ 3 m の土壙（26（下部）土壙）が調査区全域でみられる。一般的な近世墓では、墓域のなかで 1 ~ 2 基の深い土壙が混在する場合はあるが、当区のように、これだけ多くの深い土壙が含まれる墓域は希少である。地山が掘削が容易な比較的軟弱な花崗岩であることが、深い土壙の掘削を可能にしていることは明白である。当初は山間部に墓域が位置するため、獸害から墓を守るために深い土壙を掘削したことも考えたが、他に文化的な要因があるのかもしれない。

遺物をみると、他の地区の墓域に比べ銭貨が埋納される墓の割合が多い。このことは、当調査区の墓が仏教徒の墓域であることを示すものであろう。当調査区の出土遺物のもうひとつの特徴は、種類が少ないとある。当調査区の墓の副葬品は前述したとおり、磁器碗、土師器皿、煙管、銭貨にほぼ限られ、用途不明の金属環が 1 点あるものの、他区の墓でみられる鉄製品や土製品などは皆無である。この点も当調査区の墓の性格を考える上で重要な視点となろう。

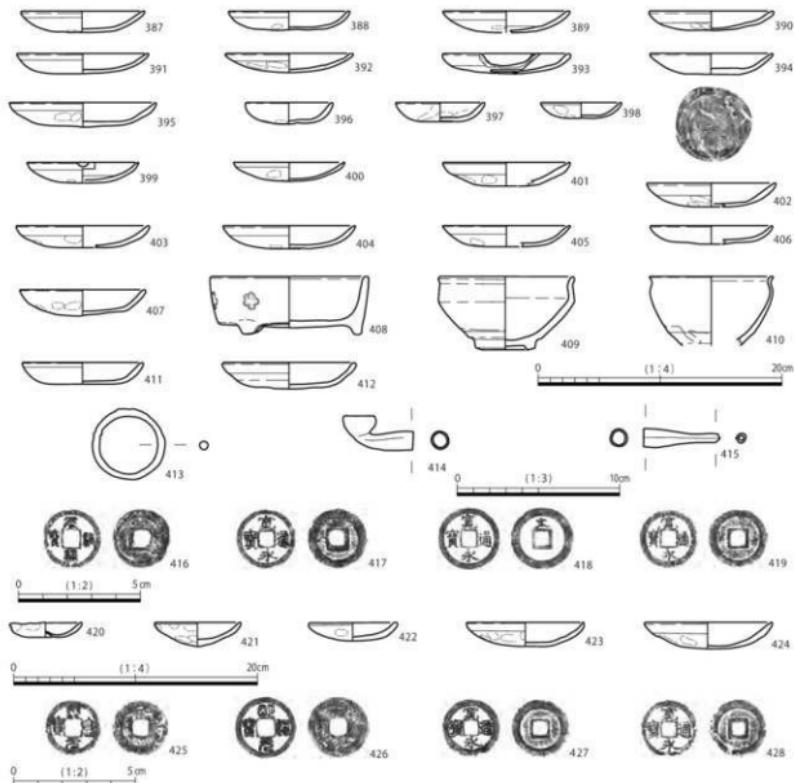


図 53 千提寺西遺跡 6 区 1・14 土坑 出土遺物

6区では、66基の墓のほかに2箇所の火葬場とみられる土坑を検出した。

出土遺物の多くが土師器皿であり、詳細な遺構の時期の比定は困難であるが、遺構の重複なども含めて当調査区の墓域の形成について検討したい。

最初に築かれた墓は丘陵裾部に位置する55・56・86土壙であり、これらの墓とともに火葬場とみられる14土坑が機能していたと考えられる。出土遺物から17世紀前半を中心とする時期とみられ、この時期に丘陵裾部のやや平坦な場所が墓域として利用されはじめたと考えられる。55・56・86土壙から人骨は出土していないが、土壙形状などから土葬と考えられ、当初より、土葬と火葬がともに行われていたと想定する。

その後、17世紀後半以降には、裾部から中腹部、頂部にかけて全域に墓がひろがる。とくに一定の墓群が先行するような様相はみられない。ただし、この時期、裾部の墓は91・98・57・58土壙と少数であり、墓の主体は中腹部から頂部にかけての範囲へ移ったと考えられる。この時期には、火葬場が14土坑から1土坑へと移行し、1土坑がその後、長期にわたり機能する。引き続き、土葬と火葬がともに行なわれていたと想定する。

6区の墓で最も時期が新しいものは明治9年の半錢が出土した24土壙である。この他15・25土壙からも19世紀に位置付けられる磁器が出土しており、19世紀まで連綿と墓が継続する。15・24・25土壙はいずれも頂部に位置し、整った方形を呈する。6区において最終的に墓と認識されていた範囲は、改葬箇所である頂部北西側のかく乱土坑の範囲であることから類推すると、当調査区内における墓域の主体は、裾部から中腹部、そして頂部へと移行した可能性が考えられる。

以上のように、17世紀前半～19世紀にかけて、土壙と火葬場が並行してみられ、土葬と火葬があわせて行われていたことがわかった。しかし、土壙のなかで明らかに火葬骨が出土したものには無いことから、本調査区における土壙は基本的に土葬であったと考えられる。火葬場からは、釘や銭貨が大量に出土し、被熱の痕跡が観察されることから、棺に納められた状態で火葬されたものと考えられる。また、火葬場で出土する骨は大きいもので長さ約5cmの骨片であり、大腿骨や頭蓋骨など破片も含まれる。本調査区の土壙で火葬骨が出土するものは無く、火葬場での火葬後、どこに埋葬されたのかは不明と言わざるを得ない。土壙出土遺物と火葬場出土遺物は、とくに差異は認められず、土葬と火葬において、副葬品は同様のものであったと考えられる。

6区の墓は、底部の形状から、桶よりも箱形木棺が多く使用されたことがうかがえる。調査に入るまで、近世の棺は桶が優勢との印象が強かったが、調査中見学に来られた、当区を埋葬地とされていた家の方が、「桶は財閥」と話されており、箱形木棺の方が一般的であったことをうかがった。

また、もう一点当調査区の墓で特徴的なこととして、ひとつの土壙で上部と下部に別の人骨が出土することがあげられる(13・19・20・26・30・40土壙)。この点についても、家の方が同じ墓に埋葬することがあったと話されており、当調査区の埋葬のあり方が他の調査区とは異なることがわかった。

(4) 千提寺市阪遺跡 2 区

千提寺市阪遺跡は今回の調査地の中で北東端に位置する遺跡であり、大岩川に面する「市坂山」と呼ばれる北西から南東にのびる尾根上とその東側緩斜面にひろがる。標高は 259.0 m から 263.4 m を測り、遺跡の範囲は東西約 25 m、南北約 83 m に及ぶ。今回の発掘調査を実施する直前まで、東側緩斜面は水田として利用され、尾根上は手付かずの雑木林であった。平成 7(1995)年度から平成 10(1998)年度に実施した国際文化公園都市特定土地地区画整理事業に伴う調査（以下、総合調査）における墓の調査においても当尾根上に存在は確認されておらず、新出の墓跡となる。

平成 24 年度に行った大岩川沿いの東側緩斜面における試掘調査で、多数の遺構や遺物が出土したことから当該地を本調査の対象としていたが、偶然踏査した市坂山の尾根上に複数の石仏が散乱していることを発見した。試掘調査を実施した結果、土坑や焼土坑を多数検出したことから本調査として追加することになった。調査区名は東側緩斜面を 1 区、尾根上を 2 区と設定し、本調査中に追加となった 1 区西側の平坦地を 3 区とした。本項では墓域である 2 区の成果報告を行い、1・3 区は第 3 節において後述する。

基本的な層序は、暗茶褐色を呈する腐植土の近現代土（第 1 層）、黄褐色を呈する砂質土の近世表土（第 2-1 層）、明黄褐色を呈する生物擾乱土（第 2-2 層）、花崗岩あるいはその風化土の地山により構成される。遺構面は、花崗岩及びその風化土である地山を第 1 面として設定した（図 14）。

現地の調査ではまず初めに樹木や竹の除根が必要であったため、第 1・2-1 層を重機により慎重に除去し、第 2-2 層を人力によって掘削した後に地山面において遺構を検出した。他の調査に関連する進入路建設のため、本調査区の北西端の一部約 100 m については先行して調査を実施したが、本項ではまとめて報告を行う。なお、現地において記録した写真や図面類に関しては、枝番号を冠する等により区別しているので注意されたい。

試掘調査時に X=123.208、Y=-42.102 付近において確認した石造物の周辺では、下層から浅い落込みや土坑を検出し、埋土に炭化物や火葬骨を散見したが、墓のような明確な遺構としては確認できなかった。なお、地表面で出土した石仏を鑑定した結果、1 点は風化しているため詳細が不明であるが、顔面に線刻が認められる（写真図版 104-831）。故意によるものかどうかや施工の時期は判断できないが、仏像部分とは明らかに風化度合いが異なるため、图像がある程度崩れた後に付いたものと考えられる。また、別の 1 体は地蔵菩薩像が陽刻された風化の少ない花崗岩製であり（写真図版 104-830）、明らかに後世の作と考えられることから、いずれも移動して当地に集積されたものと推測する。

市坂 2 区において検出した遺構は、落込み・土坑・土壙・小穴・道路状遺構である（図 54）。

a. 墓域

土壙は、尾根の最頂部より南側の平坦面を中心にまとめて検出した（図 55）。調査区全体では合計 86 基の土壙を確認しているが、そのうちの約 91% である 78 基が X=123.217、Y=-42.098 付近を中心とする 15 m 四方ほどの範囲に集中する。これらの土壙群は幅が約 10 m を測る尾根上の平坦面に形成されており、土壙群の南北に連続する尾根上の平坦面の幅 5 m 以下よりもやや広くなっている。おそらく墓地の形成に伴って人為的に平坦化されたものであろう。それ以外の土壙は、これより南側の尾根上や斜面途中に点在しており、調査区北端にみられる鞍部より南側の尾根全体が一つの墓域として形成されている。

検出した土壙は、円形もしくは方形が大半であり、一部に隅丸の長方形を含む。検出時の遺構上面は



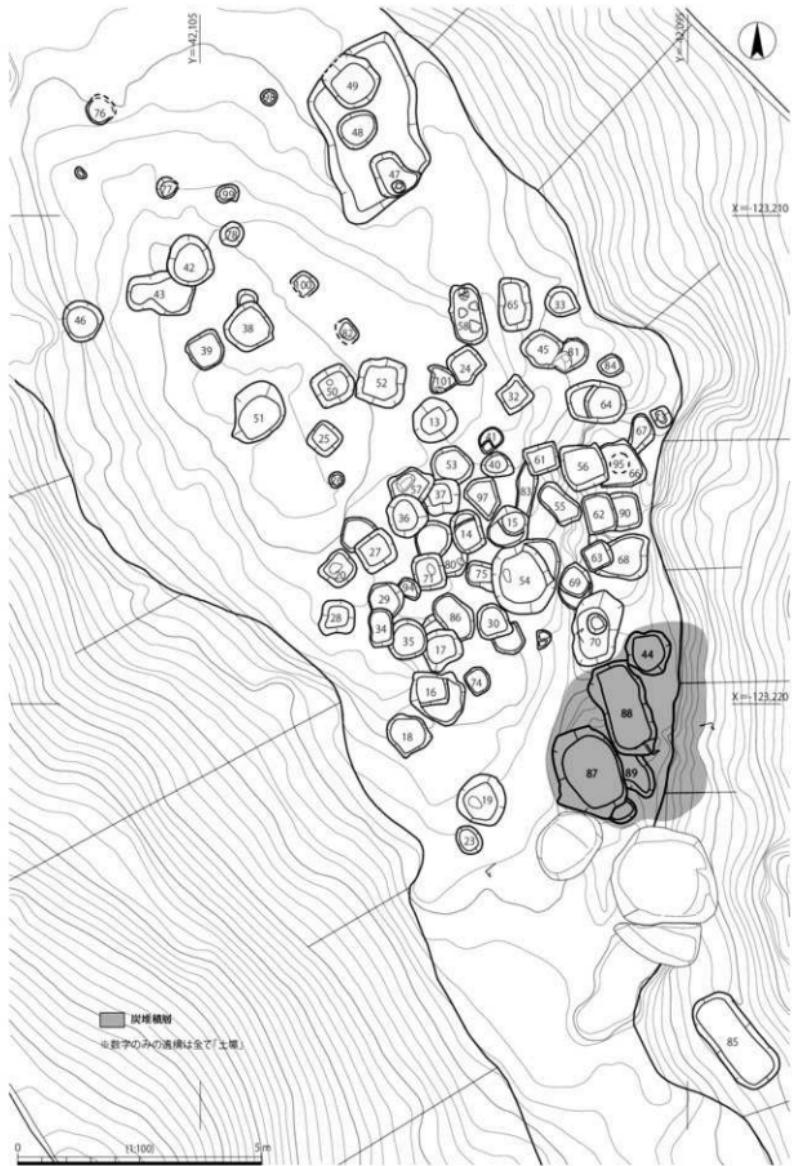


図55 千提寺市阪遺跡2区 平面図



図 56 千提寺市阪遺跡 2区 出土遺物別平面図 (1)

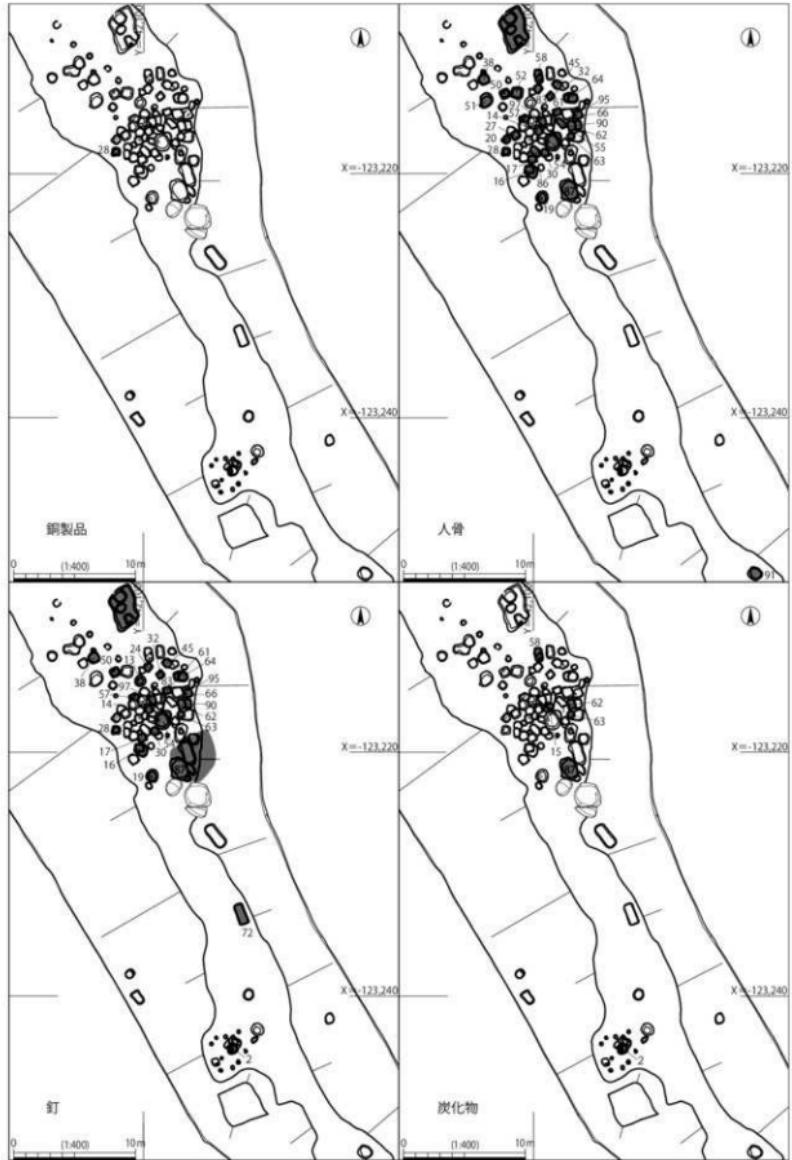


図 57 千提寺市阪遺跡 2区 出土遺物別平面図 (2)

崩落が激しいため底面の形状によると、不整なものを含めて円・方・長方・不明の比率は5：9：1：2となっている。木棺の木質はほとんど遺存しないが、円形に対して方形が倍近く採用されている点から、桶形よりも箱形の木棺が多用されたものと推測できる。

木棺の桶形と箱形については、土壙の規模が方形より円形により大きなものが認められ、平均的にもやや円形の方が大きくて深い傾向がみられる。一般的には桶形よりも箱形の木棺が高価とされているが、これは「早桶」と呼ばれるように桶形木棺は急説上で用意できることによるものである。土壙の数は出土した副葬品が、円形ではわずか約2%の2基であるが、方形では約9%の8基である。ただし、人骨が出土した土壙の数が円形では3基に対して方形では23基と圧倒的に多く、埋葬時期の差による残存の違いの可能性もある。この人骨の遺存率からは、円形から方形、言い換えれば桶形から箱形の木棺が多用されるよう変化したとも考えられる。各墓の埋葬時期を比定する情報が乏しいため断定はできないが、政情が安定する近世に入ってからは次第に急死者が減少し、埋葬に時間と手間をかけられるようになった表れと推察する。

この他にも典型的な近世墓とは異なる特徴をもつ墓が複数みつかっている。

土壙集中部よりやや南東に離れた尾根の東肩付近では、3基の長方形土壙を検出した（図54）。

72 土壙 X=123.234、Y=42.091付近に位置し、長さ約1.80m、幅約0.80m、深さ約0.23mを測る。埋土を除去した底面から釘と、南端から土師器皿が出土した。このことから長方形の箱形木棺が使用された墓であったことが判明し、近世を中心と思われる土壙集中部と様子が異なることがわかった。出土遺物は認められないが、同様の形状と規模をもつ85・88土壙が同じ尾根の東肩にみつかっている。これらの墓は長軸をほぼ等しくしており、意識的に配されたものと考えられる。出土した土師器皿は中世末頃のものであり、墓の形態と合わせると、周辺の調査例からはキリスト教墓である蓋然性が非常に高いといえる。

58 土壙 土壙集中部の北寄り、X=-123.212、Y=-42.099.5に検出した。長さ約1.06m、幅約0.54m、深さ約0.38mを測り、土壙平面は長方形を呈する。炭化物層の埋土を検出し、土壙の西壁には被熱痕跡が認められる。出土した骨片も白化していることから火葬が行われたことは明らかであり、当墓域の中では唯一の例となった。土壙内の北側に頭蓋骨らしき塊を検出し、その上部を覆う状態で東播系須恵質鉢が伏せて置かれていた。その他に鉄製鎌刃や木棺に付いていたと思われる玉状の飾金具が出土している。片口鉢は13世紀前半頃の所産であり、同墓はそれ以降に築かれたといえる。周囲の埋葬方法と異なる点からも埋葬時期が近世まで下るとは考えにくく、同鉢の時期に近い13～14世紀頃と推測する。

土壙集中部の南端、X=-123.220.5、Y=-42.096付近では、表土に混じる大量の炭化物を検出した。炭の堆積物は深さ約40cmを測り、東西約3.2m、南北約4.0mの範囲にひろがる。堆積物の中にわずかな骨片や釘等が含まれていることから火葬場の跡と考えられる。下層から検出された87・88土壙には被熱痕跡が認められないことから炭の堆積には無関係と考えられ、土壙による埋葬からかなり時間が経過した後に火葬が行われたものであろう。

副葬品については、千提寺西遺跡等の周辺の調査区とはやや異なる様相が認められる。副葬品をもつ土壙の比率は千提寺西遺跡5区が7割近くであったのに対し、当墓域では18.8%とかなり低い。一方で特殊な品目が認められる。煙管の出土は86基中のわずか3例のみであり、全体の墓数に比して非常に数が少ない。また、このうちの1例は北端の浅い土壙からのものであり、明確な墓に伴うものは24・28土壙の2基のみとなっており、煙管の出土率が高いとみられる千提寺西遺跡の各墓域とはかな

り異なる。土器が出土する墓は9基あり、このうち土師器皿を伴うものはわずかに1例である。染付は今回の調査では遺跡に関わらず新しく造られた墓に共通してみられる遺物であるが、45 土壙からは他で例をみない古瀬戸飴釉の花入、58 土壙からは東播系須恵質鉢が出土している。被葬者の生前に関連する嗜好品と考えられるが、58 土壙については前述のように埋葬時期が遅る可能性が高い。銭貨については 17・45 土壙の2基のみであり、同時期の墓域である千提寺西遺跡5・6 区に比して圧倒的に数が少ない。銭貨の副葬は仏教思想の冥錢である「六道銭」によるものと考えられ、隠れキリストンの一族墓と考える千提寺西遺跡5区「マエノヤマ」よりも出土件数が少ないと看過できない。一方、他の墓域では出土例の無いガラス小玉が 17・66・95 土壙から大量にみつかっている。このうち 95 土壙については2点しか出土しておらず、66 土壙と上下に重複しているため本来 66 土壙に属するガラス小玉が混入してしまった可能性が高い。小玉はいずれも無色と青緑色のガラス製であり、直径約3.0～4.0 mmと非常に小さい。17 土壙から 67 個、66 土壙から 99 個とまとめた数が出土しており、遺骸の腹部から脚付近に集中することから、当初は連ねてネックレス状になっていたものと推測する。直接の関連性はまったく無いが、中谷家に伝わるロザリオでは欠損部を本件に酷似するガラス小玉で修復したものが伝世されており、同様のガラス製品が当集落に流通していたことを示す資料として貴重な発見といえよう。出土したガラス小玉は、分析調査をしており、詳細は第4章第4節を参照されたい。

当墓域は、仏教的な銭貨や嗜好品である煙管や握り鉄の出土が少ない一方、全体的には質素だが、ガラス小玉のような特殊品の存在が特徴的である。墓地が廢絶された後、長い時間が経過してしまったために管理者等の詳細が不明であるが、おそらく隠れキリストンの一族墓であったと推測する。

墓の全容は表5のとおりである。うち遺構や遺物の出土が顕著である 18 基について、個別に報告する。

表5 千堤寺市阪遺跡2区土壤一覧

土種名	検出面積(面積)	面積(㎡)	長	短	高さ (cm)	上部施設	下部施設	堆積物種別	堆積物形態	人骨	副葬品
13土壤 不要円形 不要円形 90 89 54 40 145 無 無 推定柱形木棺 有 町											
14土壤 不要方形 不要方形 77 66 50 47 110 有 自然石單体 無 推定柱形木棺 有 町											
15土壤 不要円形 不要円形 85 66 45 40 50 有 自然石複数 無 推定柱形木棺 有 液化物											
16土壤 不要円形 方形 76 58 60 48 107 有 自然石單体 無 推定柱形木棺 有 町											
17土壤 方形 方形 89~ 69 60 50 185 無 無 無 無 路面石塊 有 陶器碗/鍵質/ガラス小玉-町											
18土壤 不要円形 不要円形 93 75 72 64 47 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
19土壤 不要円形 不要円形 107 94 71 66 122 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
20土壤 不要円形 不要円形 68 63 47 47 73 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
21土壤 円形 円形 102 98 54 54 24 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
22土壤 不要円形 不要円形 63 49 48 18 57 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
23土壤 円形 円形 62 50 47 36 37 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
24土壤 不要円形 方形 68 65 54 49 126 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
25土壤 方形 方形 60 60 44 40 73 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
26土壤 円形 円形 31 30 21 19 46 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
27土壤 方形 方形 83 78 53 50 147 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
28土壤 不要方形 方形 68 67 42 42 140 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
29土壤 不要円形 不要円形 79 70 64 56 34 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
30土壤 方形 方形 71 64 54 52 101 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
31土壤 方形 方形 60 60 46 39 161 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
32土壤 不要円形 不要円形 73 63 51 45 39 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
33土壤 方形 方形 80 59 66 46 30 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
34土壤 不要円形 円形 83 73 62 60 57 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
35土壤 不要円形 円形 84 84 62 49 87 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
36土壤 不要円形 不要方形 92 82 46 44 70 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
37土壤 不要円形 不要方形 94 94 76 70 179 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
38土壤 不要円形 方形 72 68 59 59 46 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
39土壤 不要円形 不要円形 64 52 44 36 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
40土壤 不要円形 不要円形 53 42 45 35 28 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
41土壤 不要円形 不要形 77 68 62 59 22 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
42土壤 円形 円形 102 94 77 68 46 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
43土壤 不要円形 不要円形 134 124 88 102 39 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
44土壤 不要円形 不要円形 69 68 54 45 23 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
45土壤 方形 方形 74 67 60 59 99 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
46土壤 不要円形 円形 85 82 65 61 23 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
47土壤 不要円形 不要円形 96 64 69 49 17 有 石 有 陶器/花崗岩石臼(47-48-49土壁上) 有 町											
48土壤 不要円形 不要円形 83 71 69 54 9 有 陶器/花崗岩石臼(47-48-49土壁上) 有 町											
49土壤 不要円形 不要円形 110 98 76 74 33 有 陶器/花崗岩石臼(47-48-49土壁上) 有 町											
50土壤 方形 方形 84 76 58 46 171 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
51土壤 不要円形 方形 125 106 90 66 191 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
52土壤 方形 不要方形 99 96 68 66 157 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
53土壤 不要円形 円形 77 70 60 58 100 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
54土壤 不要円形 円形 149 134 102 90 219 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
55土壤 不要方形 不要形 95 48 78 38 63 無 無 無 無 その他 有 陶器蓋戶) 有 町											
56土壤 方形 方形 110 80 69 55 98 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
57土壤 方形 方形 82 74 69 59 33 有 陶器/花崗岩石臼(47-48-49土壁上) 有 町											
58土壤 不要円形 方形 117 66 100 54 59 有 自然石複数 有 陶器片口跡/鍵質/鍍金盒-町											
59土壤 圓形 円形 95 81 66 59 61 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
60土壤 不要円形 不要円形 88 73 71 58 25 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
61土壤 方形 方形 64 60 50 44 156 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
62土壤 方形 方形 81 58 70 50 39 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
63土壤 方形 方形 58 54 44 44 33 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
64土壤 不要円形 円形 134 87 68 63 131 有 自然石單体 無 推定柱形木棺 有 人形-町											
65土壤 長方形 方形 109 67 48 42 32 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
66土壤 不要形 方形 92 80 76 66 93 無 有 土器 有 推定柱形木棺 有 陶材(木・錫・ガラス小玉-町)											
67土壤 不要形 不要形 71 50 54 36 23 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
68土壤 不要円形 不要円形 126 83 90 74 50 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
69土壤 不要円形 不要円形 70 62 53 43 33 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
70土壤 不要円形 不要円形 146 97 75 25 18 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
71土壤 不要円形 不要円形 74 65 56 49 14 有 自然石複数 無 不明 不明 有 町											
72土壤 不要円形 方形 126 76 63 59 26 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 陶器即-不明銀製品-町											
73土壤 方形 方形 43 36 39 17 23 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
74土壤 方形 方形 53 47 15 10 41 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
75土壤 方形 不要方形 58 46 50 34 69 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
76土壤 円形 円形 62 56 49 48 48 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
77土壤 円形 円形 27 25 20 16 20 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
78土壤 円形 円形 46 45 28 26 67 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
79土壤 不要円形 不要円形 75 60 55 45 43 有 自然石單体 無 不明 不明 有 町											
80土壤 不要円形 不要円形 88 57 77 48 49 有 自然石單体 無 不明 不明 有 町											
81土壤 不要円形 不要円形 51 35 33 27 42 無 無 無 無 推定火葬 不明 有 町											
82土壤 不要円形 不要円形 120 34 105 53 39 無 無 無 無 推定火葬 不明 有 町											
83土壤 不要円形 不要形 46 46 35 31 24 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
84土壤 不要円形 不要円形 67 67 56 49 25 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
85土壤 不要円形 不要円形 215 97 100 67 56 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
86土壤 不要円形 不要円形 195 111 108 80 67 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
87土壤 不要円形 方形 204 92 167 69 35 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
88土壤 不要円形 不要形 134 46 100 49 19 無 無 無 無 推定火葬 不明 有 町											
89土壤 方形 方形 75 60 69 31 113 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 陶器/粗材-町											
90土壤 不要円形 不要円形 113 103 91 81 95 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
91土壤 不要円形 不要円形 116 68 91 49 16 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
92土壤 長方形 方形 80 66 54 52 35 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
93土壤 不要円形 円形 40 40 35 35 25 有 自然石單体 無 不明 不明 有 陶器											
94土壤 不要円形 不要円形 49 39 40 29 25 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
95土壤 不要円形 不要形 96 85 70 29 26(+)31 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 ガラス小玉											
97土壤 不要円形 方形 43 36 36 168 無 無 無 無 推定柱形木棺 有 町											
98土壤 不要円形 不要円形 35 35 10 30 35 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
99土壤 不要円形 不要円形 50 35 25 49 27 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
100土壤 方形 49 45 40 35 22 無 無 無 無 不明 不明 有 町											
101土壤 不要円形 不要形 40 40 35 35 25 有 自然石單体 無 不明 不明 有 陶器											